

獨逸語大講座

第六卷

關口存男監修

Der Große Kursus

der

Deutschen Sprache

Band VI.

Gaitohugo Rentiusha: Tokio

監修者より

これで先づやつと獨逸語「大」講座全六巻は終りました。大だか小だか知らないが、とにかく終つたのはおめでたい。全六巻を顧みると、どうも何だか自分でも好いのだが悪いのだが見當がつかない。ただ斯う漠然たる感じでまとめ上げてしまつた感が無きにしも非ずです。要するに僕らの様な「ボウと出」にして始めて實行された代物ですな。けれども弱輩にも弱輩の長所がある。向ふ見ずだから元氣が好い。此の元氣だけは讀者にうつるだらう。自信は其處です。其處を買つて下さい。

監修と同時に、編輯も殆んど私一人の手でやつたため、慣れない仕事なので大分失敗をやつてしまひました。たとへば第五巻の譯註の扉を入れるのを忘れてしまつて、荒木茂雄君の努力の名譯に、ついに譯者の名が落ちてしまつたのなぞは蓋しその最も醜逸なるものです。こいつだけはまつたく平伏して謝まつて置きます。

それから、讀者諸君からも、かなり多くの批評や手紙を受取りました。とても御返事を申上げる暇はないので——書生を置くやうな身分ではないので——一つ一つお答へはしませんでしたが、具體的な處置を要するものは、それぞれ本屋さんの方へ通じたり、小言を云つたり、或ひは個人的に適當な處置を取つておきました。もし實行されてゐない向が残つてゐましたら改めてお申越し下さい。

只今の所、この講座は、まださう街頭的にはなつてゐません。けれども、確かに存在の理由だけはあると思つてゐます、殊に、相當の頭を持つた人は必ず認めて呉れると自惚れてゐます。まああんまり一般的にならないでゐる方が好いのかも知れませんね。そんな事はまあどうでも好いが。

これで一應は皆様と御縁が切れたわけですが、なほ進んで深く研究される方々とは、これからいづれ色んな機會に御縁ができるだらうと思ひます。私も、さう何時までも初步ばかりやつてゐるのは御免だから、何等かの道を通

じて、此の講座を読んで初步を固められた人々と一緒に上へ進んで行きた
い。けれども、私の主義とするところは、今後と雖もさうは變らないでせう。
大抵もううんざりなすつたでせうが、一寸エピローグとして繰りかへしてお
くと――

- (1) 文法には統一あらざるべからず。
- (2) 先づ馬鹿の一つ覚えをしろ。
- (3) 容易な文例を澤山読め。
- (4) 逐語譯によれ。
- (5) 音讀しろ。
- (6) 中腰でやる位なら止せ。
- (7) 文法上の概念と術語とをはつきり意識しろ。理窟に負けるな。
- (8) 原書を引きながら辭書を読め。
- (9) 言は事なり。
- (10) 歐洲人種の概念形態に興味を持て。

その他、語學を自分の専門とされる向きの人々に對しては、なほ他に數個
條から成るプログラムを持つてゐますが、それはまた何等かの方法で世間様
の御玄關……から這入る程の身分ではないがせめて勝手元のあたりから押し
賣りして行かうと思つてゐます。

ではもう本當にさようなら。いつまでも初步の邊でうろついてゐないで、
はやく原書に沈没して、四五年後に顔を上げて下さい。世間が面白くない時
は勉強にかぎる。失業の救濟はどうするか知らないが個人の救濟は勉強だ。

ではもう今度こそ本當にさようなら!

(東京府下下落合一三二一 關口存男)

Wilhelm Heinrich Riehl

Der stumme Ratsherr

無言の議員

藤田栄壽

關口存男註

Der stumme Rats herr.

— W. H. Richl. —

1.

Hunde mitzubringen in die Rats s̄itzung einer Reichsstadt,¹ war im Mittelalter gerade² nicht der Brauch. Nun geschah es aber doch³ einmal, daß ein Hund fast sieben Jahre lang Sitz — wenn auch keine Stimme — in einem reichsstädtischen Rat erhielt.

Das kam⁴ also:

Gerhard Richwin, Bürger und Wollenweber in Weßlar, war ein reicher Mann, weil sein Vater gespart und gearbeitet hatte. Dafür feierte nun der Sohn und vergeudete, und wenn er's⁵ noch zehn Jahre so fort trieb, so war⁶ bis dahin vermutlich aus dem reichen der arme Richwin geworden.

譯。Hunde [まさか]犬を in die Rats s̄itzung einer Reichsstadt 一個の自由市ともあらうものの議席へ mitzubringen 連れ込むなどといふ事は im Mittelalter 中世紀に於ては war gerade nicht der Brauch. 慣例ではなかつた。Nun aber ところが現て doch einmal それにも拘らず或時 ein Hund 一匹の犬が fast sieben Jahre lang 猥んど七個年の間 in einem reichsstädtischen Rat 或る自由市の議會に於て — wenn auch keine Stimme — たとへ發言權をではなかつたにしろ Sitz [とにかく]席を erhielt 獲得した daß と云ふ事實が geschah es 生じたのであつた。

Das kam also: それは斯う云ふ譯だ。

Gerhard Richwin, Bürger und Wollenweber in Weßlar ヴェツツラル市の市民たり毛織物製造人たるゲールハルト・リヒンは weil sein Vater gespart und gearbeitet hatte 彼の父が蓄へ働いたお蔭で war ein

reicher Mann お金持であつた。 Dafür その代り nun 今度は der Sohn 伴[たる彼]が feierte und vergeudete 油を賣つて散財するのであつた。 und だから wenn er もしも彼が noch zehn Jahre 此の上十年間も es so fort trieb それを此の調子で續けてやつて行つたら so そしたら bis dahin その頃までには vermutlich 恐らくは aus dem reichen [Richwin] 金満家のリヒギンから war der arme Richwin geworden 文なしのリヒギンが出来上つたに相違ない。

註。【1】 Reichsstadt (帝國市、自由市) 諸侯に屬せず、皇帝直屬の都市として、議會を有し憲法を有してゐた自由市 (freie Stadt) の事。 最近までの Hamburg, Bremen, Lübeck がそれで、中世紀には澤山あつた。——【2】 gerade は「云々……はまさか」といふ、その「は」を特に強調するための前置的接続詞 (第四卷 309) である。 それがもつと強められて、「……に限つて」といふ際には、309 で述べた如く gerade er とか er gerade と云つたやうに、すぐ名詞の傍に置くが、「云々……はまさか」といふ gerade は、その結びつく字を先置して、 gerade は後の方におかれる。 その両方の例をあげて見る。

(1) Er gerade (又は gerade er) kann nicht stehlen.
あいつに「限つて」盗みをするなんてことはない筈だ。

(2) Das wollte ich gerade nicht sagen.
「まさか」そんなことを私は云はうとしたのではありません。

第二の場合には、das と gerade とは、離れてはゐるが、das gerade と結びつけて考へるべきである。「その事は」云はうとしたのではない……それ以外のことなら云はうとしたのだ、と云つたやうな半面を持つてゐる。——此の「犬を議事堂へ連れ込むこと」といふのもそれで、普通の事柄とはちがつて、「こいつは」どうもんまり習慣ではなかつた……といふ皮肉な口調なのである。これを Litotes (弱化語法) といふ。斷然否定するばかりに、「それだけは……」と、さも困つたやうに、穩便に否定するからである。たとへば、君は戦争に行きますか? と訊かれて、さあ……遠いところへわざわざ殺されに行く……これはどうもんまり好きな方ぢやない (Dazu habe ich gerade keine Lust) と云へば、表面は非常に穩便にきこえて、實は断々乎たる否定だから、これを弱化語法といふのである。——【3】 doch=trotzdem, trotz allem. (それにも拘らず) doch einmal は、「でも一度は」「さすがに一度は」といふ事。此の doch と云ふ詞はドイツ語獨特の妙味を持つてゐる。たとへば「彼の人はとても舊式の頑固屋で、活動なんてものは振り向きもしなかつ

gerade
の用法

たが、それでも遂に一度は見に行つたさうだよ」と云ふと、聞き手の方ではどうしても——皮肉な微笑と共に——「やつぱりね」と云ひたくなる。「それでも一度は」「遂に一度は」「やつぱりね」はすべて doch einmal 又は doch einmal? である。定義を下すと、一つの頑固なる現象がそれ自身を裏切つた際に觀者の Schadenfreude (それ見たかといふ氣持) を表はすのに用ひるのが此の doch einmal である。——【4】 kommen は、或る事柄の依つて以て「来る」所の所以を指すことがある。Woher kommt es? (それは一たいどういふ譯だらう?) Wie kam es, daß er so plötzlich starb? (どう云ふ加減でそんなに急に死んだのだらう?) ——要するに、経過、筋路、由來、都合、加減、風の吹き廻しを kommen で云ひ表はす。——【5】 es [so und so] treiben それを [斯く斯くの調子で] やる——は熟語である。es は熟語に附いてゐる贅字の es である。(第三卷 278 を見よ) es はよく 's に省略される。——【6】元來、所謂約束法で云ひ表はすべき筈の文を (第三卷 212) 特に強く云はんとする時には直接法を用ひる事がある。此處の所は、弱めて云へば、trieb を triebt とし (第三卷 205) war を wäre とする。しかしそれでは餘り文法的に正式になつてしまふだらう。

2.

In der Lahngasse, enggedrängt¹ zwischen andern hochgiebeligen² Häusern, stand Richwins Haus, ein stattlicher Holzbau, erst vor zehn Jahren von Grund aus neu aufgeführt, wie die Jahrzahl 1358²⁰ über der großen Türe bezeugte. Durch diese Türe trat man in die Verkaufshalle; denn Richwin handelte nicht bloß mit³ selbstgewebter Ware, sondern mehr noch mit fremden Beugen⁴ und würde zur Kaufmannsgilde gezählt⁵ haben, wenn es eine solche⁶ in Weklaar gegeben hätte. So aber gehörte er zur vornehmsten Zunft, zu den Wollenwebern, und innerhalb⁷ dieser zu einem kleinen vornehmen Kreise,⁸ den sogenannten „flandrischen“ Zunftgenossen,⁹ vom Verkauf der kostbaren flandrischen Tücher¹¹ also¹² benannt; unter den vornehmsten „flandrischen“¹³ aber war Richwin wiederum der Reichste und Vornehmste, und es dünkte¹⁴ ihm, er sei doch

fast um einen Kopf über die Bünste überhaupt¹⁶ hinausgewachsen¹⁷ und auf ein Haar¹⁸ so groß wie ein Patrizier.¹⁹

譯。über der großen Türe 大きな扉の上の die Jahrzahl 1358 千三百五十八年と記された年代が wie.....bezeugte 証明してゐる如く erst vor zehn Jahren やつと十年前に von Grund aus 根底から neu aufgeführt 新たに建て直された ein stattlicher Holzbau 立派な木造建築の Richwins haus リヒギンの家は in der Lahngasse ラーン街に enggepaadt zwischen andern hochgiebeligen Häusern 他の高い破風の家々の間に狭苦しく挟まつて stand 立つてゐた。 Durch diese Türe 此の扉を通ると in die Verkaufshalle 販賣部のホールへ trat man 這入る [やうになつてゐた]。 Denn と云ふのは Richwin リヒギンは nicht bloß mit selbstgewebter Ware 素に自家で織り上げた代物のみならず sondernむしろ mehr noch なほそれよりも以上に mit fremden Beugen 餘所の反物を handelte 賣買してゐた und ので、 wennもしも in Wetzlar エツツラル市に eine solche [四格] 左様なものが es.....gegeben hätte あつたとしたら、 zur Kaufmannsgilde 商人組合に würde.....gezählt haben 加はつてゐたに違ひない。 So aber ところがさう云ふ譯なので（商人組合は無かつたので） er 彼は zur vornehmsten Bünste 最も高貴なる組合に zu den Wollentwebern [即ち] 毛織業者の仲間に und innerhalb dieser しかも後者の内部でも zu einem kleinen vornehmen Kreise 一つのささやかなやんごとなき群に vom Verkauf der kostbaren flandrischen Tücher [即ち] 高價なフランドル製服地を賣ると云ふ所から also benannt さう稱せられてゐる所の den sogenannten „flandrischen Bünftgenossen“ 所謂「フランドル組合員」なるものに gehörte 屬してゐた。 aber ところが wiederum また unter den vornehmen „flandrischen“ そのやんごとなき「フランドル連」なるもの間でも Richwin リヒギンは war.....der Reiche und Vornehmste 一番の金持であり、また一番高貴な身分であつた。 Ihm 彼には doch やはりどうも er 自分が über die Bünste überhaupt 抑々あらゆる組合なるもの上に fast um einen Kopf 殆んど頭一つの長さばかり hinausgewachsen 頭角を擢んでてゐて und そして auf ein Haar 寸分違はず so groß wie ein Patrizier 一個の貴族と同高で fel あると es bünkt思はれるのであつた。

註。【1】 packen 元來は「荷造りする」——此の過去分詞の使ひ方は、第四卷 371 に述べた客語的副詞句であるが、enggepaadt 等は普通は最後位を占める。——【2】 Giebel, m. は、家の、屋根の無い側の三角形になつた壁の部分である。古い市街は大抵此の Giebel を往來の方へ向けた家が並んでゐる。——【3】 mit etwas handeln 或物を以て取引する。——【4】 Beug 普通は「物」の意。此處では Tuch (布) と同意。——【5】 zu etwas zählen (或物の數に這入る、加はる) zählen (算へる) は此の熟語では自動詞となつてゐる。——【6】 solcher は、すぐ前に述べたばかりのものを繰りかへす時に用ひる。茲では eine solche は一寸前の die Kaufmannsgilde を指すから女性なのである。——【7】 innerhalb (.....の内部で) は二格支配の前置詞（第三卷 232）故に Wollentweber を指す dieser (後者——第二卷 182) が複數二格になつてゐる。——【8】 der Kreis (圓、環) は英語の circle の持つ意味をすべて持つてゐる。——【9】 Flandern (白耳義の一地方) に對する形容詞。大書しない譯は第四卷 359. Flandern 人を Flame 又は Fläme (古) と云ひ、彼等は Flämisch と云ふ Germania 系統の言語を語つてゐる。——【10】 Genoß, Ge-noße, m. [弱] は、丁度英語の mate に當り、Kampfgenoß 戰友 Bettgenoß 配偶者 Spielgenoß 遊び仲間、等の複合名詞を作る。——【11】 Tücher [テーヒュル] das Tuch [トゥーフ] 母音の發音が長いのに注意。——【12】 also (斯くの如く) は io 同じ。「故に」といふ接續詞の also と混同す可からず。英語の also と混同するが如きは以ての外。——【13】 die flandrischen 前述の形容詞を名詞化したのである。ihr または sich の語尾を名詞化すると、往々にして「.....方の」の意になる。（たとへば die Kaiserlichen 皇帝方）これなぞも一寸それを眞似たから妙に大仰で滑稽なのである。——【14】 es bünkt (思はれる) は非人稱動詞で、代名詞は四格 (ihm) でも三格 (ihm) でも好い。（第三卷 268）——【15】 um が「分」と云ふ分量を指すことがある事は第五卷で數度述べた。普通は形容詞、副詞の比較級と共に用ひる事が多い。Er ist um 3 Jahre jünger als ich 彼は三年分だけ私より年下だ。等。——【16】 überhaupt (抑々、第一、一般に) 個々の問題を論じてゐる最中に、それを揚止 (aufheben——即ち、其の儀に及ぼざる如くする事) せんとして、

überhaupt
「抑も.....」

より根本的な、より一般的な觀方に飛躍する時に用ひる字である。たとへば、「君は獨逸語は好きか」と云はれた時に「いや、抑も語學なるものが厭だ」と云へば、その「抑々」が überhaupt である。——現在の場合でも Bünste が複數になつてゐる所に注目を要する。über die Bünste überhaupt は、何組合かに組合の證議は扱ておき、そもそも組合なぞと云ふものの上に超然と、の意である。——【17】 hinauswachsen 文字通りには「生え延び出る」

即ち植物が生え延びて他の植物よりも背が高くなる事である。——【18】 auf ein Haar は bis auf ein Haar (bis auf に就ては第三卷 239) 即ち「髪の毛一本の厚みまで精確に」「間一髪を挿まさるまでに」である。gerade (丁度)といふ可き所を滑稽に詳しく云つたまでである。——【19】 Patrizier は元來ローマの貴族の事を云つたのであるが、同様に、あらゆる市の門閥、名門であつて同時に要路に就く資格を備へた素封家を云ふ。——【20】 1358 dreizehnhundert achtundfünzig と讀む。(第四卷 337 を見よ。)

3.

Durch die große Türe trat man, wie gesagt,¹ in die Verkaufshalle; nämlich wenn man auf der Schwelle nicht über zwei böse² Buben stolperte,³ die daselbst⁴ gewöhnlich zu spielen und zu rausen pflegten. Es⁵ waren Richtwings ältere Kinder. Die jüngeren, zwei Mädchen, machten im oberen Geschöß⁶ der Mutter das Leben sauer;⁷ denn da es dem Vater zu langweilig war, Zucht zu üben⁸ bei⁹ den wilden Rangen,¹⁰ so lernten die Brüder jede Unart¹¹ von selber und die kleinen Schwestern lernten die Unart von den Brüdern; die Mutter allein¹² aber vermochte¹³ die unbändige Rotte¹⁴ nicht im Bügel zu halten.

Klagte¹⁵ die arme Frau Eva 気の毒な妻のエヴァが dem Manne 夫に ihr Leid wegen der Kinder 子供故の自分の氣苦勞を klachte 訴へると。so さうすると er 夫は mit dem rechten Ohr 右の耳で hörte.....gar nicht zu 全然聞かない und で mit dem linken 左の耳で halb 半分だけ聞くのであつた。undそして gab keine Antwort 何の返事もしない oder か又は wenn er besonders achtsam war 特別注意を拂つてゐる時でも eine verkehrte とんちんかんな返事をするだけであつた。auch in anderen Stücken 他の點でも so ging's さういふ風であつた[一事が萬事であつた]。Gerhard ゲルハルトは er 自分が seine Frau 妻[の言ふ事]を wie arg.....vernachlässigte 如何に酷く忽かにしてゐるかといふことに merkte nicht 気が付かなかつた。er 彼が 's それに hätte.....gemerkt 若しも気付いてゐたら er 彼は würde es besser gemacht haben もつと何か仕方があつたらう; denn 何故かといふに er 彼は hatte ein gutes Herz 優しい心を持つてゐ、und 従つて liebte seine Frau 自分の妻を愛してゐたからである。aber ところが Eva エヴァは um so mehr [さ

露。 wie gesagt 上に述べて置いた様に、durch die große Türe 例の大

きな扉を通ると in die Verkaufshalle 販賣部のホールへ trat man 這入るやうになつてゐた; nämlich 但し、gewöhnlich 平生 daselbst そこで[闘の所で] die.....zu spielen und zu rausen pflegten 遊んだり闘ひ合つたりしてゐがちな über zwei böse Buben 二人の腕白小僧に auf der Schwelle 闘で wenn man.....nicht....stolperte けつづかなければの話である。es waren Richtwings ältere Kinder それ[二人の悪童]はリヒギンの上方の子供等であつた。die jüngeren, zwei Mädchen 下の方の[子供等、即ち]二人の女の兒は im oberen Geschöß 二階で machtender Mutter das Leben sauer 母に散々苦勞をかけてゐた; denn その譯は、bei den wilden Rangen その腕白連に Zucht zu üben 禮儀作法を仕込む es ことは da.....dem Vater zu langweilig war 父にとつては餘りに退屈で煩るさかつたので[退屈で煩るさかつたので競けを怠つた結果として] so そこで die Brüder 兄弟は von selber 自分で jede Unart 凡ゆる無作法を lernten 覚え込んでしまひ und そのため die kleinen Schwestern 小さい姉妹が von den Brüdern 兄さん達から lernten die Unart その無作法を學んだからである; aber ところが die Mutter allein 母一人の力では die unbändige Rotte その駄々つこな連中を vermochtenicht im Bügel zu halten 抑へ付けて置くことが出来なかつた。

die arme Frau Eva 気の毒な妻のエヴァが dem Manne 夫に ihr Leid wegen der Kinder 子供故の自分の氣苦勞を klachte 訴へると。so さうすると er 夫は mit dem rechten Ohr 右の耳で hörte.....gar nicht zu 全然聞かない und で mit dem linken 左の耳で halb 半分だけ聞くのであつた。undそして gab keine Antwort 何の返事もしない oder か又は wenn er besonders achtsam war 特別注意を拂つてゐる時でも eine verkehrte とんちんかんな返事をするだけであつた。auch in anderen Stücken 他の點でも so ging's さういふ風であつた[一事が萬事であつた]。Gerhard ゲルハルトは er 自分が seine Frau 妻[の言ふ事]を wie arg.....vernachlässigte 如何に酷く忽かにしてゐるかといふことに merkte nicht 気が付かなかつた。er 彼が 's それに hätte.....gemerkt 若しも気付いてゐたら er 彼は würde es besser gemacht haben もつと何か仕方があつたらう; denn 何故かといふに er 彼は hatte ein gutes Herz 優しい心を持つてゐ、und 従つて liebte seine Frau 自分の妻を愛してゐたからである。aber ところが Eva エヴァは um so mehr [さ

ういふ譯だから] 尚更 er 夫が ganze Tage 何日も何日も nichts mit ihr sprach 自分と一言も話をしないことが oft よくある daß といふことに merkte 気が付いてきた、und そして wenn ja [何か] 話しをすることがあると、so さうすると es それ[その話]は schlimmer als nichts 何も話さない時よりももつと始末の悪いやうな kalte 冷淡な zerstreute 上の空の Worte 言葉で waren あつた。

註。【1】 wie [es] gesagt [worden ist]——【2】 英語の bad boy.——【3】 über etwas stolpern 或物に躓づく——über は或物の上を渡り越す意。——【4】 wo を woselbst と云ふ如く da を daselbst と云ふ。——【5】 此の es に就ては第二卷 186.——【6】 Geschöß は「階」「層」で Stock, Stockwerk と同じ。普通は一階を Erdgeschöß (地階) と云ひ二階を der erste Stock といふ。(數字關係の相違に注意) 故に das obere Geschöß は das erste Stockwerk の事。——【7】 文字通りには、「母に人生を辛酸になす」即ちお母さんに散々心配を掛ける事である。此の熟字は仲々面白い。一寸した他の用例を示すと、da wir ohnedem schon keine zwanzig Jahre mehr zu leben haben, wollen wir uns das saure Leben nicht noch saurer machen (我々はもうどうせ此の先二十年とは生きられないんだから、さう面白くもない人生を繰が上にも面白くなくし合ふのは止さうちやないか) と言ひ合ふ可き夫婦も世には少くあります。——【8】 üben は元來「練習する」の意であるが、Bucht üben (訓育を施す) Gerechtigkeit üben (義しきを行ふ) 等の熟語にあつては單に「行ふ」の意しかない。——【9】 元來の意は、「……の許に於て」日本語の關係上「對して」と譯する。——【10】 Range, m. [弱]=Wildfang, Schlingel.——【11】 Art, f. は元來「やり方」「作法」即ち所謂 der gute Ton (行儀) である。Er hat keine Art. (あいつは作法を辨へない) 故に Unart は「無作法」。此の Un- は否定の Un- ではなく Unmensch (不徳漢、人情知らず) 等に現れた「悪い」の意である。——【12】 此の allein は die Mutter allein (母だけでは) と一緒に考へる可きで、allein 等の前(後)置的接續詞(第四卷 309)は、副詞とは違つて、一語に掛かるのを以て特色とする。——【13】 vermögen (第三卷 253) の過去。——【14】 Rotté=Band.——【15】 定形を先置する、所謂倒置法が「もしも」の意になる事に關しては第一卷 129.——【16】 verkehrt. 元來は「顛倒せる」——それを「木に竹を縛いたやうな」「辻褄の合はぬ」「突拍子もない」の意に用ひる。——【17】 es geht 進行の模様、調子を指す非人稱語法。——【18】 Stüd, n. は Kapitel (章、條、くだり、個所) の

「二階」の事を
Erster Stock [一階]
といふ

心配を掛ける事である。此の熟字は仲々面白い。一寸した他の用例を示すと、da wir ohnedem schon keine zwanzig Jahre mehr zu leben haben, wollen wir uns das saure Leben nicht noch saurer machen (我々はもうどうせ此の先二十年とは生きられないんだから、さう面白くもない人生を繰が上にも面白くなくし合ふのは止さうちやないか) と言ひ合ふ可き夫婦も世には少くあります。——【8】 üben は元來「練習する」の意であるが、Bucht üben (訓育を施す) Gerechtigkeit üben (義しきを行ふ) 等の熟語にあつては單に「行ふ」の意しかない。——【9】 元來の意は、「……の許に於て」日本語の關係上「對して」と譯する。——【10】 Range, m. [弱]=Wildfang, Schlingel.——【11】 Art, f. は元來「やり方」「作法」即ち所謂 der gute Ton (行儀) である。Er hat keine Art. (あいつは作法を辨へない) 故に Unart は「無作法」。此の Un- は否定の Un- ではなく Unmensch (不徳漢、人情知らず) 等に現れた「悪い」の意である。——【12】 此の allein は die Mutter allein (母だけでは) と一緒に考へる可きで、allein 等の前(後)置的接續詞(第四卷 309)は、副詞とは違つて、一語に掛かるのを以て特色とする。——【13】 vermögen (第三卷 253) の過去。——【14】 Rotté=Band.——【15】 定形を先置する、所謂倒置法が「もしも」の意になる事に關しては第一卷 129.——【16】 verkehrt. 元來は「顛倒せる」——それを「木に竹を縛いたやうな」「辻褄の合はぬ」「突拍子もない」の意に用ひる。——【17】 es geht 進行の模様、調子を指す非人稱語法。——【18】 Stüd, n. は Kapitel (章、條、くだり、個所) の

意に用ひる事がある。Kapitel は拉丁語の caput (頭) から來てゐるから、昔のドイツ語では之れを Hauptstüd と譯した(第一章=Erstes Hauptstüd 等) それから、「此のくだりは彼のお得意だ」などと云ふ時に dieses Kapitel, dieses Stüd なぞと云ひ出したのが始まりで、遂には「此の點は」(即ち in diesem Punkt, in dieser Beziehung) を in diesem Stüd と云ふやうになり、Stüd が Beziehung, Punkt と同意になつたわけである。——【19】 es gut machen (處置が當を得る、善處する) es besser machen (より良き策を講ずる) の es は熟語に附く虛字である(第三卷 278) es の代りに seine Sache gut machen (要領よくやつてのける) とも云ふ事がある。——【20】 ganze Tage (複數に注意)=tagelang.——【21】 wenn ja=wenn er sprach.——【22】 schlimmer als nichts=welche schlimmer waren als wie er gar nichts gesprochen hätte.

4.

Sie trug ihr Kreuz¹ in Geduld und wußte doch nur zu wohl, daß es bald ein doppeltes Kreuz werden würde; denn sie sah den Verfall von Hab und Gut² langsam aber sicher³ heranschleichen, ohne ihm irgend steuern⁴ zu können.

Viel Unrechtes⁵ tat Gerhard Richwin nicht, er tat nur auch nichts Rechtes.⁶ Jedem Einfall, jeder Laune⁷ des Augenblicks gab er sich hin; diese Einfälle aber fielen,¹⁰ seltsam genug,⁸ niemals auf die Arbeit, welche im Augenblick zu vollführen¹² dringend not war.¹¹ Wenn es galt,¹³ in der Weberei nachzusehen, dann hatte er die größte Lust, auszureiten, und wenn er auftauchen sollte zu einem Ritt nach den benachbarten Grafenschlössern in Weilburg, Dillenburg oder Braunfels, wo oft bedeutende Geschäfte abzuschließen¹⁴ waren, dann deuchte¹⁵ es ihm wunderschön¹⁶ bei den Webstühlen. Standen¹⁷ Stäuber im Warenlager,¹⁸ dann schaute Meister¹⁹ Richwin wohl²⁰ durchs Fenster seinen bösen Buben zu, sann, wie er ihrer²¹ Unart doch²² auch einmal wehren wolle, vergaß aber darüber²³ geraume Zeit die Kunden und redete sie zuletzt mit grimmiger, väter-

licher Strenge an und fuhr²⁴ mit der Elle²⁵ ins Zeug,²⁴ als wolle er die Räuber statt der Buben prügeln.²⁶

譯。sie 彼女は in Geduld 忍從して trug ihr Kreuz 受難に堪へてゐたが und.....doch それにも拘らず es それ[その受難]が bald やがて daß.....ein doppeltes Kreuz werden würde 二重の受難になる[内憂外患]であらうといふことを nur zu wohl 餘りにもよく wußte 知つてゐた; denn 如何となれば sie 彼女は den Verfall von Hab und Gut 家産の倒壊が langsam aber sicher 徐々にではあるが併し確かに sah.....heranschleichen 忍び寄つて來るのを見ながら ohne ihm irgend steuern zu können 手を空しくしてゐねばならなかつたからである[直譯: それ——崩壊——に何等かの方法で對策を講じ得ることなし]。

Gerhard Richwin ゲールハルト・リヒギンは viel Unrecht 矢鱈に悪い事を tat.....nicht したといふ譯ではない、er 彼は nur 只 auch 同様に tat.....nichts Rechtes 何一つ碌な事をしなかつただけの話である。jedem Einfall, jeder Laune des Augenblickes 刹那刹那の凡ゆる出來心、凡ゆる氣まぐれに er 彼は gab.....sich hin 身を任せた[氣まぐれが起る度毎にそれに耽溺した]; aber ところが seltsam genug 如何にも不思議なことには、diese Fälle かういふ出來心は、im Augenblick 卽坐に zu vollführen 片附けてしまふことが dringend not 焦眉の急で welche.....war あるやうな auf die Arbeit 仕事には fielen.....niemals 決して向けられなかつた[仕事のことは夢にも想ひ出さなかつた]。in der Weberei 織物工場で nachzusehen 見廻りをすることが wenn es galt いざ必要だとなると、dann さういふ時には er 彼は hatte.....die größte Lust, auszureiten 騎乗をしたがつた、und ところが oft 往々にして wo.....bedeutende Geschäfte abzuschließen waren 重要な商談を纏めることの出来た nach den benachbarten Grafenschlössern in Weilburg, Dillenburg oder Braunfels 直ぐ近所のヴィルブルク、ディレンブルク又はブラウンフェルスの伯爵邸へ zu einem Ritt 騎行するために wenn er aussitzen sollte 馬に乗らねばならぬことにでもなると、dann さうすると deutete es ihm wunderschön bei den Webstühlen 織機[はた]の傍に居ることが堪らなくいい氣持に思はれた。Räuber お客様連が im Warenlager 店に standen 来てゐる時には、dann さういふ時には

Meister Richwin リヒギン親方は durchs Fenster 窓越しに seinen bösen Buben 腕白小僧連[の悪たれてゐる様]を schaute.....zu 見守つてゐた、[そして] doch auch einmal 何とかして ihrer Unart 子供等の腕白を wie er.....wehren sollte 止めさせたいものだと fann 思案してゐた、wohl.....aber ところが一方 darüber そのために geraume Zeit かなり長い間 die Stunden [大切な]お客様[の居ること]を vergaß 忘れてゐた、und.....zuletzt その揚句の果は mit grimmiger väterlicher Strenge 鼻息の荒い、相手を子供扱ひにするやうなこはい調子で sie 彼等[客]に redete.....an 話しかけ und そして statt der Buben 子供の代りに die Räuber お客様連を als sollte.....prügeln 打撃しかねまじい見幕で mit der Elle 二尺差を振り廻して fuhr.....ins Zeug いきり立つのであつた。

註。【1】 das Kreuz tragen. 耶蘇が處刑される時に、Golgatha の刑場まで重い十字架を擔はされた故事から始まつて、何でも苦しい運命の下に忍從することを云ふ。ihr Kreuz の ihr については第四卷 417。——【2】 Hab und Gut は所謂二語一想。——【3】 langsam aber sicher. は「遅くとも確實なるに如かず」といふ此の儘の俗諺を應用したもの。——【4】 irgendwie (第二卷 184)——【5】 einer Sache (三格) steuern. 或事に善處する、對策を講ずる。元來の意は舵を取ること。——【6】 Unrecht は英語の wrong であつて、「正しからざる事」といふよりはむしろ積極的に「悪事」の事である。——【7】 unrecht, recht 等の形容詞が大書されて名詞化されてゐる。(第二卷 190)——【8】 Laune は第五卷で一度云つたやうに英語の caprice。——【9】 seltsam genug! は挿入句である。換言すれば was seltsam genug war. (第二卷 117 に述べた文意を受ける was) genug は英語の enough と同様に、規定せんとする字の次に置く。——【10】 auf etwas fallen. 白羽の矢が「中る」とか、逢「着」するとか、想ひ「當る」とか云ふ際の「あたる」である。だから Einfall を「落想」「着想」と云ふ。此處は Einfall の fall と auf etwas fallen の fallen とを意識して弄んだのである。——【11】 分解すると Es war im Augenblick not (または notwendig), diese Arbeit zu vollführen. (これを關係文化する時の方法については第四卷 293 を見よ。)——【12】 voll. の前綴が附いて不分離動詞になる字が五字ある。(第二卷 141)——【13】 es gilt については第三卷 271. (同所の例の es gilt Mut の Mut は四格であるが、此處ではコンマ以下の zu を伴ふ不定法の文が四格の位置にあると思へばよい。——【14】 此の abzuschließen sein (締結する事が出來

る。されなければならぬ)は、第四卷 291 に述べた「客語となる場合の *es* を伴ふ不定法」の有する二つの意味から考へると、「……する事が出来た」の方が妥當である。それは *oft* (往々にして)といふ副詞が「機會」の意を暗示してゐるのでもわかる。— bedeutende Geschäfte abschließen 文字通りには、重要な business を締結する、即ち、重要な話を纏める。—【15】 *es* bedeutet = *es* bünft. (英語の methinks 惟ふに) —【16】 *das Wunder* (奇蹟、驚異) —【17】 例置法。(第二卷 129) —【18】 *das Lager* [stock] Warenlager [store] 店。—【19】 職人は弟子、徒弟 (Geselle) と親方 (Meister) とに別ける。職に志すものは先づ若干の年期を Lehrling (弟子、小僧) として師匠の許で送る。(所謂 Lehrajahre 徒弟期) それがすむと諸國漫遊の途に上つて、出来るだけ多くの師匠に就き、世間を見聞して来る(所謂 Wanderjahre 遊歴期) 次に定住の市を選んで其處で試験を受け、組合 (Gunft) の鑑査を経て Meister (師匠) になる。その時の試験に呈出するのが Meisterwerk (現今では「傑作」の意) で、それが通ると今度は一戸を構へ、徒弟を抱へる事が出来るのである。—【20】 *wohl* は、謂はば叙述上の Beiwerk (お添へ物) Füllwort (填め字) Pleonasmus (贅語) Schmuck (飾り) である。episch (叙事詩的) な氣分を唆る效果がある。同時に archaisches (擬古的) な色彩を添へる。—なほ、どう云ふ所から來てゐるかを證索すると、此の場合は丁度その構造がはつきりしてゐて、數行下のところに aber と云ふ字がある。*wohl* …… aber といふ對照的接續詞なのである。

(第四卷 307) 此の對照的語法は(ギリシャ語には丁度平行した *men* …… *de* といふのがある) 対照の意がもつとも鋭い時には *gwär* …… aber (……ではあるが……しかし) と等しくなるが、弱い時には、單に二つの事實を對照せしめるだけで、つまり einerseits …… anderseits (一方に於ては……他方に於ては……) といふ事になる。第五卷の註に於て、叙事的な「一方に於てはまた」の意の aber の説明をして置いたが、此の *wohl* が其の前半部なのである。けれども *wohl* も aber も、此の叙事的な贅語としては各自獨立して用ひられる。*wohl* が全然獨立した贅語となつた場合の例をあげると——

Es zogen drei Bursche wohl über den Rhein,
Bei einer Frau Wirtin, da feierten sie ein.
(Umland, Der Wirtin Röhrlein.)

昔三人の徒弟ありて萊茵の河を渡りけるが
とある居酒屋の女将の許に立ち寄りて憩ひぬ。
(ウーラント、居酒屋の娘)

Meister [親方]
と
Geselle [徒弟]

wohl に就て

日本語の、渡りける「が」といふ「が」もさうで、決して「渡つたには渡つたが、併し……」といふほどの反対の意を表はしてはゐない。單に二つの事實を結び合はせるための接續詞に過ぎない。—【21】 *ihrer Unart* は三格。einem Dinge wehren (或物に對策を構する、防退する) dem Feuer wehren (消防する) —【22】 doch auch einmal は前に説明した *doch einmal* と略同じ。—【23】 etwas über etwas [三格] vergessen 或事を或事のために忘れる。über は「或事に夢中になつた爲めに」の意。—【24】 ins Beug fahren. 「いきり立つ」「むきになる」「血眼になる」「大童になる」「がんばる」と云ふ熟語である。その由來は、Beug は Geschirr (馬具、殊に口の所にはめるもの、即ち Gebiß 馬銜「はみ」その他を指す) と同意で、馬がいきり立つと、ぐいぐい嚙に喰ひ込むから、ins Geschirr gehen, fahren; sich ins Geschirr legen, werfen 及び Geschirr の代りに Beug を用ひたこれ等の熟語は、「やつきになる」または「はつと氣合ひを掛ける」「馬力を掛ける」事に用ひる。Elle (物尺) があるからと云つて Beug を Stoff, Tuch (反物) だと思つては不可ない。—【25】 Elle は、元意は「獨逸ヤード」で、二尺餘の、主として巾地を計る度量衡の單位の名稱であるが、また一エルレの長さの物差そのものを Elle と云ふ。—【26】 此處の所はまるで映畫 (Lichtbild) を見る様に、まさまさと (anschaulich) 眼に見える様に描寫してある。初めの内は親方が子供の方にばかり氣を取られてゐて、計りかけた反物を其の儘にして横見ばかりしてゐるので、お客様が焦々してゐる。すると其のうちに到頭辛抱がし切れなくなつて、「親方、すみませんが、一寸こちらが急ぐのですが……」と云ひ惡さうに一言注意を與へると、はつと我れにかへつたのは好いが、それがまた少々氣に入らなかつたと見えて、「そんなに仰言るものぢやありませんよ、少しは辛抱といふものもして頂かなくつちやあ」とか何とか云つてお客様を嘆鳴りつける。あれあれ、と思つて呆気に取られてゐると、親方が、まるで足許から火でも附いたやうに、丁度お客様の鼻の先で二尺差をヒューと振り廻し、二度びっくりのお客を尻眼にかけて反物を計り始める……

5.

Die treuesten¹ Geschäftsfreunde fühlten sich nachgerade² doch gar zu³ säumig und grob behandelt, denn die Diener und Lehrlinge des Hauses schrieben sich des Meisters Beispiel hinters Ohr⁴ und wurden noch um⁵ einen Grad säumiger und

gröber⁶ als er selber; kein Wunder⁷ also, daß es allmählich etwas stiller ward⁸ in Richwins berühmter Warenhalle.⁹

譯。die treuesten Geschäftsfreunde 最も信用の置ける得意先ですらも nachgerade 追々 sich 自分が doch gar zu どうも餘りにも läufig und grob behandelt 粗略無作法な扱ひをうけるのを fühlten 感じ[出して來た] denn 何故かといふに die Diener und Lehrlinge des Hauses その店の召使や弟子達が des Meisters Beispiel 親方の實例[やり方]を schreiben sich.....hinters Ohr 心に留めて見てゐ und te als er selber 親方自身よりも noch 更に um einen Grab 一段と[親方に輪をかけて] läufiger und gröber 粗略無作法に wurden 成つたからである; also それ故 in Richwins berühmter Warenhalle リヒギンの音に聞えた店が allmählich 次第次第に etwas 少しづつ daß es.....stiller ward 疲れて行つたとて kein Wunder 少しも怪むに足らぬことであつた。

註。【1】形容詞を附加語として用ひた際の最高級 (Superlativ 第三卷 220) は、それ以上に何の規定がなくとも、「たとへ……と雖も」の意に用ひられる。入れるとすれば auch, selbst, sogar (第四卷 310) を入れて Selbst die treuesten Geschäftsfreunde, etc.—【2】nachgerade=bald, nach und nach, allmählich, mit der Zeit. (おひおひ、段々と)—【3】doch gar zu どうも實に餘り。—【4】sich [三格] hinters Ohr schreiben 自分の耳のうしろへ書きつけて置く。即ち von etwas Notiz nehmen 一寸ノートに取つて置く、窃とおぼえて置く。たとへば「といつは好い事を覚えたぞ」Das will ich mit hinters Ohr schreiben!—また冗談半分によく實際耳の後にチョ、チョッと字を書く振りをして見せる事なぞがある。「言つたな畜生!」とか、「よし、言質を取つて置いてやるぞ」といつたやうな時にする冗談である。それと反対に、他人の底意がありありと讀める時には、Das steht dir ja auf der Stirn geschrieben (そんな事を云つたつて君の額に書いてあるぢやないか) と云ふ。だから、書くのなら耳のうしろにでも書いておかないと危険だといふわけである。—【5】此の um は註 1 の 15 を見よ。—【6】grob の比較級。Umlaut については第三卷 220 を見よ。—【7】Es ist also kein Wunder. —【8】後置の定形が必ずしも最後位には來ない事、並びにその置方については第三卷 239 の 9 で bis auf の持つ二つの意味の識別法に就て述べる時に、ついでに詳しく述べた。—【9】die Halle が英語の music hall, beer hall の hall である。

6.

Böse Jungen¹ meinten, wenn das so fort gehe, dann werde Richwin bald der einzige Kunde seines Kaufladens sein, der beste² sei er ohnedies³ schon. Er leuchtete nämlich in jener modesüchtigen⁴ Zeit allen andern Bürgern vor⁵ durch reiches Kleid und steten Wechsel der Tracht,⁶ und sah man ihn im Brunkrock⁷ mit den langen Ärmeln, deren breite Tuchstreifen⁸ bis an die Füße reichten, in den buntgestreiften⁹ Hosen und spitzen Schnabelschuhen,¹⁰ auf dem Kopfe die vorn und hinten aufgeschlagene¹¹ Kugelmütze,¹² das Haar geradlinig auf der Stirne abgeschnitten, indem¹³ nur rechts und links über den Ohren zwei Locken¹⁴ stehen geblieben¹⁵ waren,— dann konnte man glauben, er sei kein Künstler¹⁶ oder Kaufmann, sondern ein Herr.¹⁷

譯。böse Jungen 口の悪い連中は、wenn das so fort gehe この状態が續けば bald やがて Richwin リヒギンが der einzige Kunde seines Kaufladens 自分の店の唯一の顧客に werden....sein 成るだらう、ohnedies さうでなくてさへ schon 既に er 彼が der beste sei 最上の客種なのだからと meinten 嘴し合つた。nämlich その譯は er 彼が in jener modesüchtigen Zeit かの流行を競ふ時代に於て durch reiches Kleid und steten Wechsel der Tracht 贅澤を盡した衣服と絶えず衣裳を着換へる事によつて allen andern Bürgern 他の凡ゆる市民の leuchtete.....vor トップを切つてゐたからである、und それで mit den langen Ärmeln 長い袖 —— deren breite Tuchstreifen それ [袖] に附いてゐる幅廣の紐は bis an die Füße 足迄 reichten 達した —— の附いた im Brunkrock きらびやかな上着を着、in den buntgestreiften Hosen und spitzen Schnabelschuhen 色取々の縦縞入のズボンと先の尖つて曲つた靴を穿き、auf dem Kopfe 頭には die vorn und hinten aufgeschlagene Kugelmütze 前後を折り返した球形帽を被り、das Haar 頭髪は auf der Stirne 額のところを geradlinig 一直線に abgeschnitten 断ち剪り、indem 一方 nur rechts

und links über den Ohren 左右の耳のところだけに zwei Löden stehen geblieben waren 二房の捲毛を残して置いた sah man ihn 彼[の姿]を見ると、— dann さうすると er sei kein Künstler oder Kaufmann 彼は商人組合員や商人ではなくして sondern 専ら sei.....ein Herr 貴族であると konnte man glauben 思はれないこともなかつた。

註。【1】 böse Zungen (悪き舌ども、口さがなき人々)——【2】 ohnedies= ohnedem (さなきだに、さうでなくてさへ)——【3】 der beste [Runde]——これが實に口が悪い。お客様よりも店主の方が客種が好いと云ふ Stichelsei (皮肉) である。文法上の重要な注意だが、すでに前の方で der einzige Runde (唯一の顧客) と云つてある時には、その次には、もう一度同じ名詞を繰り返して der beste Runde (最良の顧客) と云ふには及ばない。同類項は省略した方が好いのである。その際特に注意しなければならないのは、形容詞を小文字の儘で置くことである。形容詞を大書すると、それは、その次に名詞が略

形容詞の名詞化と、名詞を略した形容詞とは違ふ

されてゐるのではなくて、それ自身が一つの名詞なのである。たとへば der Beste と云へば、それは最良の「人」を意味するので、「顧客」などと省いての場合とは随分ちがふわけである。(第二巻 189) 但し、wenige (少數の人々) einige (一部の人士) dieser (後者) keiner (誰も……しない) 等の、形容詞といふよりはむしろ代名詞と稱すべきものは、たとへそのあとに名詞が省かれてゐるのではなくても大書せず、小文字の儘を用ひる。——それからもう一つ、best (最良) といふ意味について述べて置く。良には色々な意味があるが、こゝは別に道徳上の「良」ではなく、もつと俗な意味の「良」である。身分もよし、金もあり、外觀も立派なことを一言で云ふのである。身分だけに關して使はれるときには、たとへば羅馬人は、上流の貴紳たちのことを Optimates (最良の者たち) と云つてゐた。ドイツ語でもよく die Optimate または verdeutschten (移植) して die Besten (素封家の階級) などといふ。要するに「客種が好い」などといふ、その「種」の良し悪しを指してゐるのである。この悪口は、よく考へて見ると非常な皮肉を含んでゐる。——【4】 süchtig

-sucht の附く語
例
Gelbsucht [黄疸]

は Sucht (癖、傾向) から來、その Sucht は suchen (求める) から來てゐる。Schlafsucht (嗜眠性) Mordsucht (殺意) Trunksucht (飲酒癖) を初め Gelbsucht (黄疸) Schwindsucht (肺病) Fallsucht (顎痛) 等の病名にまで用ひられる、至つて應用の廣い語尾である。Modejucht (流行狂) と同じやうなのは Gewinnsucht

(射利心) Genussucht (遊惰性) 等がある。「……に掛けては抜け目がない」性質の事。——【5】 einem vorleuchten は、燭を手にして人を案内先導すること。所謂 lead することである。尖端を行く (vorangehen, an der Spitze stehen, führende Stellung einnehmen) なんてのがそれだ。——【6】 Tracht, f. (衣裳) は tragen (着る) に對する名詞。Schlacht, f. (戰) Schlagen (打つ) Macht (勢力) mögen (能ふ) Pracht, f. (壯觀) prangen (光る) Bucht (訓育) ziehen (育てる) ——【7】 Brunkrock=Brachvod, Galasseid, prunken (光る) は prangen と同じ。——【8】 Streifen は、細長く tape 様に切つた布のこと。斯う云ふ舒述はよほど中世紀あたりの Trachtenkunde (衣裳學) に通じてゐないとわからないが、とにかく中世紀、中世紀末には、非常に裝飾の多い衣裳を着てゐたもので、袖にも胸にも、條形の紐や垂れ布を澤山附けてゐたことは、古畫に見えてゐる。——【9】 gestreift は線條模様の、即ち縱縞の。——【10】 Schnabel は「嘴」の事。まるで鳥の嘴のやうに先の尖つた Schnabelschuhe は、たとへば Faust の中に出て来る Mephistopheles の服装にも用ひられるものである。——【11】 aufzuhängen めくり上げる、折り返す。——【12】 Kugel (球) 形の Mütze (cap) ——【13】 indes=während, während を後續的に用ひる語法については第四巻 300 項の中の文例四に就て見よ。——【14】 Lode, f. といふのは、髪の毛の一房を云ふ。——【15】 stehen bleiben 「立ち残る」即ち残されてゐる事。——【16】 Kunst から造つたもの。Kunst (藝術) Künstler (藝術家) Wissenschaft (學問) Wissenschaftler (學徒) ——なぜ中間に I が這入るかと云ふに、それらの名詞から先づ各 Künsteln, wissenschafteln, zünfeln 等の所謂 Denominativa (名詞より轉用せる動詞) が出來たものとみなして、それにまた名詞を作るために et をつけるのである。

Denominativa
名詞から來た動詞

同じ場合の例をあげると、denken (考へる) から Denker (思想家) が出來ると、その Denker から denfern (思想家ぶる) といふ Denominativ が近頃出來始めてゐる。いづれ Denker 以外に Denkerer (思想家ぶる人) なんものが出来るのも遠くはあるまい。——【17】 貴族 (Uelicher, Edelmann, Patrizier) の事を云ふ。

7.

Hätte aber jemand Meister Richwin wegen seines Bußes einen Geden genannt,¹ so würde² er das übelgenommen haben, denn er war verleybar³ wie ein geschältes Ei, und obgleich er des⁴ innerlich Unschönen⁵ wahrlich genug tat, fürchtete

er sich doch grausam, gegen das äußerlich Schädliche zu verstößen.⁸ Dieser Zug⁹ verkündete nun eben⁸ nicht den derben,⁹ geraden Bürgersmann.¹⁰ Und in der Tat¹¹ hatten ihn seine Genossen, die Bünftler, im Verdacht, daß er auf zwei Achseln¹² trage und aus Hoffart¹³ heimlich zu den Patriziern stehe.¹⁴

■ aber併しながら wegen seines Bußes 彼[リヒギン親方]が美々しく着飾つてゐるからといつて Meister Richwin リヒギン親方を jemand 誰かが einen Geden しやれ者と hätte.....genannt 呼んだとしたら さうしたら er 彼は das それを würde.....übelgenommen haben [きつと]悪く取つたに違ひない、denn 何故かといふに er 彼は wie ein gefährliches Ei 穀をむいた卵のやうに war verlebbar 傷き易かつたからである、und 且 er 彼は des innerlich Unschädlichen 内容の矛盾した事柄を wahrlich genug 嫌といふ程 vbgleich.....tat やつてわたにも拘はらず、doch そのくせ er 彼は gegen das äußerlich Schädliche 見て呉れの悪い事をすることを grausam 酷く fürchtete.....sich 恐れてゐた。Dieser Zug この性向は den derben, geraden Bürgersmann 無骨で卒直な町人を verkündete nun eben nicht 表明してゐるとはどう見ても言へなかつた[どう見ても町人氣質の現れとは見えない]、und in der Tat 現に seine Genossen, die Bünftler 彼の仲間の組合員達は er 彼が auf zwei Achseln trage 二足の草鞋を穿い und zu aus Hoffart 傲り心から heimlich 密かに daß.....zu den Patriziern stehe 貴族に組してゐるのではないかと hatten ihn.....im Verdacht 彼を疑つてゐた。

註。【1】 nennen が二個の四格を要求する事は第四卷 421.—【2】 würde に關しては第三卷 214 の中頃を見よ。—【3】 leicht zu verleben. (傷け易い) verleben=kränken (感情を害する、氣持を傷ける) 傷けると云ふ詞の兩意性 (Zweideutigkeit) を利用して、穀をむいた卵のやうにと云つたのである。斯う云ふ風なナンセンス (Unsinn) を基礎にした常套語 (stehender Ausdruck) の他の例をあげると grob wie ein Sack (ズックのやうに荒っぽい、無禮) Er hat Einfälle wie ein altes Haus (あいつは古家のやうに崩れがある、落想がある、洒落を云ふ) 此の最後の Einfall といふ語は、崩壊を意味

Unsinn
ナンセンス

すると同時に、「落想」「奇想」「着想」「思ひつき」を意味し、したがつて「洒落」の意になるので、かうした重意が生ずるわけである。—【4】 genug は量詞 (第四卷 352) であるから二格が附く。—【5】 schädlich, a. (條路の立つた、至當な、當を得た、合點し得べき、理に適つた、もつともな) unschädlich (理屈に合はぬ、不妥當な、不適當な、間尺に合はぬ、合點し難い、ちと腑に落ち兼ねる) 要するに常人の感じを以て肯定し得るか否定し得ないかの問題である。「まともな」「まともでない」と云つてもよからう。das Unschädliche に就いては第二卷 195.—innerlich unschädlich (内的に、即ち、それ自身に於て、内容的に辻褄の合はない) innerlich は、「彼の心の中で」とか「主觀的に」の謂ではないから、細かい事だが、注意を要する。 etwas, was in sich einen Widerspruch birgt. (それ自身の裡に齟齬を藏せる事柄) である。つまり此の男は、外面の體裁だけ整つてゐて (äußerlich schädlich) 少しよく考へて見れば内容の點では滅茶苦茶な齟齬のあること (innerlich unschädlich) を平氣でやるので。滑稽 (das Komische, das Lächerliche) がさうした innerer Widerspruch (内的矛盾) を基礎にしてゐるといふ事は衆知の事實である。落語にある話だが「さうして其の猪の腹を立ち割つて見ると、仔が七匹居た」—「おいおい、止せよ、猪は雄だと云つたちやないか、雄が仔を持つてゐるつてえ話があるけえ」—「其處が畜生の淺間しさ……」一寸聞くと表面は堂々たるものだが、事實を考へてみると支離滅裂で、滑稽はその間の「披き」(Distanz) を樂しませるのである。女たらしが「博愛衆に及ぼす」のだと云つて威張つたりするのなぞもそれである。リヒギンの親方はどんな事をしたかはまだ述べてないが、たとへば人が十圓の金を借りに來た時に、二十圓の散財をして歎待しながら十圓を貸さないと云つた様な事は平氣だつたらうと思はれる。—【6】 gegen etwas verstößen 或事に抵觸する。—【7】 Zug. あの人に斯う云つた「所」があるといふ、其の「所」が Zug で、「一面」「一面相」「片影」「傾向」「相」「性向」即ち Charakter (性格) を構成する個々の特徴である。これは一度述べたやうに線を引く (ziehen) といふ動詞から來たもので、たとへば人の顔などを線畫 (Beichnung) にする際の一筆

Zug の意味
「相」「一劃」「一筆」「一抹」

一筆、一點一劃の事を ein Zug と云つたのから始まつてゐる。(英語の trait も、佛語の trait も拉丁語の trahere 引く、から來てゐる。)—【8】 eben nicht=gerade nicht. (註 1 を見よ) —【9】 derb, a. (露骨な、無骨な、無遠慮な、むき出しの、下衆ばつた、飾り氣のない、ざつくばらんな、磊落な、猛烈な、あつさりした、痛快なほどはつきりした、思つ切つて卒直な、單刀直入的な、痛烈な、けつを捲つたやうな、めんど臭せえ事をかなぐり捨てて

ドイツ語特有の形容詞
„derb“

居直つた様な、下品で直截で氣の弱い者が兜をぬぐやうな。かなはねえ様な。)——獨逸語獨特の形容詞である。——die derbe Wahrheit (痛烈な眞理、間違ひのないところ) eine derbe Antwort (いやにあつさりした返事) ein derber Hinterer (猛烈なお尻、逞しいお臀)——【10】 Bürgermann (町人) は Edelmann (貴族) の反対。——【11】 in der Tat = indeed. 果して、實際また、争はれないもので、事實また。——かういふ時には大抵 und をつけて und in der Tat といふ (英語も大抵 and indeed)——【12】 auf zwei (ob. beiden) Achseln tragen (兩方の肩で擔ふ——いづれにも左袒する、兩方に色目を使ふ、旗幟を鮮明にしない、遙く云へば内股膏藥) 昔、臨機應變の處置を取る事を den Mantel nach dem Winde hängen (ob. lehren) 風向き次第にマントを掛ける、と云つた。ところがそれが悪い意味に用ひられ、「二つの態度を使ひ分ける」と云ふ意味で通る様になつてしまつた。するとそれからまた den Mantel auf beiden Achseln (ob. Schultern) tragen といふのが出來、遂には Mantel を省いて意が通する事になつたのである。遂には Achselträger (内股膏藥) Achselträgerei (敵味方を欺く事) といふ名詞まで出來た。——因みに、Schulter は肩、Achsel は肩と上膊との間の關節である。——【13】 Hoffart, f. (尊大、傲慢、大臣氣取り、空威張り。) は Hof (宮廷) の Art (様式) といふ所から來たものである。主として「派手な好み」といふ一面を伴ふ際に用ひる。——【14】 zu einem stehen 或人に組する、或人の側に立つ。

Achselträger
内股膏藥

8.

Solch ein Verdacht aber war bitterböse¹ in jenen Tagen;² denn in den Gemütern³ der reichsstädtischen Zunftgenossen gärte es⁴ gewaltig. Die edlen Geschlechter⁵ tagten⁶ allein im Rat und beherrschten die Stadt; sie hatten neuerdings den gemeinen Sädel⁷ mit Schulden⁸ überbürdet,⁹ die Stadt in verderbliche¹⁰ Bündnisse und Fehden verstrickt,¹¹ sie waren dem Volle von Grund aus verhaft und das Maß¹² ihrer Herrschaft schien voll zum Überlaufen. Eine Verschwörung der Zünfte gegen die Geschlechter wucherte¹³ auf, verborgen aber weitver-

zweigt. Hatte¹⁴ doch so manche andere Reichsstadt in den letzten Jahren ihrem patrizischen Rate den Stuhl¹⁵ vor die Türe gesetzt: warum sollten die Weißlarer ihre Patrizier nicht auch zum Teufel¹⁶ jagen können?

譯。 aber 所が solch ein Verdacht かういふ疑ひは in jenen Tagen 當時にあつては bitterböse 非常に意地の悪いもの [疑はれる當人の身に應へる、ひどく痛い] で war あつた; denn 何故かといふに in den Gemütern der reichsstädtischen Zunftgenossen 該自由市の組合員の輿論は gärte es gewaltig 鼎の如くに沸き立つてゐたからである。 die edlen Geschlechter.....allein 貴族 [出の議員]だけが im Rate 議會で tagten 議事を進めてゐ und 従つて die Stadt 該 [自由]市を beherrschten 支配してゐた; sie 彼等 [貴族]は neuerdings 近來 den gemeinen Sädel 市庫に hatten.....mit Schulden überbürdet 過大の借財を負はせ、 die Stadt 市を hatten.....in verderbliche Bündnisse und Fehden verstrickt 死活に關する協約や確執の渦中に投じてゐた、 sie 彼等 [貴族]は [さういふ譯で] von Grund aus 徹底的に dem Volle 一般町民に waren.....verhaft 増み嫌はれてゐた und そこで das Maß ihrer Herrschaft 彼等 [貴族]の支配の弊が voll zum Überlaufen 溢れんばかりに一杯になつてゐるやうに schien 見えた[彼等の支配ももはや終りに近づいたらしく思はれた]。 eine Verschwörung der Zünfte gegen die Geschlechter 組合の貴族に対する陰謀一つが wucherte auf [表面に]むくれ上つて來た、 verborgen 眼にこそ見えね aber 併し weitverzweigt 廣汎なる範圍に亘つて其の魔手をひろげて。 doch それといふのは so manche andere Reichsstadt 幾多の他の自由市が in den letzten Jahren 最近數ヶ年に於て hatteihrem patrizischen Rate den Stuhl vor die Türe gesetzt その貴族議員を逐ひ出してゐるからである: die Weißlarer.....auch ヴェツツラルの市民も ihre Patrizier その貴族 [議員]を warum sollten.....nichtzum Teufel jagen können? 叩き出せない譯がながらうではないか!

註。【1】 bitter は辛辣な、 böse は性の悪い事。 bitterböse (ひどい、 痛い)
——【2】 in jenen Tagen = in jener Zeit, damals.——【3】 Gemüt (氣持) の

複数 *Gemüter* は必ず「人心」「人氣」即ち *allgemeine Stimmung* の意味に用ひる。—【4】 *gären* (ぐらぐらと煮え立つ、沸騰する、鼎の沸くが如く動く、動搖する) を非人稱動詞化したもの (即ち第三卷 270 に挙げた普通動詞の非人稱化に相當する) —【5】 *Geschlecht* は必ずしも英語の *generation* ではなく、單に「家」「門」「閥」「族」の意に用ひることがある。—【6】 *Reichstag* (帝國議會) *Landtag* (國會) 等の *Tag* は「日」ではなくて *Stat*, *Staatsitzung* (會議) の意である。*tagen* は *zu Rate führen* 議する、の意。—【7】 *der gemeine Gädel.* (國庫、と云ひたい所だが自由市だから市庫、市の會計) *gemein=common.* (公共の) *Gädel* は「財布」。(但し *gemein* は、普通用ひる時には「陋劣なる」「卑劣なる」の意になつて、*allgemein* 一般の *gemeinschaftlich* 共有の、とは區別されるから餘程注意を要する。) 公金とか官金とか共同保管の財産とか云つた様なものは、何時の世でも、それを費消横領 (*unterschlagen*) したり、その他諸種の問題の中心になるものであるから、語も非常に古い。普通は、ローマ時代の *aerarium* (國庫) を借りて *das Aerarium* と云つたり、*Schatz* (寶) といふ字を用ひて、*Staatschatt* と云つてゐる。勿論 *Staffe* (會計) を用ひて *Stadtstaffe* (市庫) などと云つてもいいわけである。—【8】 これも單數の時と複數の時とでは意味が違ふ。*Schuld*, *f.* (罪、責任) *Schulden*, *pl.* (借財) —【9】 *über-* は、度を過ごす、超える意を持つてゐる。*überbürden*=*übermäßig belasten* (過度に荷を重からしめる) *Fürde*, *f.* *Last*, *f.* (重荷) —【10】 *verderblich*=*verhängnisvoll*, *fatal* (後の祟りの恐ろしい) *unheilsam* (爲めによろしくない) —【11】 *Strid* (捕縄) から來たもので、絡める、搦める、捲き込む、身動きもならなくする、高手小手に縛り上げる。—【12】 *das Maß* [マース] は不思議に日本語の舛である。それから轉じて「度合、適量、最大限度」等の意に用ひられる事がある。 *Dein Maß ist voll* 汝の定量は満ちたり *Du bist zur Ernte reif* 汝は收穫に熟したり、獲り取られて然る可きなり、*Deine Zeit ist um* 汝の年期は満了せり *Deine Stunde ist gekommen* 汝の時は到來せり、—等はすべて同じ事を云ふので、汝はもはや存分悪事を働いた、上帝の勘忍袋の緒は只今を以て切れた、(*Die Geduld des Himmels ist erschöpft*) 今や汝は汝の運命に見舞はる可きである、といふ事である。これらは大部分聖書(特に舊約) から來たもので、たとへば彼のバビロニアの最後の王 *Belsazar* (又は *Balthazar*) が、散々悪事を働いた後、遂に宴席で *Sehovah* を罵しつた時、盤の上に炎々たる焰の文字が現れた。その字は *Mane, thecel, phares* といふ一寸譯のわからない三字であつたと云はれてゐる。誰もその意味がわからぬ。

Ärarium, n.
國庫、官金

用ひる時には「陋劣なる」「卑劣なる」の意になつて、*allgemein* 一般の *gemeinschaftlich* 共有の、とは區別されるから餘程注意を要する。) 公金とか官金とか共同保管の財産とか云つた様なものは、何時の世でも、それを費消横領 (*unterschlagen*) したり、その他諸種の問題の中心になるものであるから、語も非常に古い。普通は、ローマ時代の *aerarium* (國庫) を借りて *das Aerarium* と云つたり、*Schatz* (寶) といふ字を用ひて、*Staatschatt* と云つてゐる。勿論 *Staffe* (會計) を用ひて *Stadtstaffe* (市庫) などと云つてもいいわけである。—【8】 これも單數の時と複數の時とでは意味が違ふ。*Schuld*, *f.* (罪、責任) *Schulden*, *pl.* (借財) —【9】 *über-* は、度を過ごす、超える意を持つてゐる。*überbürden*=*übermäßig belasten* (過度に荷を重からしめる) *Fürde*, *f.* *Last*, *f.* (重荷) —【10】 *verderblich*=*verhängnisvoll*, *fatal* (後の祟りの恐ろしい) *unheilsam* (爲めによろしくない) —【11】 *Strid* (捕縄) から來たもので、絡める、搦める、捲き込む、身動きもならなくする、高手小手に縛り上げる。—【12】 *das Maß* [マース] は不思議に日本語の舛である。それから轉じて「度合、適量、最大限度」等の意に用ひられる事がある。 *Dein Maß ist voll* 汝の定量は満ちたり *Du bist zur Ernte reif* 汝は收穫に熟したり、獲り取られて然る可きなり、*Deine Zeit ist um* 汝の年期は満了せり *Deine Stunde ist gekommen* 汝の時は到來せり、—等はすべて同じ事を云ふので、汝はもはや存分悪事を働いた、上帝の勘忍袋の緒は只今を以て切れた、(*Die Geduld des Himmels ist erschöpft*) 今や汝は汝の運命に見舞はる可きである、といふ事である。これらは大部分聖書(特に舊約) から來たもので、たとへば彼のバビロニアの最後の王 *Belsazar* (又は *Balthazar*) が、散々悪事を働いた後、遂に宴席で *Sehovah* を罵しつた時、盤の上に炎々たる焰の文字が現れた。その字は *Mane, thecel, phares* といふ一寸譯のわからない三字であつたと云はれてゐる。誰もその意味がわからぬ。

Maß の意に就て

warum nicht?
「勿論！」

Mane, thecel, phares.

らない。遂に博士を呼んで訊ねると、*Mane* は「神は既に汝の齡を算し、汝の臨終の日を決してあり」*thecel* は「汝は秤に掛けられたり、汝は重きをなすに足らざりき」*phares* は「汝の國は分割されむ」と云ふ意味だと云ふ事がわかつた。そして其の夜 *Belsazer* は刺客の手に斃れたとある。斯う云ふ風に、人間が一擧手一投足神の我慢を試めしつつあるのだと云ふのが猶太教的な考へ方で、またさう云ふ式の文句が現今の西洋語に夥多道入つて來てゐる。これ實に *Hegel* の辯證論を幾千年の昔に於て先取 (*vorwegnehmen*) したもの……は少し話が大きいかも知れないが、とにかく「充つれば則ち溢る」といふ考へ方が極く本能的、原始的なものである事がわかる。流水の者たるや科に盈たざれば行かず、と云ふのも之れに接近した思想だが、應用法は勿論ちがふ。—【13】 *aufwuchern* (はびこり上る) 即ち *Unkraut* (雜草) 等を想像すれば好い。*[wuchern=グーヘルン]*—【14】 此の倒置法と *doch* とは、第二卷 131 を見よ。—【15】 *einem den Stuhl vor die Türe setzen.* (或人の椅子を扉の外へ出す)=*einen zum Hause hinausweisen* (或人を家から追ひ出す——*zu.....hinaus* に就ては第三卷 240 を見よ) —これは昔の習慣に實際あつた象徴的な行事で、家の主が代る時などには實際出て行く人の椅子を扉の外側に出して置き、置いたその瞬間を以て所有権が移ることになつてゐたさうである。現今は誰もそんな事は考へないので、單に追ひ出ことによひられる。「一掃する」位のところ。—【16】 *zum Teufel* (惡魔の所へ) は一種の間投詞的なもので、人を呪ふ時に用ひる。*Geh zum Teufel!* 惡魔の所へでも行け、とつとと出て失せろ。—*zum Teufel jagen* (おつぱり出す、叩き出す) 西洋人の事だから、出て行く奴のうしろからお尻を足で蹴つて押し出すのぞがそれである。—【17】 *warum nicht? warum soll ich nicht?* 等は所謂反語(第四卷 392) で、「何故云々して惡からう?」「してもよい筈ではないか?」の意。*Wollen wir nicht auf eine Tasse Staffe hineingehen?* (どうだ、一寸珈琲でも一杯飲みに這入らうか?) *Warum nicht?* (よからう)

9.

Und diesem stillen Wühlen,² Blanschmieden³ und Vorbereiten seiner Kunstbrüder gegenüber¹ verhielt⁴ sich Gerhard Richwin falt und zweideutig! Er war doch noch immer⁵ der vor-

nehmste Mann der vornehmsten Kunst, hatte in den Trinkstuben großes Ansehen, und wenn sich auch⁶ die Geschäftsfreunde minderten, so mehrten sich doch die Bechfreunde;⁷ ein empfindlicher Mann, eigensinnig, gescheit, wenn er gescheit sein wollte, ein Mann, mit dessen Vermögen es⁸ bergab ging: war⁹ ein solcher nicht wie gemacht¹⁰ zum Demagogen?¹¹ Es lohnte wohl der Mühe,¹² ihn für die neue Sache¹³ zu gewinnen.¹⁴ Man winkte und flüsterte ihm zu, schmeichelte, berebete, drängte ihn. Es¹⁶ verding¹⁵ alles nicht. Er hatte Freunde unter den Geschlechtern, und ihr hoffärtiges, eigenwilliges Wesen deuchte ihm ganz edel und fein. Überdies war Parteizucht¹⁷ dem Manne¹⁸ unbequem,¹⁹ dem jede Zucht mißfiel;²⁰ er rührte sich nicht, wo er Hände voll Geld gewinnen konnte: wie sollte er sich rühren, wo vielleicht nur der Galgen²¹ zu gewinnen stand?²²

譯。und ところが Gerhard Richwin ゲールハルト・リヒ温は diesem stillen Wühlen, Planschmieden und Vorbereiten seiner Kunstrüder gegenüber 自分の組合仲間[同業者]の此の隠密な蠢動、謀計、準備に對して fast und zweideutig 冷淡で曖昧な verhielt sich 態度をとつてゐた! doch さう云つてもer 彼は immer noch 相變らず der vornehmste Mann der vornehmsten Kunst 最も勢望のある組合の最も勢望のある男で war あつたし、in den Trinkstuben 酒場では hatte.....großes Ansehen 隆々たる人氣を得てゐた und die Geschäftsfreunde 得意先は wenn sich auch.....minderten 減つたけれども so.....doch それでも die Bechfreunde 飲み仲間は mehrten sich [反つて]増してゐた; eigensinnig 我儘で gescheit, wenn er gescheit sein wollte 気持一つで氣の利いたことも出来る [逐字譯: 物の分つた言行をしようと思へば物の分つた言行の出来る——頭は良いが氣分が先に立つ性格をいふ] ein empfindlicher Mann 一人の敏感な男、ein Mann, mit dessen Vermögen es bergab ging 家産が傾きかけてゐる男: ein solcher かういふ男こそ war.....nicht wie gemacht zum Demagogen? 偏動政治家にもつて來いではないか? wohl 思

よに ihn für die neue Sache zu gewinnen 彼を今度の旗上げに抱き込むことは es lohnte.....der Mühe 骨折甲斐のあることであつた。 man人々は winkte und flüsterte ihm zu 彼に目配せをしたり耳打ちしたりした[麾ねいだり啖かした], schmeichelte, berebete, drängte ihn 彼の御機嫌をとり、彼を勧説し、急き立てた。 es verding alles nicht [併し]凡てが無効に終つた。 er 彼は unter den Geschlechtern 貴族の間に Freunde [幾多の]友達を hatte 持つてゐた、und そして ihr hoffärtiges, eigenwilliges Wesen 彼等の尊大な勝手氣儘な態度は ihm 彼には ganz edel und fein 極めて上品で洗練されたもののやうに deuchte 思はれた。 über diesのみならず dem jede Zucht mißfiel 凡そ訓練などといふものを喜ばぬ dem Manne この男にとつて war Parteizucht.....unbequem 黨の規律は苦手であつた; er 彼が Hände voll Geld たんまり金を wo.....gewinnen konnte 儲けることが出来るやうな場合でも er 彼は rührte sich nicht 奮ひ起たうとしなかつた: vielleicht 恐らくは nur der Galgen 紋首臺しか wo.....zu gewinnen stand 儲けられさうにもない場合に wie sollte er sich rühren.....? 彼が奮ひ起たう譯がないではないか?

註。【1】第三卷 233 の最後の註 2.—【2】第四卷 282.—wöhren は攬拌すること。—【3】schmieden は Schmied (英語の smith) と關係ある「鍛へて作り上げる」「練り造る」意だが、何でも丹精込めて作り上げる、または製造、捏造することを云ふ。—【4】sich so und so verhalten 斯々の態度を取る。だから態度の事を Verhalten と云ふ。 sich verhalten は逐字的には「自からを持する」—【5】doch noch immer さう云つてまだ今の所は、矢張りなほ依然として。—immer noch (未だ、なほ)ともいふ。 immer を「何時も」と考へると分らなくなる。「相變らず」である。—【6】wenn.....auch (第四卷 299)—【7】zehnen (飲む) から來てゐる。—【8】es geht bergab mit etwas (或物が下り坂になる、左り前になる) 非人稱の熟語で、既に數回出た。berg-ab といふ字に關しては第四卷 323 を見よ。—【9】此の war, 次の lohnte 等の過去形が、第五卷の註の最初に述べた Bräteritum mimicum [扮役の過去] または、もつと一般化して、「現在」の時稱をも加へると Indicativus mimicus [扮役の直接法] である。—【10】wie gemacht = wie eigens dazu gemacht (まるで特に其のために作られたやうだ) der Mann dazu (適任、もつて來い、願つてもない人、お詫へ向き、格好の人物、願つたり叶つたり)—【11】Demagog, m.=Agitator (偏動政治家、民衆の指導者)—【12】lohnend (酬ひる) es lohnt [sich] der Mühe [二格] は非人稱熟

語。 Es ist der Mühe [二格] wert (努力に値す、骨折甲斐がある)と同じ。
—【13】 Sache; f. 英語の cause にも同じ使い方がある。 die gute Sache [the good cause] 正義、美舉等。 Sacheだけを譯するのはかなり無理だが、

die Sache
「件」「事」「舉」

或る一人の人、または一部の人をして結束せしめる、利害關係 (Angelegenheit) の事である。用例を示すと mit jemand gemeinsame Sache machen [to make common cause with somebody] 或人と協同する、或人に與する。—英語では in the cause of..... [.....のために] と略同意の for the sake of の sake が、獨語の Sache と同語である。起源は「訴件」の方が先で、勝つか負けるかの自分に利害ある痛痒事といふ所から來てゐる。—die neue Sache は新舉、此のたびの問題。—【14】 eine Person gewinnen (或人を獲得する) といふのは、その人を抱き込む、味方に附ける事。—【15】 versangen=gelingen (成功する) mitliefen (手應へがある、效く、效目が現れる) nügen (役立つ、甲斐がある) —【16】 第三卷 273。—【17】 Partei [バルターアイ] 英語 party [パーティー] (黨派)—Bucht は Disziplin [ディスツィプリーン] (規律、統制、劃一化) の意、即ち英語の training である。だから養成、精神の涵養、訓練と云つても好い。—【18】 Richwin の事。 ihm といふ代り。「先生」「大將」「奴さん」「此の小父さん」「此の男」—【19】 文字通りには「窮屈」即ち「苦手」「鬼門」「御免」「眞平」「願ひ下げ」「やり切れぬ」「閉口」「三舍を避ける」「一目を置く」「厭」「蟲が好かぬ」「煙たい」等。

Synonym [同意語]
と

Antonym [反意語]

濡手に粟、一擗千金といふ奴。—【22】 der Galgen [絞首臺] (英語 gallows) は中世紀の事故事實である。今時のドイツ人がふざけて云ふ冗談とはちがふ。中世紀では泥坊でも死刑になつた。ましてや國事犯 (Staatsverbrecher) に於てをや。中世紀に於ては、此の Galgen と云ふ奴が、公々然として、領主の權威の象徴になつてゐた。一地方が自分の領土になると、領主はまづ其の目抜きの都會の、人通りの最も激しい大廣場を選んで其處に此の絞首臺をおつ立てる。王様は何人分の絞首臺、侯爵は何人分と云つたや

der Galgen
絞首臺

うに、その大きさまできまつてゐた。—【23】 zu.....stehen の stehen は「控へてゐる、待つてゐる」の意。 Es steht zu erwarten, daß..... (.....云々が豫想されてゐる、期待出来る、豫想して差支ない) 等の stehen と同じ。

10.

In jenen aufgeregten Tagen hatte Richwin einen prächtigen jungen Hund zum Geschenk erhalten, der mindestens doppelt so¹ aufgereggt war wie die Weßlarer² Bürger und dreimal so eigensinnig wie sein Herr, einen großen schwarzen Wolfshund³ von spanischer Rasse,⁴ kaum⁵ dreiviertel⁶ Jahre alt, noch ganz ungezogen,⁷ täppisch⁸ und allen Mutwillens⁹ voll.¹⁰

■。 in jenen aufgeregten Tagen この物情騒然たる時に Richwin リヒ温は einen prächtigen jungen Hund 一匹の素晴らしい仔犬を hatte... zum Geschenk erhalten 贈物として貰つた、der その犬は mindestens 少くとも doppelt so aufgereggt.....wie die Weßlarer Bürger ヴェツラルの市民の二倍も氣が立つて [気が荒い] war わ und te dreimal so eigensinnig wie sein Herr 自分の飼主の三倍も我儘であつた、[その犬は] einen großen schwarzen Wolfshund von spanischer Rasse 西班牙種の大きな黒毛の狼犬で kaum dreiviertel Jahre alt [生後] 九ヶ月になつたかならずの noch ganz ungezogen 未だ野性が少しも抜けず täppisch und allen Mutwillens voll 粗暴で悪戯ばかりであつた。

註。【1】 doppelt so.....wie (als) (第三卷 225 の 3 を見よ) 次の dreimal も同じ。(=mal の語尾については第四卷 347) —【2】 地名の附加語語尾 -er に就ては第四卷 357。—【3】 Wolf (狼) と Hund との雑種と稱せられる犬 (狼犬) —【4】 英語の race。—【5】 準否定詞 (第四卷 397) —【6】 第四卷 345。—【7】 ungezogen は、既に述べた ziehen (訓育する、馴らす) から來てゐる。名詞は Bucht。—【8】 täppisch=plump (無細工な) roh (粗野な) verb (無骨な) 所謂野武士的な、作法を知らぬ事。—【9】 Mutwillen. 生意氣、增長、利かぬ氣、負けじ魂、惡戯氣、我儘、横着、放埒、無謀。Übermut, Sedheit (大膽不敵) Bosheit (性惡) と同じ。—【10】 voll が二格支配なる事は第五卷の註で再三述べた。

11.

Der Hund hieß „Thasso“¹ und machte seinem Namen Ehre,² welcher einen Schläger oder Streiter bedeutet. Denn Streiten und Raufen ohne Ende³ war seine Lust, und obgleich er, höchst gutartig,⁴ fast nur im Spiel⁵ kämpfte, so war doch ein Spiel mit Thasso nicht jedermann's Vergnügen. Ging ein ehrhafter⁶ Bürger auffallend raschen Schrittes⁷ durch die Straße, flugs sprang Thasso hinterdrein und zupste ihn nedisch⁸ am Wams,⁹ riß aber auch gleich einen handgroßen¹⁰ Fezen Tuch mit¹¹ herunter. Oder er sah ein Kind, sprang spielend zu ihm hin und warf es im ersten Anlauf¹² mit seinen breiten Taschen¹³ in die Gosse.¹⁴ Am ergötzlichsten¹⁵ aber war Thasso, wenn ein Reiter rasch vorbeitrachte.¹⁶ Gleich¹⁷ einem Raubtier setzte dann der Hund in Riesen sprüngen¹⁸ dem Pferde nach, umkreiste¹⁹ es, hüpfte ihm zum Kopfe hinauf, dann wieder zum Schweif,²⁰ schnappte dem Reiter²¹ nach der Hand oder schlüpfte dem bäumenden Rosse unter dem Bauche durch, ohne jemals einen Huftritt²² davonzutragen.²³ Er biß²⁴ nicht, er spielte bloß; aber die Pferde scheuten, wichen zurück, stießen hoch auf oder gingen trotz Zügel und Schenkel²⁵ gestreckten Laufes²⁶ durch,²⁷ als säße ihnen der Satan im Nacken.²⁸

■。 der Hund その犬は hieß „Thasso“ 「タツソー」といふ名であつた und が [果して] welcher einen Schläger oder Streiter bedeutet 打つ者又は闘士といふ意味の seinem Namen 自分の名を machte.....Ehre 辱しめなかつた。 denn 何故かといふに Streiten und Raufen ohne Ende 一日中喧嘩をしたり喧嘩合ひをしたりすることが seine Lust その犬の楽しみで war あつたからである。 und 且 er その犬は höchst gutartig 極めて性が良 [かつたから] fast 十中八九まで nur im Spiel 単に冗談半分に obgleich.....kämpfte 爭闘をするのであつたが so.....doch それにも

拘はらず ein Spiel mit Thasso [冗談半分にする] タツソーとふざけることは war.....nicht jedermann's Vergnügen 必ずしも皆が皆面白く思ふことではなかつた。 ein ehrhafter Bürger 普通の市民が auffallend 目立つて raschen Schritte 歩調を早めて ging.....durch die Straße 街路を通つて行くと、 Thasso タツソーは flugs 飛鳥の如くに sprang.... hinterdrein 後から跳りかかつ und te nedisch からかひ半分に zupste ihn.....am Wams 彼[その市民]の胴着に喰ひ附いた、 aber が [それだけならまだしも] auch gleich 同時にまた einen handgroßen Fezen Tuch 手のひら大の布切れを一つ riß.....mit herunter 街へちぎつた。 oder 或は又 er その犬が sah ein Kind 子供を見附けると spielend じやれつく様にして sprang.....zu ihm hin その子供の所へ飛んで行つ und te im ersten Anlauf 一蹴ひ襲つて mit seinen breiten Taschen その大きな前足で es その子供を warf.....in die Gosse 下水溝の中へ突き落し [たりし]た。 aber 併し ein Reiter 馬に乗つた人が rasch 速やかに wenn.....vorbeitrachte 速歩で通りかかつた時に Thasso タツソーは am ergötzlichsten.....war 一番面白かつた。 dann さういふ時には der Hund 此の犬は gleich einem Raubtier 猛獸にも見紛ふやうな格好をして in Riesen sprüngen 巨大な跳躍をしながら setzte dem Pferde nach その馬を追ひかけ、 umkreiste es その馬の周囲を駆けめぐり、 hüpfte ihm zum Kopf hinauf 馬の頭に跳び上り dann 次には wieder 又も [hüpfte.....] zum Schweif 尾に跳びついたり、 schnappte dem Reiter nach der Hand 騎り手の手に喰ひついたり oder 又は schlüpfte dem bäumenden Rosse unter dem Bauche durch 横立になつた馬の腹の下を駆け抜けたりした、 ohne jemals einen Huftritt davonzutragen [そのくせ] 一度も馬蹄にかけられたことがなかつた。 er biß nicht その犬は噛みつかなかつた。 er spielte bloß 単にふざけるだけであつた； aber 併し die Pferde [この犬の手にかかつた] 馬は [皆] scheuten おちけついて wichen zurück あとずさりし stiegen hoch auf 横立に跳び上つたり oder 又は trotz Zügel und Schenkel 手綱を引いても股を締めてもきかばこそ gestreckten Laufes 歩度を伸ばして als säße ihnen der Satan im Nacken 一目散に [逐字譯： 彼等即ち馬の頸に悪魔が喰らひついてでもゐるやうに] gingen..... durch 逸走したりした。

性。【1】*Thasso* は伊太利詩人の *Tasso* と同系統の語源ならむか。——【2】*dem Namen Ehre machen* 名前に光榮あらしめる、面目を立てる、背かない、を辱しめない。——【3】*ohne Ende* は前の二字の *Attribut*、「涯しなき」「二六時中の」「ぶつ通しの」——【4】性(たち)が好い、良性の。——*böseartig*(惡質の)の *Antonym*。——【5】*nur im Spiel*=*nur zum Vergnügen, zum Scheerz*(冗談半分に) *zum Schein*(嘘に)——【6】*jedermann* は複合詞ではあるが、第二卷 183 で述べた如く二格は *jedeßmanns* とはならない。——【7】*ehrsam*=*ehrlich, brav* 大した意味のない言葉で、多少の *Humor* を伴ふ無關心な諷刺である。「殊勝な」「健氣な」「申し分のない」「點の打ち所のない」「人並の」「天下の」「天下に憚りなき」「餘人には非ざる」「怪しきれる謂はれのない」——結局褒めたのだからさしたのだから分らない。*ein armer Bürger*(罪もない一市民、無辜の民、天下の良民)と云つても好いところである。*ein ehrlicher Mann* と云へば、「さう馬鹿にしたものちやない」と云ふ時に使はれる。その反対の *unehrlich* は、「不良な」「胡散な」「曲者の」「怪しい」「紳士的でない」の意になる。*er war unehrlich* と云へば、「彼は不正直であつた」ではなく、「彼は悪事を働いた」の意である。其の邊のものがちよいちよい失くなつたりする事があれば、それは誰かが *unehrlich* のだ。——そこで、*unehrlich* の反対としての *ehrlich* に、「別に悪いことはしない」「正直な」の意も生ずる。——【8】*raschen Schrittes* に關しては第四卷 329 を見よ。次の *flugs*[フルークス]も同様(*raschen Flugs*と思へばよい)——【9】*neden*(揶揄ふ)から來てゐる。(英語の nickname 参照)——【10】*Wams*(胴着)は現今の *Weste*(チョッキ)の前身である。現今の *Rod*(上着)は昔は外套の用をなしてゐたのである。——【11】*mit* は *mit sich*(自分と共に)の意で、*mitbringen*(連れて来る)*mitnehmen*(携行する)*mit in den Strudel hineinziehen*(共に渦中に引き入れる、即ち捲き添へを喰はず)等に現れた *mit* である。——【12】*handgroß*=*groß wie eine Handfläche* 手のひら程の大きさの、の意。——【13】*Unlauf*(襲撃)は第五卷で *Unlauf nehmen*(機みをつけ、スタートを切る)を説明する時に述べた。*Unsturm*(突進)でも好い。——【14】猫や犬の前脚は *Pfote* と云ふが、此の猛犬の手は特に *Cluze*(熊などの手)と云つたのである。——【15】*Gosse* は *gießen*(流す、あける)から來たもので *Rinne*, *Rinnstein*, *Rloale*(下水、どぶ)の事。——【16】形容詞の最高級に二つある。(第三卷 226 最高級の客語的用法)——【17】馬の歩調に *schreiten*(並歩)*traben*(速歩—馬車馬なら *trotten*)*galoppieren*(駆歩)の三種ある事は第五卷で述べた。——【18】*gleich* は第二卷 138 形容詞の格支配で述べた如く三格支配である。(wie ein Raubtierとも云へる)

ehrlich
「良き」

【19】*Riese* は英語の *giant*. *Riesen* の複合形は *gigantic*に相當する。*Zeppelin* の飛行船のことを *Riesenzigarre*(大菓子)と云つたりするのが此の類である。——【20】*umfreisen* の *um* は英語の *circum-*(周圍を)と同じで、此の意味の時には必ず非分離なる事は第二卷 146 で述べた。——【21】犬の尻尾なぞは *Schwanz* と云ふが、馬のやうに長いと *Schweif* と云ふ。*Komet*(彗星)が *Schwanz* を持つと云へばドイツ人は思はず笑ひ出すだらう。*Schweif* と云はなければいけないのである。——【22】此の三格については第四卷 416 を見よ。次の *dem bäumenden Rossen* も同様。——【23】*Huftritt*(馬蹄の一蹴)足蹴にかけることを *einem einen Huftritt geben* といふ。*Huf* は蹄。——【24】*davontragen* は、「或物を得て去る」ことである。けれども普通は「去る」事を考へに入れないので、單に「得る」「喰ふ」事に云ふ。*einen Sieg davontragen*(勝利を贏得する)*einen Seitenhieb davontragen*(側杖を喰ふ、序でにやつつけられる)これらは *einen Schnupfen wegbekommen*(鼻風邪をしょひ込む)等の *weg-* が *davon-* に當るので、「背負ひ込む」の「込む」と同様、單なる考へ方である。——【25】*beissen*, *biss*, *gebissen*。——【26】*Schenkel*, *m.* 股。——馬を止める時には手綱も引かなければならぬが、同時に兩股をぐつと締めなければならない。それで *troß Bügel und Schenkel* と云つたので、手綱を引いても股を締めても、の意。——【27】此の二格の形の副詞も、前の *raschen Schritte* と同様である。*strecken* は英語の *stretch*(延ばす、ひろげる)「大股で」「歩度を延ばして」—所謂 *pitch* を延ばして、である。——【28】*durchgehen* 馬が狂奔すること、即ち、勝手に駈け出してしまつて、もはや騎手の收拾を許さなくなり、所謂放れ駒、逸馬と云ふ奴になること。——【29】所謂「後をも見ずに」とでも云ふ時の常套文句である。*fijen*[第二式接續法 *fäße*]は、獅噛み附いてゐて離れない、喰らひつく、武者振り附く事。たとへば紙を貼りつける時などに、「附いた」とか「附かない」とか云ふのが *fijen* である。

12.

Rief dann Meister Richwin den Hund zurück, so hielt dieser augenblicklich ein,¹ bliefe seinen Herrn an, als wollte er sagen: ich kann's noch viel besser,² und verfolgte drauf das Pferd mit verdoppelter Lust.³ Drohte und schalt⁴ Richwin

aber gar,⁵ so verwandelte sich das Spiel des Hundes in Zorn, er bellte und biß und lief dann aus Furcht vor der Strafe davon, durchschwärzte⁶ die halbe Stadt,⁷ trieb⁸ unterwegs allerlei⁹ neuen Unfug und schlich¹⁰ erst spät und ganz heimlich nach Hause zurück. Nun erhielt er freilich seine¹¹ Hiebe. Diese verstand der Hund jetzt¹² aber falsch; denn, da er die erste Ursache der Strafe längst vergessen hatte,¹³ so glaubte er, man prügle¹⁴ ihn, weil er nach Hause komme und blieb das nächste Mal um so länger fort.

譯。 dann さういふ時に Meister Richwin リヒギン親方が den Hund その犬を rief....zurück呼び返すと、 so さうすると dieser こちら[犬]は augenblicklich 一瞬間 hieltein 手を休め、 ich kann's noch viel besser これからが觀物ですよと als wolle er sagen 言ひ度けな顔附をして blickte seinen Herrn an 自分の飼主の顔を見 und t drauf それから mit verdoppelter Lust 好きを倍化して verfolgte....das Pferd 馬を追跡するのであつた。 aber 所が Richwin リヒギンが drohte und schalt... ...gar その上脅かしたり叱つたりなぞすると so さうすると das Spiel des Hundes 犬の遊戯は verwandelte sich....in Zorn 怒りに變るのであつた、 er bellte und biß 犬は吠えついたり咬みついたりし und t dann 揚句の果は aus Furcht vor der Strafe 罰を怖れて lief....davon 逃げ出し、 die halbe Stadt 市の大半を durchschwärzte 浮かれ廻り、 unterwegs 途中で allerlei neuen Unfug 色々な新しい亂暴狼藉を trieb 働い und t erst spät und ganz heimlich [夜]遅くなつてからやつと とそこそと人目を忍んで schlich....nach Hause zurück 我が家へ歸るのであつた。 nun さういふ譯だから freilich 言ふまでもなく er その犬は erhielt.....seine Hiebe 當然の鞭打を受けた。 jetzt aber ところが今度は der Hund 當の犬が diese この鞭打を verstand....falsch 間違つた意味に取つた； denn 何故かといふに、 er 彼[犬]は die erste Ursache der Strafe 此の罰の最初の原因を längst とつくの昔に da.....vergessen hatte 忘れてしまつてゐたので、 so そこで er 彼[犬]は weil er nach Hause komme 家へ歸つて來たから man prügle ihn 打たれるのだと

glaubte 考へた und そこで das nächste Mal 次回には um so länger 一層長く bliebfort 訴つて來なくなつた。

註。【1】 einhalten = inne halten, stillstehen (とまる)——【2】 ich kann's noch viel besser. まだこれよりはずつと良く出来ます。(即ち、細工は流れ仕上げを御覧じ。)——【3】 即ち es は有形無意の補足語(第三卷 278)——【4】 schelten, schalt, gescholten, 英語の to scold (叱る)——【5】 gar = sogar. 云々.....するに至つては、おまけに.....云々なぞすると。——【6】 schwärmen = 浮かれる、狂ふ。 durch の前綴に就ては第二卷 146.——【7】 die halbe Stadt. 日本語でなら町中を (die ganze Stadt) と云ふ所。 ganz (全) といふと話が大き過ぎて反つて嘘のやうになるから、町の半分通りを、と云つた譯で、所謂 Hyperbel (誇張話法) にも伸び手の込んだのがある。町名、國名が来るときには、halb, ganz は語尾變化をしない。 ganz Japan 日本中が、halb Berlin 伯林の半分通りが。——

【8】 treiben は machen (なす) tun (なす) verrichten (行ふ) と同じやうな字で、少し wegwerfend (軽蔑的) な色彩 (Rüanz, Schattierung) を帶びてゐるだけの相違である。「やる」「やらかす」「でかす」「やつける」——【9】 allerlei の -erlei の語尾は格語尾を取らない。(第四卷 410)——【10】 schleichen に關しては第五卷で長々と説明した。——【11】 此の物主代名詞の用法は、ほほ第四卷 416 に述べたのと同様であるが、ほほ此の場合だけの附隨的色彩を説明すると seine verdienten Hiebe (彼の當然の鞭打) または Hiebe, die er verdient hat. (彼が、その價値に相當するだけの惡事を働いた其の鞭打) である。——【12】 jetzt aber = ところが今度は。——【13】 此の過去完了の用法に注意されたい。「忘れた」のではない、「忘れてしまつてゐた」のだから、どうしても過去完了でなくては不可ない。——【14】 prügele の代り。

13.

Allso nahm sich¹ Meister Richwin vor, den Hund auf frischer Tat² zu bestrafen. Da lief dann der Hund hinter dem Reiter her³ und Richwin hinter dem Hund. Endlich stand der Hund und ließ, tief zerknirscht, den Schwanz zwischen den Beinen,⁴ seinen Herrn herankommen. Sowie dieser sich aber auf

zehn Schritt genähert hatte, nahm Thasso wieder Reißaus.⁶ Meister Richwin ging langsam, lachte, schmeichelte und heuchelte⁷ ein freundliches Gesicht; der Hund kam herbei,— aber nur auf zehn Schritt, dann lief er wieder davon. Der Herr mochte⁸ eilen, schleichen, still stehen — das Tier blieb immer bei ihm, aber auch immer zehn Schritt vom Leibe.⁹ Die Gassenbuben jubelten, und die ganze Straße¹⁰ lief an Tür und Fenster,¹¹ um zu sehen, wer denn endlich gewinne, Richwin oder Meister Thasso? Der stolze Bürger¹² zitterte vor Wut und warf gar¹³ mit¹⁴ Steinen nach dem Sünder.¹⁵ Thasso aber wich jedem Wurfe wunderbar gewandt aus, sprang dem Stein nach, apportierte¹⁶ ihn wie zum Spotte mit fliegender Faust und war schon wieder zwanzig Schritt voraus, ehe sein Rächer nur¹⁸ ordentlich¹⁹ zum Hiebe ausgeholt¹⁷ hatte.

譯。also そこで Meister Richwin リヒギン親方は den Hund 犬を auf frischer Tat [悪戯の]現場で zu bestrafen 罰しようと nahm sich.....vor 企てた。da.....dann さあさうなると lief.....der Hund hinter dem Reiter her 犬は馬に乗つた人を追跡し und 一方 Richwin リヒギンは hinter dem Hund その犬を追跡する[ことになつた]。endlich 結局は der Hund 犬が stand 立ち止つ und て、tief zerknirscht 深く後悔し、den Schwanz zwischen den Beinen 尻尾を股倉に挟んで ließ.....seinen Herrn herankommen 自分の飼主が近寄つて來るのを待つてゐるのであつた。aber 併し dieser 後者[飼主]が auf zehn Schritt [自分から]十步位の所まで sowie.....sich.....genähert hatte 近づくや否や Thasso タツソーは wieder 再び nahm Reißaus 逃走するのであつた。Meister Richwin リヒギン親方は ging langsam [はやる心を押へて態と]のろのろ歩いて行つた。lachte 誘つて見たり schmeichelte 頭機嫌をとつてみたり und 又 heuchelte ein freundliches Gesicht 優しい顔付をしてみせたりした: der Hund kam herbei 犬は近寄つて來るには來た。—— aber が

併し nur auf zehn Schritt [それは]十歩の所までで、dann それから[親方が十歩の所まで近づくと] er 犬は wieder 又もや lief.....davon 逃げ出すのであつた。der Herr mochte eilen, schleichen, still stehen 飼主が急がうが、のろのろとした足どりにならうが、立ち止まらうが —— das Tier 犬は immer 何時も blieb.....bei ihm 彼の傍を離れなかつた、aber 併し auch immer 勿論依然として zehn Schritt vom Leibe 十歩の距離を保つて。die Gassenbuben 路上で遊んでゐる悪童連は jubelten やんやとはやしたてた、und そして die ganze Straße その通りの者は皆 wer denn endlich gewinne 一體最後に勝つ者は誰だらう、Meister Richwin oder Meister Thasso リヒギン親方がそれともタツソー親方がと um zu sehen 見物するために lief an Tür und Fenster 戸口や窓へ駆け寄つて來た。der stolze Bürger さうするとおやち殿 zitterte vor Wut 怒りの餘りぶるぶる身慄ひし und ながら gar 止せばよいのに nach dem Sünder その情けない畜生に warf.....mit Steinen 石を投げつけるのであつた。aber ところが Thasso タツソーは jedem Wurfe どの石からも wunderbar gewandt 不思議な程巧みに wich.....aus 身をかはし sprang dem Stein nach [轉つて行く] 石に跳びついで、wie zum Spotte まるでからかひ半分に mit fliegender Faust 大急ぎに急いで apportierte ihn その石を [咬へて]持つて來た und そして sein Rächer 懲戒者が ehe.....nur ordentlich zum Hiebe ausgeholt hatte 捣りつけるために碌々手を振り上げさへしないうちに schon 既に wieder 又もや zwanzig Schritt 二十歩[も] war.....voraus 先へ遠のいてゐるのであつた。

註。【1】三格の fid. (第二卷 155) —— 【2】熟字。拉丁語の法律術語で flagrante delicto とも云ふ。英語では現にそれを用ひる。——普通は auf frischer Tat ertappen 現行犯を押さへる、と云ふ。——【3】 hinter.....her に就ては第三卷 240 の 5 を見よ。——【4】 den Schwanz zwischen den Beinen [gesteckt] 此の過去分詞の使ひ方に就ては第四卷 371 の 3 を見よ。——【5】

zwei Fuß [二呎]

と

zwei Füße [二本の足]

auf は、距りを指す時に用ひる。Schritt は Schritte の代り。(度量衡の名詞は、大抵單數を用ひる zwei Fuß 二呎。hundert Mann 百名。——けれども例外は多い。時間的なもの、たとへば zehn Jahre 十年間、fünf Tage

五日間等を始め、女性のもの、たとへば *Elle* や *F. Tasse* [何杯] 等は例外になる。——【6】 *Steifaus nehmen* 脱走する (熟語) ——脱走兵の事を *Ausreißer* と云ふ。——【7】 *etwas heucheln = heuchlerisch etwas zeigen* (佯つて或物を見せる、或事を裝ふ) ——【8】 完全に云ふと *Der Herr mochte eilen, schleichen, stille stehen, wie er wollte.* (第三卷 247 の 2 の終頃を見よ。) (また第四卷 293 も参考になる。) ——【9】 *vom Leibe* に大した意味はない。*Leib* は「身柄」を意味するので、*von seiner Person, von ihm selbst* とも云へる。それに「近づかぬ」事を熟語的に *einem vom Leibe bleiben* (或人の身柄から留る、即ち距りを置く) と云ふのである。——【10】 *Die ganze Straße* (街全體が) は所謂 *Metonymie* [換語] である。即ち、「街道」が走つたのではなく、街道に居る「人々」が走つたのである。二個の概念の間に極く自然な關係が支配してゐて、一を想へば期せずして他を想ふと云つたやうな際に、一の換りに他を用ひる、これを稱して *Metonymie* [獨逸化すれば *Umnennung* 名換へ *Wortvertauschung* 詞換へ] と云ふ。修辭上の型 (*rhetorische Figur*) である。——【11】 *Tür und Fenster* 扉も窓も冠詞が無く、おまけに單數なのは? ——これが所謂 *Hendiadys* (二語一想) である。たとへば *Hut und Stock* (帽子もステッキも) と云へば、人が外出する時、または訪問先を出る時に持つて行く品物の總稱で、その中には外套も、荷物もみんな含まつてゐる。*Hut* と *Stock* とを判然と區別しない、兩方を同じ方向に属するものと見る、これが二語一想である。——【12】 *Ridwin* 自身の事を云ふのである。(第四卷 427) *stolz* は、此の際は別に「威張つた」の意ではない。筆者が、此の勇壯 (?) なる光景の叙述に思はず敘事詩人的 (そして多少皮肉を交へた) 充奮をおぼえて、芝居氣を出して文章の調子を上げた爲めに思はず附いた *Epitheton ornans* (裝飾用の枕詞) である。たとへば古詩では、*Nibelungen* などに出て来る *der edle Hagen, der stolze Siegfried* などがそれで、概念通りに譯しては變なことになつてしまふ。極く日本的な一例を引くと、數年前、何處かの魚屋のおかみさんが格闘して泥坊を捕へた話が新聞に載つてゐた。たしか朝日だつたと思ふが、記者君よつほど面白かつたと見えて、おかみさんと泥坊との取つ組み合ひのくだりになると、思はず筆を滑らせて、「女房の力やまさりけむ」とか何とか云つてゐた。西洋人ならば、さう云ふ時の「女房」には決して一つの *Epitheton ornans* を吝しまないであらう。Über der Sieg war der Kampflustigen Fischhändlerin vorbehaltenとか Über die Übermacht schien auf der Seite des stolzen Fischweibes zu liegen とか云ふところである。——だ

**Metonymie
換喻**

から此の場合の *der stolze Bürger* は、*stolz* も *Bürger* も譯する必要はなく、「おやち殿」とか「大將」とか云つてしまつた方が原文に忠實なる所以で、數行前の *das Tier* を *Hund* (犬) と云はないと日本語にならなかつたのと同様である。一たいてに、芝居氣のある洒落れた書き方には斯うした代詞 (第四卷 427 に述べたもの) や枕詞が多くなる。——【13】 *gar = sogar* (剩さへ) (止せばよいのに) (大人氣なくも) ——【14】 日本語の感じで他動詞だと思ふものが、四格を取らないで前置詞を取る事が隨分多い。殊に手足を以てする動作はさうである。

<i>mit etwas werfen</i>	或物を投げる
<i>nach etwas greifen</i>	或物を掴む
<i>auf etwas schlagen</i>	或物を打つ
<i>auf etwas drücken</i>	或物を押す
<i>an etwas klöpfen</i>	或物 (扉等) を敲く
<i>auf etwas treten</i>	或物を踏みつける

けれども前綴が附くと大抵四格支配になる。*etwas wegwerfen* 或物を投げ捨てる *etwas ergreifen* 或物を掴む *etwas zerstüllen* 或物をぶち毀す *etwas hineindrücken* 或物を押し込む *etwas entzweiklopfen* 或物を敲いて毀す *etwas betreten* 或所に踏み入る) ——【15】 基督教的な考へ方として、何かと云ふと *Sünde* [英語の sin] (罪業) を云々するのが凡ゆる西洋語の常である。坊主達が信者共に教へる所に依ると、*Adam* と *Eva* の昔から我々が生れながらにして持つてゐる *Erbsünde* [original sin] 祖先傳來の罪は先づ致し方がないとして、*die sieben Totfünde* (七つの死罪、七戒) だけは殊に戒むべきである。曰く *Hochmut* 傲慢 *Geiz* 貪慾 *Wollust* 色慾 *Fähdorn* 憤怒 *Gefräzigkeit* 大食 *Reid* 猜忌 *Müßiggang* 懶惰が之れである。けれども悲しい哉、羅馬書にも云つてある通り *Wir sind allzumal arme Sünder* (われら凡て罪の子なり) で、世に罪人の種は絶えをじとでも申すの外はない。だから、「困つた奴」とか「仕方のない奴」とか云ふ時に *der Sünder* といふ。「年甲斐もない奴」とか「年は取つても浮氣は止まぬ」爺の事をドイツ語でも英語でも佛語でも「老いたる罪人」といふ。*(der alte Sünder, the old sinner, le vieux pécheur)* ——【16】 *apportieren* [-ieren の語尾に就ては第二卷 107] は佛語から來た字で、獵犬が、射落とされた鳥等を咬へて「持つて來る」事を云ふ。従つてたとへば池の中なぞへステッキを投げ込んで «Sport! と呼ぶと犬は *apportieren* する。*apportieren* は別に *Dressur* (調御) *Drill* (訓練) で

**Epitheton ornans
裝飾的枕詞**

— 37 —

239

はなく、犬の本能である。——【17】 zum Hiebe ausholen の ausholen は「準備姿勢を取る」こと、「ハッと身構へる」こと、「振り翳す」ことである。但し駆け出す時等は zum Laufe ansehen, zum Sprunge (跳躍に) ansehen と云ふことは五巻で説明した。——【18】 ehe, bevor 等の文章は、獨逸語では肯定文を用ひるが、日本語ならば肯定でも否定でもよい。云々する前に、も、云々しない前に、も同意である。ところが nur があると、どうしても否定文に譯しないと nur (さへ) の意が出ない。確に準備姿勢「すら」取つてしまはないうちに、である。即ち、「せめて」準備姿勢「だけ」(nur) でも取つて了ふまで待てば間に合つたのに、と云ふ者が裏にあるのである。——【19】 ordentlich (正式に、ちゃんと、まともに、きちんと、ほんとうに、よく、しつかりと、満足に、確に、確々) 要するに日本語の「確に」といふ言葉と同じで、使ひどころがむつかしい。recht とも云ふ。ich habe nicht recht schlafen können 私は確に眠れなかつた。

14.

Eeder Tag brachte neue Szenen ähnlicher Art. Der Hund entfaltete einen staunenswerten Erfindungsgeist in immer neuen Unarten und in der Kunst, einem¹ rechtzeitigen² Hiebe zu entrinnen.

譯。 neue Szene ähnlicher Art これに類した色々と目先の變つた活劇が jeder Tag brachte 毎日のやうに演じられた。 der Hund 犬は in immer neuen Unarten 次ぎ次ぎと新奇な悪戱を[工夫し] und 且つ in der Kunst, einem rechtzeitigen Hiebe zu entrinnen 時を逸せず打擲の手を脱する腕前にかけては einen staunenswerten Erfindungsgeist 驚嘆に價する發明の才を entfaltete 発揮した。

註。【1】 einem Hiebe entrinnen. 此の三格は離格 (第四巻 419)——【2】 rechtzeitig einem Hiebe zu entrinnen. (時を逸せず打擲をまぬがれる)——rechtzeitig を形容詞にして Hieb に附けたのは、修辭學上の所謂 Hypallage [ヒパラゲー] (倒錯語法) といふ現象である。現今では餘り用ひられないが、拉丁語、殊に Virgil などはこれが多いので名高い。どういふのかと云ふに、或ひは簡略にしようといふ目的から、或ひは面白く云はうとする冗談氣

Hypallage
倒錯語法

から、或ひはその他の原因で、文法上の關係、論理上の要求を無視して、故意の「とんちんかん」を行ふ事である。たとへば aus Mangel an Geld (お金の缺乏のために) を aus mangelndem Gelde (缺乏せる金のために) mitten im glühenden Feuer (炎々たる火の真只中に) を mitten in der Glut des Feuers (火の灼熱の中に) と云ふのなぞは、名詞と形容詞との間に行はれる Hypallage である。唯今問題になつてゐるのは、副詞を形容詞にしてしまつた「とんちんかん」であるが、それと同じ例には den ersten besten Menschen (手あたり次第の人間を、誰でも行き當つた人間を、逢つたが幸ひの人間を) がある。最初は der erste ist der beste (最初のが一番好い、最初のに限る) と云つたのであるが、簡単に云はうとする要求から、亂棒千萬にも其の句全體を形容詞を見て der erste beste などと云ふ極端な Hypallage を作つてしまつたのである。 das sogenannte Aliibi (所謂現場不在證明) なども、今では平氣になつてゐるが、よく檢べて見ると一種の Hypallage である。即ち Das Aliibi Genannte (アーリビーと謂はれるもの) を顛倒したので、漢文の「云々と謂つた所」を「謂はゆる所の云々」としてしまつたのと同じで、東西期せずして極く自然な Hypallage を行つてゐるのは注目に價する。参考のために拉丁語の面白い例を擧げると——

Ibant obscuri sola sub nocte per umbram.

(Vergil)

直譯すると、obscuri 暗き彼等は sola sub nocte 孤獨の夜の下に per umbram 間を通つて ibant 行つた。——つまり Soli 孤獨なる彼等は(伴をも連れず、彼等のみが) obscura sub nocte 暗き夜天の下に、と云ふ代りである。——扱て現在の場合にかへると、此の rechtzeitig の用ひ方は、成句でもなく、省略の必要からでもなく、また別に面白くしようとする努力からでもなく、謂はば Hypallage aus Nachlässigkeit (不注意の結果生じた轉倒語法)

Sprachdummheit
鈍痴 (ドチ)

であつて、こんなのが甚くなると所謂 Sprachdummheit (鈍痴、ドチ) になるのである。鈍痴といふのは、たとへば「夢食ふスキも蟲々」とか、「玄闘くらひを拂はした」とか云つたやうな、不注意にひよつと滑つて出る現象である。内容を考へずに喋舌つてゐる役者などには最も有り勝ちで、高田の馬場をババタのタカと云ふのなぞになると、これはもう Sprachdummheit (詞のドチ) ではなくて Sprechdummheit (發音のドチ) になる。——【3】走るは rennen であるが entrinnen と云はずに entrinnen と云ふ。例外的な現象。

15.

Es war aber, als sei mit dem Hund erst¹ das leibhaftige² Unheil in Richwins Haus gezogen. Die vier unartigen Kinder spielten und balgten mit dem Tiere von früh bis spät, und Thassos Geist kam dabei dergestalt³ über⁴ sie, daß man schwer entscheiden möchte,⁵ ob der Hund ärgeren Mutwillen trieb oder die Kinder. Die arme Frau Eva不幸にも妻のエヴァは konnte den Hund nicht leiden その犬が[堪らなく]嫌ひであつた; das nahm Meister Richwin äußerst übel, und hatte⁶ er sie vorher nur durch seine Mälte gekränkt, so schalt und zankte er jetzt obendrein; war Thasso seiner Peitsche entlaufen,⁷ so ließ er den Born an der Frau aus,⁸ und redete diese irgendein unbequemes Wort, so mußte sie gleich ihren Haß gegen den edeln¹⁰ Hund auf dem Butterbrot essen.⁹ Seit der Hund im Hause war, gab¹¹ sie ihren Mann, sich und die Ihrigen¹² völlig dem Verderben geweiht.¹³ Hatte sich der Meister vor herschon wenig¹⁴ um Haus und Beruf bekümmert, so tat er es jetzt noch viel weniger.¹⁴ Er wollte vor allen Dingen seinen Hund dressieren, und dieses wichtigste Werk beschäftigte ihn den ganzen Tag. Da er aber durchaus planlos¹⁵ und launisch¹⁶ dabei verfuhr,¹⁷ heute alle Untugenden nachsah und morgen wieder überhart strafte, so verlor Thasso vielmehr das bisschen¹⁸ Gucht noch¹⁹ vollends,²⁰ welches er mitgebracht²¹ hatte.

譯。 aber 所が[一方] in Richwins Haus リヒギンの家庭へは mit dem Hund その犬と一緒に erst 愈々 das leibhaftige Unheil 厄病神自身が als sei.....gezogen 舞ひ込んだやう es war であつた。 die vier unartigen Kinder 例の四人の腕白な子供等は von früh bis spät 朝から晩まで spielten und balgten mit dem Tiere 犬を玩具[おもちゃ]に遊んだり犬と取つ組合をしたりした。 und.....dabei さうしてゐるうちに の

der Hund ärgeren Mutwillen trieb oder die Kinder 悪戯[いたづら]をするのは犬の方が激しいかそれとも子供等の方が激しいか[逐字譯: 犬が一層酷い悪戯をするかそれとも子供がか] dergestalt.....daß man schwer entscheiden möchte 見當がつかない程 Thassos Geist タツソーの氣質(きだて)が kam.....über sie 彼等[子供等]に乗り移つた。 die arme Frau Eva 不幸にも妻のエヴァは konnte den Hund nicht leiden その犬が[堪らなく]嫌ひであつた; das nahm Meister Richwin äußerst übel これが[また]非常にリヒギン親方の機嫌をそこねた[逐字譯: リヒギン親方はこの事を極度に悪くとつた]、 und そのために vorher 以前は er 彼は sie 妻を hatte.....nur durch seine Mälte gekränkt 單に彼の冷淡さで苦しめてゐただけであつたのが so.....jetzt それが今度は schalt und zankte er.....obendrein 剰へ叱つたりがみがみ罵つたりするやうになつた; Thasso タツソーが war.....seiner Peitsche entlaufen 自分の鞭を逃れると so さうすると er 彼は ließ.....den Born an der Frau aus その怒りの飛ばつ散りを妻君に持つてきた、 und そして diese 後者[妻君]が redete.....irgendein unbequemes Wort 何か不愉快な言葉を口にしようものなら so.....gleich 卽坐に mußte sie.....ihren Haß gegen den edlen Hund auf dem Butterbrot essen その犬に對する憎惡が彼女を逆襲して來るのであつた。 seit der Hund im Hause war その犬が家庭へ入つて來てからといふもの sie 彼女は ihren Mann, sich und die Ihrigen自分の夫も自分も自分の家族も gab.....völlig dem Verderben geweiht完全に滅亡の悲運に陥入つたと断念(あきら)めたのであつた。 der Meister 親方は vorher schon 以前から hatte sich....wenig um Haus und Beruf bekümmert 家業のことには目も呉れなかつたのが so.....jetzt それが今度は tat er es.....noch viel weniger 益々酷くなつた。 er 彼は vor allen Dingen 何を差し措いても wollte.....seinen Hund dressieren 犬を馴らさうと思つた und dieses wichtigste Werk beschäftigte ihn den ganzen Tag 此の掛け換へのない大切な仕事のために彼は一日中暇がなかつた [逐字譯: 此の最も重要な仕事が一日中彼を忙しくした]。 aber ところが er 彼は da.....durchaus planlos und launisch dabei verfuhr 全く行き當りばつたりな氣まぐれな遣り方をしたので heute alle Untugenden nachsah und morgen wieder überhart strafte [即ち]今日はどんな悪辭を發揮してもそれを見逃してゐるかと思ふと明日

は逆に苛酷過ぎる罰を課する[といふ様なやり方だつたので] so そこで Thasso タツソーは vielmehr 反つて welches er mitgebracht hatte 前の家で仕込まれてきた das bißchen Bucht noch vollends 僅かばかりの躰までも根こそぎ verlor 失くしてしまつた。

註。【1】 *erst = erst recht* (いよいよ)— *erst* は元來は「やつと」「初めて」であるが、或種の文脈の中に置かれると「いよいよ」の意になる。今までも散々災厄だらけではあつたが、厄の神御自身が御入來に及んだのは「先づ」此の犬と共にである、「犬を待つて始めて」「犬と共にやつと」と考へればわかる。*erst* は前置的接續詞(第四卷 309—310)で、*erst mit dem Hund* と云つても好い。—【2】 具體化 (*Beranschaulichung*) するための贅語として、*hell*(第五卷)を説明する時に *leibhaftig* の用ひ方を示して置いた。「體を具へた」「抽象的の意味に非ざる」「眼に見える體の」の意で、*das Unheil selbst* 「災厄それ自身が」「厄の神御自身が」である。たとへば、「彼奴は怠惰の権化みたいだ」は *er ist der personifizierte Müßiggang; er ist der leibhaftige Müßiggang, er ist der Müßiggang in Fleisch und Blut, er ist der fleischgewordene Müßiggang, er ist der Müßiggang in Person* などと云ふ もつと甚く云ふと、*er ist kein Müßiggänger, sondern der Müßiggang selbst.* (彼は怠惰そのものだ)

**Er ist der Müßiggang selbst.
(彼は怠惰そのものだ)**

念その者である。—【3】 *bergestalt = so, dermaßen, in solchem Grade* (左様な程度に) 此の *der Gestalt* の *Gestalt* (形、姿、様式) は女性。(第四卷 329 を見よ。)—【4】 或人の氣魄が乗り移ることを *jemandes Geist kommt über einen* と云ふ。über の用法に注意して貰ひたい。或物の總體を支配するやうな結果になる時に用ひるもので、日本語にも、「何々の上に」といふ語法が輸入されてゐる。—【5】 *Komme* と同じ。(第四卷 247, 4)—【6】 倒置が *wenn* (もしも) の意になる事は第二卷 129 に述べたが、その *wenn* にま

対照 [コントラスト] の wenn

た特殊な用法がある。Wenn es hier zu Lande im Winter nicht so kalt ist, so ist es im Sommer auch nicht besonders heiß. (此の國では、冬も左程寒くないが、夏もまた左程特に暑くはない。) 斯ういふ際に *wenn* を「若しも……ならば」と考へてはわからぬ、それは單に二つの事實を對照するための接續詞に過ぎない。—【7】 離格支配。ent. に注意。—【8】 *auslassen* は、何か鬱積してゐたものを「放出」すること。此處の熟語を文字通りに云へば、「彼の憤怒を妻君を相手に

洩らす」即ち當り散らす事。—【9】 何時の頃からか、*essen, trinken* (本當は *ausessen, austrinken*) と云ふ言葉が、自分の屁を拭く、即ち自分から出た事が自分に返つて来て其の惡結果を身に蒙る、と云ふ意に用ひられるやうになつて來た。その實際の用法は時に依つて色々と相違があるが、普通は *Wer sich die Suppe eingebrodt, der muß sie auch verzehren* (ソップの中へパンを割つて入れた者が其のソップを平らげる可きである)とか、*er mußte die Suppe aussessen, die er sich eingebrodt hat* とか云ふ。共に、身から出た錯故致し方がないと云ふ事である。それからまた、同じ意味で、*Bad*(風呂)に関する熟語が多い。*das Bad austragen, aussauen, austrinken, ausgießen, または單に ausbaden* と云ふのがそれである。それらの中でも殊に *ausessen, austrinken* が主として用ひられるやうになつて、*essen, trinken* といへば直ぐに「罰を蒙る」といふ意で通用するやうになり、現在の場所では面白く *auf dem Butterbrot* (ベタパンに載せて) と云つてあるが、これは全然 *willkürliche Erfindung* (勝手な發明) で、パンでなくとも構はない、酒でも珈琲でも好いのである。essen, trinken といふ動詞と極く自然に結びつくものなら何でも宜しい。かう云ふナンセンスを基礎にする云ひ廻しは非常に面白いものだが、初步の人に取つては或ひは有難迷惑かも知れない。—【10】 前の *der stolze Bürger* と同じ語法。—【11】 *geben* に客語的な形容詞(主として過去分詞)が附くと、「云々……と見なして諦めてしまふ」といふ意になる。佛語の *abandonner* (捨棄する、—*donner* は「與へる」) なども影響を與へたらうが、獨逸語にも *preisgeben* (……にさらす、……に任す) といふ字があつて、その字源は *Preis* (賞) を與へて刺客の手に任ねる、と云つた様な意味だが、それと同じ具合に

**etwas ausessen müssen
(報ひを受ける)**

verloren geben (失はれたものと見なしてしまふ) などが出来たものであらう。一方また英語の *to give up* (諦める) と同構同意の *aufgeben* といふのなどもあるので、*geben* に追々さういふ意が生じたのである。(その他 *sich hingeben* 身を任せる、委ねる等) —【12】 *ihrig, a.* (彼女の) から來た複數の名詞。第二卷 196 にあげた規則によつて、人間を意味し、彼女の一家族、彼女の身内の意味になる。—【13】 *dem Verderben weihen*。—*weihen* といふのは、神に犠牲を捧げる時に、殺される可き羊などを清めて神聖化する事である。「破滅に捧げられたものと」は、もはや人力を以ては救はれない、謂はば *vom Schicksal ausserlesen* (運命から選び出されたもの) 即ち白羽の矢が立つたもの、との意。普通は *dem Untergang geweiht* と云ふ。—【14】 *wenig* も *weniger* も準否定詞である。(第四卷 397)

—【15】第四卷 399.—【16】Laune の意は第五卷で詳しく述べた。
—【17】verfahren は元來「手続きを踏む」事で、「處する」「處置する」「遣り口をする」「筋路を取る」「手法を用ひる」「行き方をする」「仕事振りを發揮する」とでも云ふ

verfahren
([斯々の] 方法を取る)

より仕方がない。何か副詞的な規定が附いて始めて完全な意味をなすのである。(sie so und so anstellen または so und so vorgehen とも云ふ) 英語の proceed.—【18】ein bisschen (英語 a bit of) 少々の、申し譯ばかりの。ein が das となつてゐるのは、welches 以下の規定が附くからである。—【19】noch=gar, sogar, erst. (云々さへも、おまけに)—【20】vollends=völlig, gänzlich, ganz und gar.—【21】即ち von seinem ehemaligen Herrn mitgebracht hatte (彼の元の主人の所から携へて持つて來た)。

16.

Fort und fort¹ kamen² Klagen über den Störenfried.³ Der Meister mußte Schaden ersetzen, Schmerzen¹¹ vergüten, gute Worte geben und böse einsteden.⁴ Die Beschädigten⁵ drohten, das Tier zu vergiften oder totzuschlagen, und die Freunde drangen⁶ in den Meister, er möge die zuchtlose Bestie doch⁷ abschaffen oder an die Kette legen. Allein Richwin blieb bei seinem Satz:⁸ er selber wolle den Hund erziehen, er wolle ihn lammfromm machen und dann mit dem edeln, gefürchteten Tiere einherstolzieren wie Ritter Kurt⁹ mit seinem großen Fanghund.¹⁰

譯。Klagen über den Störenfried 此の平和攪亂者[犬]に関する苦情が fort und fort ひつきり無しに kamen 舞ひ込んだ。der Meister 親方は Schaden ersetzen 損害の賠償をしたり Schmerzen vergüten 慰藉料を拂はされたり gute Worte geben und böse einsteden 柔しい言葉を掛けたりやつたり厭な言葉を聞き捨てにしたり mußte せねばならなかつた。die Beschädigten 負傷をさせられた連中は das Tier zu vergiften 犬を毒殺する oder とか totzuschlagen 撲殺するとか言つて drohten

嚇かした、und die Freunde 友人連は友人連で er möge die zuchtlose Bestie doch abschaffen oder an die Kette legen こんな手の附けられない犬を飼ふのは止めとか鎖に繋り附けて置けとかいつて drangen in den Meister 親方に迫つた。allein 併しながら Richwin リヒ温は blieb bei seinem Satz 自己の主張を堅持して動かなかつた: [その主張といふのは] er selber wolle den Hund erziehen 僕は自分の手でこの犬を躾ける積りだ、er 僕は ihn lammfromm machen この犬を小羊のやうにおとなしくし und te dann それから wie Ritter Kurt mit seinem großen Fanghund あの大きな獵犬を連れた騎士クルト殿のやうに mit dem edeln, gefürchteten Tiere 此の素晴らしい猛犬を連れて wolle…… einherstolzieren 騒歩する積りだ[といふのである]。

註。【1】fortwährend ("つきり無しに) unausgesetzt (間断なく) immer wieder (又しても又しても) —【2】liefen ein. (舞込んだ、殺到した) —【3】Siegfried 等 fried に終る固有名詞が多いから、それに似せて造つた字。—【4】einsteden は黙つてポケットへ納める事で、はいはいと云つて神妙に承ること。sich gefallen lassen (甘受する) auf sich sitzen lassen (蒙つた儘泣き寝入になる)と云つても好い。gute Worte geben は trösten [トレーステン] 慰めて柔しい言葉をかけること。つまり柔しい言葉は掛けねばならず、厭な言葉は聞き捨てねばならなかつたの意。—【5】第二卷 196.—【6】in einer dringen (或人に迫る)=einem zureden (或人に荐りに説いて驚かせる) —【7】命令法的な文に doch を用ひる事は第五卷で述べた。mögen を「……するやうに」の意に用ひる事は第三卷 247, 5 及び 210 の 1.—【8】Satz=Besatz (意圖) Entschluß (決心) Willen (意志)=換言すれば was er sich nun einmal in den Kopf gesetzt hat. (とにかく彼がもはや斯うと一人で決め込んでしまつた事) —【9】換言すれば wie zum Beispiel Ritter Kurt (たとへば騎士クルト殿の如くに) Kurt と云ふのは、よくある名前を持つて來ただけで、別にそんな人が居たわけではない。wie Ritter soundso (何の某殿) でも、wie Ritter Hinz und Kunz [Hinz und Kunz は「何某」といふ時に用ひられる] でも、或ひは wie der und der unter den edlen Geschlechtern (貴族中の誰彼の如く) でも好い譯である。—【10】Fanghund=Jagdhund 獵犬。—【11】Schmerzensgeld (慰藉料) などと云つて、Schmerzen はむしろ精神上の損害の方を考へる。

soundso=so und so
(何とかかんとか)

17.

Nun geschah es, daß die Weßlarer¹ Bürger am Aschermittwoch² einen altherkömmlichen seltsamen Aufzug beginnen. Sie zogen nämlich gewaffnet in die geistlichen Höfe,³ vom Hofe der Deutschherren⁴ bis zum Altenberger⁵ Nonnenhof, um bei den Deutschherren ein lebendes weißes Huhn, bei den Nonnen einen Schinken, beim Dechanten⁶ einen Goldgulden⁷ zu empfangen als Zeichen der Stadt-Gerechtsame⁸ in den geistlichen Höfen. Als Hauptstück⁹ glänzte dabei aber allezeit das lebende weiße Huhn, weshalb man den Aschermittwoch in Weßlar noch bei Menschengedenken¹¹ den „Hinkelchestag“¹² nannte. Tadellos weiß, mit bunten Bändern geschnürt, mußte die Henne von einem Knaben dem Zuge voran¹³ durch die Straßen getragen werden.

譯。 nun geschah es, daß さてたまたま die Weßlarer Bürger ヴェツラルの市民が am Aschermittwoch 聖灰節に einen altherkömmlichen seltsamen Aufzug 古來の一風變つた行列を beginnen 催した。 nämlich 詳しく言へば sie 彼等[市民]は als Zeichen der Stadt-Gerechtsame in den geistlichen Höfen 僧侶の館に於ける市民の特權の印(しるし)として bei den Deutschherren ein lebendes weißes Huhn 獨逸僧兵團の[館]では一匹の生きた白色の牝鶏を[受け] bei den Nonnen einen Schinken 尼僧の[館]では一片のハムを[受け] beim Dechanten einen Goldgulden 院主の[館]ではグルデン金貨一個を um…… zu empfangen 受けるために、 gewaffnet 武装をして vom Hofe der Deutschherren bis zum Altenberger Nonnenhof 獨逸僧兵團の館からアルテンベルクの尼僧院に至るまでの zogen…… in die geistlichen Höfe 僧侶の館へ練り歩くのであつた。 dabei aber allezeit ところが何時の場合でも das lebende weiße Huhn 生きた白の牝鶏が als Hauptstück glänzte 壓巻であつた [逐字譯：白眉として輝いて(頭角を現して)ゐた]、 weshalb それ故 man…… in Weßlar ヴェツラルの人々は noch bei Menschengedenken 一昔前まで den Asche-

mittwoch…… den „Hinkelchestag“ nannte 聖灰節を「小雛の日」と呼んでゐた。 die Henne この雌鶏は tadellos weiß 申し分のない白色で mit bunten Bändern geschnürt 派手なリボンの飾りを附け von einem Knaben 一人の少年に dem Zuge voran 行列の先頭に durch die Straße 街上を mußte…… getragen werden 捧げて行かれる習慣になつてゐた。

註。【1】地名に附ける語尾 -er に就ては第四卷 357.——【2】聖灰節とは、春の復活祭 (Ostern) に先立つ祭で、灰をかぶつて懺悔する古代の習慣を眞似て、灰を浮めて之れを信徒の頭上に撒き散らす儀式が行はれる。——【3】

geistlich [僧侶の]

と

geistig [精神的]

【4】 Hof, m. は元來庭の意であるが、日本語でも宮廷とか法廷とか云ふやうに、「館」(やかた) そのものを指す事がある。 Hof (宮廷) Gerichtshof (法廷) Bahnhof (驛) Gasthof (旅館)——【5】 中世紀に、現在の東プロシヤ地方を教化するために組織された Deutscher Orden (獨逸僧兵團) に属する團員の事を Deutschherren と謂ふ。——【6】 註 1 を見よ。——【7】 Domdechant (寺院の院主) の事。——

【8】 Gulden, m. は金貨の名。——【9】 中世紀末に至るまで、歐洲の行政権は、官廳と僧侶とで分つてゐたので、法律上の問題は複雑を極めてゐた。領土にも、諸侯の領土と僧侶の領土とがあつた。またその兩者が複雑な契約の下に並び支配してゐる所もあつた。また僧院や寺などは、謂はゆる治外法権をもつてゐて、たとへば犯人が尼寺へ飛び込んだら土地の官憲はもはや踏み込んで捕へることが出来ないと云つたやうな、實にやかましい事になつてゐた。故に、市の人々は、契約によつて僧侶の館に於ける何等かの特權 (Gerechtsame) を得た以上は、何等かの形式でそれを忘れさせないやうにする必要があつた。何故といふに、中世紀の如き時代にあつては、紙に書いた契約よりは、人々の記憶の裡に生きてゐる契約の方が、いざと云ふ時の役に立つからである。——【10】 Haupt は「頭」だが、合成語の際には「主要な」の意。 Hauptstück は英語に直譯すれば capital piece である。白眉、親玉、中心、主品目。——【11】 Gedenken は Erinnerung (記憶) の意。まだ人の記憶に新たなる限りに於ても、即ち、ほんの一昔前まで、の意。——【12】 Hinkel, m. は雛の意。 -e の語尾は、縮小語尾 den の方言。——【13】 dem Zuge voran の voran (の前に立つて、の先頭を) は後置詞(三格支配)である。

Gerechtsame

特 権

18.

Meister Richwin ging heuer¹ an der Spitze seiner Kunst im Buge und hatte zu Hause den strengsten Befehl gegeben, daß man den Hund wohl eingesperrt halte,² bis der Lärm vorüber sei.³ Thasso aber brach dennoch aus, verfolgte die Spur seines Herrn und sprang mitten in die festlichen Reihen, als der Amtmann⁴ des Deutschordens eben das Huhn dem Knaben übergab. Den schreienden, flügelnden Vogel mit den flatternden Bändern hatte er im Nu⁵ erfaßt, flog darauf los, entriß ihn der Hand⁶ des Kindes und zerrte ihn, daß⁷ die Federn und Bänder in der Luft umherflogen. Der Amtmann, welcher abwehren wollte, wurde kräftigst⁸ in die Waden gebissen, und als es Meister Richwin endlich gelang,⁹ den Hund zu bändigen, flügelte das Huhn noch einmal, und schloß dann seinen Schnabel für immer.¹⁰

Nun hatte man kein lebendes, weißes Huhn mehr! Aber ohne lebendes Huhn keinen Umzug,¹¹ ohne Umzug keine Gerechtsame in den geistlichen Höfen. Die Sache war sehr ernsthaft. An den pünktlich erfüllten Wahrzeichen des Rechtes¹² hing¹³ damals das Recht selber.¹⁴

譯。Meister Richwin リヒン親方は heuer 今年は an der Spitze seiner Kunst 彼の[属してゐる]組合の先頭を im Buge 行列に加つて ging 歩んだ und そして bis der Lärm vorüber sei この[行列]騒ぎが終る迄は daß man den Hund wohl eingesperrt halte 犬を良く繋り付けて置くやうにといふ den strengsten Befehl 厳命を hatte zu Hause... gegeben 言ひ置いて來たのであつた。aber.....dennoch 併しそれにも狗はらず Thasso タツソーは brach.....aus 脱出し verfolgte die Spur seines Herrn 自分の飼主の跡を追(つ)けて行つ und t mitten in die festlichen Reihen 様式の列の眞つ只中へ[即ち] der Amtmann des

Deutschordens 獨逸僧兵團の主事が eben 丁度 dem Knaben 少年に das Huhn 牡鶏を als.....über gab 授けてゐる所へ sprang 飛び込んだ。er 犬は im Nu 驚く間に den schreienden, flügelnden Vogel mit den flatternden Bändern リボンをひらめかしながら啼き叫び羽ばたきしてゐる鳥を hatte.....erfaßt 見つけ flog darauf los それ[鳥]に向つて飛びかかり entriß ihn der Hand des Kindes それ[鳥]を子供の手から奪ひ取つ und t zerrte ihn それ[鳥]を噛みむしめた daß ので die Federn und Bänder 羽毛やリボンが in der Luft umherflogen 空中を飛び廻つた。der Amtmann 主事は welcher abwehren wollte [犬を]追ひ拂はうとしたので wurde kräftigst in die Waden gebissen 甚(ひど)く腓(こむら)を咬まれた、und.....endlich そして遂に Meister Richwin リヒン親方が als es.....gelang, den Hund zu bändigen 犬を制止しきると同時に das Huhn その牡鶏は noch einmal もう一度 flügelte 羽ばたきし und.....dann それから schloß.....seinen Schnabel für immer 永久に嘴を閉ぢた[即ち死んだ]。

Nun hatte man kein lebendes, weißes Huhn mehr! さあ生きた白色の鶏はもうない! aber 併し ohne lebendes Huhn keinen Umzug 生きた鶏がなければ行列もない、 ohne Umzug keine Gerechtsame in den geistlichen Höfen 行列がなければ僧侶の館に於ける特權もない[といふことになる]。die Sache war sehr ernsthaft 實に容易ならぬ事態である。damals 當時にあつては das Recht selber 法そのものが an den pünktlich erfüllten Wahrzeichen des Rechtes hing 法の標識[たる儀式]を一點の粗漏なく果すか否かに懸つてゐたのである。

註。【1】 heuer = dieses Jahr.—【2】 直接法ならば hält の筈だが、halte は第一式接續法である。用法については第三卷 210.—【3】 接續法の文に附いてゐる第二次以下の副文章も、すべて間接話法であるから、接續法の定形を用ひる。—【4】 Amtmann = Vorstehender (主事)—【5】 flügeln = flattern. (羽ばたく) 次に同じ字が「ひらめく」の意に用ひてある。—【6】 Nu は nun (今) が略されたもので、名詞になると「突嗟の間」の意。—【7】 der Hand は三格だが、所謂離格(第四卷 419)になる。それは entreißen (ひつたくる)といふ ent の前綴ある動詞と共に用ひられるから。—【8】 daß = so daß.—【9】 Kräftig (力強く) の最高級であるが、之は所謂絶對最高級であつて、(第三卷 228) aufs kräftigste (第三卷 227)と同じで、am kräftigsten

(最も強く)の形とは意味が違ふ。——【10】 gelingen (成功する) は非人称動詞で、es gelingt mir といふ使ひ方である。(第三卷 263)——【11】 für immer = for ever (佛語の pour toujours) auf ewig とも云ふ。——【12】 keinen Umzug が四格なのは hatte man が繰り返される代りに省かれてあるからである。——【13】 云ひ換れば an der pünktlichen Erfüllung von den Wahrzeichen des Rechts. (法の約象の正確なる實施に) である。これは前に(14 の註 2)述べた所謂 Hypallage である。——【14】 an etwas hängen は、「或物に懸かる」「一に懸つて或物に在り」「或物によつて左右される」意。von etwas abhängig sein とも云ふ。(to depend on)——【15】 つまり外形的な儀式によつて法の象徴を表現することを怠れば、法、即ち特權そのものも亦從つて消滅するといふわけである。

für immer; auf ewig.
永遠に

【13】 云ひ換れば an der pünktlichen Erfüllung von den Wahrzeichen des Rechts. (法の約象の正確なる實施に) である。

これは前に(14 の註 2)述べた所謂 Hypallage である。——【14】 an etwas hängen は、「或物に懸かる」「一に懸つて或物に在り」「或物によつて左右される」意。von etwas abhängig sein とも云ふ。(to depend on)——【15】 つまり外形的な儀式によつて法の象徴を表現することを怠れば、法、即ち特權そのものも亦從つて消滅するといふわけである。

19.

Mit tausend Bitten und Beschwörungen erreichte endlich Meister Richwin, daß man den ganzen Vorgang² als ungeschehen ansehen³ wolle, wenn er binnen⁴ zwei Stunden ein anderes tabelllos⁵ weißes, lebendes Huhn zur Stelle schaffe.⁶ Die feierliche Übergabe sollte dann von neuem⁷ beginnen, doch mit der bestimmten Rechtsverwahrung,⁸ daß man nicht etwa⁹ in Zukunft den Deutschherren die Last aufbürde,¹⁰ zwei Hühner zu liefern, ein totes und ein lebendes.¹¹ Auch sollte Gerhard Richwin diesmal dem Amtmann zehn Ellen des feinsten flandrischen Tuches schenken als Schadenerfaß und Schmerzensgeld.¹²

譯。mit tausend Bitten und Beschwörungen 散々泣きついた末に endlich とうとう Meister Richwin リヒギン親方は wenn 若しも er 彼が binnen zwei Stunden 二時間以内に ein anderes tabelllos 白色の生きた鶏を zur Stelle schaffe 現場に届ける[ならば] den ganzen Vorgang この出来事はそつくりそのまま daß man.....als ungeschehen ansehen wolle 水に流してもよいといふ

[所まで] erreichte 滑ぎつけた。 dann それから [別な鶏が届けられたら] die feierliche Übergabe その莊嚴な授受[の式]が von neuem 改めて sollte.....beginnen やり直されることになった、 doch 但し [それに] in Zukunft 将來 den Deutschherren 獨逸僧兵團に zwei Hühner 二羽の鶏 [即ち] ein totes und ein lebendes 死んだ一羽と生きた一羽を die Last.....zu liefern 渡す責任を daß man nicht etwa.....aufbürde 夢々負はせないやうにといふ mit der bestimmten Rechtsverwahrung 断乎たる保留條件附きで [ある]。 auch.....diesmal 今度も亦 Gerhard Richwin ゲールハルト・リヒギンは dem Amtmann その主事に als Schadenerfaß und Schmerzensgeld 損害賠償兼慰藉料として zehn Ellen des feinsten flandrischen Tuches 最上フランドルン織十ヤードを sollteschenken 贈ることになった。

註。【1】 tausend (千) は「數知れぬ」の意に用ひられる。つまり、頼みに頼んだ場句、散々泣きついた末に。——【2】 Vorgang (出来事) は vor sich gehen (行はれる、取り行はれる、出来する) に対する名詞。 das Ereignis, das Geschehnis, die Geschichteともいふ。——【3】 als.....ansehen (.....と見なす) ——【4】 binnen は三格支配の前置詞。 innerhalb (二格支配) と同意。 in zwei Stunden とは此の場合云へない。in を使ふと「二時間後」の意になるからで

「.....後」を意味する in ある。たとへば er kommt erst in zwei Stunden an. (彼は二時間後に於てやつと到着する、即ち二時間経たないとやつて来ない)。——【5】 Tabel, m. (非難) と -los [英語=less] との合成詞。——【6】 schaffen = holen, bringen, zur Stelle schaffen = herbeischaffen. 即ち現場へ届ける。——【7】 von neuem (改めて) は熟語。——【8】 verwahren は保留する、條件をつけること。——【9】 etwa は「たとへば」の意。たとへばの意には普通は z. B. [=zum Beispiel] を用ひるが。

「ひよつと.....なぞ」の意の時には決して z. B. を用ひないで、必ず etwa を用ひる。 wenn du etwa kommen solltest.....(ひよつとお前が来るやうなこと「でも」あつた際に)。——【10】 負擔を背負はせる、即ち die Deutschherren verpflichtete と云ふに同じ。 einen verpflichten は、或人を義務づける。——【11】 かう云ふ事が中世紀らしくて笑はせるのである。偶然なことが習慣や禮式を作つた例は澤山ある。たとへば英國のガーター勳章(Order of the Garter) の由來なぞがそれである。エドワード三世が貴婦人達と踊つてゐた

Garter 勳章の由來

時に、一人の婦人がだらしなくも靴下留め(garter)を落としたので、並み居る婦人たちは思はず顔を外向け、男たちは厭らしい顔をしてにやにや笑つた。すると王は、その靴下留めを拾ひ、婦人の足下に跪いて、手づからそれを左の脚にはめてやり、honny soit qui mal y pense (咎むる者に恥あれ)と云つた。仲々エロを解した王者だつたと見える。それどころか、それから靴下留めを綻にした「靴下どめ勳章」(Order of the Garter)といふのを造つた。數年前英國の皇子が此の勳章を聖上に捧呈に來られた時にも、皇子が陛下の足下に跪かれて、陛下の左足に綻を附けられたのである。——獨逸僧兵團の主事が恐れたのはこの點で、犬が鶏を捕つたのは失敗だが、その失敗を轉じて儀式にでもされた日には入費が倍になるから、特に保留條件をつける必要を感じたのであらう。——【12】涙金、示談金、即ち現今の所謂慰藉料である。

20.

Bon Zorn, Ärger und Angst gegeifelt lief der Meister in alle Hühnerhöfe der Stadt, fand aber kein tadellos weißes Huhn. Endlich, fast in der letzten vorgestelten¹ Minute, kam er schwitztriefend auf den Deutschordens-Hof mit einer mageren alten Henne, die ursprünglich weiß und etwas grau gesprengelt² gewesen; durch das Ausrupfen etlicher Hände voll³ Federn aber hatte er sie in ein tadellos weißes Huhn verwandelt. Man ließ das neue Rechtssymbol gelten,⁴ und so tamen denn⁵ noch⁶ alle Beteiligten,⁷ wie man zu sagen pflegt, glücklich mit einem blauen⁸ Auge davon, die erwürgte erste Henne natürlich ausgenommen.⁹

Die Bestrafung Thassos am Abende war mustergültig.¹⁰

Meister Richtwin aber gelobte sich heilig,¹¹ von Stund' an¹² den Hund nach einer ganz neuen, planvollen und gründlichen Weise zu erziehen. Um¹³ aller Welt Güter hätte er das Tier gerade¹⁴ jetzt nicht abgeschafft;¹⁵ er wollte recht behalten¹⁶ und den Weßlarern zeigen, daß er trotz des letzten Auftrittes¹⁷ dennoch den unhandigen Halbwolf lammstomm machen könne.

Er brütete¹⁸ — zum erstenmal in seinem Leben — die ganze schlaflose Nacht über Erziehungsplänen.

譯。 von Zorn, Ärger und Angst gegeifelt 立腹、憤怒及び不安に鞭うたれながら der Meister 親方は lief.....in alle Hühnerhöfe der Stadt 市の凡ゆる養鶏園へ駆け込んだ aber併し fand.....kein tadellos weißes Huhn 申し分のない白色の鶏は一匹も見付からなかつた。 endlich 遂に fast in der letzten vorgestelten Minute 準定の時間も切れさうな頃に er 彼は schwitztriefend 汗みどろになつて mit einer mageren alten Henne 一羽の痩せた老雌鶏を抱へて kam..... auf den Deutschordens-Hof 獨逸僧兵團の館へやつて來た。 die それ[その雌鶏]は ursprünglich 元來は weiß und etwas grau gesprengelt gewesen 白色に少しだけ班點があつた aber のだが er 彼は durch das Ausrupfen etlicher Hände voll Federn その[灰色の]毛を二掴みか三掴みむしり取つて sie それ[その雌鶏]を hatte.....in ein tadellos weißes Huhn verwandelt 申し分のない白色の鶏に變へて置いたのであつた。 man ließ das neue Rechtssymbol gelten その新しい法の象徴は是認された。 und so.....denn さういふ譯でまづ alle Beteiligten 参加者一同は noch 蘋たい所で wie man zu sagen pflegt 世間の人の言草ではないが kamen.....glücklich mit einem blauen Auge davon 幸ひにも大禍なしに済んだ。 natürlich 勿論 die erwürgte erste Henne.....ausgenommen 咬み殺された最初の雌鶏は別だが。

die Bestrafung Thassos am Abend その晩のタソーの懲罰は war mustergültig 申し分のないものであつた。

aber 併し Meister Richtwin リヒギン親方は von Stund' an 爾今 den Hund その犬を nach einer ganz neuen, planvollen und gründlichen Weise 今迄とは打つて變つた系統的な且つ根本的な方法に従つて zu erziehen 訓育しようと gelobte sich heilig 固く心に誓つた。 er 彼は um aller Welt Güter どんな犠牲を拂つても gerade jetzt [ほかの時ならともかく] 丁度今こそ das Tier その犬を hätte..... nicht abgeschafft 手放す[氣にはなれ]なかつたらう。 er 彼は recht behalten どこまでも兜を脱がずして den Weßlarern ヴェッツラル市民に er 彼が trotz des letzten Auftrittes 先の出来事があつたにも拘はらず dennoch 尚

且つ den unbändigen Halbwolf かの手のつけ様のない狼そのままの大を daß....lammfrohm machen könne 小羊のやうに温と（おとな）しくすることが出来るといふことを wollte....zeigen 見せてやり度かつた [からである]。er 彼は — zum erstenmal in seinem Leben 生れて初めて — die ganze schlaflose Nacht 一晩中まんじりともしないで brüteteüber Erziehungsplänen あれやこれやと訓育案を立てて見た。

註。【1】 steden は元來「差し込む」事である。競走をする時などに、まづ目標となる棒状などを或る距りの個所に土地に差し込む。これが ein Ziel (目標を) steden である。vorsteden は、従つて「豫定する」ことを云ふ。——【2】 gespenkelt は元來「撒かれた」(bestreut) の意。grau gespenkelt は「灰色の毛の斑點のある」。——【3】 Hände voll は eine Handvoll (一握り) の複數。——【4】 gesten lassen (通用せしめる) は anerkennen (承認する、通過させる)。——【5】 denn は dann の弱い形。so....denn (さういふ譯でまづ) は熟語。——【6】 noch に「危なく」「やつとの事で」「際どい所で」の意がある事は既に一度述べた。wir haben ihn noch auf dem Bahnhof eingeholt (我々はプラットフォームでやつと危なく彼に追ひすがつた。) Das hat er mir noch im letzten Augenblick gesagt.

noch im letzten Augenblick
最後の際 とい瞬間に

(其の事を彼は私に最後の際 とい瞬間に云つた) —【7】 sich an etwas beteiligen (或事に参加する) から來た名詞。——【8】 喧嘩なぞした時に、幸ひ腕も挫かず足も折らず、高々眼の縁を青く張らした位ですむことを云つたものだが、それから一寸轉じて、「思つたより軽かつた」又は「案じるより産む方が安かつた」時に mit einem blauen Auge davonkommen (...青い眼だけでその場を逃れる) と云ふ。——【9】 ausgenommen (.....だけは別として) は、四格支配の後置詞と云つてもよろしい。反対 (Antonym) はmit eingerechnet,mit eingeschlossen (.....をも共に算へて、.....をも共に込めて) —【10】 換言すれば konnte wohl als Muster gelten (恐らく模範として通用することが出來たらう)。——【11】 普通は hoch und heilig geloben といふ。即ち bei allem, was heilig ist, geloben (凡そ神聖なるすべてのものに懸けて誓ふ) の意である。hoch (高き) なるものにも懸けて誓ふ習慣があつた。(bei den ewigen Sternen 永久の星にかけて bei Sonn' und Mond 日月にかけて) さう云ふ時には天を仰いで三本の指を以て星辰を指しながら誓ふのが例である。——【12】 von.....an の an は追加詞である。(第三卷 240) von Stund' an = von nun an, fürderhin. (只今限り、今後、

誓言の形式

兩今) —【13】 um (.....に換へても) は Güter の前置詞であつて aller Welt の前置詞ではない。即ち um die Güter aller Welt 又は um alle Güter der Welt。——【14】 gerade jetzt 丁度今は、即ち、今こそは、今に限つて。——【15】 abschaffen = wegshaffen, von sich tun. (餘所へやる、片づける、呉れてしまふ、棄てる、手ばなす。) schaffen は「創造する」の意の時は三要形 (第二卷 105) は schaffen, schuf, geschaffen だが、bringen (もたらす) 意の時は規則的。——【16】 recht behalten. たとへば英語で「あなたの仰言る事は尤もです」を You are right といふ。獨乙語では Sie haben recht と云ふ。ところが、或人の意見が「結局」正しかつたと解つた際には er hat recht gehabt (彼が尤もだつた) もしくは er behält recht (道理は結局彼の側にある) と云ふ。recht behalten はつまり recht gehabt haben (結局自分が正しかつた事になる事、又は「勝つ」事) である。——負けた事になるのが毛蟲よりも嫌ひな人間があるが、さういふ人は rechthaberisch だと云ふ。——【17】 Auftritt は演劇用語で、Gzene 即ち場面、景、劇の事だが、轉じて夫婦喧嘩や、人だかり等の「一騒ぎ」を指す。つまり劇的光景、一場の椿事、ごたごたである。——【18】 brüten は元來雌鶏が卵をかへす事、轉じてむつつりと一つ事を抱いて [über と三格] 考へ込むことに云ふ。

recht haben
と
recht behalten

21.

Am andern Morgen stand Meister Richwin mit dem ersten Dämmerlichte auf, wie¹ er's vordem gar nicht gepflegt hatte, denn er war ein Langschläfer. Er wollte aber Thasso stufenweise² an einen ruhigen Gang durch die Straßen gewöhnen, noch ehe sie von Menschen und Pferden wimmelten.³ Den Hund am Stride⁴ durchzog⁵ er die ganze Stadt. Sowie das Tier auf einen Reiter oder Fußgänger spannte,⁶ fachte⁷ es auch augenblicks seinen⁸ richtigen⁹ Peitschenhieb. Vorher hatte Thasso bei seinen Missertaten zwar immer sichtbar Reue empfunden, zur Buße¹⁰ dagegen durchaus keine Lust gezeigt.¹¹ Jetzt kam Reue, Buße und Sühnung, alles mit einem Male.¹² Richwin fand diese Frühstunde wie gemacht¹³ zu unbelauschter¹⁴

Dressur. Mit den wachsenden¹⁵ Februar- und Märztagen stand er daher immer früher auf und war stets schon vor der Sonne mit Thasso auf den Beinen.¹⁶

譯。am andern Morgen その翌朝 Meister Richwin リヒギン親方は mit dem ersten Dämmerlichte 東雲(しののめ)と共に stand.....auf 起き上つた。er 彼は vordem 以前には wie.....'s gar nicht gepflegt hatte 全然かういふ[早起きするといふ]習慣がなかつたのである。denn 何故かといふに er 彼は ein Langschläfer 朝寝坊で war あつたから。aber 所が[今度は] er 彼は noch 未だ sie 彼等[街路]が ehe.....von Menschen und Pferden wimmelten 人や馬で賑はぬうちに Thasso タッソーを[散歩に連れ出して] stufenweise 一步一步 wollte.....an einen ruhigen Gang durch die Straßen gewöhnen 落着いて街路を通ることに慣らさうと思つた[のである]。den Hund am Stride 犬の索を曳きながら er 彼は durchzog.....die ganze Stadt 市中を[隈なく]めぐり歩いた。das Tier 犬が sowie.....auf einen Reiter oder Fußgänger spannte 馬に乗つた人とか徒步者に凝つと目をつけ[始め]るや否や es それ[犬]は auf 同時に augenblicks 間髪を入れずに fasste.....seinen richtigen Beitschenhieb こつひどい鞭打を頂戴するのであつた。vorher 以前には Thasso タッソーは bei seinen Missstatten 惡行をした時には immer 何時も zwar なるほど sichtbar ありありと hatte.....Neue empfunden 後悔は感じてゐた dagegen [が併し] 之に反して hatte.....jut Buße.....durchaus keine Lust gezeigt 悔悟したい氣持は毫末も示さなかつた。jetzt 所が今度は Neue, Buße und Sühnung 後悔も悔悟も贖罪も alles mit einem Male 何もかも一時に kam やつて來た。Richwin リヒギンは diese Frühstunde 此の早朝を zu unbelauschter Dressur 人に觸れずに馴らすには fand.....wie gemacht もつて來いであると考へた。daher それ故 er 彼は mit den wachsenden Februar- und Märztagen 二月三月と日がたつにつれて stand.....immer früher auf 益々早く起きるやうになつた und そして stets 何時も mit Thasso タッソーと一緒に schon vor der Sonne 早くも日の出前に war.....auf den Beinen 寝床を出てゐるのであつた。

註。【1】 wie (如く) は、日本語では變になるから、wie の代りに「文意を受ける was」(第二卷 171) があるかの如くに譯する。wie とその次の es とで一種の關係代名詞を造る事は第二卷 173 で述べた通りで、ただ其の關係代名詞が前の文の中の一つの單語を受けないで、文意全體を受けるだけの相違である。—【2】 schrittweise 一步一步と nach und nach おひおひ allmählich 漸次。—【3】 von etwas wimmeln 或物で一杯である(但しその或物が無數に、うようよと蠢めいて密集してゐる時に用ひる。)—【4】此の den Hund am Stride といふ句は、その次に haltenb もしくは gehalten (第四卷 371「分詞を基礎とする述語的副詞句」の第三文例を見よ) を補つてみればわかる。—【5】 durch は分離する時と非分離の時とがある。第二卷 146 の durch に関する説明を見よ。—【6】 auf etwas spannen は den Bogen (弓を) auf etwas (或物に向つて) spannen (張る) で、轉じて「或物を覗ふ、狙ふ」の意になる。斯う云ふ風に、元來他動詞なるものを四格を省いて用ひるのを、

他動詞の絶対用法

他動詞の絶対用法、または獨立用法といふ。たとへば英語の drive するといふのは、「馬を」「自働車を」を省いたものであり、trinken (飲酒する) 等も最も普通な例である。—【7】 fassen は元來は「擗む」の意であるが、轉じて兵隊や労働者が給料を「受領する」ことを云ふ。面白いのは、佛蘭西語では toucher (觸れる) と上品に言ひ廻すが、獨逸語は少し下品(verb) で、「擗む」といふのである。日本語は「入手する」「頂戴つかまつる」「おさめる」「受け取る」「頂く」等。此處では bekommen, erhalten, (俗語では kriegen) と同意で、ただ一寸言葉の面白味が伴ふだけである。—【8】 第四卷 417。—【9】 richtig [正しき] は此處では轉意して gehörig (相當の) gebührend (適當の) 即ち露骨に云へば ordentlich (かなりの) tüchtig (手應へる) gewichtig (充分の)、面白く云へば ehrlich (馬鹿にならない、申し分なき、不足なき) である。九州人や軍人なぞが「ははあ、適當にやつちよるな」といふのも此の類で、實は「大いにやつちよる」と云ふ意味である。斯くの如く、控へ目に云ひながら反つて全幅、満量を指すのを Litotes といふ。(前出) —【10】 (下に出づ) —【11】 つまり、「しまつた!」とは思ふが「悪かつた」とは思はなかつた。(下を見よ。)—【12】 此處では Neue (後悔、悔恨) と Buße (改心、悔悟) と Sühnung (贖罪) とが區別してある。Neue は失敗に對する内憤であり、Buße は悟り、諦め、屈服であり、Sühnung は我身に復つてくる運命の應酬である。—【13】 gemacht は eigens dazu gemacht (わざわざ其のために持へた) bestellt (持へた) — wie gemacht = 持つて來い、お詫へ向き、好適、höchst geeignet 非常に適當な。—【14】 belauschen は立ち聞きする、益見する。たとへば einen unbelauschten Augenblick erspähen 人

無き頃を見計ふ Da bin ich gerade unbelauscht und allein. 幸ひあたりに人もなし。—【15】 wachsen (増す、育つ) は「進歩する」「進む」意に用ひる。 Das Bauwerk wächst (建築が歩る) der Frühling wächst (春まさに耐ならんとする) mit dem wachsenden Alter (寄る年波に)—【16】 auf den Beinen sein (脚の上にある。即ち起つてゐる、活動してゐる、立ち働く。) auf dem Rücken liegen (仰臥する) auf dem Bauch liegen (腹を下にして伏す) auf dem Kopf stehen (逆立ちする) はすべて同じやうな空間關係である。

22.

Ging er¹ an einer offenen Kirchentür vorbei, so zog er den Strich besonders fest und ließ einen mahnenden Streich auf Thassos Rücken fallen. Denn der Hund hatte bis dahin eine besondere Lust, in die offenen Kirchen zu laufen und die Gemeinde² anzubellen,³ und je lauter ihn sein Herr zurückrief, um so toller schlug⁴ er Lärm. Das verlernte⁵ er jetzt gänzlich. Wenn nun Meister Richtwin so vor die offene Türe kam und hörte, wie innen die Frühmesse⁶ gelesen⁷ wurde, so blieb er wohl auch⁸ eine Weile andächtig⁹ im Portale stehen — denn wegen des Hundes wagte er sich¹⁰ nicht hinein¹⁰ — und nahm sich ein Stück Morgensegen mit.¹¹ Bis dahin war er ein seltener Guest im Gotteshause gewesen; bald aber glaubte er nun, der Tag sei gar nicht recht¹² begonnen ohne die Frühmesse unter der Kirchentür,¹³ auch gehe der Hund nachher immer viel ruhiger.¹⁴

譯。[若しも] er 彼が an einer offenen Kirchentür 開いた教會の前を ging.....vorbei 通ると so さうすると er 彼は den Strich 素を besonders fest 特に強く zog 引き寄せ und て auf Thassos Rücken タンゴの背に einen mahnenden Streich 警告の一撃を ließ.....fallen 下すのであつた。 denn 何故かといふに der Hund 犬は bis dahin その時までは in die offenen Kirchen zu laufen [扉の]開いた教會の中へ駆け込ん und て die Gemeinde anzubellen 善男善女に吠え附かうといふ

hatte.....eine besondere Lust 一種の特別な慾望を持つてゐたからである、 und そして je lauter ihn sein Herr zurückrief 飼主が大声で呼び戻せば呼び戻す程 er 彼[犬]は um so toller 益々夢中になつて schlug.....Lärm 吠え立てるのであつた。 jetzt [所が] 目下の所 er 彼[犬]は das この[習慣を] gänzlich 全然 verlernte 失くしたのであつた。 nun.....so 扱てかういふ譯で wennもしも Meister Richtwin リヒギン親方が vor die offene Türe kam [教會の]開いた扉の前へやつて來 und て innen 中で wie.....die Frühmesse gelesen wurde 朝禱の聲がするのを hörte 聞くと、 so さうすると er 彼は wohl auch よく、 eine Weile 暫しの間 blieb.....andächtig im Portale stehen 正面玄關に立ち止つて黙禱し—— denn 何故かといふに wegen des Hundes 犬を連れてゐるので er 彼は wagte.....sich nicht hinein 中へ入ることを憚かつたのである — und 以て nahm sich ein Stück Morgensegen mit 序にちよんびり朝の祈禱を済まして行くのであつた。 bis dahin その頃までは er 彼は war.....ein seltener Guest im Gotteshause gewesen 減多に會堂に顔を出したことがなかつた。 aber.....nun 所が今度は bald 日ならずして er 彼は ohne die Frühmesse unter der Kirchentür 教會の玄關先で朝の祈禱を聞かないと der Tag sei gar nicht recht begonnen 一向に新しい日を迎へたやうな [気がしない]。 auch.....der Hund 犬までが nachher [朝の祈禱を聞いた]後では gehe.....immer viel ruhiger 追々遙かに落ち着きを増してくると glaubte考へ[るやうになつ]た。

註。【1】 ging. er が「もしも」の意になる事は第二卷 129.—【2】 Gemeinde, f. (教會に集つた信者一同) は Stolffe (クラス) Gesellschaft (一行) das Personal (人員) die Mannschaft (乗組員、隊員、全員) 等と同様、所謂集合名詞 (Stollettiva) であるから、單數でありながら多くの人間を意味する。但し定形動詞は、それを主語にする時には、別に複數形を探らない。—【3】 an. を探ると、他動詞になつて、ある物に「向つて」「対て」行はれる動作を表はす。 bellen (吠える) einen anbellen (或人に向つて吠え掛かる) reden (語る) einen anreden (或人に話し掛ける) spucken (啖を吐く) einen anspucken (或人の顔に啖を吐き掛ける)。—【4】 (どなり立てる、わめき立てる) は熟語。(第三卷 244 の注意を見よ)。—【5】

「.....し掛ける」の an-

人に向つて吠え掛かる) reden (語る) einen anreden (或人に話し掛ける) spucken (啖を吐く) einen anspucken (或人の顔に啖を吐き掛ける)。—【4】 (どなり立てる、わめき立てる) は熟語。(第三卷 244 の注意を見よ)。—【5】

verlernen は一寸日本語には無い字で、「すつかり……する氣がなくなる」「とんと……したくなくなる」「突如として……の慾望が止む」ことである。たとへば Wenn man aber selber daran ist, so verlernt man bald das Lachen [ob, so vergeht einem das Lachen] (然しそれ自分がそんな羽目になつて見ろ、笑ひ事どころの騒ぎちやないから)。— verlernen の反対とも云ふ可きのは lernen (……することを覚える、……する氣になる、……味を覚える)である。Erst in der Fremde lernt man seine eigene Heimat schäzen (異郷の空を見るに及んで初めて故里の有難さがわかつて来る)。—【6】一名を Mette, f.ともいふ。朝の彌撒、勤行、讀經。—【7】文字通り読み上げるのである。そのために Messbuch (彌撒書) なるものが制定されてゐる。中世紀以後、新教が勃興するに及んでは、Messbuch は、謂はば舊教の象徴の如く用ひられて、Messbuch oder Bibel (彌撒書か聖書か、即ち加特力かプロテスタントか)といふ文句がよく使はれる。—【8】wohl auch は、「よく……するのであつた」といふ習慣性を現はす助詞。—【9】Unbedacht, f. (黙禱) から來た形容詞。—【10】sie hineinwagen に就ては第四卷 430 「擬動語法」の項を見よ。—【11】ein Stück Morgensegen (ほんのちょつぱりの朝の祝福) を得て去ると云ふのは、信仰問題に關する中世紀式な考へ方を多少の Humor を以て表現したので、祝福 (Segen) にも量の觀念が適合すると考へるのが、これが俗間宗教の特徴である。—【12】gar nicht recht begonnen. Gar nicht は「どうも一向……」「とんと……」「てんで……」の意。Der Staffee will mir heute gar nicht schmecken (今日はどうも珈琲が一向うまくない) Er will's gar nicht mit mir zu tun haben (あいつは己にてんで相手にして呉れない) もつと俗には gar nicht erst とも言ふ。Du brauchst ja gar nicht erst zu sterben. (君は死ぬ必要なんか一向ないぢやないか)。—recht は「本當に」「本式に」「充分に」「しつかりと」「まともに」—【13】前出の Portal (寺門) に対する本當の獨乙語。—【14】寺門で朝の祈禱を聞かないとどうも本當に新しい日を迎へたやうな氣がしない、それに犬までその感化を蒙つて氣持が落ちつくと云ふ、これがその所謂負うた子に教へられて淺顯を渡ると云ふ奴で、人間が犬を教育してゐる氣で、實は犬が人間を教育すると云ふのが此の物語の骨子である。

23.

Als der Meister zum erstenmale von dem Morgengang nach Hause kam, schien ihm der Tag doch sehr lang, der

verlernen
忘れる

Wenn man aber selber daran ist, so verlernt man bald das Lachen [ob, so vergeht einem das Lachen] (然しそれ自分がそんな羽目になつて見ろ、笑ひ事どころの騒ぎちやないから)。— verlernen の反対とも云ふ可きのは

ihm früher, als er noch lange schlief, so kurz gebedacht¹ hatte. Zum Zeitvertreib² ging er darum mit Thasso in die Werkstatt, wo zur Stunde schon fleißig gearbeitet werden³ mußte. Es sah aber noch gar⁴ still aus, denn Gesellen und Lehrlinge verließen sich auf⁵ den gesunden Schlaf des Meisters und kamen so spät es ihnen beliebte.⁶ Wie staunte und wetterte der Meister über den Unfug, und wie ärgerten sich⁷ die Gesellen, als er Tag für Tag immer⁸ früher in die Werkstatt trat! Die Reiter und Spaziergänger schworen dem unheimlichen Thasso nicht mehr den Tod, aber die Gesellen hätten⁹ den gebändigten Thasso jetzt gerne vergiftet,¹⁰ denn sie merkten wohl, daß er allein schuld sei an den frühen Besuchen des Meisters.

Aber Rüdwim hielt den Hund Tag und Nacht bei¹¹ sich nach dem ganz richtigen¹² Grundsätze, daß man ein Tier nur dann¹³ gut erziehen und treu gewöhnen kann, wenn¹⁴ man stets mit ihm zusammen lebt.

譯。der Meister 親方が zum erstenmale 始めて von dem Morgengang この朝の散歩から als……nach Hause kam 歸宅した時には、früher, als er noch lange schlief 以前彼が未だ朝寝坊をしてゐた時分には der Tag ……, der ihm……so kurz gebedacht hatte 彼には非常に短かいと思はれてゐた一日といふ物が[今度は] doch sehr lang 矢張り非常に長く思はれて來た。darum そこで er 彼は zur Stunde schon その頃はもう fleißig せつせと wo……gearbeitet werden mußte [職人達が] 働いてゐる筈の in die Werkstatt 仕事場へ zum Zeitvertreib 暫憩しに mit Thasso タッソを連れて ging 出掛け行つた。aber 所が[仕事場は] noch 未だ es sah……gar still aus しんと静まりかへつて物音一つしてゐなかつた[逐字譯：全くひつそりかんとした様子であつた]、denn その譯は Gesellen und Lehrlinge 職人や徒弟は verließen sich auf den gesunden Schlaf des Meisters 親方の熟睡を當て込ん und kamen so

spät es ihnen beliebte いくらでも遅く [仕事場へ] やつて來たからである。über den Unzug このだらしなさを見て der Meister 親方は wie どんなに staunte 驚き und 且つ wetterte 罷つたことであらう、und 一方 die Gesellen 職人達は er 彼が Tag für Tag 日は一日と immer früher 時間を早めて als.....in die Werkstatt trat 仕事場へ姿を現はすのを見て wie ärgerten sich どんなに腹を立てたことであらう! die Reiter und Spaziergänger 馬に乗つた人や散歩をする人達は schworen dem unbändigen Thasso nicht mehr den Tod 最早この始末の悪いタッソーを殺してやるなぞと怒鳴り立てなくなつた [逐字譯: その手に負へないタッソーに最早死を誓はなかつた], aber.....jetzt 併し今度は die Gesellen 職人達が den gebändigten Thasso その手に負へるやうになつた [即ちおとなしくなつた] タッソーを hätten.....gerne vergiftet 毒殺もし兼ねまじい勢になつた、denn 何故かといふに sie 彼等は an den frühen Besuchen des Meisters 親方が朝早く [仕事場へ] やつて來るのは daß er allein schuld sei 獨り彼[タッソー]が悪いからであると merkten wohl 覚つたからである。

aber 併し Rüdwyn リヒギンは nur dann....., wenn man stets mit ihm zusammen lebt 吾々が常に彼[動物]と一緒に生活して始めて man 吾々は ein Tier 一の動物を daß.....gut erziehen und treu gewöhnen kann 善良に訓育し且つ忠實な習性を附與することが出来る [凡そ家畜を善良に育て上げ忠實な習慣をつけるにはその家畜と常に共同生活をしなくてはならない]といふ nach dem ganz richtigen Grundsatz 尤も至極な信條を遵奉して Tag und Nacht 曇も夜も [片時も] den Hund その犬を hält.....bei sich 手許から離さなかつた。

註. 【1】 dünnen (思はれる) の三要形は

dünken, dünkte, gedünkt

であるが、その他には

dünken, deuchte, gedeucht

といふ形も用ひられる。また、現在の人稱變化に於て (非人稱動詞) es dünkt mir (私には.....と思はれる)といふ代りに es deucht mir と云つてもよろしい。—此の deucht の如き eu を含む別形は、古いドイツ語から來て

ゐるので、ちよいちよい詩文なぞで用ひられるものには、次のやうなのがある

新 形	古 形
er fliegt 彼が飛ぶ	er fleugt
er friecht 彼が匐ふ	er freucht
er bietet 彼が提出する	er beut

—【2】 die Zeit vertreiben (時を追拂ふ、即ち、時間を過す、氣を紛らす、氣晴しをする)といふ文句が名詞になつて Zeitvertreib (氣晴し、面白半分)が出來たのである。—【3】 es mußte schon gearbeitet werden=man mußte schon arbeiten. 此の受動形の用法に就ては第二卷 117.—【4】 gar=ganz.—【5】 sich auf etwas verlassen (或事に信頼する、或事に頼る、或事を「好いこと」にする。—【6】 es beliebt mir (それが私に氣に入る、即ち、私が欲する)=es gefällt mir.—故に so spät es ihnen beliebte=so spät wie es ihnen beliebte または so spät wie sie wollten (彼等が欲しただけ晩く、即ち、いくらでも晩く、.....十一時にも十二時にも) es beliebt mir, es gefällt mir 等については第三卷 268.—【7】 sich ärgern 口惜しがる、憤慨する。(再歸動詞に就ては第二卷 154.)—【8】 此の immer に就ては第三卷 225. immer früher は「何時も、より早く」ではなく、「ますます早く」である。—【9】 hätten vergiftet (毒殺したであらう、即ち毒殺もし兼ねまじき量見であつた)は、第三卷 212 に述べた約束法といふやつで、「もしも出来ることなら.....」といふ前半部を省いたから、結論部の「毒殺したであらう」だけで上記のやうな意譯になるのである。—【10】 bei sich halten 己れの許に保つ、即ち自分の身邊から離さない、傍を離れない、片時も手離さない。—【11】 Grundsatz, m. は英語の principle. 即ち、主義、方針、信條、das Prinzip とも謂ふ。たとへば濱口内閣の Grundsatz (一點張り) は Einschränfung (緊縮) と Sanierung (財界廓清) であつた。—【12】 nur dann (然る時に於てのみ、即ち、然る時に於て初めて) は wenn と合して初めて一つの意味をなす。

主人公犬によつて第二の教訓を受けた。「弱」將の下に強卒なし。親方が朝寝をしてゐたから店員共がすばらをきめ込んでゐたのだ。此の犬仲々偶に置けぬ。

24.

Dieses Zusammenleben¹ hatte im Verkaufsgewölbe² freilich einen³ besonderen Haken.⁴ Trat nämlich ein Käufer ein, so

fuhr Thasso bellend unter⁵ der Bank hervor; wollte aber jemand den gekauften Pack⁶ Waren mitnehmen und weggehen, so war der Hund gar nicht zu⁷ halten, er achtete⁸ Kauf offenbar für⁹ Diebstahl und packte den harmlosen Kunden¹⁰ so fest, daß ihn nur der Herr selber mit Not¹¹ wieder befreien konnte. Meister Richwin als Erzieher betrat¹² hier¹³ den Weg der Milde. Denn sollte er dem Hunde seine beste Tugend, die Wachsamkeit,¹⁴ ausprügeln?¹⁵ Nein! Er wollte ihn nur unterscheiden lehren, was Käufer und was Diebe sind. Kam also ein Käufer, so reichte ihm Richwin äußerst freundlich die rechte Hand, indes¹⁶ er mit der linken die knurrende Bestie streichelte, und bot dann auch weiter¹⁷ im Gespräch seine heiterste Laune, seine lichteste Miene auf,¹⁸ damit der Hund sehe, daß es¹⁹ hier einem Geschäftsfreund und keinem Diebe gelte.²⁰ Und ging der Kunde mit den gekauften Waren hinweg, so duldet²¹ es Meister Richwin anfangs gar nicht, daß er seinen Pack selber zur Türe trug — denn Thasso stand schon zähnefletschend auf dem Sprunge²² —, sondern nahm ihm²³ denselben²⁴ höflichst ab und trug ihn über die Schwelle, mit manchem verstohlenen Rückblick²⁵ nach dem Vierfüßler.²⁶ Die Leute aber staunten das Wunder²⁷ an²⁸ und begriffen's nicht, wie der größte²⁹ Kaufmann über Nacht³⁰ zum höflichsten geworden sei, der stolzeste zum dienstfertigsten.³¹

譯。freilich 勿論 im Verkaufsgewölbe 販賣部のホールに於ては dieses Zusammenleben hatte.....seinen besonderen Haften 此の共同生活にもそれ相應の特殊な引つ掛かりがあつた。nämlich その譯は trat.....ein Käufer ein [誰か] お客が入つて來ると so さうすると Thasso タッソーは bellend 叫えながら fuhr.....unter der Bank hervor 店臺の下から飛び出て來るのであつた；aber 所が jemand 誰かが den gekauften Pack Waren 買ひ込んだ商品の包を mitnehmen 携へ und て wollte

weggehen [ホールを]出ようとすると so さうすると der Hund 犬は war.....gar nicht zu halten 全然制止が利かなかつた。er 彼[犬]は offenbar明らかに Kauf [この]取引を achtete.....für Diebstahl 竊盜と見做したのである und それで nur der Herr selber 飼主自身にして始めて mit Not 辛うじて ihn 彼[顧客]を so fest, daß.....wieder befreien konnte 引き離してやれる位固く packte den harmlosen Kunden その罪もない顧客を捕へるのであつた。Meister Richwin als Erzieher 訓育家としてのリヒギン親方は hier 此の場合には betrat.....den Weg der Milde 寛大な處置をとつた。denn そもそも er 彼は solltedem Hunde seine beste Tugend, die Wachsamkeit, ausprügeln? 散々 [犬を]打擲してその最上の美德たる警戒性を犬から失くしてしまつていいものだらうか？ Nein! 否！er 彼は ihn 犬に was Käufer どれがお客 und て was Diebe sind どれが泥棒であるかを wollte.....nur unterscheiden lehren 区別することを教へ込まうとしただけである。also それ故 kam.....ein Käufer 顧客がやつて來ると so さうすると er 彼は indes er mit der linken die knurrende Bestie streichelte 左手で唸り聲を立ててゐる犬を撫でながら äußerst freundlich 極めて親しげに reichte ihm.....die rechte Hand その顧客に右手を差し出した und..... dann auch weiter im Gespräch そして更にその後の會話に於ても daß es hier einem Geschäftsfreund und keinem Diebe gelte 相手は此の場合商客にして泥坊ではないといふことを damit der Hund sehe 犬に覺らせるために bot..... seine heiterste Laune, seine lichteste Miene auf とつて置きの上機嫌、とつて置きの晴れやかな顔付きを振舞つた。und 且つ der Kunde 顧客が mit den gekauften Waren 買ひ入れた商品を携へて ging.....hinweg 出て行かうとすると so さうすると Meister Richwin リヒギン親方は anfangs 始めの間は er 顧客が selber 手づから seinen Pack 自分の包みを daß.....zur Türe trug 戸口へ運んで行くといふ es ことを duldet.....gar nicht 甘受しなかつた—— denn 何故かといふに Thasso タッソーが schon 既に zähnefletschend 歯をむき出して stand.....auf dem Sprunge 身構へをしてゐたからである—— sondern むしろ ihm denselben 顧客からその包みを höflichst 極めて懇意に nahm.....ab 受け取り und そして mit manchem verstohlenen Rückblick nach dem Vierfüßler 幾度も幾度も竊かに犬の方を

流眄(ながしめ)に見ながら ihn その包を trug.....über die Schwelle 間の外へ運ぶのであつた。 aber 所が die Leute 人々 [顧客] は staunten das Wunder an 此の奇蹟を啞然として打ち眺め und そして der größte Kaufmann あのふしつけ極まる商人が über Nacht 掌を翻すが如くに zum höchsten 世にも愛想よき商人に、[即ち] der stolzeste あの高慢ちきな商人が zum dienstfertigsten 極めて腰の低い商人に wiegeworden sei どうして變つたのであるか 'とその譯が begriffen..... nicht 吞みこめなかつた。

註。【1】 dieses Zusammenleben は、一行前の wenn man stets mit ihm zusammen lebt を文字通りに受けたのである。——【2】 Gewölbe, n. (圓天井) は、天井その者を指す外に、天井の下の部屋そのものをも指す。 Verkaufsgewölbe=Verkaufshalle。——【3】 sein (その) は dieses Zusammenleben を受ける物主代名詞である。斯う云ふ物主代名詞の用法の例を擧げて見ると、Das hat seinen Grund (それにはまたその譯がある) Jede Sache hat ihre Schwierigkeit (何事にもその難點がある) Jedes Glück hat auch seine Schattenseite (如何なる幸福と雖もまた其の暗黒面を持つてゐるものだ)——【4】 haken, m. (鉤) は「引つ掛かり」「厄介」「困つたこと」「難點」「曰く」。——【5】 第三卷 239 の (6) を見よ。——【6】 Pack, m. は packen (包む) から來た名詞で Gepäck, n. (包み) と同意。 den gekauften Pack von Waren といふ代りに von が省かれてゐる。——【7】 zu halten sein (引止めるべくある) は第四卷 291 に述べられた二つの意味のどちらであるかを常識で判断すべし。——【8】 für etwas achten は第二卷の讀本部に盛に出て来た für etwas halten (.....とみなす) と同意。——【9】 der Kunde (華客) は弱變化名詞故、四格で den Kunden となる。(第一卷 69)——【10】 Not, f.=困難、難儀。——【11】 溫情の道を踏む、とは、温情主義を探る事。——【12】 hier = in diesem Falle 此の場合、此の際。——【13】 wachsam (鶴の眼窓の眼で護ること、警戒厳なること、片時も油断せざる事、眼を光らしてゐる事) Wachsamkeit=警戒心、番犬根性、用心、番犬としての心掛け。——【14】 ausprügeln (叩き出す) — Brügel=鞭。——dem Hund は、「犬に」その最善の美德たる番犬性を叩き出すると云へば大抵わかる如く、普通の三格ではなく、離格(第四卷 419)である。即ち「犬から」。——【15】 indeß = indem (.....しつつ), während (.....する間に) —【16】 weiter im Gespräch = im weiteren Gespräch (その後の談話中に於ても)。——weiter は英語の further (なほその次に、なほも進んで、なほ先へ行つて) —【17】 aufbieten は、たとへば全力を「擧げる」「盡す」「底を叩く」「傾倒する」「傾注する」有りつけの智慧を「擧る」等、時によつ

て諸種の譯語が該當する。要するに「残りなく提供する」事である。——【18】 es gilt einem (それは或人に向けられてある、相手は云々である) といふ非人稱式熟語。——茲の所は es mit jemandem zu tun haben (それを或人と共に

gelten の一つの意味

es gilt einem.

(それが或人に向けられてゐる)

爲す可く持つ、即ち或人と交渉がある、相手は或人である) または jemanden vor sich haben (相手は云々の人である) を使っても宜しい。dass man es hier mit einem Geschäftsfreund, nicht mit einem Diebe zu tun habe. (相手は此の場合商客にして泥坊に非ずといふ事を) —【19】 dulden (我慢する) といふのは「黙視せず」の意。——【20】 auf dem Sprunge stehen (跳躍の姿勢に立つ、身構へる)。——【21】 abnehmen の伴ふ三格は常に離格である。——【22】 一格は derselbe [Pack 包み、を指す] 變化に就ては第二卷 181。——【23】 四足獸に向けられたる夥しき隱密の後顧を以て、と云ふのは、これこれ俺の態度をよく見て置けと云はんばかりに、ちょいちょいと犬の方に流眄を送りながら、と云ふ事。——【24】 何々類、何々家、何々屋、何々に屬する人、といつたやうな意味の單語に -er の語尾は稀ではない。殊に新造語に多い。

-ler の語尾

Künstler 組合員

Bierfüßler 四足獸

Eigenbrötler 頑固屋

Generalstäbler 參謀本部附武官

Frauenrechtler 女權論者

Zuchthäusler 懲役囚

Tischler 指物師

Wissenschaftler 學徒

Sommerfrischler 避暑客

Volksparteiher 國民黨員

Dörfler 村民、田舎者

-er を附する時には出来るだけ Umlaut が採つてある點に注意。何故餘計な l が這入るかと云ふに、これは單に口調 (Euphonie) の上で附けるのではなく、文法上の手續きがあるのである。即ち Frauenrecht, n. (女權) といふ名詞があると、それから先づ Frauenrechtein (女權を云々する) といふ動詞が出来、それに -er が附いて Frauenrechteier 略して Frauenrechtler が出来るのである。媒介 (Medium) となる -eln の動詞は必ずしも存在しないが、宛も存在するが如くに見なす譯である。——【25】 das Wunder (不思議、奇蹟、驚異、思案の外の事柄を云ふ) das Phänomen (現象) [フェノメーン] と云つても好い。日本人なら「雨が降るぞ」とでも云ふ所。——【26】 anstaunen (啞然として打ち眺める) an= の此の用法に就ては既に述べた。——【27】 grob (失

穢な、失禮な、ぶしつけな)、Grobheit 悪口。失禮な言草。——【28】 über Nacht (一夜の内に、一夜明くれば、掌を翻すが如く、突如として、何時の間にか) は Nacht に冠詞が無いのでも判る通り既成の熟語。——【29】 dienstfertig, a. 腰の低い、腰の軽い、世話好きの、愛想の好い、如才ない、氣の利く、行き届いた、鞠躬如たる。

第三の教訓！主人公は犬に商人たるの態度を教はつた。これが甚だ重要。

25.

Da brausete¹ aber einmal just im bedenklichsten² Zeitpunkt das wilde Heer³ der Kinder durch die Halle. Jetzt war alle Mühe vernichtet, Thasso fuhr⁴ wie besessen⁵ zwischen die Kinder und dann zwischen die Beine der Käufer, als wolle er die verhaltene Lust nun doppelt⁶ zügellos genießen. Den Kindern befam's⁷ übel. Mit furchtbarem Schelten wurden sie hinauf⁸ zur Mutter geschickt und die beiden⁹ Schnaben schon anderen Tages¹⁰ dem Schulmeister zur schärferen Zucht¹¹ übergeben. Auch das Lungern¹² und Balgen¹³ auf der Gasse ward ihnen strengstens¹⁴ untersagt.¹⁵ „Sie haben den Hund zu tausend Unarten¹⁶ verführt,“ meinte Meister Richwin, „und wie kann man überhaupt umtobt¹⁷ von¹⁸ so wilden Kindern einen jungen Hund erziehen?“ Er beschloß, von nun an¹⁹ seinen bösen Rangen den Daumen scharf aufs Auge zu drücken,²⁰ damit der Hund Ruhe²¹ habe und unverführt bleibe.

譯。da.....aber 所が einmal 或る時 just im bedenklichsten Zeitpunkt 正に乗るか反るかといふ瞬間に das wilde Heer der Kinder 子供達が騒々しく brausete.....durch die Halle ホールの中を駆け通つた。jetzt そこで alle Mühe 凡ゆる努力が war.....vernichtet 水泡に歸してしまつた。Thasso タッソーは als wolle er die verhaltene Lust nun doppelt zügellos genießen 抑へ付けて置いた慾望を之を機会に心ゆくばかり楽しんでやるんだと言はねばかりに zwischen die Kinder [先づ] 子供達の

間へ und dann 次には zwischen die Beine der Käufer 顧客の脚の間へ fuhr wie besessen 物凄い勢で突進した。den Kindern befam's übel 子供達こそいい災難であつた。sie 彼等 [子供達] は mit furchtbarem Schelten 怖ろしく叱り飛ばされて hinauf zur Mutter 二階の母の所へ wurden.....geschickt 追ひ遣られた und そして schon anderen Tages 次の日には早速 die beiden Schnaben 例の二人の男の兒は zur schärferen Zucht もつと厳格に躾けて貰はうといふので [wurden.....] dem Schulmeister.....übergeben 先生の所に預けられた。auch das Lungern und Balgen auf der Gasse 路上で野良くらしてゐたり暴れ廻つたりすることも ihnen 彼等 [子供等] に strengstens 厳重に ward.....untersagt 禁じられた。『sie あいつ等 [子供等] が den Hund 犬を zu tausend Unarten 色んな悪戯をするやうに haben.....verführt 誘惑したんだ [あいつ等の故で犬がああ色々な悪戯をするやうになつたんだ]』 meinte Meister Richwin [と] リヒギン親方は言つた。『und だから wie..... überhaupt そもそもどうして umtobt von so wilden Kindern あんなやんちやな子供達にあたりでわいわい暴れられながら einen jungen Hund 仔犬を kann man.....erziehen 飼らすことが出来るか？[あんなやんちやな子供達が傍でわいわい騒ぎ廻つてゐたんでは（さうでなくても悪戯をしたい盛りの）仔犬の躾けが出来る譯がないではないか!]』 er 彼は der Hund 犬が Ruhe habe 安靜にし und t unverführt bleibe 誘惑されないでゐる damit やうにするために von nun an 翌後 seinen bösen Rangen den Daumen scharf aufs Auge zu drücken 自分の腕白連を厳重に監督しようと beschloß 決心した。

註。【1】 brausete と同じ (擬古形) brausen は「ざわめく」「雪崩れる」「疾驅する」の意。——【2】一番危険な瞬間とは、今來られては厄介千萬と云つたやうな刹那、即ち恐らくはタッソーが一唸り唸つて身構へ、主人の威光が行はれるか行はれないかと云つたやうな際とい刹那であつたに違ひない。der bedenklichste Zeitpunkt は der bedrohliche Augenblick, der kritische Moment といつても好い。——【3】兇暴なる軍勢とは、自分の子供たちのことを、面白く誇張して云つたのである。——【4】 fahren は、元來は「車で走る」ことであるが、速やかに移動することに用ひる。此の場合は電光石火の如く飛んで行く事を云ふのだから schießen (射る) を用ひて Thasso schoß..... と云へば速力の觀念がもつと強まるわけである。——【5】 wie besessen (憑かれた如く)

= wie wahnsinnig (狂氣の如く)= rafend (狂ひ猛つて)——聖書では die Besessenen (悪鬼に憑かれたる人々) は die Geißelunigen, (狂人) die Geisteskranken (精神病者) といふ意に用ひてある。憑かれるといふのは精神が錯亂する事である。——【6】 doppelt zügellos (倍も放埒に) とは umso zügeloser (それだけ益々放埒に) の意。即ち als wolle er, je verhaltener die Lust war, dieselbe nun desto [ob. umso] zügeloser genießen. (恰も、慾望が今まで抑へられてゐただけ、それだけ益々放埒にその慾望を楽しむとするかの様に) je..... desto は第四卷 307, 308 に述べた對照的接續詞なるもの。——【7】 bekommen の普通の意味は erhalten (得る) 即ち英語の to get であるが、此の熟語では to become と同じ意になる。es bekommt einem übel (それが或人に悪くなる、即ち、身の不爲めを招く、飛んでもない事になる) es bekommt einem wohl (或人の爲になる)——此處の意味は、別に犬に噛まれたなどと云ふのではなく、リヒギン氏は、切角仕込んでゐる最中を滅茶にされたから、小供たちを甚い目に遭はせた、其の事を指すのである。——【8】 hinauf zur Mutter 文字通りには「上の彼方へ母の許へ」即ち「二階の母の許へ」——階下が賣店または事務室で、Wohnzimmer (居間) は二階にあるものと想定するのが普通の考へ方だからである。——文法的には此の句はよくある例で、たとへば hinaus ins Freie (戸外へ) hinein zum Vater (父の部屋へ) herein zu mir (僕の部屋へ) 等の形式が多く用ひられる。——【9】 大勢ゐる中の二人とか、澤山ある中の二個とか云ふのではなく、二人きりしか無い、二個きりしか無い、と云つた様な際には、よく zwei の意味に beide (兩、雙) が用ひられる。die beiden Augen (兩の眼) die beiden Hände (兩手) die beiden Wörter (その言葉は二つとも)—— beide を用ひる可きところに zwei を用ひたりなぞすると、とんでもない滑稽が生ずる。たとへば、「彼は犬を兩手でつかまへた」を

beide [兩方の]
と
zwei [二つの]

と云つたとしたらどうだらう。其の男は一たい手を幾つ持つてゐるのだらうといふ疑問が起るのは當然である。恐ろしき者よ、汝の名は「語感」なり。

——【10】 andern Tages 第四卷 329.——【11】 Bucht, f. (訓育) は ziehen (育てる) erziehen (教育する) と關係のある名詞だが、主として「矯正」の意を持つてゐる。(たとへば Buchthaus 刑務所 Büchtling 囚人) zur schärferen Bucht übergeben (より厳格なる訓育のために托される) とは、どうかもつと嚴重にお取締まりを願ひますと云つて預ける事である。——【12】 Jungern (野良くらしてゐる、ころごろしてゐる) を名詞化したもの (第一卷 47 を見よ)
——【13】 balgen (あばれる) は sich tummeln, ihr Wesen treiben (騒ぐ) とも

Er fasste den Hund mit zwei Händen an.

云ふ。——【14】 最高級の語尾に附ける語尾の -ens は普通は第三卷 229 に述べた「限度を示す最高級」の意になるのであるが、これは例外で、むしろ aufs strengste, strengst (第三卷 227, 228) の意である。——【15】 verbieten (禁止する) の過去分詞を用ひて、verboten と云つても好い。——【16】 Un-art [ウンアールト] (不したら) に就いては一度詳述した事がある。——犬の責任を子供に嫁するところが面白い。——【17】 tobten (あばれる) に um- (.....迴る) の前綴を附したもので、um- は「周囲」の意で、「轉ずる」の意ではないから非分離動詞である。もし umgetobt と分離動詞の過去分詞にすれば、「騒ぎ倒されて」の意になるだらう。(第二卷 146).——【18】 von の用法に就ては第二卷 116.——【19】 この an は前置詞 an の後曳する追加詞 (第三卷 240)——【20】 einem den Daumen aufs Auge drücken (或人の眼に親指を壓し附ける) は殺伐な中世紀頃の風習から發した慣用句で、一騎打ちをして相手を倒すと、相手の眼に親指を壓しつけて、さあどうだ、降参しなければ此の眼を潰すぞ、と云ふのが例だつたので、それから轉じて、何でも或人を束縛して脅迫的に己の意志に従はしめる事、従つて嚴重なる監督下に置く事を云ふ。所謂「引き締める」または「彈壓を加へる」ことである。——【21】 Ruhe haben (寧日ある事、枕を高うすること、安靜状態に置かれる事、構はれない事、からかはれない事、氣樂にしておられる事) その逆は in Ruhe lassen (妨げないで置く、安靜にして置く) である。

„einem den Daumen aufs Auge halten.“ の故事

26.

Frau Eva mußte dem Mann ihre Freude über alle¹ die Verwandlung aussprechen.²

„Es ist doch³ ein rechter⁴ Gegen,“ sagte sie, „daß du morgens⁵ wieder zur Messe gehst.“

„Ja wohl, Eva! der Hund liegt wie ein Standbild,⁶ wenn ich unter dem Portale knie.“⁷

„Die Kunden mehren sich wieder, seit du so freundlich geworden.“⁸

„Ja wohl, Eva! der Hund knurrt nur noch⁹ ganz leise, er bellt nicht mehr im Kaufladen und denkt nicht von weitem¹⁰ ans Beißen.“

„Die Kinder bessern sich zusehends, seit du sie fürzer¹¹ hältst.“

„Freilich,¹² Eva! das¹³ war dem Hunde grundverderblich,¹⁴ daß er immer das böse Beispiel der Kinder sah.“

„Und wie tut mir's wohl,¹⁵ Gerhard, daß du jetzt wieder¹⁶ so manches¹⁷ freundliche Wort mit mir redest!“

„Ei¹⁸ freilich, liebe Eva! da du jetzt so freundlich von dem Hund gesprochen“¹⁹ — sie hatte keine Silbe²⁰ von ihm²¹ gesagt — wie sollte ich dir's nicht danken?“

譯。Frau Eva 奥さんのエーヴアも ihre Freude über alle die Verwandlung 此の非常な變化に對する自分の喜びを dem Mann 夫に mußte... aussprechen 打ち明けないではゐられなかつた。

『du 貴方が wieder また[元通り] morgens 每朝 zur Messe geht 強 撒へいらつしやる[やうになつた] daß なんて es ist doch ein rechter Segen これこそほんとうの天福といふものですわ』 sagte sie [と] 彼女は言つた。

『Ja wohl, Eva! さうだとも! ich 私が unter dem Portale 教會の玄関先で knee 跪く wenn と der Hund 犬は liegt wie ein Standbild まるで立像の様に[ちつと]してゐるよ。』

『du 貴方が so freundlich geworden とても親切になつて seit 以来 die Kunden お客様が wieder また mehren sich 殖えて來ましたわ。』

『Ja wohl, Eva! さうだとも! der Hund 犬は nur noch 今はもう僅かに ganz leise 極く低い聲で murrt 悠る[だけだ], er 犬は nicht mehr 最早 im Staubladen 店では bellt 咩え[ない], und それに denkt nicht von weitem ans Beißen 噛まうなんて事は冗談にも考へないやうだぜ。』

『du 貴方が sie 彼等[子供等]の fürzer hältst 監督を嚴重にして seit から die Kinder 子供達は zusehends 目に見えて bessern sich 行儀が良くなりましたわ。』

『Freilich, Eva! さうだとも! er 犬が immer 何時も das böse Beispiel

der Kinder 子供等の惡例を sah 見てゐた daß といふ das ことが dem Hund 犬には war.....grundverderblich 何より有害だつたんだ。』

『und それに du 貴方が jetzt かうして wieder また so manches freundliche Wort mit mir redest 妻に優しく色々な話をして下さるやうに[成つた] daß ので wie tut mir's wohl 妻ほんとうに嬉しいわ、Gerhard ゲールハルト!』

『ei freilich, liebe Eva! そりあさうだともさ! du お前が jetzt 今[かうして] so freundlich 非常に優しく von dem Hund gesprochen あの犬の事を言つて呉れた da 以上』—— sie 彼女は hatte keine Silbe von ihm gesagt 犬のことは一言も言はなかつたのだ——『ich 私は dir お前に wie sollte....'s nicht danken どうしてお前にその感謝をしないでゐられよう。』

註。【1】alle die Verwandlung (文字通りには、此の凡ての變化)=die ganze Verwandlung (此の全變化) または die große Verwandlung (此の非常な變化)——かう云ふ時には e の語尾を除いて all die Verwandlung とも云へる。——【2】aussprechen (聲明する)=äußern [英語の to utter]——【3】es ist doch..... これは成程、これは實に。——【4】recht (正しき)=wahr (眞の、宛然たる) つまり英語の very を形容詞として用ひる場合 (a very monster 正しく怪物、宛然たる怪物) 佛語の vrai, véritable (un vrai monstre 宛然たる怪物——un monstre vrai と云ふと、眞の、間違ひのない怪物といふ事になつて、誇張の意は現れなくなる)——es ist doch ein rechter Segen, ob wahrer Segen! といふのは、これこそ眞に天福とも稱すべきものである、神佛の加護、天佑、神護の奇特、あら忝けなやとでも云つたところ。——【5】morgens=jeden Morgen (毎朝), morgen (明日) と誤る勿れ。——【6】よりも動かばこそ、と云つた様な際には、よく wie ein Standbild (立像のやうに) wie aus Stein gehauen (石彫りのやうに) なんて比喩が使はれる。——【7】これから問答は、妻君が子供の事を云つて、旦那様は犬の事を云ふ。この形式は明らかに Molière の戯曲 Le Tartuffe [ル・タルヌフ] の第一幕から學んだ智恵である。——【8】geworden bist の bist が省かれてゐる。(第四卷 374)——【9】nur noch (ほんのもう、ほんのなほ、今はもう、今はただ) は熟語。——【10】nicht von weitem=nicht entfernt (.....云々しよう等とは思ひも寄らぬ) weit entfernt (遠く懸け離れてゐる) を使つて und ist weit entfernt, ans Beißen zu denken (噛まうと云ふ氣を起さうなぞとは思ひも寄らぬ)。

否定を強めるための
nicht entfernt
等々

否定を強調せんが爲めに、nicht の次に置かれる語は、みんな、少し「も」、毫末「も」、等、「さへも」「も」等の意味を持つてゐる。つまりドイツ語の auch, selbst の概念である。だから nicht entfernt も、nicht auch entfernt 又は nicht selbst entfernt と考へてみればわかる。(實際 auch, selbst 等を附するとすれば、語順をかへて、むしろ auch nicht entfernt; selbst nicht entfernt と云つた方が好い。)——此の entfernt をもつと強めると、im entferntesten となる。さうした語法の主なものを擧げて見ると——

nicht einmal	[……ですらも……ない]
nicht im mindesten	[少しも……でない]
nicht im geringsten	[少しも……でない]
nicht entfernt	[夢にも……しない]
nicht im entferntesten	"
auch nicht von weitem	"

佛語ではドイツの nicht に相當する ne を用ひて、おまけに im geringsten 又は das Geringste に相當するいろんな詞を使ふ。「私は知らぬ」を

je ne sais pas	[pas は「一步」]
je ne sais point	[point は「一點」]
je ne sais mie	[mie は「パン屑」]

なぞと、色んな因縁の單語で打消す。必ずしも「一步」や「一點」には限らない、要すれば je ne sais grain (私は一粒も知らぬ) je ne sais goutte (私は一毫も知らぬ) je ne sais atome, je ne sais electron でも何でもよかつたわけであるが、人の一番よく使ふものが勝を占めて現今に至つたわけである。(勿論、je ne sais mie 等は、現代の佛語ではもはや用ひない。)——ドイツ語の俗語には、なほ nicht を省いて用ひる同様な構造がある。名詞の四格を用ひるところが共通である。

den Teufel.....	(悪魔)
den Dred.....	(糞、泥)
den Studud.....	(ほととぎす)

これらは、すべて、辛抱が切れた時に用ひる呪の句であるが、それを次のように用ひる。

A.—Versuch es mal!—B. Ich werde den Teufel tun!

(A.—ちょっとやつて見たまへ—B. あかんべえだ。)

Das geht dich den Dred an!

(それは君になんの關係もないことだ。)

Davon versteht er den Studud!

(そんなことが彼奴にわかるもんかい。)

尙念のために、entfernt (遠い) とか nahe (近い) とかいふ概念と、「考へる」(denken) との間の密接な關係を述べておく。日本語でも、「思ひも寄らぬ」と云ふ。「寄る」といふのは近寄ることである。ドイツ語にもそれがあつて、たとへば、「そんな事をしようなどとは思ひも寄らぬ」を獨譯すると——

Ich bin weit entfernt, das zu tun.

それから、「そんな事をするどころか、むしろ其の反対を行つた」は

Weit entfernt, das zu tun, schlug ich gerade den entgegengesetzten Weg ein.

また、「夢にもそんな事を考へたくない」は、

Fern sei von mir der Gedanke.....

その反対に、誰でもすぐ聯想しさうなことだ、とか、さういふ際にはよくさうした事に想ひが到るものだ、とか云つたやうな場合には、fern の反対の nahe を用ひる。(普通 liegen, legen と共に用ひる。)

Der Gedanke lag mir nahe, dich anzupumpen, aber dazu war ich damals noch' nicht frech genug. (一時は君の所へ無心に行かうかとも考へかかつたのだが、その當時まだそれほどの厚顔さの持ち合はせがなかつたもんでね。)

Ich als kaum zehnjähriges Mädchen konnte auch nicht entfernt daran denken; mein großer Bruder war es, der mir den Gedanken daran nahe gelegt hatte. (わたしは何を申せ十歳足らずの小娘のことですから、そんな事を致さうなどとは夢にも考へる筈はございませんが、わたしの兄が何かのついでに一寸そんな事をほのめかしたものですから.....)

——勿論、一番最初に述べた如く、「遙かに」及ばぬ、等の意味で entfernt, im entferntesten を nicht と共に用ひることも随分多い。——【11】 kurz halten

(短く保つ)と云ふのは、鎖を短くしてつないで置く事、又は馬の手綱を短かく引締めることで、從つて監督を嚴にする事。——【12】 *freilich*=*gewiß*, ja. (さうだとも)。——【13】 *das* は次に来る *dab* の先行詞である。普通は *es ist* *dab*..... と云ふが、その *es* を特に強め、發音の際に力を入れようとすると、*es* の代りに *das* を使ふ。*es ist* と *das ist* との差に就ては第二卷 187. ——【14】 *grund* は「根本的に」の意。*grundfalsch* (全然誤った) *grundsätzlich* (とても正直な)——【15】 此の非人稱動詞は第三卷 268 に説明したものに屬する。——【16】 日本語ならば「また.....云々するやうになつた」と云ふ時に *wieder* を用ひて、「なつた」等の句は入れない。前出の *dab du morgens wieder zur Messe gehst* も同様である。——【17】 *manch* は英語の *much* である。單數形を用ひる所に注意を要する。——【18】 *ei!* に就ては第四卷 376. ——【19】 *gesprochen hast* の *hast* の省略 (第四卷 374.)。——【20】 *keine Silbe* (=一語も)=*ein Wort* (=一語も) *kein Sterbenchwätzchen*. ——夫人の方では初めから子供の話をしてゐるきりで、犬の事はちつとも言つてゐないので、親方は、自分が犬の話をしてゐるものだから、自分の話と人の話を取り違へたものと見える。自分で云ひたいだけの事を言つておきながら人と會話したと思つてゐる人が世の中には随分多い。——【21】 *ihm* とは犬の事。

27.

Frau Eva dachte für sich:¹ „Meister Richwin erzieht den Hund und ahnet² nicht, daß noch³ viel mehr der Hund den Meister Richwin erzieht.“ und warf zum erstenmale einen freundlichen Blick auf Thasso und streichelte⁴ ihn. Das besiegelte⁵ den neuen Hausfrieden.

Aber trotz der großen Fortschritte, die Thasso machte in seines Herrn Zucht und seiner Herrin Kunst, brachen doch⁶ manchmal die alten Tücken⁷ wieder hervor. Dabei waltete⁸ aber ein seltsamer Instinkt des Tieres: es schien die Künstler von den Patriziern zu unterscheiden, und wenn es ja⁹ seinem Mutwillen wieder einmal freien Lauf¹⁰ ließ, so war er gewiß¹¹ gegen einen Patrizier gerichtet. Wie es Hunde gibt, die kleinen Bettelmann und Landstreicher ohne Gebell vorüber¹²

lassen, so konnte Thasso keinen gepunkteten, stolz schreitenden,¹³ ritterlich reitenden Patrizier sehen, ohne daß sich der alte Adam¹⁴ in ihm regte.¹⁵

譯。 Frau Eva 妻のエーヴアは dachte für sich 心密かに考へた: 「Meister Richwin リヒギン親方は den Hund 犬を erzieht 教育してゐる und daß noch viel mehr それよりもずっと多く der Hund 犬[の方]が den Meister Richwin リヒギン親方を erzieht 教育してゐる *dab* といふことに ahnet nicht 夢にも気が付かないんだ」 und そして zum erstenmale 始めて auf Thasso タッソーに einen freundlichen Blick 優しい一瞥を warf 與へ und て ihn タッソーを streichelte 撫でた。 das これが den neuen Hausfrieden 新しい家庭の平和を besiegelte 確定した。

aber 併し Thasso タッソーが in seines Herrn Zucht und seiner Herrin Kunst 自分の主人の訓育と自分の女主人の愛顧を受けて machte 印した die 所の trotz der großen Fortschritte 大なる進歩にも拘はらず doch それにも拘はらず manchmal 屢々 die alten Tücken 持病の惡癖が wieder 又もや brachen.....hervor 飛び出すのであつた。 aber 所が dabei さういふ場合には [常に] ein seltsamer Instinkt des Tieres 犬の奇妙な一つの本能が waltete 動いてゐた: es それ[犬]は die Künstler von den Patriziern 組合員を貴族から schien.....zu unterscheiden 区別してゐるらしかつた[組合員と貴族を見分けてゐるらしかつた] und で es それ[犬]が wieder einmal 又もや seinem Mutwillen.....freien Lauf ließ 自分の向う見ず氣性を思ふまま發揮する wenn.....ja [やうなことが]萬一あるとしても so さういふ場合 er その向ふ見ずは gewiß 間違ひなく war.....gegen einen Patrizier gerichtet 貴族に向けられてゐた。 ohne Gebell 吠えないでは keinen Bettelmann und Landstreicher 乞食一人浮浪人一人 vorüber lassen 傍を通[さない][乞食や浮浪人を見ると必ず吠えかかる] die やうな Hunde 犬が es.....gibt [世の中には]居る wie 如く so 同様に Thasso タッソー[も] fonnte.....keinen gepunkteten, stolz schreitenden, ritterlich reitenden Patrizier sehen, ohne daß sich der alte Adam in ihm regte 美々しく着飾つたり、肩で風を切つて歩いたり、騎士然と馬に跨つたりした貴族を見ると、必ず例の悪い癖がむくむくと頭を擡げて來るのであつた [逐字譯: 例の惡癖が自分の

中に頭を擡げることなしに、如何なる……貴族をも見ることが出来なかつた]。

註。【1】 *für sich denken* (獨りで考へる、心で思ふ)=*zu sich selbst sagen* とも云ふ。——【2】 *nicht ahnen* (夢にも思はない、一向気がつかない) [ich habe keine Ahnung davon!] (私は全然知りません) といふ慣用句がある。——【3】 *noch* (それよりも) は次の *viel mehr* を強めたもの。主人が犬を教育する程度よりは、なほ (*noch*) その上に、の意。——【4】 *streichen* (撫でる) は *streichen* (さつと一度擦る) に對する反覆動詞 (Frequentativ)

Frequentativa
反覆動詞

皮肉る) は連續的に細かく人を *stechen* (英語の *to sting* 刺す) する事であり、*lächeln* (微笑む) は *lachen* (笑ふ) の弱いものである。要するに、一度きりの (*einmalig*) 動作を示す動詞に *-eln* を附加すると、それが連發的、連續的になると同時に、動作の概念が穏やかになるのが例である。

連發弱化的語尾
-eln.

-eln は連發弱化の語尾 (frequentativ-diminutive Endung) と名づけることが出来る。——【5】 *besiegeln* (封印を捺す)—*Vertrag* (條約) 等が結ばれると、調書にリボンを掛けてその上に封蠟 (Siegellack) を貼付し、その柔かいうちに *Siegelring* (印環) を以て調印して封する。それを *besiegeln* (調印) するといふ。轉じて、何事にまれ、芽出度く取り結ぶ、一完結する、締め上げる、確定する事をいふ。——【6】 *doch* に就ては卷頭の *doch einmal* の *doch* について述べた所と同じである。——【7】 *Tücke* は

die Tücke

元來陰謀、奸計、策略 (*Hinterlist*) の事であるが、轉じて、何でも一般に「神出鬼沒、その行動の計り知る可からざるもの」「常人の観覩を許さざるもの」(etwas Unberechenbares) 「片時も油斷しがたき敵」の意に用ひる。かう云ふ意味では、出物産物所嫌はずと云つたやうな種類のものは凡て *Tücke* である。天災は自然の *Tücke* であり、本能は人生の *Tücke* であり、おなら (Furz) は上品な社會の *Tücke* である。何時 *hervorbrechen* (飛び出す) かも知れない。die alte *Tücken* は、宿惡、性癖、持病、とでも譯するより仕方がない。——【8】 *walten* (支配する、一貫する)、は普通 *Gesetz* (法則) *Grundfaß* (原則) *Regel* (規則) *Beschrift* (規定) *Norm* (定則) 等に關して用ひられる。即ち、如何なる場合にも共通であり、一貫し、支配してゐた本能があるの意。——【9】 *wenn.....ja* は *wenn auch* (たと

へ) と同じ。——【10】 *einem Dinge freien Lauf lassen* 今まで引きしめてゐたものを放つて、所謂虎を野に放つが如く、決河の勢を以て行くところまで行かしめる事である。決河の勢と云へば、獨逸語でもやはり河水の氾濫を真先に聯想する。たとへば *Damm* (堤) が *durchstechen* (突破) されれば、河水は得たりとばかり *dahinbrausen* (殺倒、奔流) するであらう。——【11】 *gewiß* (確かに)=*sicher* (屹度) 即ち *so war man gewiß* (又は *so wußte man mit Gewißheit*), *dass er [der Mutwillen] gegen einen Patrizier gerichtet war*. 即ち「十中の八九までは……であつた」とでも云つたところ。それはもう訊かなくとも貴族を相手にしたのにきまつてゐる、と云ふ意味の *gewiß* である。——【12】 *vorübergehen lassen* の意。——【13】 *stolz einherschreitenden, einherstolzierenden*, (悠々と練つて歩く、肩で風を切つて行く、威風堂々あたりを拂つて歩いて行く、四圍を壓しつゝ潤歩する)。——【14】 *Adam* は誰も知る通り、開闢最初の罪人 (Sünder) で、後世の人類に *Erbsünde, Ursünde* (宿罪、傳來の罪) なるものを残した男である。der alte *Adam*=die alte *Sünde* (例の悪い癖、持病)。—— *sich regen* (微動する、撼く、擡頭する) には、此處では die alte *Sünde* といふ抽象名詞ではなく、der alte *Sünder* に相當する *Adam* といふ人物名が主語となつてゐる所が文の味である。たとへば *wenn ich wieder einmal eine Summe Geld vor mir sehe, so regt sich in mir der alte Buchthäusler*. (久し振りで纏まつた金にお眼にかかると、また昔の懲役囚が私の中に頭を擡げる、即ちまたもや惡事が働きたくなる) これは勿論前科 (Vorstrafe) のある男の云ふ事である。In ihm steht ein Stüd Poet (彼の中には一片の詩人が宿つてゐる) とか、Der Mensch in mir hat dabei ein Auge zugedrückt (私の中の人間がそれを看過した) (即ち、私にも人情があつたから、つい大目に見る氣になつた) 等に於ては Poet は poetisches Talent (詩才) の代り、Mensch は Menschlichkeit (人情) の代りで、それらの抽象名詞よりももつと味を持つてゐる事がわかる。——【15】 *sich regen* (うごく、頭を擡げる、活動を開始する)、は *rege werden* ともいふ。Es regt sich im fernen Orient (東亞の風雲動く) Keine Maus regt sich (鼠一匹動かない、mausstill ひつそりしてゐる、水を打つたやう)。

Ursünde;
Erbsünde.
傳來の罪

28.

Nach dem Feierabend¹ pflegte Meister Richwin durch die nunmehr von Menschen wimmelnden Straßen zu gehen, damit der Hund, des Strides frei,² bewährte,³ was er in

der einsamen Frühstunde, angefesselt,⁴ gelernt hatte.⁵ Thasso schleicht⁶ ganz sittsam in den Fußstapfen seines Herrn. Da schreitet ein Junfer⁷ aus⁸ den Geschlechtern tanzend⁹ und geziert über¹⁰ den Marktplatz; flugs¹¹ springt Thasso zu ihm hinüber,¹² kein Rufen, kein Pfeifen hilft,¹³ wie im Rausch¹⁴ hat er alle Lehren des nüchternen¹⁵ Morgens vergessen und friecht¹⁶ erst,¹⁷ demütigst¹⁸ wedelnd¹⁹ und um Verzeihung bittend, zu dem wütenden Meister zurück, nachdem¹⁷ er den bis zum Fuß niederschallenden langen Ärmel des Patriziers mitten entzweigerissen.²⁰

譯。er 彼[犬]が in der einsamen Frühstunde 人通りのない早朝に angefesselt 索に繋がれて gelernt hatte 學んで置いた was 事を der Hund 犬が des Strides frei 索から自由になつても bewähre 實證する damit 様にと Meister Richwin リヒギン親方は nach dem Feierabend その日の仕事が終ると durch die nunmehr von Menschen wimmelnden Straßen その頃から夥しい人出のする通りを pflegte……zu gehen 散歩するのが常であつた。Thasso タッソーは ganz sittsam 至つて慎しみ深い様子をして in den Fußstapfen seines Herrn 自分の主人の後から schleicht おづおづ歩いて行く。da するとそこへ ein Junfer aus den Geschlechtern 貴族出の青年が tanzend und geziert 酒落た足取りで勿體振つて schreitet……über den Marktplatz 市場を歩いて来る。flugs [すると] 飛鳥の如くに Thasso タッソーは zu ihm 彼[その青年]に向つて springt……hinüber 跳びかかつて行く、kein Rufen, kein Pfeifen hilft 呼ばうが口笛を吹かうが何の効目もない、er 彼[犬]は wie im Rausch 酔つ拂ひでもしたものやうに alle Lehren des nüchternen Morgens 冷靜な朝の教訓をすつかり hat……vergessen 忘れて仕舞ふ und で er 彼[犬]が den bis zum Fuß niederschallenden langen Ärmel des Patriziers その貴族の足迄垂れ下つてゐる長い袖を mitten entzweigerissen 真ん中から咬みち切つた erst……nachdem 後で漸く demütigst wedelnd すつかり恐れ入つて尾を振りながら und 且 um Verzeihung bittend 救しを乞

ひながら zu dem wütenden Meister かんかんに憤つてゐる親方の所へ friecht…… zurück おづおづと歸つて来る。

註。【1】 Feierabend は元來は休日 (Feiertag) の Vorabend (前晚、または時として前日) の意。ところが、職工なぞが、其日其日の仕事を終つて家路に就く頃の事をも Feierabend (安息時) と云ふ。その時の Feier は「祭」ではなくて feiern (休む) の意である。四時から六時頃までだらう。晝間はみんな店や仕事場にゐるが、Feierabend を過ぎる頃にはみな町の中を散歩するから從つて町も賑ふといふわけである。所謂「退け時」「仕事仕舞」—nach dem Feierabend = nach der vollendeten Tagesarbeit (其日の仕事を仕舞ふと) —【2】 des Strides frei = frei vom Stride. (縄から自由になつて、縄を離れて) frei は二格を支配する形容詞 (第二巻 138) —【3】 bewähre は bewähren (示す、事實を以て證明する) の第一式接續法 (形については第三巻 204) (意味に就ては第三巻 209) damit (……する様にと) の文の定形は大抵接續法。—【4】 angefesselt が過去分詞になつてゐるのは、第四巻 371 に述べた述語的副詞句 (又は副詞的述語と云つても好い) であつて、それ自身主語の der Hund を形容する形容詞、即ち述語でありながら、lernen といふ動詞に對する關係から考へると一種の副詞的規定 (adverbiale Bestimmung) なのである。—【5】 犬は、つまり早朝人通りの少い時に、温順しくする練習をやらされて、夕方その試験をされる譯である。—【6】 schleichen は第五巻で一度述べた様に、決して忍び歩くと云ふ場合ばかりではない。此の場合は、尾を垂れて、べそつとして元氣なく歩みを運ぶ事。—【7】 Junfer. m. は現今は Edelmann (貴族) の意に用ひられるが、元來は jung と關係があつて、貴公子、貴族の青年の事を云ふ。茲ではその意味である。—【8】 出身、出所、由來、產地等を云はうとする時には aus を用ひる。ein Kaufmann aus Berlin (柏林出の一商人) 等。—【9】 tanzeln は、前に一度述べた如く、tanzen (踊る) から造語した Frequentativ-Diminutiv である。踊り足を踏む、踊りの足つきをする事、つまり酒落た歩き方をする事。—【10】 über den Markt-platz は型の如く定まつた慣用句で、「市場を」の意に過ぎない。これから造つた Analogiebildung (類句) が über die Straße (街を通つて) である。über と云ふと一見街道を「横切る」やうだが、さうではない。やはり、市場を「わたる」のと同じやうに、町を通過して「縦に」行くことである。つまり über die Brücke 「橋を渡つて」と同様だ。über die Brücke を、まさか一方の欄干から他の欄干へと考へる人はゐまい。—もし町を横に横切るときには quer über die Straße とか、何とか副詞をつけた方が間違はなくて安心である。それとも die Straße überqueren (町を横切る) と云つたやうに、單なる四格を用ひるかである。—【11】 flug (飛翔) を二格にして造つた副詞。

(第四卷 329.)—【12】 *hinaüber* なる前綴は、此方から彼方の方へ「移る」事を意味する。—【13】 *helfen* を絶対的(即ち何等の補足語もなく)に用ひると、*taugen, nügen* (役立つ) *gelingen* (効果が舉がる) *wirken* (効く) の意になる。—【14】 *Mausch, m.* (駄駄) とは、我を忘れた状態を云ふ。—*wie außer sich, wie im Taumel* と云つても好い。—【15】 *nüchtern* は *trunken* (陶然とした) の反対で、「しらふの」「酔はざる」の意から、「正氣の」「冷靜な」「分別ある」の意になる。—【16】 *friedchen* (匂ふ) とは誇張して云つたので、つまり *schleichen* の意。—【17】 *erst* (やつと) は *nachdem* (……した後) と合して一つの意味をなしてゐる。—【18】 *bemüht* は *st* の語尾の僅副詞に使つてあるから、普通の最高級ではなくて、第三卷 228 に挙げた部類に属する。従つて「いとも恐れ入りながら」「すつかり恐縮して」の意。かういふ *st* の語尾は 228 で述べた如く、書簡末の慣用句を思はせる。*ganz ergebenst* (謹しんで) *gütigst* (希はくば)—*höflichst* (懇懃に) *halbigst* (近々) 等も社交上の辭令である。—【19】 *mit dem Schwanz wedeln*。—【20】 *entzwei* の前綴は「眞二つに」の意。即ち二つに (*zwei*) 離れる (*ent*) の意である。

29.

Des andern Tages schidte Meister Richwin dem Geschädigten¹ seinen eigenen² Brunkrock³ mit den langen Ärmeln zum Ersatz.⁴ „Wie konnte ich solch⁵ ein Ged⁶ sein,“ rief er aus, „ein so widersinniges⁷ Kleid zu tragen? Müssen die langen, flatternden Tuchstreifen,⁸ müssen die hundert Bänder und Glitter⁹ nicht jeden Hund herausfordern,¹⁰ daß er daran zupfe?¹¹“

Meister Richwin begann einen stillen¹² Grimm¹³ auf die Kleiderpracht und andere Hoffart¹⁴ der Geschlechter zu werfen¹⁵ und ging von da an nur noch¹⁶ im schlichtesten¹⁷ bürgerlichen Gewand.¹⁸

譯。des andern Tages その次の日に Meister Richwin リヒギン親方は dem geschädigten その被害者に seinen eigenen Brunkrock mit den langen Ärmeln 長い袖の附いた自分自身の一帳羅を schidte zum Ersatz 損害賠償として送つた。『ein so widersinniges Kleid zu tragen

あんな非常識な着物を着て歩くやうな *solch ein Ged* あんなしやれ者に *ich* 僕は *wie konnte.....sein* どうして成れたのだらう?』 rief er aus [と] 彼は言つた。『die langen, flatternden Tuchstreifen あのひらひらしてゐる長い布切れ、 die hundert Bänder und Glitter あの數々のリボンや金ビカは *jeden Hund* 如何なる犬にも *daß er daran zupfe* それに咬み付いて引張れと *müssen.....nicht.....herausfordern* けしかけないと言ひ得るだらうか[中には一匹位噛んで引つ張りたくなる奴が出来るのは當然ではないか?]』

Meister Richwin リヒギン親方は auf die Kleiderpracht und andere Hoffart der Geschlechter 貴族の服装の華美及びその他の驕奢に對して einen stillen Grimm 心密なる憤怨を began.....zu werfen 投げ始めた。und それで von da an その時から nur noch 専ら ging.....im schlichtesten bürgerlichen Gewand 最も質素な町民服[だけ]を着て歩いた。

註。【1】 第二卷 193.—【2】 *eigen* は英語の *own*.—【3】 *Brunkrock* の *Brunk* は *prunken* (光る、異彩を放つ) から來たもので、斯う云ふ「晴れの」「きらびやかな」「一帳羅の」の意の複合名詞を作る。*Bracht* も用ひられる。*Brunktisch* (大切な立派な机) *Brachtweib* (素的な女) 等。—【4】 *es feßen* (補ふ、償ふ、辨済する、代用とする) に對する名詞。—【5】 *ein solcher Ged* と云つても好いが、*solch* は *ein* の前に來ると格語尾を探らない。—【6】 *widersinnig* は *wider den Sinn* (常感に逆らふ) の意で、*unvernünftig* (無分別な) *vernunftwidrig* (理に逆ふ) つまり「非常識な」の意。—【7】 既出。—【8】 *Glitter, m.* とは、金銀箔(實は真鍮が多い、芝居の衣裳でもわかる通り) や刺繡等の飾りを云ふ。つまり日本の「金びか」と同じで、何時でも多少輕蔑的に用ひられる。—【9】 *herausfordern* は「挑み出す」「挑戦する」 aufmuntern 勵ます、けしかける aufreizen 焚きつける。—【10】 *zupfe* は *zupfen* に對する接續法であるが、これは第三卷 209 に述べた第一式接續法の命令法的用法である。即ち、「彼が」 (er) それに [飛び] ついで (varan) 引きむしれ (zupfe) と (daß) で *daß er daran zupfe* となる譯である。—【11】 *still* は茲では「静かな」ではなく *stumm* (黙したる、暗黙裡の) *geheim* (人々の、内緒の、秘密の、人知れぬ)。—【12】 *Grimm* (憤激)=*Groll* (恨み) *Haß* (憎惡) *Born* (怒)。—【13】 元來 *Hof* (宮廷) の *Art* (様式、慣習) から生じた字。僭越、奢り、豪慢、高ぶり、生意氣。—【14】 抽象的に用ひられる *werfen* (投げる) は *richten* (向ける) と同意。—【15】 *nnr noch* (今はもはや) は前に出づ。—【16】 *schlicht* は淡白な、單純な、素

朴な。(即ち *einfach*, *simpel*) の意。たとへば *ein schlichtes Bürgermädchen* (別に何でもない町民の娘) —— *schlecht* (悪い) と元來は同語である。——【17】
 Kleid, n. (着物) Tracht, f. (衣裳)。

30.

Dazu dünkte¹ ihm, die Patrizier hätten² ganz besonders höhnische Blicke, wenn er mit seinem Böglings an der Schnur durch die Gassen schritt, oder wenn der entfesselte Thasso sich wieder einmal³ die Ohren verstopfte⁴ und durch Steinwürfe an seine Pflicht gemahnt⁵ werden mußte. Wie spöttisch hatte nicht⁶ neulich jene vornehme Jungfrau gelächelt, als Meister Richwin sie mit dieser⁷ Verbeugung grüßte, indem⁸ der Hund am Strick unwiderruflich zum nächsten Edstein⁹ hinüberzog, so daß die Verbeugung sich fast zum Fußfall¹⁰ gesteigert hätte?¹¹ Und waren die edlen Herren nicht allezeit am größten,¹² wenn Thasso ja¹³ noch einmal an ihren galoppierenden Pferden hinaussprang? Wie duldsam nahmen das dagegen die friedlichen Schritte¹⁴ einherreitenden Zünftler auf!¹⁵

So vollbrachte Thasso auch hier,¹⁶ was keinem andern¹⁷ gelungen war: an der Hundeschur zog er seinen Herrn ganz leise¹⁸ von der Neutralität zur Partei der erbittertsten¹⁹ Zünftler hinüber.

譯。dazu おまけに er 彼が mit seinem Böglings an der Schnur 自分の教へ子[犬]の索をひいて durch die Gassen schritt 街路を歩いてゐる wenn 時 oder 若しくは der entfesselte Thasso 索を放れたタッソーが wieder einmal 又もや sich die Ohren verstopfte 耳に栓をして [主人の吩咐を聞かぬ][やうな事を仕出かし] und そのために durch Steinwürfe 石を投げ附けられて an seine Pflicht gemahnt werden mußte 自分の義務を想ひ出させて貰はなければならないやうな wenn 時には die Patrizier 貴族等は hätten ganz besonders höhnische Blicke 特別侮蔑

的な眼附をする[やうに] dünkte ihm 彼には思はれた。neulich 最近 Meister Richwin リヒギン親方が mit tiefer Verbeugung 低く身を屈めて sie.....grüßte 彼女[令嬢]に挨拶をし indes つつあると der Hund 犬が am Strick unwiderruflich 索を支へ切れない程[強く] zum nächsten Edstein 間近かの隅石の所へ hinüberzog 引つ張つた so daß ので die Verbeugung そのお辞儀が fast 危く sich.....zum Fußfall gesteigert hätte 跪坐に成りさうになつた als 時 jene vornehme Jungfrau あの貴族の令嬢は wie spöttisch hatte nicht.....gelächelt 如何に侮蔑的にせせら笑つたことか! und それに Thasso タッソーが ja noch einmal その上只の一處でも an ihren galoppierenden Pferden hinaufsprang 彼等[貴族]の駆けてゐる馬に飛びつく[やうなことをした] wenn 時には allezeit 何時でも die edeln Herren 貴族等は waren..... nicht.....am größten 一番失禮であつたではないか? dagegen 之に反して die friedlichen Schritte einherreitenden Zünftler 穏やかな歩調で馬を乗り廻してゐる組合員は das それ[タッソーが飛び附くこと]を wie duldsam nahmen.....auf 如何に寛容に受け容れて呉れたことだらう!

so このやうにして Thasso タッソーは auch hier 此處に於ても was keinem andern gelungen war 他の誰にも成功しなかつたことを vollbrachte 成し遂げた: [即ち] er 彼[犬]は an der Hundeschur [自分の] 頸の索で引いて seinen Herrn 自分の主人を ganz leise 何時の間にか von der Neutralität 中立の立場から zur Partei der erbittertsten Zünftler 激昂せる組合員の側へ zog.....hinüber 引き移したのである。

註。【1】 *dünken* (思はれる) は前に一度出たことのある非人稱動詞であるが、Dazu (おまけに、それに加へて) が文頭に来て *dünkte es* と倒置しなければならない時には、その *es* は省略されるのが普通である。もし Ihm が文頭に来れば「必ず」 *es* を省く。(第三卷 277)——【2】 *Blick haben* は「...の眼つきをしてゐる」であるが、その *haben* が第二式接續法の *hätte*となつてゐるのは、第三卷 211 に述べた、「疑惑の意を含ませた引用」であると共に、第三卷 206 に述べた時稱の一致 (consecutio temporum) の場合である。——【3】 *wieder einmal* (又もや) は既に再三出て來た熟語。——【4】 日本語でも耳に栓をかふと云ふ。——【5】 *an etwas mahnen* (或事に關して警告を發する)=*an etwas erinnern* (或事を想ひ出させる), *auf etwas auf-*

merksam machen (或事に關して注意を喚起する)——【6】此の nicht は無くても同じである。Wie spöttisch hatte jene vornehme Jungfrau gelächelt! (彼の貴族のお嬢さんが如何にせせら笑つた事よ!) と Hatte jene vornehme Frau nicht spöttisch gelächelt? (彼の貴族の令嬢がせせら笑つたではないか) といふ反語文との交錯 (Contamination 第四卷 404) である。——【7】 niedrig (低く) の意に tief (深く) を用ひるのが獨逸語の癖である。——【8】 indes. (währendしつつある間に) は元來は從屬的接續詞であるが、(第四卷 298) 後屬的な意味故、原文通りの順に譯したのである。(第四卷 300) 次の so daß も同様。——【9】 Ecke は家の Ede (角) にある石で、車が角を曲る時に家にぶつからない様に据ゑたもの。それが町角でなければ Prellstein, Abweisstein (跳石、車止石) と云ふ。——犬が主人を隅石の所へ引つ張つたのは、多分其處へ小便する (Wasser abschlagen) ためだつたらうから尙更笑はせる。婦人もむしろそれが可笑しかつたのたらう。——【10】 Fußfall, m. (跪坐、土下坐) これは Liebeserklärung (私は貴女を愛しますと云ふ愛の宣言) でもやる時の姿勢だ。——【11】 hätte と約束法が用ひてあるから、まさか實際膝をついたのではないらしい。「もし運でも悪かつたら」 (wenn das Glück dem Meister nicht hold gewesen wäre) とでも云つた假定の部が省かれてゐると考へればわかる。——【12】 am größten の形と意味については一應第三卷 226 に述べた規則を想ひ出して貰ひたい。

——【13】 ja は文勢を強めるための助詞 (Partikel) で、「とにかく」と云つた様な意味を持つてゐる。ja noch einmal (とにかくまた一度でも) である。nur noch einmal (ただの一度でも) と考へても好い。犬の惡癖はもう直つた事になつて、自他ともに許してゐる。けれども一度や二度の「ぶり返し」 (Rückfall, Rezidiv, n.) は etwas ganz Menschliches (萬々無理もない事) だ。そんなにやかましい事を云つたつて仕様がない (So genau darf man es nicht nehmen!). かういふ Richwin の側の意見で考へれば、貴族たちの態度はあまり甚すぎる。「彼等は、とにかく一度でも再犯を犯すと、もうそれで感情を害する」といふ事になつて来る。その「餘りに厳格に考へすぎる」といふ意見が ja といふ助詞になつて文脈の中に一縷の感情を交へてゐるのである。——【14】 friedlichen Schrittes. (第四卷 329)——【15】 aufnehmen は、悪く取る、善く取る、の「取る」。hinnehmen (受け入れる) を用ひても好い。——【16】 hier は、よく in diesem Falle (此の場合に於て) の意に使はれる。auch hier は auch diesmal (今度も、今回も) と云つても好い。——【17】 keinem andern = sonst niemand, sonst niemandem. (他の誰にも)——【18】 ganz

Kontamination.
交 錯

Eckstein
車止石

leise (極く弱と)=sachte (こつそりと) allmählich (何時の間にか) unvermerkt (不知不識の間に) ohne daß er's merkte (彼が気がつかない中に)——【19】 erbittert (激昂せる)=feindselig (敵愾心ある) grimmig (鼻息の荒い)。

31.

Das wurde fest und fertig,¹ als die Weißlarer Kaufleute und Handwerker auf² Ostern 1368³ zur Frankfurter⁴ Messe⁵ gingen. Sie bildeten einen stattlichen Trupp, der geschlossen⁶ zusammenhielt⁷ bei der Fahrt durch die Wetterau,⁸ wegen räuberischer Angriffe.⁹ Die Geschlechter waren vor dem¹⁰ auch mitgeritten in der Reisesschar ihrer Stadt, und Meister Richwin auf seinem stolzen Rappen hielt sich sonst¹¹ lieber¹² zu¹³ den vornehmen Leuten als zu den Zunftgenossen, die zu Fuß oder auf langsamem Kleppern¹⁴ die Nachhut¹⁵ bildeten. Heuer¹⁶ aber ließ er den Rappen zumeist¹⁷ bei seinen Saumtieren¹⁸ und ging zu Fuß unter den Zünftlern. Denn Thasso lief zur Seite, und vom Roß herab¹⁹ hätte er den Hund doch²⁰ nur in halber²¹ Bücht²² halten können.²³ Die Zunftgenossen aber freuten sich gar sehr²⁴ über die neue leutselige Art²⁵ des Meisters, der den schönsten Rappen beim²⁷ Troß²⁶ führen ließ, um mit ihnen zu Fuß zu gehen. Da fiel²⁸ gar manches Schmeichelwort, und die Reden der Volksmänner,²⁹ welche früher bei Richwin gar nicht verfangen³⁰ hatten, fanden jetzt die beste Statt³¹ in seiner Seele. Und als der Zug an der Friedberger Warte³² hielt und herabsah³³ auf die Türme von Frankfurt, da war Meister Richwin eingeweiht³⁴ und eingeschworen³⁵ in den Bund der Zünfte wider³⁶ die Geschlechter. Johannes Rodinger, der Hauptmann³⁷ des Geheimbundes, schüttelte³⁸ ihm dankend die Hand und rief:³⁹ „Ach Meister, wie seid Ihr ein besserer Mann geworden, ja⁴⁰ erst jetzt ein ganzer⁴¹ Mann, und das⁴² in der kurzen Frist⁴³ von Aschermittwoch bis Ostern!“⁴⁴

譯。die weßlauer Kaufleute und Handwerker ヴェツツラルの商人や職人が auf Ostern 1368 一三六八年復活祭を當て込んで zur Frankfurter Messe gingen フランクフルトの市に出掛けた als 時 das この事[リヒギン親方が中立を脱して組合側に附いたといふこと]は wurde fest und fertig 決定的になつた。sie 彼等[ヴェツツラルの商人及び職人]は einen stattlichen Trupp 一つの堂々たる隊伍を bildeten 組み ber それ[その隊伍]は bei der Fahrt durch die Wetterau ヴェツテラウを通過する際には wegen räuberischer Angriffe 山賊の襲撃に備へて geschlossen zusammenhielt 固く密集した。vor dem これより前に die Geschlechter..... auch 貴族も亦 in der Reisesschar ihrer Stadt 自分の市の隊員の群に waren..... mitgeritten 騎馬で同行してゐた、und 所で Meister Richwin リヒギン親方は sonst 何時もならば auf seinem stolzen Rappen その颯爽たる黒馬に跨つて zu Fuß oder auf langsamem Schleppern 徒歩乃至はのろくさい駄馬で die Nachhut bildeten 殿を承はつてゐる die 所の zu den Kunstgenossen 組合員に als よりは lieber 寧ろ hielt sich..... zu den vornehmen Leuten 貴族の仲間に加はつてゐた。heuer aber 所が今年は er 彼は den Rappen その黒馬を zumeist 大抵は ließ bei seinen Gaumtieren 自分の駄獣と一緒にして置い und unter den Zünftlern 組合員に雜つて ging zu Fuß 徒歩で行つた。denn 何故かといふに Thasso タッソーが lief zur Seite 站んで歩いてゐた und それで vom Stoss herab 馬上からは[馬に乗つてゐたのでは] er 彼は den Hund 犬を doch どうしても hätte nur in halber Bucht halten können [よし監督出来るにしても]ほんの中途半端な監督しか出来なかつたであらうからである。aber 所が[一方] die Kunstgenossen 組合員達は um mit ihnen zu Fuß zu gehen 彼等[組合員]と共に徒步で行くために den schönsten Rappen 例の見事な黒馬を beim Troß führen ließ [乗り棄てて]從軍隊と一緒に[馬丁に]案かせてゐる der 所の über die neue leutselige Art des Meisters 親方の今迄にない愛想よい態度を見て freuten sich gar sehr 非常に喜んだ。da さういふ譯で gar manches Schmeichelwort とても澤山のお世辭が fiel 溶れた、und 且つ früher 以前は bei Richwin リヒギンには gar nicht verfangen hatte 全然効目がなかつた welche [所の] die Reden der Volksmänner 民魁の演説は jetzt 今度は fanden..... die beste Statt in seiner Seele 彼に快く受け容れられ

た。und wo, der Bug 一行が an der Friedberger Warte hielt フリートベルクの望樓の傍に立ち止つ und zu herabsah auf die Türme von Frankfurt フランクフルトの城樓を見下ろした als 時 da その時には Meister Richwin リヒギン親方は in den Bund der Bünste wider die Geschlechter 貴族に對する組合の盟約へ war..... eingeweihet und eingeschworen [既に]加盟血誓してゐた。Johannes Rodinger, der Hauptmann des Geheimbundes その秘密結社の首領なるヨハンネス・ローディングルは schüttelte ihm dankend die Hand und rief 感謝をこめて彼[リヒギン]の手を打ち振りながら言つた: « Ach Meister! これは親方! wie 實に Ihr 貴方は seit..... ein besserer Mann geworden お變りになりましたねえ、ja いや、erst jetzt 今こそ ein ganzer Mann ほんとうの男[になりましたよ]、und das 而もそれが in der kurzen Frist von Aschermittwoch bis Ostern! 聖灰祭から復活祭に到る短期間のことですからねえ!』

註。【1】fest und fertig [fix und fertig が普通] werden=整然とする、出來上る、首尾が整ふ。das wurde fest und fertig=das kam zur Reife (それは成熟の状態に達した) das wurde endgültig besiegt (それは決定的に完結した) das wurde endlich eine ausgemachte Sache (それは遂に断固たる事實となつた) Das stand endlich fest (それは遂に確立した)—fest und fertig も fix und fertig も、口調の好い様に f が揃へてある。これを頭韻 (Alliteration, Stabreim) と云ふ。gang und gäbe (當然、支配的、公認的) flipp und klar (明瞭に、きつぱりと) Haus und Hof (家邸) ohne Raft und Ruh (休みなく) über Stock und Stein

Alliteration, Stabreim. 頭 韵

(驀然、まつしぐらに)等の Hendiadys (二語一想) に屢々見掛けられる現象である。中世紀以前の詩の古いものは、脚韻を踏む代りに頭韻を踏んでゐて、これが獨逸古詩の著名なる特徴とされてゐる。—【2】auf の次に時間概念の抽象名が來ると、.....を目掛けて、.....を當て込んで、.....の豫定で、要するに未來を指す。春の復活祭には Ostermesse (復活祭の市) が立つからである。—【3】1368=dreizehnhundert achtundsechzig と讀む。(第四卷 337).—【4】Frankfurt am Main [略して Frankfurt a. M.] の事。Goethe の生れた町。—er の語尾に關しては第四卷 357.—【5】Messe は元來寺院の彌撒(回向、會式、供養)の事であるが、同時に Jahrmarkt (歳の市) が立つから、市そのものを意味するに到つた。つまり日本の縁日。—【6】geschlossen. [schließen 閉鎖する、の過去分詞] は、「密集して」「隊伍を組んで」—【7】

zusammenhalten 團結する。結束する、固める。——【8】 Wetterau, f. は Wehlar から Frankfurt へ行く途中の平原の名。——【9】 此の當時は、普通の Landstreicher (ごろつき) Räuber (追剝) Buschklepper, Straudieb (山賊) 等以外に、戦國時代特有の Raubritter (野武士) がゐて隊商を襲つたものである。——【10】 vordem = ehe dem, früher (以前) 今では現在から出發して「以前」といふのではなく——そんな事を云へば此の物語全部は「以前」に相當する。——此の物語の時期から出立して「それより」以前といふ意である。つまり vor dieser Zeit の意。——これは決して

「今日」と「その日」

Spitzenbigkeit 所謂「堅白異同之辯」ではない。

語學上必要な區別である。現在に立場を取つた時と、過去または未來の隨意の一點から發して云ふのとでは、同じ種類の概念でも言葉が違つて来る。

—現在から發して—

heute 今日
jetzt 今
morgen 明日

gestern 昨日

fünftighin 今後は
fürderhin „
bis jetzt 今まで
heutzutage 現今は

—隨意の一點から見て—

an diesem Tage	其の日
in diesem Augenblick	其の時
des andern Tages	翌日
am folgenden Tage	"
tags drauf.	"
am vorhergehenden Tage	その前日
tags zuvor	"
später	其の後は
seitdem	"
bis zu dieser Zeit	其時までは
damals	當時は

——【11】 sonst (いつもは、これまで)——【12】 lieber (寧ろ) は gern (好んで) の比較級。gern, lieber, am liebsten.——【13】 sich zu jemandem halten (或人の方へ寄り添ふ、仲間になる) sich zu jemandem gesellen.——【14】 Klepper, m. 又は Gaul, m. は Pferd, n. (馬) を貶して云ふ言葉である。(良く云ふと Ross 駿馬) Mädel (娘) を Dirne (阿魔) と云つたり Knabe (少年)

Depretiativa.

貶語

を Bube, Bub (小僧) と云つたりするのも稍やそれに似てゐるが、Pferd を Klepper と云つたり Arzt (醫者) を Quacksalber (箇醫者); Buch (書物) を Schmüler (駄本); Aufstand (暴動) を Putsch (結局失敗に歸する

やうなやくさな騒動); Schauspielergruppe (劇團) を Schmiere (旅役者、即ち無責任な劇團) と云つたりするのは要するに惡口である。かういふ言葉を Depretiativ (貶語) または Pejorativ (悪化) といふ。大抵の單語にはそれに相當する一個乃至一個以上の Depretiativ があると思つて好い。殊に西洋人は東洋人以上に口さがない人種だから。——【15】 „hut は帽子 (Hut, m.) ではなく、守る (hüten) といふ Hut, f. (衛) である。Nachhut (後衛、殿) は Vorhut (前衛) または Vortrab (先驅) の反對。行軍隊形でなく、陣形 (Schlachlinie) に關する時には Vortreffen, n. (前線) Hintertreffen, n. (後陣、陣後) といふ。die Nachhut bilden, 殿を承る。

——【16】 heuer = in diesem Jahre.——【17】 zu-

meist = meistens (大抵)。——【18】 Gauntier, n. =

Lasttier, n. (駄黙) — Gaum, m. は普通あまり使

はない言葉で、Traglast, f. (荷物) の意。——【19】

vom Ross herab は「馬上から」ではなく「馬上からは」または「馬上からでは」である。此の一寸した「は」が非常な相違になる。これを假定強調と云ふ。(第四卷 333 副詞句の假定強調法) それに否定詞がつけば、その強調され

假定強調

た部分だけが否定される(第四卷 401 局部強調の目的

を以てする nicht の後置) ohne といふ前置詞にも「…

…なし」と云ふ意味の時と、「……がなくては」とい

ふ意味の時と二様ある事は既に述べた(第三卷 239) これらは凡て假定強調といふ現象であつて、先置法(第一卷 74 倒置法 3) は往々にして此の假定強調を表はすために利用される。——【20】 doch は、「それでは矢張り」といふ「矢張り」。——【21】 halb (半ば) は、「中途半端」、即ち「不充分な」「不徹底な」の意に用ひられる。ein halber Krenner (半可通) eine halbe Wahrheit (不充分な眞理、一面觀)。——【22】 in Sucht halten, züchtigen = 監督する、監督下に置く、薰陶する、矯正する、感化する、訓練する、淘冶する。——【23】 第三卷 256。——【24】 gar sehr = ganz besonders, überaus, gewaltig, höchstlich, unsäglich 等、「非常に」。——【25】 此の Art, f. は、「方法」ではなくて「禮儀」である。——【26】 Ross, m. は、軍隊の後から附いて行く輜重の事。隊商の場合にあつても、馬丁 (Pferdefnechte) や糧食車 (Proviantwagen) なぞは一塊りになつて後方で Ross を形成してゐると見るべきである。——【27】 此の bei は、輜重隊の「許で」または輜重隊の「所で」であつて、決して輜重隊に「よつて」導かしめるのではない。bei は決して英語の by (によつて) ではない。——【28】 fallen は Wort (言葉) について云ふ際には「洩れる」の意。——Richwin の側から云へば Da bekam er gar manches Schmeichelwort zu hören.——【29】 Volksmann は Volksfreund (人民

の味方) *Bolksredner*, *Demagogue*, *Agitator* (煽動者) *Bolksführer* (民衆の指導者) *Bolksheld* (人氣者) 等を打つて一丸としたやうな言葉である。現在ではそれに對する惡口(前出の *Depretativ* 贶語)が出來てゐて、*Bolksverführer* (民を惑はす者)といふ言葉が使はれる。——【30】 *versangen* (効を奏する)=*verschlagen*, *helfen*, *taugen*, *wirken*。——但し否定の時には *nicht* の代りに *nichts* を使ふのが普通である。 *welche früher bei Richwin gar nichts geholfen* [= ob. *vermocht*, *getaugt*, *verschlagen*] *hatten*。——【31】 *Statt* は *Stelle*, *Platz* (場所)である。——彼の心の中に最良の場所を見出した、とは、歓び迎へられた (*wurde willkommen geheißen*)。快く受け入れられた (*willig entgegen-genommen*)の意で、つまり「所を得た」ことである。——【32】 *Warte*, *f.* は、小高い丘等に建てて、敵が城壁に近づかぬ間に、市の方へ狼火等を以て合図する「物見櫓」「望樓」「遠望哨所」である。——【33】 *herabsah* は元來文章の最後に来る筈であるが、少し *poetisch* に云はうとすると、*auf die Türme* 云々を特に抽出するために、定形を前に置く。次の *eingeweiht* 等も同じ理。——【34】 *einweihen* [英語の *to initiate*]——元來は、或人を秘密結社や、その他たとへば神靈教會的なものに入社せしめるために、或ひは洗ひ淨め、或ひは規定の儀式を行ふ事であるが、それから轉じて一般的に、何でも「入會、入社、加盟、入門」、せしめ、または秘訣等を「傳授」する事を云ふ。たとへば *einen in ein Geheimnis einweihen* [*to initiate some one in a secret*]——従つて *die Eingeweihten* (玄人、斯道の人、消息通、關係者、内輪の者) *die Uneingeweihten* (素人、門外漢、外部の者) 等の名詞もある。*einführen* (案内する、初步の手ほどきをする) も一寸似た概念である。——【35】 *eingeschworen* (*einschwören* の過去分詞)=宣誓起請の手續きに依て「這に入る」、即ち加盟する事。——【36】 *wider=gegen*。——【37】 現今は海軍大尉 (*Kapitän*) に對して陸軍大尉を *Hauptmann* [但し騎兵大尉は *Rittmeister*] と云ふが、昔は、何でも首領、領袖、頭目、の事を *Hauptmann* と云つたものである。例へば群盜の頭目をも *Mäuerhauptmann* と云ふ。つまり *Häuptling* と同じである。(*-ling* の語尾は何々兒、何々子、……屋、……坊主、……漢に當る) ——*der Hauptmann des Geheimbundes* の句は前の固有名詞の *Apposition* (同格附加名詞) であると云ふ。——【38】 *einem die Hand schütteln* は單に握手する (*einem die Hand geben*) 手を握り締める (*einem die Hand drücken*) とは違つて、英語の *to shake hand* と同じで、上下に振る事であつて、單なる儀禮ではなく、何か感動すべき謂はれるある時にしかしない。——【39】 かういふ *rufen* を「叫ぶ」(*schreien*) と同一視するのは誤りである。*ausrufen* [*to exclaim*] も同様である。文字に書いた際に! [Ausrufungss-

rufen [呼ばはる] は
schreien [叫ぶ]
に非す。

[zeichen] の印を附ける時には、たとへ日本語では「……と言つた」と云ふ可き場合でも獨逸語では *rief er [aus]* と云ふだけの話である。勿論普通よりは一段と聲が高くなる事は其の意味の中に這入つてゐる。——【40】 第四卷 304 の表。——【41】 *ganz* は前述の *halb* の反対で、*vollkommen* (完全な) の意。——換言すれば *ein ganzer Mann*=*ein Mann im eigentlichen Sinne* (眞の意味に於ける男兒)。——【42】 *und das* (それも、しかもそれが) は慣用句である。*Komm zu mir, und das schnell!* (僕の所へおいで、しかも直ぐにだよ)。*Er erbrach sich, und das in der Elektrischen!* (彼奴は「げろ」を嘔いた、しかもそれが電車の中だ!)——【43】 *Grift, f.* は、まあ *Zeit* と云つても好いが、主として劃然と限定された時間 (*ein beschränkter Zeitraum*) 即ち「期間」の事を云ふ。*Zeitraum* とも云ふ。——【44】 犬が鶏を噛み殺して *Richwin* 氏をして愛犬教育の大望を抱かせたのが聖灰祭で、今はそれから約四十日後の復活祭である。

32.

Gerhard führt auf¹ wie aus einem Traum und erwiderte:
„Ei freilich! Ich wußte wohl, daß der Hund von edler Art²
sei,³ und daß ihm nur die rechte Zucht fehle. Ja, Meister
Rödinger, es geht nichts über⁴ eine gleichmäßige, ausdauernde
und feste Schule,⁵ die bändigt⁶ selbst⁷ eine Bestie.⁸ Aber Thasso
kann nun freigesprochen⁹ werden von der Lehre, und das soll¹⁰
geschehen,¹¹ sobald wir nach Weßlar heimgekehrt sind.“¹²

譯。 *Gerhard* ゲールヘルトは *führt auf wie aus einem Traum* まるで夢から目醒めたやうな面持をし *und erwiderte* 答へた: 「*Ei freilich!* さうですとも! *ich* 私は *der Hund* あの犬が *von edler Art* *sei* 優秀な種族に屬する *däß* といふこと *und* そして *ihm* 彼[犬]には *nur die rechte Zucht* 適當な訓練だけが *fehle* 缺けてゐる *däß* といふことを *wußte wohl* 良く知つてゐました。 *ja, Meister Rödinger* いや、まつたくですよ、*es geht nichts über* *eine gleichmäßige, ausdauernde und feste Schule* 規則正しい、根氣強い且つ確固たる教育に優るものはありませんよ、*die bändigt selbst eine Bestie* さういふ教育をすれば畜生すらも馴れますからね。 *aber* 併し *Thasso* タッソーは *nun* もう *von der*

Lehre 訓育から kann.....freigesprochen werden 解放しても差支へありません、und それも wir 私達が nach Beßlar heimgekehrt sind ヴェツラルへ歸る sobald や否や直ぐに das soll geschehen 實行しようと思ふのです。】

註。【1】 auffahren は、「ハッとする」「飛び立つ」事。Gerhard fuhr auf wie aus einem Traum. ゲールハルトは恰も夢から[醒めたか]の如くにハッとした。= Es war, als erwachte er von einem Traum. (まるで夢から目さめたかの如くであった)—— wie の用法に注意せよ。——【2】 此の Art は Sorte (種類) Rasse (種族)。——【3】 現今の Umgangssprache [colloquial speech] では斯う云ふ時は必ず ist であつて、接續法は用ひない。次の fehle も fehlt 又は fehlte になる。——【4】 es geht nichts über..... (.....に勝るものはない、.....に限る) は熟語。——【5】 Schule は茲では「學校」ではなく、「教育」の意である。——【6】 bändigen (馴らす、御する) は Band (羈絆、物) から來た動詞で、野性動物等を zahm machen, firre machen (威嚇して調御する) すること。たとへば Tierkünstler, Tierbändiger (猛獸使ひ) 等のやることである。——【7】 selbst は所謂前置的接續詞。(第四卷 309—311) sogar と同じ。——【8】 Bestie [ベスティエ] (畜生)——此の發音は例外的で、Bes-tie と三級に分けて發音し、アクセントは最初の綴 Bes- にあり、tie をティエと云つて、ティーとは云はない。斯う云ふ例はかなり多いから注意を要する。Lilie 百合 Linie 線 Dahlie ダリヤ Mafzie アカシヤ Binie 傘松 Arie 歌劇の「アリヤ」 Mumie 木乃伊 Statue 立像 Glorie 後光、榮光 Furie 狂神 Historie 物語 Materie 物質 Familie 家庭 Komödie 喜劇 Tragödie 悲壯劇 Utterie 動脈 Grazie [grace] Lappalie 些細な事柄 Hostie 聖餅——その他女の名に多い Amalie アマーリエ Ottolie オッティーリエ Emilie エミーリエ等。——但し長い學問名、病名其他は別である Anatomie [アナトミー] 解剖學 Diphtherie [ディフテリ] デフテリヤ、等。

——【9】 freisprechen は元來無罪の論告をする事であるが、よく誇張的に「解放する」「免除する」の意に用ひる。——【10】 sollen は、かく云ふ Richwin 自身の意志を表示してゐる。das soll geschehen = ich will es tun と同じ。(第三卷 249)——【11】 geschehen = getan werden. (爲される)——【12】

Zwangsvorstellung; fixe Idee.
強迫観念

此の一くだりも、相手の Rödinger 氏が Richwin 自身の事を云つてゐるのに Richwin の方では犬の話で返事してゐる所が面白い。親方

がすつかり犬に惚れ込んで (rein in seinen Hund vernarrt) 犬がほとんど強迫觀念 (fixe Idee, Zwangsvorstellung) になつてゐると云ふ所を、ちよつとした問答の様式化 (Stilisierung des Dialogs) によつて巧みに性格描寫 (charakterisieren) をしてゐる。

33.

Der Sturm¹ war² in Beßlar losgebrochen, die Geschlechter waren verjagt, die Bünste hatten das Feld³ und zugleich das Regiment⁴ der Reichsstadt gewonnen.⁵ Meister Richwin hatte voran geleuchtet⁶ im Kampfe durch Ausdauer, Strenge gegen sich selbst⁷ und andere⁸ und durch seinen unversöhnlichen⁹ Haß gegen die Patrizier. Die Mitbürger¹⁰ staunten über den verwandelten Mann.

譯。der Sturm 嵐は in Beßlar ヴェツラルで war losgebrochen 勃發した。die Geschlechter 貴族は waren verjagt 駆逐せられ、die Bünste 組合は hatten das Feld und zugleich das Regiment der Reichsstadt gewonnen 勝利を得ると共に該自由市の支配権をも獲得したのであつた。Meister Richwin リヒキン親方は im Kampfe 戰闘中は durch Ausdauer, Strenge gegen sich selbst und andere 辛抱強さ、自他に對する厳格さにより und 及び durch seinen unversöhnlichen Haß gegen die Patrizier 貴族に對するその執拗な憎悪によつて hatte voran geleucht 斷然先頭を切つたのであつた。die Mitbürger 仲間の市民達は über den verwandelten Mann この面目を一新した男を見て staunten 驚きの目を瞠つたのであつた。

註。【1】 嵐といふのは、貴族放逐の叛亂の事。所謂後世の Revolution. —【2】 此の過去完了體に注目せよ。嵐が起つてしまつた後の一時期から話が初まつてゐるのである。もし Der Sturm brach los と過去時稱になつてゐたら、さあ大變、讀者は嵐が正に勃發した瞬間に身を置き移さねばならぬ。(第二卷 110 と 111)——【3】 Feld, n. [英 field] は「野」で、同時に戰場の事を云ふ。(die Feldgrauen は歐洲大戰中に出來た言葉で、出征兵士の事である) das Feld gewinnen = die Schlacht gewinnen (戦に勝つ)——英語の

campaign (戦役) も佛語の campagne (原野) から來てゐる。(獨逸語では「戰役」は Feldzug)——【4】 das Regiment は、普通は「聯隊」の意、茲では Herrschaft (支配權、天下)——たとへば Frauenregiment (女天下) 等の語がある。Regierung (政府) regieren (支配する) Rektion (格支配) 等も同語源。——【5】 gewinnen [英 win と同様、「獲得する」意と「勝つ」意とを持つてゐる。——茲では das Feld と das Regiment との兩語に兩意を以て掛かつてゐる所に注意。——【6】 voran (先頭に立つて) leuchten (照らす) とは、燈を翳して、または松明火 (die Fackel) を高く掲げて先導する事である。學問書や文學書、その他警世、先覺的な書物や貼札 (Plakat) 等によく松明火をかけた人物が象徴に用ひられるが、いづれも教導、先驅、指導、一番槍、先覺、尖端を行く、の意の Sinnbild (象徴) である。 führende Stellung einnehmen (指導的地位に立つ) im Vortreffen kämpfen (最前線で戦ふ) なんてのが近頃の流行句 (beliebte Ausdrücke) である。——【7】 即ち Selbstbeherrschung (自制)——然し茲では sich と andere とに分けてある。——【8】 第二卷 197.——【9】 versöhnen (宥める、心を和らげる) から來た形容詞で、宥め難き、何と云つても聞かぬ、頑固な、執拗な、妥協 (Kompromiß) を知らぬ、強硬なる。(英 implacable).——【10】 Mit- は英の com-patriot の com (con) または classmate 等の mate に相當する。Mitmenschen 同胞 Mitglied (一員 member) Mitschuldiger 共犯者 Mitschuldner 連帯負債者 Mitstudent 學友等造語が多い。語尾としては -genoß, -genosse がある。Spielgenoß, 遊び仲間 Söttgenoß 配偶者、等。

beliebte Ausdrücke
流行語

名詞の前綴としての
Mit-

尖端を行く、の意の Sinnbild (象徴) である。 führende Stellung einnehmen (指導的地位に立つ) im Vortreffen kämpfen (最前線で戦ふ) なんてのが近頃の流行句 (beliebte Ausdrücke) である。——【7】 即ち Selbstbeherrschung (自制)——然し茲では sich と andere とに分けてある。——【8】 第二卷 197.——【9】 versöhnen (宥める、心を和らげる) から來た形容詞で、宥め難き、何と云つても聞かぬ、頑固な、執拗な、妥協 (Kompromiß) を知らぬ、強硬なる。(英 implacable).——【10】 Mit- は英の com-patriot の com (con) または classmate 等の mate に相當する。Mitmenschen 同胞 Mitglied (一員 member) Mitschuldiger 共犯者 Mitschuldner 連帯負債者 Mitstudent 學友等造語が多い。語尾としては -genoß, -genosse がある。Spielgenoß, 遊び仲間 Söttgenoß 配偶者、等。

34.

Als der neue Rat nunmehr rein demokratisch aus den Bünsten gebildet wurde, fiel¹ die Wahl auch auf Meister Richwin. Noch vor einem Jahre, da² er sich³ doch² gar nicht um³ das Gemeinwohl kümmerte,³ war es das süßeste Traumbild⁴ seines Ehreizes, einmal Ratsherr zu werden; heute, wo er heiß⁵ gearbeitet und gerungen hatte für die Stadt, lehnte er ab. Niemand erriet die Ursache und alle be-

stürmten⁶ den Meister, daß er in den Rat eintreten oder doch mindestens den Grund seiner Weigerung offenbaren möge.⁷

譯。 der neue Rat 新議會が nunmehr 今や rein demokratisch 純粹に民主的に aus den Bünsten gebildet wurde 組合から形成された als 時 fiel die Wahl auch auf Meister Richwin リヒギン親方にも白羽の矢が立つた。 noch vor einem Jahre 一年前迄は未だ er 彼 [リヒギン] は sich.....gar nicht um das Gemeinwohl kümmerte 公共の福利などには鼻もひつかけなかつた da.....doch くせに einmal Ratsherr zu werden 一度市會議員になる es といふことが das süßeste Traumbild seines Ehreizes 彼の野心の最も甘き空想 war であつた。 [然るに] er 彼が für die Stadt 市の爲めに heiß gearbeitet und gerungen 悪戦苦闘をしましたへた heute, wo 今となつて er 彼は lehnte.....ab [議員になることを] 謝絶した。 niemand erriet die Ursache 誰にもその理由が解らなかつた und それで alle 皆が er in den Rat eintreten.....[möge] 議員に成つて欲しい oder doch さもなくば [それが嫌なら] mindestens せめて den Grund seiner Weigerung 彼の拒絶の理由 [だけでも] offenbaren möge 打ち明けて欲しい daß と言つて bestürmten den Meister 親方に詰め寄つた。

註。【1】 文字通りには「選擇はリヒギン親方の上に一下した」——即ち白羽の矢が立つたの意で、fallen といふ字が使つてあつても日本語の「落選」を考へては不可ない。 wurde auch Meister Richwin gewählt と同じ。——【2】 da.....doch は、「云々である辯に」といふ慣用句。——【3】 sich um etwas kümmern (云々に介意する、云々の事を気に懸ける。)——【4】 Bild = Vorstellung (想念、想像、表象) 何でも人間が脳裡に描き出す所のものを Bild, Vorstellung, Idee と云ふ。 Traumbild は所謂夢想、空想である。——【5】 heiß (熱い) は、よく戦闘などの激しい事を形容するのに使ふ字。 ein heißer Kampf=激戦、苦闘、難戦。 Der Tag war heiß! それは難戦苦闘の一日常であつた。——【6】 bestürmen は、人に「迫る」こと。 alle drangen in den Meister と云つても好い。——【7】 命令法的に用ひられる接續法第一式は、 mögen を用ひてもよろしい。然る時は勿論 mögen も接續法になる。(第三卷 209.)

35.

Nach langem Zögern und mancherlei¹ Ausflucht sprach er endlich: „Der Grund wird euch kindisch² scheinen.³ Mir aber ist er ernst und schwer. Ich kann nicht täglich⁴ auf⁵ dem Rathause sitzen in dieser drangvollen⁶ Zeit, weil⁷ ich meinen Hund nicht mitnehmen darf. Lasse ich aber das Tier allein daheim, so kommt wieder alles Unheil⁸ über mein Haus wie vordem.⁹ Ich sage wohl,¹⁰ der Hund hat ausgelernt;¹¹ aber¹⁰ wer lernt jemals aus?¹² Kein Mensch und kein Hund! Übergebe ich Thasso manchmal auf¹³ einen Tag dem Lehrjungen, so wird er gleich wieder rüdfällig,¹⁴ und es ist mir begegnet,¹⁵ daß ich selber an einem solchen Tage auch¹⁶ wieder rüdfällig geworden bin.¹⁷ Wir sind beide noch etwas schwach,¹⁸ wir dürfen uns nicht voneinander trennen. In der Vorhalle der Kirche mag¹⁹ ich die Messe so gut hören,²⁰ wie drinnen im Schiff,²¹ und der Hund steht an meiner Seite; als Ratsherr aber kann ich doch nicht²² allezeit vor der Türe des Ratsaals bleiben. Nehmet meinen Grund für²³ keine Grille.²⁴ Ich hege den Überglauben, daß mein Haus erst²⁵ wieder feststehen werde, wenn²⁵ Thasso einmal ganz fertig²⁶ gezogen²⁷ ist; ich darf mich noch nicht trennen von dem Hunde. Und wie sollte ich das wankende Gemeintwesen²⁸ festen helfen,²⁹ wenn mein eigen³⁰ Haus noch viel³¹ ärger³² wanlt?“

譯。nach langem Zögern und mancherlei Ausflucht 長い間遠巡し且つ色々と逃げを張つた後で endlich とうとう er 彼は sprach 口を割つた: Der Grund 理由は euch 貴方がたには wird.....kindisch scheinen 馬鹿馬鹿しいものやうに思へるかも知れません。aber 併し er それ[理由]は mit 私にとつては ist.....ernst und schwer 真剣且つ重大なのです。ich 私[二番目の ich]が meinen Hund 私の犬を nicht mitnehmen

darf 同道することが許されない weil 以上 ich 私は in dieser drangvollen Zeit 此の動搖の激しい時代に kann nicht täglich auf dem Rathause sitzen 每日議場に出席することは出来ません。aber それかといつて ich 私が[若しも] lasse.....das Tier allein daheim 犬だけを家へ置きつ放しにすれば so さうすれば wieder 再び wie vordem 以前同様に alles Unheil 不幸が次から次と kommt.....über mein Haus 私の家庭に降りかかる[でせう]。ich sage wohl それは成程 der Hund hat ausgelernt 犬は[一通りは]訓練を経ました。aber 併し wer lernt jemals aus? これでもう學ぶべきことがないなぞと言へる人があるでせうか? kein Mensch und kein Hund! 人間にも犬にもありません! ich 私は manchmal よく Thasso タッソーを auf einen Tag [ほんの]一日だけ dem Lehrjungen 徒弟に übergebe 託する[ことがあります] so さうすると er 奴[犬]は gleich wieder 直ぐに又 wird.....rüdfällig ぶり返します、und そして ich selber.....auch 私自身までが an einem solchen Tage さういふ日には wieder rüdfällig geworden bin 又も逆戻りしてゐる daß といふ es ことが ist mir begegnet 聞々ありました。wir.....beide 私達は兩方共[私と犬] noch 未だ sind.....etwas schwach 少し意氣地がないのです、wir 私達は dürfen uns nicht voneinander trennen 別々に離れてゐては不可ないです。in der Vorhalle der Kirche 教會の玄關先に居れば die Messe 弾撤は so gut....., wie drinnen im Schiffe 中の本陣に居ると同様に良く mag ich.....hören 聞えもしませう、und そして der Hund 犬[も] steht an meiner Seite 私の傍に立つてゐます、aber 所が als Ratsherr 議員になつたからには doch nicht allezeitまさか何時も kann ich.....vor der Türe des Ratsaals bleiben 議事堂の入口に立つたままでゐる譯にも行きますまい。nehmet meinen Grund für keine Grille此理由を決して狂氣の沙汰と思はないで下さい。ich 私は erst....., wenn Thasso einmal ganz fertig gezogen ist タッソーの教育が完全に終つた暁に於て始めて mein Haus 私の家が wieder 再び feststehen werde 安泰になるだらう daß といふ den Überglauben 迷信を hege 抱いてゐるのです。ich 私は noch 未だ darf mich.....nicht trennen von dem Hunde あの犬から離れてはならないのです。und であつて見れば mein eigen Haus 私自身の家が noch viel ärger 更に遙かに酷く wanlt ぐらついてゐる wenn のに wie sollte ich das wankende Gemeintwesen

festen helfen? ぐらついてゐる市を固める手傳なぞ出來ようわけがない
ではありますか!】

註. 【1】 *erlei* の語尾は形容詞的格變化をしない。(第四卷 410.) *mancherlei* は種類を意味する種數(第四卷 349)なるものであるが、此處では *nach mancher Aussicht* と *manch (solch)* 等と同變化)を使つても同意。—【2】 *kindlich* (小供くさい、馬鹿らしい)と *kindlich* (小供らしい、小供としての)とは違ふ。*kindliche Liebe* (孝行) *kindliche Liebe* (幼稚な愛)。—【3】 *scheinen* は、「照る、照らす」の意の外に *dunkeln, vorkommen* (思はれる)の意がある。—【4】 *täglich* 每日 *stündlich* 毎時 *monatlich* 月々 *jährlich* 每年。—【5】 *in* の代りに *auf* を用ひる事がある。それは「公開的」(*öffentlich*)な場所の事が多いが、また必ずしもさうでない事もある。*auf dem Markte* 市場で *auf der Straße* 往來で *auf dem Konzert* 音樂會で *auf dem Zimmer* 部屋で。—【6】 *drangvolle Zeit*=*stürmische Zeit*, *bewegte Zeit* (亂世、混亂時代、動搖せる時期)。—【7】 *weil* は普通「……の故に」と理由または原因を指す事になつてゐるが、その起源は *weilen* (滞在する、とどまる、續く)といふ動詞や *derweil* (……する間)といふ接續詞や *die Weile* (暇、時、—英語 *while*)等でも解る如く、*solange* (苟くも……する間は)の意味だつたのである。この場合などが、その移りかはりを察するのに非常に好都合である。「間に」の意の *weil* は今でもよく古風な言ひ廻しに残つてゐる。*weil es noch Zeit ist* (まだ間に合ふうちに、即ち、時の過ぎ去らぬ間に)等がそれである。—【8】 *Unheil, n.*=*Unglück, n.*—【9】 此の *vordem* は、31の註10にあげた分類によると、現今から出發した「以前」(*früher*)である。—【10】 *wohl*=*zwar, freilich* (なるほど……ではある)は必ず次に續く *aber, doch* 等と對比して考へる可きである。對照的接續詞。—【11】 *aus* は云々し「終る」の意を持つ。*auslernen* は習ひ終る、即ち教師の手を離れる、卒業する。—【12】 *Keiner lernt aus.* (學ぶ可き事は盡きず)と俗諺にも云つてある。—【13】 *auf* と時を意味する名詞の四格は、豫想、豫定をさす。*auf einen Tag*=一日間(一日の豫定で、または一日がけで)。—【14】 再犯、再發、あと戻り、ぶり返し、の事を *Rüdfall, m.* *Rezidiv, n.* と云ふ。その形容詞が *rüdfällig*。—【15】 *es ist mir begegnet=ich habe es erleben müssen* (……といふ事が聞々あつた、……といふ事實に遭遇した)。—【16】 *auch* は *ich* と共に考へる可きである。即ち *dass auch ich selber* と *ich* に接して置くのと同意。—【17】 親方は、犬も大だが、自分自身も多少改める可き所を持つてゐた事に

kindliche Liebe. 孝 行
kindische Liebe. 幼 稚 な 愛

大分氣がついたらしい口吻である。—【18】 *schwach* (弱い) といふ字は、*Bersuchung* (誘惑) に對して脆いことを意味する。つまり *unzuverlässig* (信用がならない、あやふや) といふのと同じである。だから、例へば大好物の事を *die Schwäche* と云ふ。*Schmack ist meine Schwäche!* (果物の砂糖煮は私の急所だ、即ち大好物だ) 等。—【19】 *wohl, zwar, freilich* [註 10 を見よ] は亦 *mögen* の直接法を以ても云ひ現はす事ができる。*mag* は「なるほど……するかも知れぬが」の意で次に来る *aber* と相對してゐる。—【20】 *hören* (聞こえる) は *zuhören* (聴く) とは違ふ。(但し *auf etwas hören* 云々に注意して聴く、と *Hört! hört* 謹聽々々、は例外)。—【21】 *Schiff, n.* 船ではなく、寺院の本堂の事。(即ち横の廊下を除いた。劇場で云へば平土間に相當する所)。—信者は此處に集つて説教を聽く) 本堂の天井は大抵長方形の丸天井で、一寸船を覆したやうになつてゐる所から來た名前であるとも云ひ、或ひは希臘語の *naos* (神殿) が誤つて *navis* [拉丁語、船] に譯されたからだとも云ふ。(英語の *nave* 佛語の *nef, f.* は共に *navis* から來てゐる)。—

—【22】 *doch nicht* は「まさか……」の意。—【23】 *etwas für etwas nehmen*=*etwas für etwas halten*。—【24】 *Grille, f.* 奇想、狂氣の沙汰。—【25】 *erst wenn.....* (云々したる時に於て始めて)=*erst dann, wenn.....*—【26】 *fertig ziehen=zu Ende ziehen*。此の *fertig, zu Ende* は、前述の *aus* と同じく「云々し畢へる」事である。—【27】 *ziehen=erziehen* 教育する、陶冶する。—【28】 *das Gemeintwesen* (公事、公共團體、政治) は羅馬人が *res publica* (公事) と呼んでゐた概念で、抽象的には *Gemeintwohl* (一般の利害) であるが、具體的には *Stadt* (市) *Staat* (邦家) の意。*Republik* (共和國) は *res publica* から來てゐる。—【29】 *helfen* は第三卷 253 に挙げた様な助動詞的な動詞の一つで、*zu* を伴はないで直ちに動詞と合する。(第三卷 255 の説明を参照せよ)。—【30】 *mein eigenes Haus* の代り。(第四卷 408)。—【31】 *viel=weit* (かつと、はるかに)。—【32】 *arg* (ひどい) の比較級。

36.

Nach dieser Rede des Meisters, die dem einen ernst,¹ dem andern spaßhaft dünkte, beschlossen die Ratsgenossen, es² sollte Thasso vor³ allen Hunden der Stadt das Vorrecht eines Sitzes im Ratssaale unter dem Stuhle seines Herrn erhalten, jedoch mit der Klausel,⁴ daß dieses Recht augenblicks⁵ erlösche, sowie⁶ sich der Hund eine Stimme⁷ anmaße.⁸

Nach einigem Sträuben fügte⁹ sich Meister Richwin nun doch dem Willen seiner Mitbürger und erschien pünktlich zu jeder Frist¹⁰ mit Thasso auf dem¹¹ Rathause. Diesen aber nannten die Weßlarer seitdem den „stummen Ratsherrn,” und stumm blieb¹² er in der Tat¹³; man hörte in Jahr und Tagen¹⁴ nicht, daß er wider¹⁵ die Klausel seines Privilegs¹⁶ gesündigt¹⁷ hätte.¹⁸

■。 dem einen ernst, dem andern spaßhaft dünkte 或人には眞面目なことのやうに思はれ、又或人には戯談半分のことのやうに思はれた die [所の] nach dieser Rede des Meisters 此の親方の話しが終つた後で die Ratsgenossen 同志の議員達は、 vor allen Hunden der Stadt 市中の凡ゆる犬を差し措いて das Vorrecht eines Sitzes im Ratssaale unter dem Stuhle seines Herrn 自分の主人の椅子の下に議院の一席を得る特權を es solle Thasso……erhalten タッソーに與へよう、 jedoch併し乍ら dieses Recht 此の特權は der Hund 該犬が sich……eine Stimme anmaße 発言を敢てする sowie や否や augenblicks 卽坐に exlösche 消滅する mit der Klausel, daß との但書で beschlossen 決議した。

Meister Richwin リヒギン親方は nach einigem Sträuben 二三抗言した後で nun doch それでも流石に fügte sich……dem Willen seiner Mitbürger 自分の同市民の意志に従つた und そして zu jeder Frist 何時でも mit Thasso タッソーを連れて pünktlich 時刻を違へず erschien……auf dem Rathause 議事堂に現れた。 aber 所が die Weßlarer ヴェツツラルの市民は seitdem それ以來 diesen 後者[犬]を den „stummen Ratsherrn” 「沈黙議員」と nannten 呼び[慣らした]、 und……in der Tat また實際 er それ[犬]は stumm blieb 終始沈黙を守つた; er それ[犬]が wider die Klausel seines Privilegs gesündigt hätte 自分の特權の留保條件に反する行爲をしたなぞ daß といふことは in Jahr und Tagen 久しう間 man hörte……nicht 人の噂に上らなかつた。

註。【1】 der eine……der andere (或人は云々、或人は云々)は「一方は……他方は……」即ち二人ゐる中の兩方を交々指す時に用ひるのが普通だが、斯

う云ふ風に die einen……die andern (一部の人は……他の人は……)の代りに用ひる事もある。—【2】 非人稱化した文章(第三卷 273)の有形無意の主語である。本當の主語は次の Thasso。—【3】 vor allen Hunden der Stadt (市中の凡ゆる犬を差し措いて) の vor は、次の Vorrecht (特權)に現れてゐる vor である。他を「差し措く」「出し抜く」「除外する」の意。—【4】 die Klausel, f.=Verwahrung, Vorbehalt, Bedingung (保留、留保、但書、條件)。—【5】 auf der Stelle (即時)。—【6】 sowie=sobald. 云々……するや否や。—【7】 Stimme, f. (聲) とは發言權の意。もつと轉ずると、意志の表示、票の事も Stimme と云ひ、票決する事を abstimmen といふ。Volksabstimmung, f. Plebisit, n. (國民投票)。—【8】 sich etwas anmaßen=sich etwas erlauben. (或事を敢てする) — sich は兩方とも三格の sich. (第二卷 155)。—【9】 sich einem fügen (或人に屈する、従ふ)=einem gehorchen。—【10】 zu jeder Frist=zu jeder Zeit, jederzeit. (何時でも)。—【11】 少し細かい事であるが、第三卷 236 で述べた如く、或る場所に向つて爲す運動を示すときには、 auf, in, an, zwischen その他三四格支配の前置詞は四格を支配すると云ふのが普通の規則であるが、日本語の概念で考へると其の例外となる場合が相當にある。erscheinen (現れる、即ち登廳する)は運動を指すから auf das Rathaus erscheinen と云ひさうだが auf dem Rathaus erscheinen と云ふ。einsprechen, einkehren (立ち寄る、繰り込む)も bei einem einkehren で、 zu einem ではない。ankommen (到着する)も auf dem Bahnhofe ankommen (驛頭で到着する)と云ふ。其の他「……へ来る」を意味するものの大部分は静止的な場所規定を伴ふから注意を要する。

運動の四格で表現しさうな所を
静止の三格で表現する文章

—【12】 bleiben の意に注意。「……の状態に終始して、それ以上一步も踏み出さない」即ち、或る状態を變へないと云ふ意である。Er bleibt groß. (彼は依然として偉大だ) er bleibt ein Kind (彼は小兒である事を止めない)。—【13】 in der Tat (また實際)は、前に述べた事が事實によつて證明される際に用ひる。tatsächlich, adv. (事實また)と同じ。單に auch (また)とも云ふ。Er versprach es, und hielt es auch. (彼はそれを約した、また實際守りもした) — denn auch (果して)も同じ様な意になる。けれども in der Tat の方は、多少「それが證據に」といふ意を伴ふところが違つてゐる。—【14】 in Jahr und Tagen=lange。—【15】 wider=gegen。—【16】 Privileg, n.=Vorrecht. (特權)。—【17】 sündigen は、誘惑に負けてつい「犯す」事を云ふ。既に wider die Klausel と云つてあるから、此處では單に gehandelt hätte と云つても好いのである。wider etwas handeln は (……に背く、に反する

行爲をする。)——【18】第二式接續法は斯くの如き非現實的事實を云ふ時に用ひる。(第三卷 211)。

37.

Auch auf der Straße schreckte er niemand mehr durch seine unbändige Spielerei¹; er war den Flegeljahren² entwachsen³ und schritt, nach⁴ großer Hunde Art,⁵ so still und stolz hinter seinem Herrn einher,⁶ als sei er sich⁷ des Vorrechtes vor allen andern Hunden der Reichsstadt Mar bewußt.⁷ Nun geschah⁸ es, daß Meister Richwin in der Ernte⁹ durchs Feld ging, hart¹⁰ an dem Graben, welcher das Stadtgebiet von einem Walde des Grafen von Solms schied.¹¹ Thasso schlich ruhig neben ihm. Mit einem Male¹² aber war¹³ er verschwunden. Richwin spähte ringsum, rief und pfiff. Der Hund kam nicht. Da rauschte und krachte¹⁴ es¹⁵ in dem Dickicht¹⁶ jenseit¹⁷ des Grabens, und von Thasso wie von einem Wolfe geheckt,¹⁸ brach ein königlicher¹⁹ Hirsch hervor, ein Zwanzigender²⁰ zum mindesten,²¹ stutzte,²² als er das freie Feld²³ und den Mann sah, lehrte um,²⁴ warf den Hund mit der ganzen Wucht²⁵ seines Geweihs²⁶ zur Seite und machte sich rückwärts²⁸ wieder freie Bahn²⁷ in die Büsche,²⁸ unter²⁹ dem Rauschen und Kniden³⁰ der Blätter und Zweige. Aber auch Thasso erhob sich von seiner augenblidlichen Niederlage und fuhr wie besessen hinter dem Tiere drein,³¹ und man hörte bald³² nur noch³³ fernher³⁴ das Rauschen und das Pfeifen,³⁵ womit der Hund Laut³⁶ gab. Der arme Richwin pfiff sich die Lippen trocken³⁷ und rieß sich die Lungen atemlos³⁸; all seine feine³⁹ Dressur war verschlungen⁴⁰ von Thassos Jagdfieber.⁴¹ Zweimal trieb er ihm den Hirsch zum Graben entgegen, gleich als⁴² wolle er ihn dem Herrn zum Schusse stellen,⁴³ und zweimal brach der Hirsch wieder zurück.⁴⁴

譯。 auch auf der Straße 街路に於ても er それ[犬]は durch seine unbändige Spielerei その腕白な悪巫山戯によつて schreckte.....niemand mehr 最早何人をも驚かさなくなつた; er 彼[犬]は war den Flegeljahren entwachsen [既に]悪戯盛りの齡を脱して居た und それで nach großer Hunde Art 大人になつた犬の流儀に従つて als sei er sich des Vorrechtes vor allen andern Hunden der Reichsstadt Mar bewußt この自由市中の他の凡ゆる犬に優る特權をはつきり意識してでもゐるかのやうに so still und stolz 落着き拂つて誇らかに schritt.....hinter seinem Herrn einher 自分の主人の後に従つて歩くのであつた。 nun geschah es さて偶々此のやうなことが起つた、 daß 即ち Meister Richwin リヒギン親方が in der Ernte 割入れ時に durchs Feld 野原を通つて、 das Stadtgebiet 市管轄区域を von einem Walde des Grafen von Solms フォン・ゾルムス伯爵所有の或る森から schied 距ててゐた welcher [所の] Hart an dem Graben 篠の直ぐ傍まで ging 行つた。 aber 所が mit einem Male 忽焉として er 彼[タッサー]が war.....verschwunden 消え去つてしまつた。 Richwin リヒギンは spähte ringsum 周囲を探視した、 rief und pfiff 聲を出して呼んだり口笛を吹いたりした。 der Hund kam nicht [だが] 犬は姿を見せなかつた。 da するとその時 in dem Dickicht jenseit des Grabens 篠の向ふ側の籠の中で rauschte und krachte es ガサガサペキンペキンといふ音がした und そして ein Zwanzigender zum mindesten 控へ目に見ても二十又角[もあらうと思はれる] ein königlicher Hirsch 一匹の堂々たる牡鹿が von Thasso wie von einem Wolfe geheckt まるで狼にでも追はれたやうにタッサーに追ひ立てられて brach.....hervor [ぱつと]飛び出して來た。 er 彼[牡鹿]が das freie Feld und den Mann sah 樹立のない廣々とした野原と[そこに立つてゐる]男を見る als と stutzte 磨と立ちすくみ、 lehrte um 犀を返し、 den Hund 犬を mit der ganzen Wucht seines Geweihs 自分の又角に全力をこめて warf.....zur Seite わきへ投げのけ und τ rückwärts wieder... ...in die Büsche 再び元の籠の中へ unter dem Rauschen und Kniden der Blätter und Zweige 木の葉をがさがさ鳴らし小枝をほきんぼきんへし折りながら machte sich.....freie Bahn 活路を開いた。 aber 併し乍ら auch Thasso タッサーも亦 von seiner augenblidlichen Niederlage 自分の一刹那の敗北から erhob sich 起ち上つ und τ wie besessen 遠ニ無ニ

führt..... hinter dem Tiere drein その鹿の後を追つ駆けた、 und..... bald すると程なく nur noch 今は僅かに fernher 遠くの方から das Rauschen ガサガサといふ音 und と das Pfeifen, womit der Hund Laut gab 犬の洩らす喘ぐ息使ひの音[だけ]が man hörte 聞えて來[るのみであつ]た。 der arme Richwin 可哀さうにリヒギンは pfiff sich die Lippen trocken 口笛で唇をカサカサに荒し und そして rief sich die Lungen atemlos 餘り呼び聲を立てて息も切れんばかりになつてゐた； all seine feine Dressur 彼の念入りの調訓もすつかり war verschlungen von Thassos Jagdfieber タッソの狩獵熱に壓倒されてしまつたのであつた。 gleich als wolle er ihn dem Herrn zum Schufle stellen 恰もその牡鹿を主人の射程内に追ひ込まうとでもするかのやうに er タッソは zweimal 二度 den Hirsch 牡鹿を trieb..... ihm..... zum Graben entgegen 墓の傍に居る彼[主人]の所へ驅り立てて來た、 und そして zweimal 二度[とも] der Hirsch 牡鹿は brach..... wieder zurück 血路を開いて逃走した。

註。【1】 *Spielerei* (遊戯三昧) -erei の語尾を動詞の語幹に附けると、「溢りに.....すること」「.....に溺れる事」「.....に耽ること」即ち es als Selbstzweck betreiben (それを一種の自己目的として營む事) と云ふ事になる。*Schreiberei* (やたらに書きなぐる事) *Leserei* (只もう讀まんが爲めに讀むこと、選りきらひなく讀む事、又は讀書三昧)——これと混同し易いのは -elei の語尾である。Iとrとの差だから日本人には一寸同じ様に思はれるかも知れないが大いに違ふ。-elei は -eln の語尾の動詞、即ち前の註で述べた *Frequentativ-Diminutiv* (連続、弱化) の動詞から來たもので、たとへば *Liebelei* と云へば、lieben しないで liebeln する事、即ち乾坤一擲式の、一世一代の眞剣な戀はしないで、ちよいちよいと、分量を小分けにして、その代り度々戀の氣持を味はふ事である。故に *Liebelei* は、死ぬか生きるかの戀ではない、意識してやる遊戯的な戀である。味はひはしても耽けらない戀である。三昧に入らないで、二昧位で止して置く戀である。Schmitzler 作の戯曲 *Liebelei* を故森鷗外氏が戀愛三昧と譯されたのは、その意味に於て一寸見當が狂つてゐる。如何となれば、既に内容の上から見ても、遊戯的な假初の「戀の眞似事」(Liebelei) が眞剣になつてしまふ所を描いたのであるから。うつかり liebeln するものが眞剣になつてしまふ所を描いたのであるから。 liebeln だけしか出来ない人間が世には決して lieben のできない、 lieben だけしか出来ない人間がある。 liebeln できる人間と liebeln 出來ない人間とを描いたのが Schmitzler の *Liebelei* (戯れの戀) である。——【2】 *Flegel, m.* は「お行儀のわるい惡童」

の意で、惡童時代、生意氣盛りの事を *Flegeljahre* といふ。(Jean Paul の小説の同名の題から生じたもの)。——【3】 *ent-* の附いた動詞に附く三格は大抵離格 (第四卷 419) である。——【4】 *nach* (に従つて) は *Art* に掛かる前置詞。(第三卷 237)。——【5】 *Brauch, Sitte, Gewohnheit* (習はし、慣習、しきたり) *Manier* (癖、様子、風、流儀)。——【6】 *einher*、または *her* については第三卷 239。——【7】 *sich [三格] eines Dinges bewußt sein* (或事を意識してゐる)

bewußt [意識せる]
は二格支配

Ihn treibt die Gärung in die Ferne,
Er ist sich seiner Tollheit halb bewußt.

—— Faust ——

鬱勃たる本能は彼を驅つて天外に奔逸せしめ、
彼は己が狂亂を仄かに意識せるが如し。

—— Faust ——

Ein guter Mensch in seinem dunklen Drange,
Sitzt sich des rechten Weges wohl bewußt.

—— Faust ——

選ばれたる者は暗中模索の眞只中にも
不知不識の間に針路の正鵠を過たず。

—— Faust ——

——【8】 *es geschah, daß.....* (偶々斯く斯く斯様の事が出來した。)=*es trug sich zu, daß.....; es traf sich, daß.....*——【9】 *in der Ernte*=*in der Erntzeit*。——【10】 *hart an.....=dicht an.....* 云々のすぐ傍に、云々に際どく接して。——*dicht* は英語の *tight*。——【11】 *scheiden, schied, geschieden=trennen* (離す、距てる、別ける)。——【12】 *mit einem Male=auf einmal, plötzlich, unplötzlich*。——【13】 *verschwand er* (彼は姿を搔き消した) と普通の過去で書いては面白くない。*war verschwunden* (消えてしまつてゐた) と大過去で書くから、姿が消えてしまつてから後に氣づいた事になつて *Tempo* が速くなるのである。——【14】 *krachen* は、恐らくは木の枝がボキンボキンとへし折れる音を形容したのであらう。krach! krach! ——【15】 此の *es* に就ては第三卷 264 及び 270 を見よ。——【16】 *dick=英語 thick*。——*Dicke=dick, Busch* (木の茂み、やぶ)。——【17】 *jenfeit* (.....の彼方) *diesseit* (.....の此方) は二

格支配の前置詞（第三卷 232）。—【18】 *hehen*（狩り立てる）は、猛烈に追跡する事を云ふ。普通の會話でも、「何もそんなに急に倉皇でなくつたつて好い」といふ時に *es ist ja keine Hejagd!* と云ふ。—【19】 牡鹿は非常に威厳のある堂々たる様子をしてゐるから、「王者の如き」といふ形容詞を附けるのが習慣である。*königlich*=*stolz*, *majestätisch*, *statisch*。—【20】 *Zwanzigender* は狩人の用語で、分解すると *Zwanzig-Ende* 即ち 20 の Ende (角の小枝) を持つた鹿の意である。勿論角枝の多いもの程珍重される。—【21】 *zum mindesten*=*zum wenigsten* (少くとも); *wenigstens*, *mindestens* とも云ふ。—【22】 *stuchen* はつとする、礪と驚く。—【23】 *das freie Feld*=*das offene Feld*, 樹のない、眼界の開けた野を云ふ。—【24】 *wandte sich um*。—【25】 *Wucht*, f. 「重さ」を意味すると同時に其の重さの中に籠つた力を意味する。「重壓」か。—【26】 牛の角なぞは *Horn*, n. といふが、鹿の又角、角枝は *Geweih*, n. と謂ふ。—【27】 *freie Bahn* (自由なる通路) 即ち活路、血路。(園みを解く、血路を拓く事を *sich freie Bahn machen*)。—【28】 *rückwärts in die Büsche* は、直譯すると「後方に向つて藪の中へ」である。ドイツ語の癖として、所謂副詞的規定なるものを數個連續して用ひる。その序例に關しては第四卷 317 を見よ。—【29】 *unter* はよく同時性を表はすことがある。つまり日本語の「……のもとに」「と共に」である。*er hat mir's unter Tränen erzählt* (彼は私に其の事を涙ながらに物語つた) — *Er ging unter lautem Gejohle seiner Bechbrüder zur Türe hinaus.* (彼は彼の飲友達たちに異口同音に冷かされ乍ら扉から出て行つた)。—【30】 *kniden* は、ぼきんと折れること。*(In-)* といふ *Unlaut* [頭音] に附隨する擬音的意味に就ては既に詳述した事がある)。—【31】 *drein* は、勿論 *dreinfahren* といふ分離動詞の一部として考へて差支へないのであるが、もつと實用的に云ふと、*hinter..... drein* (後を追つかけて、後から附いて) といふ前置詞句があると思つた方が一般的に通用して好い。然る時は *drein* は前置詞の追加詞である。(第三卷 240)。—【32】 *halb* は「其のうちに」「轍て」「程なく」であつて *sofort*, *gleich*, *sogleich*, *auf der Stelle* (即刻、直ちに、立所に) とは嚴密に區別す可きである。—【33】 *nur noch* (今は只、今はもはや) は度々出た熟語。—【34】 *fernher*=*von fern her*, *von der Ferne*, *in der Ferne*. (遠くから、遠くで)。—【35】 *pfeifen* は此處では *feuchten* (喘ぐ) と同意。—【36】 *Laut geben* (音を發する、音を立てる)=*von sich hören lassen* (消息を洩らす、音沙汰がある、音信をする) — たとへば、彼奴はすつかり音信不通になつた。*er läßt nichts von sich hören* 彼はぐつともすつとも言はない、消息不明だ *er gibt gar keinen Laut*. — つまり犬も此の時は遂に疲れてしまつて、吠える (*bellen*) だけの力が無くなつて、今はもうガサガサと云ふ音と、喘ぐ息使ひのみを以て已れの

所在を察知せしむるに過ぎなくなつたと云ふ事。—【37】 *sich die Lippen trocken pfeifen* (自分の唇をカサカサに吹き荒す) は第四卷 424 に一般的法則が述べられてゐる。*trocken* を *Ergebnisprädikat* (結果的述語) と呼ぶ。— *pfeifen* は此處では口笛を吹く事。—【38】 *sich die Lungen atemlos rufen* も上と同様。—【39】 *fein* には諸種の意があるが、此處では、精巧な、精巧を極めた。—【40】 *verschlingen* (噛み込む) といふのは、たとへば「長い物には巻かれよ」と云ふ際の「巻く」と同じ事で、自分よりも強大なものに壓倒される事、負ける事、光芒を奪はれる事、凌はれる事、持つて行かれる事、「揚棄」される事である。長い物には巻かれよ、を意譯すると、

verschlingen
(嚙下す)

Von einem Größeren laß dich verschlingen! — 故に *all seine Dressur war verschlungen von u. s. w.* = *all seine Dressur war hingerissen [fortgerissen, aufgehoben, überwältigt, vernichtet, in den Hintergrund gestellt, hintangesezt] von [ob. durch] u. s. w.* — 少しむつかしい一例を擧げると、*Saust* の序曲に、劇作家が書齋で獨り苦心を重ねて書き上げた臺詞が、實演される場合には、役者の口に依つて造作もなく喋られてしまふ、と云ふ事を嘆じた個所に、此の意味の *verschlingen* が用ひてある。

Ach, was in tiefer Brust uns da entsprungen,
Was sich die Lippen schüchtern vorgelallt,
Mißraten jetzt und jetzt vielleicht gelungen,
Vorschlingt des wilden Augenblicks Gewalt.

あゝ其時われらが胸の深奥より迸り出で、
危ぶみつゝ口吟みたる不問語の秘事が、
時に會心、時に或ひは失敗の跡をとどめ、
恐ろしく迫る刻々の威力に壓せられて行方も知れず。

—【41】 *Jagdblüt*, f. *Jagdwut*, f. —【42】 *gleich als*=*gleich als ob*, *gleich als wenn*. (*gleich* は無くても好い) 第三卷 217. —【43】 *zum Schusse stellen*. 特獵に於ける獵犬の役目は、野獸を追ひ出して、それを獵人たちが射撃できるところまで追ひ寄せることである。射程内に寄せる。—【44】 *zurückbrechen*. (歸路を拓く) 道を拓く、血路を拓く事を *eine Bahn brechen* または單に *brechen* と云ふ。

38.

Beim dritten Male aber trat ein Solms'scher¹ Forstwart² aus dem Walde hervor und legte seine Armbrust³ an, nicht auf das Wild,⁴ sondern auf den Hund. „Schämt⁵ Euch, der Ihr⁶ ein Jäger sein wollt⁷ und zielet⁸ auf den edelsten Hund, der doch⁹ nur von dem gleichen Jagdmut berauscht ist, wie Ihr selber!“ rief der Meister dem Dienstmann¹⁰ entgegen.

譯。beim dritten Male aber 所が三度目には ein Solms'scher Forstwart 一人のゾルムス家の山番が trat……aus dem Walde hervor 森の中から現れ出で und て seine Armbrust 自分の弩(いしゆみ)を nicht auf das Wild 獵獸[即ち牡鹿]にではなく sondern 反つて auf den Hund 犬に legte……an 狙をつけた。『ein Jäger sein wollt 苛くも一簾の狩人を以て任じ und ながら doch nur もともと單に von dem gleichen Jagdmut……, wie Ihr selber 貴方自身と同じ狩獵熱に der……berauscht 浮かされてゐる[に過ぎない] auf den edelsten Hund 凛々しき犬に der Ihr……zielet 弓を向けるとは schämt euch! 怪しからんではありませんか!』[と] der Meister 親方が rief……dem Dienstmann entgegen その下僕に向つて言つた。

註。【1】-の語尾に就ては第四卷 356.—【2】Forst は英語の forest に相當する字であるが、ドイツ語では普通の森 (Wald) とは區別して、「山林」即ち人智を以て營林した「造林」の事を云ふ。即ち樹を植ゑ、手を入れ、鹿その他の Wild (鳥獸) を放飼ひにしてある區域の事である。獨逸は歐洲中で最も植林事業の發達した國であるから、Förster (山番、林區監理者) Jagdrevier (獵區) 等の概念がないと文學書も讀めない。Forstwart は Forstwärter Förster と同じである。また俗には單に Jäger (森番) とも云ふ。—【3】Armbrust, f. は、引金を引いて發射する構造になつた弓である。彼の名高い Wilhelm Tell が自分の子の頭上に載せた林檎を射たのも此の Armbrust を以てしたのである。—【4】Wild は獵の對象としての野獸を謂ふ。Wildbret, Wildpfer ともいふ。—【5】schäme dich! schämen Sie sich! schämt Euch! u. s. w. は、日本語に譯すると「恥ぢよ」となつて、一寸變な言葉使ひの様に

Wald と Forst

思はれるが、獨逸人の氣持では「怪しからん」「何事だ」等のつもりなので、決して「恥を知れ」等といふ程相手を恥かしめる強い餘韻は持たないのである。餘韻を重要視する文學の翻譯等に於ては、そんな直譯をするのは禁物である。—【6】第四卷 431.—【7】sein wollen (……たらんと欲する) の wollen は、決して「これから狩人になりたいと思つてゐる」なぞと云ふ希望を現すのではなく、寧ろ「苟しくも狩人を以て任じながら」で、「主張」を意味する wollen である。(第三卷 248.)—【8】zielet [zielt] の位置は變則。副文章が二つの文を包含する時には、第二番目の文は主文章と同じ構造になる事がある。殊に擬古體に於ては。—たとへば Grimm の童話 (Märchen) なぞは古い文體であるが、それを讀む時には此の法則をよく心得て置かないと、一步一步さういふ變則に出くはす。それは wenn (若しも) の次に來る副文章に現はれるのが普通である。—【9】斯々斯様である「癖に」、斯々斯様である「苦の」といふ關係文章の中へは doch [eigentlich 元來、の意] または ja を入れる。Er grüßt nicht einmal mich, der ja neben ihm wohnt. (彼は、すぐ隣に住んでゐる僕にだつて挨拶しない) Er tadelst das Wort, daß er doch täglich selber gebraucht 彼は毎日自分が用ひてゐる言葉を不可ないと云ふ。—【10】森は貴族に屬してゐて、森番は貴族に雇はれてゐるから、Dienstmann (下僕) と云つたのである。

wenn [若しも……] の文では、第二の部分を定形正置文とすることあり

關係文章内の doch, ja.

副文章が二つの文を包含する時には、第二番目の文は主文章と同じ構造になる事がある。殊に擬古體に於ては。—たとへば

Grimm の童話 (Märchen) なぞは古い文體であるが、それを讀む時には此の法則をよく心得て置かないと、一步一步さういふ變則に出くはす。それは wenn (若しも) の次に來る副文章に現はれるのが普通である。—【9】斯々斯様である「癖に」、斯々斯様である「苦の」といふ關係文章の中へは doch [eigentlich 元來、の意] または ja を入れる。Er grüßt nicht einmal mich, der ja neben ihm wohnt. (彼は、すぐ隣に住んで

ゐる僕にだつて挨拶しない) Er tadelst das Wort, daß er doch täglich selber gebraucht 彼は毎日自分が用ひてゐる言葉を不可ないと云ふ。—【10】森は貴族に屬してゐて、森番は貴族に雇はれてゐるから、Dienstmann (下僕) と云つたのである。

39.

Getroffen¹ von der Wahrheit dieses Wortes und zugleich von der Schönheit des kämpfenden herrlichen Hundes, ließ der Forstmann die Armbrust sinken und schritt trügig² zu dem Bürger. „Der Hund ist mir verfallen,”³ rief er, „weil er in meines Grafen⁴ Bann⁵ gejagt hat. Ihr folget mit mit Eurem Hunde zum Grafen,⁶ und will er das Tier in seine Meute⁷ nehmen,⁸ so sei⁹ ihm das Leben geschenkt.“¹⁰

譯。getroffen von der Wahrheit dieses Wortes und zugleich von der Schönheit des kämpfenden herrlichen Hundes 此の言葉の眞實さ並びに

その力闘してゐる素晴らしい犬の美に打たれて der Forstmann 山番は die Armbrust 弩を ließ.....sinken [心ならずも] 垂れ下げ und ^て trügig 挑戦的に schritt.....zu dem Bürger 市民[リヒギン]の所へ歩み寄つた。『erあれ[犬]は in meines Grafen Bann 我が伯爵の領地内で gejagt 狩をした weil のだから der Hund あの犬は ist mir verfallen 私の所有に歸したのだ。 mit Eurem Hunde 貴方の犬を連れて Ihr folget mir.....zum Grafen 私に従つて伯爵の所へ來なさい und ^て [若しも] er 伯爵が das Tier あの犬を will.....in seine Meute nehmen 御自分の獵犬の一匹として御採用下さるやうであれば so さうすれば sei ihm das Leben geschenkt あの犬の命は助かるといふものだ』[と] rief er 彼[山番]は言つた。

註。【1】treffen は、圖星に中てると云ふ意味の「中てる」である。これが若し雷などに打たれるのであると、たとへば Wie vom Donner gerührt (雷に打たれた様に) と、röhren を用ひる。—— treffendes Wort (肯定に中つた言) 参照。——【2】trügig = troglig (傲慢な態度を以て、挑戦的に、反身になつて。) ——【3】jemandem verfallen, anheimfallen (或人の所有に歸する) ——即ち森番は犬を没収、押収 (konfiszieren, in Besitz nehmen) しようと云ふのである。——【4】meines Grafen といふ二格の置場所に關しては第一巻 71。——【5】der Bann は「勢力圏」の事、轉じて領域 (Gebiet) 領地 (Gut) 地所 (Grundstück) ——【6】二格が meines Grafen, 三格が zum Grafen となる故、此の語は所謂弱變化名詞。(第一巻 69.) ——【7】貴族や狩人たちは、狩をする時の爲めに平常から澤山の獵犬の群を養つてゐる。その群が Meute で、集合名詞とも稱す可きものである。——【8】nehmen = aufnehmen 採用する、編入する。——【9】sei は sein の命令法。三人稱にも命令法がある事は第四巻 365 で述べた。——so sei ihm das Leben geschenkt. = so soll ihm das Leben geschenkt sein [または werden] ——【10】jemandem das Leben schenken (或人に命を贈る) は勿論命を助けるの意。

40.

Weister Richwin widersegte sich natürlich, der Dienstmann aber hielt ihn fest,¹ und als sich der Bürger² mit Gewalt freimachen wollte, schlug ihm jener³ die blanke⁴ Klinge über⁵

den Arm. Im selben Augenblicke jedoch ward der Dienstmann von hinten durch Thasso zu Boden gerissen; denn sowie⁶ das Tier den Herrn in Gefahr sah, wich⁷ auch das Jagdsieber einer⁸ Treue, die nicht Dressur war.⁹ Mehrere Weßlarer Leute liefen nun auf¹⁰ den Lärm gleichfalls aus dem Felde herbei, befreiten den Forstwart von dem Hund und führten den Mann gefangen¹¹ zur Stadt, weil er einen Bürger auf reichsstädtischem Boden verwundet hatte. Denn die Städter waren in dem siegreichen Kampfe mit den Geschlechtern rauflustig¹² genug geworden und fürchteten sich nicht vor einem neuen Strauß.¹³

譯。Meister Richwin リヒギン親方は natürlich 勿論 widersegte sich 抗言した、aber 所が der Dienstmann 下僕は hielt ihn fest 彼を掴んで離さない und ^て der Bürger その市民が mit Gewalt 無理やりに sich... ...freimachen wollte 身を離さうとする als と jener 前者[下僕]は die blanke Klinge 抜身を schlug ihm.....über den Arm 彼の腕を掠めて打ち下ろした。im selben Augenblicke jedoch 併しそれと同時に der Dienstmann 下僕は von hinten 背後から durch Thasso タッソーに[襲はれて] ward.....zu Boden gerissen 曲き倒された; denn といふのは das Tier 犬が den Herrn in Gefahr sah 主人が危険に瀕してゐるのを見る sowie や否や auch das Jagdsieber 狩獵熱までが wich.....einer Treue, die nicht Dressur, war 仕込みではない忠義に虧を蒙つた [からである]。nun その時 auf den Lärm その騒ぎを聞きつけて mehrere Weßlarer Leute 敷多のヴェツツラル市民が gleichfalls 同じく aus dem Felde 野原から liefen.....herbei 駆け寄つて來、den Forstwart 森番を befreien.....von dem Hund 犬から引き離し und ^て ex 彼[森番]が auf reichsstädtischem Boden 自由市の領域内で einen Bürger.....verwundet hatte 市民たる者に傷を負はせた weil といふ理由で führten den Mann gefangen zur Stadt その男を縛して市へ引き立てた。Denn 蓋し die Städter 市民は in dem siegreichen Kampfe mit den Geschlechtern 貴族との戰ひに勝利を得て waren.....rauflustig genug geworden 開心勃勃々た

るものがあつた und ので fürchteten sich nicht von einem neuen Strauß 爭闘を新たにすることを怖れなかつた[のである]。

註。【1】 fest は分離動詞 *festhalten* (逮捕する) の前綴で、決して「固く押へた」ではない。(第二卷 139) *festnehmen*ともいふ。——【2】 彼が (er) といふ代りである。(第四卷 427.) ——【3】 第二卷 182. ——【4】 blank は元來「白い」「きらきら光る」の意。*Slinge* は「刃」。兩方で「拔身」「白刃」といふ熟語。——【5】 quer über den Arm (腕を掠めて) の意。大した傷でなく、單なる *Streifwunde*, *Schramme* (擦過傷) だつた事が über でわかる。——【6】 sowie=sobald. ——【7】 weichen (……に席を譲る) の用法に關しては第四卷 419 を見よ。weichen の伴ふ三格は einer Treue である。茲では、狩獵熱が引つ込んで、持ち前の忠義が頭を擡げた事をいふのである。——【8】 「或種の」斯う斯う云ふ何とか、と改めて物を定義せんとする時には不定冠詞をつける。固有名詞にさへも不定冠詞を附する事がある。Als das Schiff in Yokohama einlief, da lag vor dem enttäuschten Blick unseres Europäers ein Japan, das seiner Erwartung herzlich wenig entsprach. 船が横濱に入港すると、我々の歐羅巴人の落膽した眼の前には、至つて彼の期待に添はない日本が横はつてゐた。——【9】 nicht Dressur, sondern etwas ihm Angeborenes war. (仕込みではなくて、生れ附きであつた所の) とでも云へば意味はわかる。がそんな野暮な事を云はないで、言外の意を漂はした所が面白いのである。日本語でもそんな事が多い。たとへば、親身になつて世話をする人があれば、「義理ちやあ出来ない話だ」などと云ふのがそれである。また、頭の好い人間を指して、「彼奴も馬鹿ちやないね」などと云ふ。斯う云ふ言ひ廻しを *Litotes* (弱化語法) と云ふ事は既に數回述べた。——【10】 auf と四格は「……に應じて」「……を聞きつけて」「……に答へて」「……に次いで」の意になる事がある。 auf seine freundlichen Worte sah das Kind ermuntert auf. 彼の親切な言葉を聞いて子供は活氣づいて眼を見上げた。Auf seinen Pfiff erschienen zwanzig handfeste Leute. 彼の口笛に應じて二十人の壯漢が現れた。——【11】 縛して、捕虜として、拘束して——捕へる事を *gefangen nehmen* といふ。——【12】 rausfen は擗み合ひをして喧嘩する事。ドイツの田舎では *Rauferei* (殴り合ひ) が *Wirtshausleben* (酒屋通ひ) の附き物である。lust は元來「慾」の意で、諸種の複合詞を作る。lustig はその形容詞。reisefreudig 旅行好きの heiratslustig 結婚希望の。——【13】 Strauß, m. [複 Sträuße] 爭闘——Strauß, m. [複 Sträuße] 花束——

der Strauß [d̥r̥ aʊ̥s̥] 爭ひ
der Strauß [d̥r̥ aʊ̥s̥] 花束
der Strauß [d̥r̥ aʊ̥s̥] 駒鳥

Strauß, m. [複 Sträuße] 駒鳥——及び人名の Strauß. ——四つ似たものがあるから注意を要する。

41.

Der Rat aber kam¹ doch stark in Verlegenheit, was er mit dem gefangenen solmischen Dienstmannen anfangen² sollte.

Den Arm in der Schlinge,³ konnte Meister Richwin schon am nächsten Tage der Sitzung beitwohnen,⁴ in welcher über den fühllichen⁵ Fall verhandelt ward.⁶ Alle Ratsleute waren gewaltig aufgeregt, nur Thasso lag in behaglichster Ruhe unter dem Stuhle, als gehe⁷ ihn die Sache gar nichts⁸ an. Und doch⁹ ging¹⁰ es ihm an den Kragen und er fand¹¹ wenig¹² Fürsprecher.¹³ So¹⁴ sehr man ihm als¹⁵ dem stummen Ratsherrn gewogen¹⁶ war, schien es doch, als ob man ihn diesmal der großen auswärtigen¹⁷ Politik¹⁸ opfern müsse.

譯。 aber.....doch 併しそれにも拘はらず der Rat 市議會は was er mit dem gefangenen solmischen Dienstmannen anfangen sollte その逮捕したゾルムス家の下僕をどう處置したらいいか [といふ問題について] kam.....stark in Verlegenheit 非常な困惑に陥入つた。

Meister Richwin リヒギン親方は schon am nächsten Tage 早くもその翌日 den Arm in der Schlinge 腕を吊つて über den fühllichen Fall verhandelt ward その慎重の取扱ひを要する事件の討議が行はれる in welcher [所の] konnte.....der Sitzung beitwohnen 會議に出席することが出来た。 alle Ratsleute 議員達は悉く gewaltig 范く waren..... aufgeregt 興奮してゐた、 nur Thasso 只タッソーだけは als gehe ihn die Sache gar nichts an その事件は俺の知つたことぢやないとでも言はんばかりに in behaglichster Ruhe 楽々と打ち窓ろいで lag.....unter dem Stuhle 例の椅子の下に横はつてゐた。 und doch 所が豈計らんや ging es ihm an den Kragen 彼[犬]の生死に係はる問題なのである und 而も er fand wenig Fürsprecher 彼[犬]には餘り辯護者がなかつた。 so sehr man ihm als dem stummen Ratsherrn gewogen war 彼[犬]は沈

默の議員として好意を寄せられて居はしたが、 doch それにも拘はらず diesmal 此度は als ob man ihn.....der großen auswärtigen Politik opfern müsse 大なる外交政策の犠牲にされなければならないやうに schien es 思はれた。

註。【1】 in Verlegenheit kommen = in Verlegenheit geraten (困却に陥る、思案に暮れる、困る)。—【2】 何々をどうしたら好いか、何々をどう取扱ふ、どう始末する、といふ事を etwas mit etwas anfangen と云ふ。大抵「知らない」といふ文章に附くのと、sollen を用ひるのが特徴である。ich weiß nicht, was ich damit anfangen soll. (僕はそれをどうしたら好いか見當が附かない、始末に困る、取扱ひに窮する) ich weiß nicht, was ich mit deinem guten Rat anfangen soll. (御忠言は忝けないが、その御忠言の使ひ途がござらぬ)。—【3】 Schlinge, f. は schlingen (捲く) から來たもので、吊腕帶の事である。普通の繩帶は Verband といふ。—【4】 beitragen は英語の assist (参加する、列席する、臨む) — sich an der Sitzung beteiligen と云つても好い。—【5】 fügeln (操ぐる) から來た形容詞。睡物にでも觸るやうに、極く用心をして取扱はない、忽ち誰かを怒らせると云つたやうな heikel (際どい) bedenklich (險惡な) belikat (英語の所謂デリケート) な問題を ein fiktlicher Fall, eine fiktliche Angelegenheit と云ふ。—【6】 ward は wurde と同じ。—此の文の如き、第二卷 117 に述べた語法に於ては、es 以外のものが前に來るとか、副文章になつて接續詞なぞが先頭に立つと、主語の es を省く事がある。—【7】 einen angehen (或人に關係がある、或人に係りがある) といふ熟語。—【8】 nichts = in nichts (何事に關しても) in keiner Beziehung (如何なる點に於ても) — 日本語の感じから考へると此の nichts は nicht の方が好ささうに思はれるが、或種の動詞にあつては必ず nichts を使ふ事に決まつてゐる。此の angehen の外には taugen (役立つ、足しになる) なぞが一例である。nichts taugen = zu nichts taugen (何の足しにもならぬ、駄目だ、—轉じて、怪しからぬ) — これは希臘の uden [nichts, nothing] が nicht [not] の意に用ひられるのと同系統に屬する、印歐語一般に通ずる現象である。—【9】 und doch [英語の and yet] = ところがどうして。—【10】 es geht einem an den Fragen (それが或人の襟元に迫る、即ち、首に係る一大事である、生死を決する問

werden の過去形
[古] ward
[新] wurde

nicht と云ひさうな時に nichts を用ふる場合。

anfangen の一用法

題である) は非人稱熟語。— Fragen (襟、カラー) といふのは襟首の事、即ち Hals, m. (頸部) に對する Metonymie (換へ言葉) である。また普通は es geht mir an den Hals と云ふ。—【11】 finden = haben。—【12】 wenig に關しては第四卷 397。— wenig は普通格語尾を探らずに用ひる。(viel, 多くの、も同様)。—【13】 für が賛成、加擔を意味し wider, gegen が反対、不賛成を意味する事は第三卷 239 で述べた。— Widersacher (反対黨、敵) が多くて Fürsprecher (辯護者) が少かつたのである。—【14】 so と形容詞(副詞) とが先頭に立つて、その文が副文章になると、「認容文章」なるものが出出来る事は第四卷 299 で述べた。—【15】 第四卷 309。—【16】 これは過去分詞ではない。held, zugeneigt (好意を寄せたる) と同じ形容詞である。(第四卷 375. 過去分詞の純形容詞化)。—【17】 現代語では Außenpolitik (外政) と云つて Innenpolitik (内政) と相對してゐる。—【18】 Politik [發音 ポリテック] —一般的規則としては、-ik の語尾の際の發音

-ik の語尾の際の發音

Grammatik	文法	[グラムマーティック]
Logistik	論理	[ローキック]
Aesthetik	美學	[エステティック]
Botanik	植物學	[ボタニック]

ところが、數個の例外がある。

Rititik	批評	[クリティック]
Musitik	音樂	[ムージック]
Politik	政治	[ポリティック]

また Mathematik (數學) の場合には、その兩方ともがあつて、まだ判然ときまつてゐない。

42.

Es¹ häufte² nämlich zur Zeit³ (1372) der böse⁴ Ritterbund⁵ der „Sterner“⁶ so arg⁷ in den Nachbargauen,⁷ daß man in Weißlar im stillen⁸ sich rüstete zum offenen Kampfe.⁹ Die Sterner aber zählten gar viele Grafen, Ritter und Herren zu ihren Genossen, die Reichsstadt hingegen¹⁰ hatte wenig

Freunde und es kam ihr sehr überquer,¹¹ gerade zu dieser Frist¹² einen so kriegstüchtigen Nachbarn wie den Grafen Johann von Solms zu erzürnen, von¹³ dem noch unbekannt war, ob er für oder wider die Sternen Partei¹⁴ nehmen werde.

譯。nämlich その譯を言ふと、zur Zeit (1372) 當時(一三七二年頃) der böse Ritterbund der „Sternen“『星晨』と稱する性の悪い騎士同盟が in den Nachbargauen 隣接各地方に於て es hafste.....so arg 非常に暴威を逞しくした daß ので man in Weßlar ヴェツツラル市民は im stillen 心窓かに sich rüstete zum offenen Kampfe 公然の戦闘をする準備をしてゐたのであつた。aber 所が die Sternen 星晨同盟の連中は gar viele Grafen, Ritter und Herren 極めて多數の伯爵、騎士及び貴族を zählten.....zu ihren Genossen 自分等の同志に持つてゐた。hingegen 之に反して die Reichsstadt 自由市[の方]には hatte wenig Freunde 味方が極く少かつた und それで gerade zu dieser Frist [時もあらうに] 丁度此の時に er 彼[伯爵]が ob.....für oder wider die Sternen Partei nehmen werde 星晨同盟の味方になるかそれとも敵になるか von dem noch unbekannt war 未だ[何れとも態度]不明なる einen so kriegstüchtigen Nachbarn wie den Grafen Johann von Solms ヨーハン・フォン・ゾルムス伯爵の如き實戦の腕のある隣人を zu erzürnen 怒らせる es ことは kam ihr sehr überquer 自由市にとつて極めて不利であつた。

註。【1】第三卷 273.—【2】haujen だけならば、住居する、家政を執る。世帯を持つ、切り廻す、經營する、の意であるが、それに schlimm, arg (ひどく) 等の副詞がつくと、暴威を逞しくする、亂暴狼藉を働く、荒れる、荒らす、猖獗を極める事になる。sein Wesen treiben, sein Unwesen treiben, arg wirtschaften 等とも云ふ。いづれにしても經營する、營む(haujen, wirtschaften) といふ概念の這入る所が特徴である。Pfui! was ist das für eine Wirtschaft! (ひやあ! この體たらくは何とした事だ!) Gott weiß, wie er dort gehaust hat! (あいつがあちらでどんな事をしでかして來たかは蓋し想ひ半ばに過ぐるものがある。) Man sieht, hier haben mindestens ein Dutzend Kinder ihr Wesen

getrieben. (一目して解る通り、此處は少くとも一打位の子供が荒して行つたのだ。)—【3】zur Zeit=zu dieser Zeit, damals. (當時)。—【4】böse=schlimm, 厄介千萬な、悪性の、始末に悪い、手のつけられぬ。—【5】此の當時は Reich (帝國) の威信が薄くて、至る所武家達が獨力で諸般の問題を解決せんと試みたために勢ひ Faustrecht (武力解決権) が行はれ、内亂が絶えず、遂に量見の悪い大小名共は Raubzüge (掠奪遠征) や Begeleagern (待ち伏せして隊商を掠奪すること) を以て商賈とするに至つた。其處で商業都市は例の Schwäbischer Städtebund (シュヴァーベン都市同盟) なるものを結んで、常備軍を組織してこれらの Raubritter (追剝武士) どもに對抗する事になつたが、武士達の方でも、自分達の利害を守るために、またそれに對抗する同盟を諸方で造つた。その主なものは Schlegler, Löwen- und Hörnerbund, Sternenbund, die Gesellschaft von Sankt Wilhelm 等である。—【6】上記の Sternenbund (星晨同盟) に屬する武士達。—【7】Gau, m. Gäut, m. [pl. -e] は郡または州に相當する昔の行政管轄である。今では古めかしく云はうとする時にしか用ひない。in den deutschen Gauen.=in den deutschen Provinzen.—【8】im stillen=insgeheim. (窓かに) 熟語。—【9】此の文章は正規の語順にすると daß man sich in Weßlar im stillen zum offenen Kampfe rüstete. —【10】hingegen=dagegen.—【11】einem überquer kommen=einem ungelegen kommen. (或人に取つて都合悪くなる、番狂はせとなる、障害となる)。überquer は、「横切つて」といふ形容詞、副詞である。單に quer と云つても好い。たとへば自動車が進まうとすると横から荷車が出て来て行方を直角に阻んでしまふ。すると [ein Lastwagen] kam quer über den Weg,..... kam dem Auto überquer, überquerte den Weg, kreuzte das Auto, kam dem Auto in den Weg なぞと云ふ。みな阻止する(hemmen) 邪魔する(stören) の意である。—【12】zu dieser Frist=zu dieser Stunde, zu diesem Zeitpunkt, in diesem Augenblick.—【13】von 以下の文に就ては第四卷 432.—dem の次に es が省かれてゐる。—【14】Partei nehmen (黨を探る、即ち態度を決する、旗幟を鮮明にする。)

43.

Als daher ein Rats herr dارت,¹ der Forstwart sei im Rechte gewesen,² nickten manche Köpfe bejahend,³ und als er hinzufügte, auf⁴ Begehr des Grafen dürfe man sich nicht weigern, den Jäger freizugeben und den Hund auszuliefern, fiel ihm strad⁵ die Mehrzahl⁶ zu, und etliche⁷ meinten,⁸ Thasso

habe vordem schon Unfug⁹ genug verübt,¹⁰ man dürfe sich nun¹¹ doch nicht vollends¹² noch den Colmser durch ihn auf den Hals¹³ heben lassen.

譯。 daher それ故 ein Rats herr 一人の議員が der Forstwart sei im Rechte gewesen 山番のやつたことは間違つてゐない [と] dattat 述べた als 時 nichten manche Köpfe bejahend 幾多の頭が縱に振られた。 undそして er 彼が auf Begehr des Grafen 伯爵の要求があれば den Jäger freizugeben und den Hund auszuliefern 山番を釋放し且つ犬を引き渡すことを dürfen man sich nicht weigern 拒否する譯には行かない [と] hinzufügte 附言した als 時 strads 即座に fiel ihm..... die Mehrzahl zu 彼は多數 [の賛成者]を得た、 und そして etliche 一部の人々は Thasso タッソーは vordem schon 是までに既に habe..... Unfug genug verübt 散々不始末を働いた、 nun この際 vollends noch 掲てて加へて den Colmser durch ihn 彼[タッソー]が原因[もと]でゾルムス家を[までも] man dürfen sich..... doch nicht..... auf den Hals heben lassen 背負ひ込まれるのはやりきれない [といふ] meinten 意見であつた。

註。【1】 dattun=erklären, auseinandersezen (説明する、開陳する、具述する)——darlegen も同意であるが、これらの dar- といふ前綴は da と同意で、みな人の「眼前に」「ありありと」といふ意を持つてゐる。——【2】 im Rechte sein=recht haben. (もつともである、正しい、間違つてゐない、正當である)。これらの熟語の現在完了が recht behalten (in seinem Rechte verbleiben) の現在に當ることは既に述べた通り。——【3】 ja から來た動詞。反対 (Antonym) は verneinen (否定する)。——【4】 此の auf が註 40 の 10 で問題になつた「.....に應じて」の意の auf である。——【5】 strads=augenblicks, sofort. (即座に)。——【6】 Mehrzahl=Mehrheit, Majorität. (多數) その Antonym は Minderheit, Minorität (少數)——多數決の事を Mehrheitsbeschluss, m. と云ふ。——【7】 etliche=einige. (二三の人々、一部の人たち)。——【8】 meinen は單に「思ふ」ではなく、意見を吐く、「斯く斯くの意見である」(der und der Meinung sein) ことを云ふ。單に思ふならば dachten bei sich, sagten zu sich selbst と云ふ。——【9】 Unfug = Unart (不始末)。——【10】 なす (machen) 行ふ (tun) に相當

單に「爲す」を意味する諸種の動詞

する字がかなり多い。次のやうな動詞は特によく記憶して置く必要がある。(そのどれを用ひるかは、それに作る名詞によつて慣習で決まつてゐる。)

[eine Verbeugung] machen.	[お辭儀を] する
[einen Sprung] tun, machen.	[跳躍を] なす
[einen Einfluß] ausüben.	[影響を] 及ぼす
[Gerechtigkeit] üben	[義しきを] 執り行ふ
[Schaden] zufügen.	[危害を] 加へる
[Widerstand] leisten.	[抵抗を] 試みる
[seine Arbeit] verrichten.	[自分の仕事を] やつてのける
[einen Diebstahl] begehen.	[窃盗罪を] 犯す
[böse Taten] verüben.	[惡事を] 働く
[Handel] treiben.	[商賣を] 営む
[Krieg] führen.	[戦争を] なす
[ein Urteil] fällen.	[判決を] 下す
[eine Klage] erheben.	[訴訟を] 起す
[eine Revision] vornehmen.	[改訂を] 試みる

——【11】 nun 此の際 doch nicht まさか vollends あるまい事か noch 刺さへ。——斯う云ふ細かい助詞的なものが澤山重なる時には特に一字一字の意味をはつきり考へる必要がある。——【12】 vollends=fogar.——vollends noch=fogar noch. (刺さへ、掲てて加へて、あらう事か、あるまい事か、.....等に至つては、況してや.....に至つては。——【13】 sich..... auf den Hals で auf seinen Hals の意になる事は第四卷 416.——Hals, m. (頸つ玉) は、何でも荷厄介なものがのし掛かる場所となつてゐる。etwas auf dem Halse haben (或物をしよひ込んでゐる、或物に懲まされてゐる) jemandem auf dem Halse liegen (或人の厄介になつてゐる、或人を散々懲ましてゐる) jemandem jemanden auf den Hals schicken, heben. (或人に或人をけし掛ける、或人の方へ或人の銳鋒を轉ぜしめる、押し附ける、廻はす)。

44.

Thasso blieb ganz ruhig und schaute nur fragenden Auges¹ um sich, als er seinen Namen nennen hörte.² Sein Herr aber erhob sich. Er sprach:

„Ist Graf Johann, der schlaue Fuchs,³ für⁴ uns, so wird er sich um des Hundes willen⁵ nicht gegen uns lehren⁶; ist er wider uns, so gewinnen⁷ wir ihn auch nicht mit einem geschenkten Hund.⁸ Der Mann kennt seinen Vorteil und schaut⁹ nach ganz andern Dingen als nach Hirschen und Hunden. Soll die Verlezung des Wildbannes¹⁰ geführt¹¹ werden,¹² so erbiete¹³ ich mich den dreifachen¹⁴ Wert des Hirsches und Hundes in gutem¹⁵ Gelde zu erlegen.¹⁶ Den Hund aber liefere ich seinem Menschen aus¹⁷; eher¹⁸ erstechte¹⁹ ich das Tier auf der Stelle. Ihr wißt nicht, was ich dieser unvernünftigen²⁰ Kreatur²¹ Gottes²² schulde,²³ die zugleich sichtbar Gottes Werkzeug²⁴ gewesen ist. Wenn Gott nicht will, so befehren uns seine heiligsten²⁵ Prediger nicht, und wenn er will, so befehrt uns ein Hund. Dieser Hund hat Ordnung meinem Geschäfte gebracht, Sucht meinen Kindern, den Haussfrieden meiner Frau, er hat mir den Weg gezeigt zu meinen Freunden und Kunstdräubern, den Weg zur Kirche und den Weg zum Rathause; indem ich den Hund zu erziehen glaubte, erzog der Hund vielmehr mich. Das hat mir meine Haussfrau oft gesagt, und ich achtete²⁶ es als einen artigen²⁷ Spaß: jetzt, da²⁸ ihr mir²⁹ meinen Hund nehmen wollt, erkenne ich mit einem Male,³⁰ daß es bitterer³¹ Ernst gewesen ist.“

譯。Thasso タッソは blieb ganz ruhig 依然落ち着き拂つてゐた und そして als er seinen Namen nennen hörte 自分の名前が口にされるのを聞いた時 fragenden Auges 物問ひたげな眼をして schaute nur..... um sich 周圍を見廻しただけであつた。aber 併し sein Herr 彼[タッソ]の主人は erhob sich 立ち上つた。er sprach 彼は言つた：

『Graf Johann, der schlaue Fuchs あの狡猾なヨーハン伯爵が ist... ...für uns吾々の味方であるならば so さうすれば er 彼は um des Hundes willen [まさか]犬のために wird sich nicht gegen uns lehren

吾々に敵對はしないであらう、ist er wider unsもしも彼が吾々の敵であるならば so さうすれば wir 吾々は auch....mit einem geschenkten Hund 犬を贈つてやつたとしても gewinnen.....ihn.....nicht [矢張り] 彼を味方に引き入れることは出來ない。der Mann あの男は kennt seinen Vorteil 利に敏い und そして schaut nach ganz andern Dingen als nach Hirschen und Hunden 牡鹿や犬などとは全然違つたものを目指してゐるのである。soll die Verlezung des Wildbannes geführt werden 狩獵獨占権侵害の賠償をせよといふのであれば so それならば ich 私は den dreifachen Wert des Hirsches und Hundes 牡鹿と犬の三倍の金高を in gutem Gelde 確かな金で zu erlegen 支拂ふことを erbiete.....mich 申し出ます。aber 併し den Hund 犬は ich 私は liefere.....seinem Menschen aus 何人にも引渡しはしません eher それ位なら寧ろ ich 私は auf der Stelle 即座に erstechte.....das Tier 犬を刺し殺して仕舞ひます。ich 私が zugleich 同時に sichtbar 明らかに Gottes Werkzeug gewesen ist 神の道具であつた die [所の] dieser unvernünftigen Kreatur Gottes 此の理性なき神の創造物に was.....schulde 如何に恩を受けてゐるか Ihr wißt nicht 告さんには御分りにならないでせう。Wenn Gott nicht will 神の御思召がなければ so さうすれば seine heiligsten Prediger [神の]最も尊嚴なる説教師[と雖も] befehren uns.....nicht 吾々を悔い改めさせることは出來ない、und 逆に wenn er will 神の御思召があれば so さうすれば befehrt uns ein Hund 犬と雖も吾々を悔い改めさせるのである。dieser Hund この犬は Ordnung meinem Geschäfte 私の店に秩序を Sucht meinen Kindern 私の子供等に禮儀作法を den Haussfrieden meiner Frau 私の妻には家内の和合を hat.....gebracht 齋しました、er 彼[犬]は mir 私に den Weg.....zu meinen Freunden und Kunstdräubern 私の友人たる組合仲間の人々へ通する道、den Weg zur Kirche und den Weg zum Rathause 教會への道及び議事堂への道を hat.....gezeigt 示して呉れました；indem ich den Hund zu erziehen glaubte 私が犬を教育すると信じてゐる間に erzog der Hund vielmehr mich 寧ろその反対に犬の方が私を教育してゐたのでした。meine Haussfrau 私の家内が mir 私に das この事を oft 屢々 hat.....gesagt 言ひました und 所が ich 私は es それを achtete.....als einen artigen Spaß 口の悪い冗談位に思つてゐました；jetzt, da ihr mir meinen Hund nehmen

wollt 皆さんが私からこの犬を奪はうといふ今になつて [始めて] ich 私は mit einem Male 忽ち daß es bitterer Ernst gewesen ist それがなる程眞實であつたことが erkenne 分りました。】

註。【1】 fragenden Auges の形については第四卷 329.—二格の語尾 -en に就ては第一卷 98.—【2】此の文の構造に就ては第三卷 255.—【3】西洋でも狐はやはり狡猾な動物となつてゐる。オランダの Tierfabel (獣物寓話) の Reineke Fuchs はゲーテが詩に取り扱つてもゐるし、また我國にも既に「狐の裁判」と稱して紹介されてゐる。それに反して古狸なぞと云ふ狸 (Dachsh) は餘り知られてはゐない。斯う云ふ事は國情によつて隨分違ふものである。—【4】 für については、次の gegen, widerと共に既に述べた。(第三卷 239.)—【5】 um.....willen. (第三卷 232.)—【6】 sich gegen einen fehren = sich gegen einen wenden. (敵對する、双向ふ)。—【7】 jemanden gewinnen (或人を得る) とは jemandes Herz gewinnen (或人の心を得る) または jemanden zum Freund gewinnen (或人を味方に獲得する) の意。—【8】 mit einem geschenkten Hund = durch Schenken eines Hundes に對する Hypallage (轉倒語法) である。Hypallage に就ては本卷の註 14 の 2 で詳述した。—【9】 nach etwas schauen (顧る、即ち注意を向ける、目差す、狙ふ) — ex schaut nach ganz anderen Dingen = er hat es auf ganz andere Dinge abgesehen; er richtet sein Augenmerk auf etwas ganz anderes; er hat etwas ganz anderes im Sinne; er kümmert sich um etwas ganz anderes. (彼の男は全然眼の附け所が違ふ、關心の對象が全然別個の方面に在る。)—【10】 Wildbann, m. Wild は野獸、Bann は禁制の事。—禁權、即ち或る區域に於ける狩獵の獨占權を云ふ。—【11】 fühnen = büßen, wieder gut machen. (償ふ、元通りにする)。—【12】受身の形で云つてあるのを能動形に直すとすれば Wenn man will, daß ich die Verleihung des Wildbanns fühne, so..... (sollen と wollen との關係に就ては第三卷 248 及び 249.)—【13】 sich zu etwas erbieten とは、自分から進んで或事を爲すべく申し出る事。即ち das Unerbieten (好意的提供) をする事。—【14】 -sach の語尾に就ては第四卷 348.—【15】 das Geld ist gut と云ふ際は、金貨等の重量が正規な事を云ふ。昔は金貨等を授受する際には一秤に掛けたり、石の上へ落として音を聽いて質をためしたりしたものである。gutes Geld = Geld von tabelloser Qualität (品質に於て申し分なき貨幣) 佛語 monnaie de bon aloi.—【16】 erlegen = zahlen, bezahlen (支拂ふ)。—【17】 aussliefern 所謂「身柄を引渡す」といふ際の「引き渡す」である。大抵自分が匿まつてゐた犯人なぞを官憲の手に引渡すことを云ふ。—【18】 eher は「その前に先づ」の意で、轉じて「それ位

ならむしろ」の意になる。即ち eher als daß ich den Hund aussliefern. (犬を引渡す位なら、犬を引渡すよりはむしろ)。—【19】 er- の前綴は、何でも目的を達成する事を意味し、従つて「殺す」とになる。洒落ではないが、er- は「得る」だと思へば好いわけである。

目的達成の er-

reichen [英 reach]	届く	erreichen	達成する
bitten	願ふ	erbitten	願つて手に入れる
schmeicheln	諂ふ	erschmeicheln	諂つて捲上げる
jagen	狩る	erjagen	渉獵して獲得する
trocken	頑張る	extroßen	頑張つたお蔭で手に入れる
eilen	急ぐ	ereilen	急いで追ひ附く

「死ぬ」「殺す」の er-

schießen	射る	erschießen	射止める
schlagen	打つ	erschlagen	撲ち殺す
tränken	飲ます	ertränken	溺らせる
trinken	飲む	ertrinken	溺死する
stechen	刺す	erstechen	刺し殺す
[稀]		erdrosseln	絞め殺す
[稀]		ersticken	窒息する
[稀]	würgen	erwürgen	絞め殺す
legen	横たへる	erlegen	斃す
liegen	横たはる	erliegen	斃れる
hängen	懸ける	sich erhängen	縊死する
frieren	凍える	erfrieren	凍死する

—【20】 unvernünftig. (理性を備へざる、淺間しき) 昔の哲學者は人間を定義する時に大抵 ein mit Vernunft begabtes Wesen (理性を具備する存在) と云つたもので、獸類から區別する際には此の Vernunft なるものが唯一の

Kreatur, Geschöpf.
造化、創造物、生物。

Kriterium (識別點) になる。——【21】 *Creature* (英語 creature) は獨逸語の *Geschöpf* (創造物) にあたる。廣義に取れば凡そ神の創造 (*schaffen* 古形 *schöpfen*) したる天地の森羅萬象、木石禽獸總體を指し、少し狹義に解する時には生物 (*Lebewesen*) を指し、もつと狭くなると人間を指す。如何となれば人間が *das Geschöpf kat'exochen* (造化の粹、萬物の精華) だからである。——*Creature Gottes* と云ふと、神意の儘なる存在、神ながらの畜類とでも云つた様な潤色が加はつて来る。——【22】 *Gott* に冠詞を附けない事は第一巻 50 で述べた。——【23】 *schulden=verdanken, verschulden, schuldig sein, zu danken haben.* (……に負ふ、……に恩あり) ——【24】 神の道具であつたといふのは、*Vorsehung* [英語の providence, 天意、神意、攝理] の顯はれであつたの意。偶然な事柄の裡に或種の *zweckmäßigkeit* (合目的性) *Weisheit* (叡智、先見の明) が隠れてゐた事に気が附くと、それを稱して *Gottes Finger* (神の指、神の戒しめ) *Gottesfügung* (神の引き合せ) *Vorsehung* (天道) と云ふのである。——【25】 最高級は、別に *selbst, auch, sogar* (……すらも) 等が附かなくても、前後の文脈からして「最も……なるものすらも」の意になる事が多い。日本語でも「一番意氣地のない彼すらもが此の通りだ」などと云ふ代りに「一番意氣地のない彼が此の通りだ」と云つた方が力強くなる。——【26】 *etwas als etwas achten=etwas für etwas halten, als etwas ansehen* (或事を或事と見なす。或事を以て或事と爲す)。——【27】 *artig* (愛想の好い、 höflich) は *unartig* (失禮な、 unhöflich) の代りに用ひた反語 (Gronie) である。——たとへば *Das ist eine schöne Geschichte!* (それは飛んでもない話だ) *Warum nicht gar!* (滅相もない、どう仕つて) *eine saubere Person.* (ひでえ野郎)。——【28】 *da=wo*。——【29】 *nehmen* に伴ふ *mir* は奪格 (又は離格) ——第四巻 419。——【30】 *mit einem Male= auf einmal* [英語 at once] *plötzlich* (忽ち)。——【31】 *bitterer Ernst* は、前の *Spaß* (冗談) に對して云ふので、娘が失敬千萬な冗談口を叩くと思つてゐたら、冗談どころか、本當にさうだつた、と云ふ譯である。「苦い」は考へないで、「全くの事實」といふ熟語だと思へば好い。現今は *bitter ernst* といふ。

45.

Diese wenigen Worte nur sprach Meister Richwin, aber er sprach sie mit feuchtem Auge, und Thasso, der seines Herrn Bewegung¹ sah, erhob sich langsam, rührte ihn leise mehrmals

mit der breiten Bordertatze² an und ledte ihm die Hand, als wolle er den Belümmerten trösten.

Es war ganz stille³ geworden im Ratsaal; man konnte die Atemzüge hören.

Da stedte der Ratsdiener den Kopf zur Türe herein und meldete⁴ einen Boten des Grafen von Solms. Die Bürger erschraken⁵ und ahnten Schlimmes.⁶ Um⁷ so überraschender klang die Botschaft.

譯。Meister Richwin リヒギン親方は diese wenigen Worte nur 是等の少數の言葉だけを sprach 口にしただけであつた、aber 併し er 彼は sie それらの言葉を mit feuchtem Auge 目を潤ませて sprach 語つた、und 一方 seines Herrn Bewegung sah 自分の主人の感動を見た der [所の] Thasso タッソーは erhob sich langsam 静かに立ち上り mit der breiten Bordertatze 大きな前足で mehrmals 幾度も leise そつと rührte ihn……an 彼に觸れた [前足をそつと彼に觸れた] und そして den Belümmerten その憂慮せる男 [自分の主人] を als wolle er……trösten 慰めようとするかのやうに ledte ihm die Hand 彼の手を舐めた。

im Ratsaal 議場の中が es war ganz stille geworden ひつそりとなつてしまつた；man konnte die Atemzüge hören 息をする音が聞える位であつた。

da するとその時 der Ratsdiener 守衛が stedte……den Kopf zur Türe herein 扉口から頭を差し入れ und meldete einen Boten des Grafen von Solms フォン・ゾルムス伯爵の使者の來着を知らせた。die Bürger 市民等は erschraken 驚い und ahnten Schlimmes 不吉なことを豫感した。um so überraschender klang die Botschaft それだけに尙更使の用向は意外な感を與へた。

註。【1】 Bewegung=Gemütsbewegung. (亢奮)。——【2】 廣いから Tatze (元來は獅子、熊等の前肢) と云つたので、本當は Pfote, f. Pfötchen に過ぎない。——【3】 stille=still と同じ。——【4】 melden は、案内を通ずる、來客を知らせる事で、人間を四格にして用ひる。たとへば訪問に行つて、女中などに Sitz Herr A zu sprechen? (A 君に面會できますか?) と云ふと、女中

は多分 Wen soll ich melden? (どなた様と申し上げますか?) と云つて問ひ返すに違ひない。—【5】 *erschreden, erschral, erschrocken* [現在は ich erschrede, du erschridst 等になる。—第二卷 121] は「驚く」と云ふ自働詞で、*erschreden, erschredete, erschredet* は「驚かす」と云ふ他動詞。—【6】 *etwas Schlimmes* と略同意。—ahnten nichts Gutes. (第二卷 185.)—【7】 *je.....desto....* と云ふ對照的接續詞に就ては、第二卷以來の讀本でも、また第四卷 307, 308 でも述べられた筈であるが、それと同じのに *je.....um so.....* といふのがある。ところが *je* の方を省いて *um so* のみを用ひる事がある。その場合は、先行の文の中に、*je* 以下に相當するものが含まれてゐるのである。

此の文を完全に云ふと、*Se schlimmer ihre Ahnungen waren, um so überraschender klang jetzt die Botschaft.* (彼等の豫感が不吉であればあつただけ、今度は報告が益々意外な感じを與へた) となる。結局 *um so* は日本語の「それだけ益々」「だからこそ益々」または單に「それだけ」といふ言ひ廻しに相當する。つまり *darum eben klang die Botschaft überraschend* (丁度その爲めに報告が意外にひびいた) と云ふのと先づ同じである。

46.

Der Graf hatte mit Bedauern¹ vernommen, daß sein Dienstmann einen Weßlarer Bürger auf² so geringfügigen Unlaß geschlagen, ja³ verwundet habe. Doch bat er, man möge⁴ um guter Nachbarschaft willen⁵ den Forstwart wieder freigeben, er — der Graf — mache⁶ seinerseits ja⁷ auch von dem verletzten Wildbann⁸ kein weiteres Aufheben,⁹ und damit die Stadt erkenne, wie freundlich er gesinnt,¹⁰ so schide er dem hohen¹¹ Rate anbei¹² einen Hirsch, den er selber erlegt habe und der mindestens ebenso gut sei, als der von dem Hund gejagte und nicht erlegte, nebst¹³ einem Fäßlein Bacharacher,¹⁴ damit auch der Trunk zum Schmaus nicht fehle.¹⁵

譯。der Graf 伯爵は sein Dienstmann 自分の下僕が auf so geringfügigen Unlaß からした瑣細な動機に發して einen Weßlarer Bürgergeschlagen, ja verwundet habe ヴェツツラルの市民を打つた、否剩

さへ傷までも負はせた daß といふことを hatte mit Bedauern vernommen 聞いて遺憾に存するといふのであつた。doch さりながら bat er [と彼は願つた] um guter Nachbarschaft willen 近隣の好誼[よしみ]に免じて man möge.....den Forstwart wieder freigeben 山番を釋放して欲しい。er — der Graf —.....seinerseits.....auch 彼 — 伯爵 — の方でも von dem verletzten Wildbann 狩獵獨占権侵害の[件については] mache.....ja.....kein weiteres Aufheben 最早これ以上證議立てはしない、und 且つ wie freundlich er gesinnt 彼が如何に好意を抱いてゐるかを damit die Stadt erkenne 市民に示すために so [そこで] er 彼は dem hohen Rate 議員各位に einen Hirsch 一匹の牡鹿を schide.....anbei 手紙に添へて御贈りする、den その牡鹿は er selber 彼が自身で erlegt habe 打ち倒した[もの] und で der それは mindestens 少くとも ebenso gut sei, als der von dem Hund gejagte und nicht erlegte 犬に追ひ出されたが倒されはしなかつた[牡鹿]に劣らぬ位立派なものである。damit auch der Trunk zum Schmaus nicht fehle 製宴には酒もなくてはと nebst einem Fäßlein Bacharacher バツハラツハ酒一樽を添へる[との趣であつた]。

註。【1】 mit Bedauern= zu seinem Leidwesen, zu seinem großen Schmerzen. (結果の副詞—第四卷 331.)—【2】 auf は Unlaß につく慣用の前置詞である。auf meinen Unlaß. (私の動議に發して) 等。—【3】 ja.=ja sogar, ja sogar selbst (それどころか、剩さへ)。—【4】 第三卷 209.—【5】 第三卷 232.—【6】 間接話法。第三卷 210. 及び 199, 200, 201.—【7】 文内に介在する ja は、文意に特に念を入れて、既に疑を容れる餘地がないまでに明瞭である可き筈の事として述べる時に用ひる。—【8】 von dem verletzten Wildbann は von der Verlezung des Wildbanns に対する Hypallage (轉倒語法)。—【9】 von etwas kein Aufheben machen (或事に就て別段取り立てては云はない、事を荒立てない、問題にしない)。—kein weiteres Aufheben machen=weiter kein Aufheben machen. weiter は、「なほそれ以上に突つ込んで」、「これより以上」「なほも突き進めて」「なほもそれ以上に亘つて」—つまり、これ以上割り込んだ詳しい證議立ては仕られぬ、の意。—【10】 gesinnt は形容詞で、Gefinnung (量見、氣持、心構へ、所存、意嚮) を持つてゐるの意。freundlich gesinnt=freundliche Gefinnung hegen (好意を抱いてゐる)。—勿論 gesinnt の次には sei が省かれてゐる。—これと同じ様な gewillt (意志を持つた) といふ形容詞もある。—【11】 hoher Rat と云つたのは敬意を表せんがためで、かう云ふ hoch (第一卷 94) は日本語の「貴.....」に當る。

—【12】 *anbei* (手紙に添へて) は現今でも用ひられる書簡體の用語。—
【13】 第三卷 233.—【14】 *Bacharač* といふ地名に *er* を附したもの。つまり *Bacharacher Wein*。—*Tokaier* (トカイ酒) *Champagner* (三種酒) 等も同じ構造である。—【15】 つまり、鹿を肴にして飲んで呉れといふ事。

47.

Die Ratsherren waren starr¹ vor freudigem Staunen, da statt des gefürchteten Donnerwetters plötzlich so heller Sonnenschein über sie hereinbrach. Sie sagten dem Boten manch² artiges³ Wort und beglückwünschten⁴ den Meister Richwin samt⁵ seinem Thasso. Der Meister aber erhob seine starke Stimme, den durcheinander wirbelnden Redeschwall⁶ laut übertönend,⁷ und bat, daß man vor erteilter⁸ Antwort den Boten noch einmal abtreten⁹ lassen und ihm¹⁰ auf¹¹ wenige Minuten Gehör schenken¹² möge.¹³

譯。 statt des gefürchteten Donnerwetters 恐れてゐた雷雨の代りに plötzlich 突然 so heller Sonnenschein かくも麗かな日光が über sie hereinbrach 彼等[議員等]の上に射し込んだ da ので die Ratsherren 議員達は waren starr vor freudigem Staunen 発はしい驚愕のために身動きも出来なかつた。 sie 彼等は dem Boten 使者に sagten……manch artiges Wort 色々と御世辭を言つた und そして beglückwünschten den Meister Richwin samt seinem Thasso リヒギン親方にもタッソーにも慶びを述べた。 aber 所が der Meister 親方は den durcheinander wirbelnden Redeschwall laut übertönend 雜然と渦巻いてゐる談話の洪水を大音聲に壓倒しながら seine starke Stimme その力ある聲を erhob 発し und te vor erteilter Antwort 返答を與へる前に noch einmal もう一度 den Boten……abtreten lassen 使者を退場せしめ und そして auf wenige Minuten 暫く man……ihm……Gehör schenken möge 自分の言ふ所に耳を傾けて貰ひたい daß と bat 願つた。

註。【1】 wie erstarrit (凝固した如く) wie versteinert (化石した様)。—【2】 manch は、「色々と」又は「一にして止まらざるの意。その次の形容詞が強變

化(第一卷 100)して、manch 自身が無語尾になるのが普通。 manches artige Wort と言つたつて構はないわけである。—【3】 artig = höflich (町寧な) —artiges Wort, Artigkeiten. (お世辭)。—【4】 einen beglückwünschen = einem Glück wünschen, einem Komplimentieren, gratulieren 壽ぐ、祝辭を呈する、おめでたうと云ふ。—【5】 samt [三格支配前置詞] は、「……をも引つくるめて」「……諸共」「……ぐるみ」で。普通の mit とは一寸違ふ。茲では Richwin と犬とを一把一からげに云つた滑稽が含まれてゐるのである。もつと滑稽化すると mitsamt とも云へる。かういふ時には言葉が大袈裟なほど面白くなる。—【6】 Schwall, m. (澎湃たる氾濫、漲き

り、大洪水)—Redeschwall は、多數の人間がみんな一齊に雄辯にまくし立てた爲めに生じた Kohuabohu (がやがや) の事を云ふので、雄辯の洪水とでも云へばよからう。實際は一人の人間の滔々たる雄辯、所謂千言萬語をも Redeschwall と云ふのだが。—【7】 über なる前綴は、往々にして「……し破る」「……し負かす」の意を與へると同時に、動詞を四格支配にする。(然る時は非分離である) ragen 肇える(自動詞) etwas überragen (或物を凌駕する)。—【8】 Antwort erteilen は「返答を與へる」—vor erteilter Antwort = vor der Erteilung der Antwort に對する Hypallage (轉倒語法)。—【9】 abtreten は「その場を外す」「座を外す」「次に退く」—尾篠な話だが便所へ行く事も abtreten と云ひ、便所を der Abritt と云ふ。—【10】 ihm は Richwin 自身を指す。—【11】 auf wenige Minuten = 只今から數分の豫定での意で、つまり「しばらく」。—【12】 jemandem Gehör schenken (或人に耳を貸す、傾聽する)。—日本人はけちで「貸す」と云ふが、ドイツ人は「贈る」といふ。—【13】 mögen が「云々する様に」の「様に」に當る事は文法で述べた。

48.

„Misstrauet¹ den süßen² Worten des Grafen!“ rief er.
„Hätte er uns seinen Born entboten,³ ich⁴ würde nicht erschrocken sein, aber da er uns seine Huld⁵ entbietet, erschrecke ich. Der Graf schenkt uns seinen Hirsch nicht umsonst.⁶ Wir bedürfen⁷ des Grafen nicht; sein Vetter, der Braunsfelsener⁸ Otto und Landgraf Hermann von Hessen sind uns bessere Bundesgenossen. Graf Johann aber bedarf unser.⁹ Und hat er uns

erst¹⁰ am kleinen Finger, so hat er uns auch ganz.¹¹ Thasso, Thasso! du schaffst¹² uns großes Leid, nicht weil du jenen solmsischen Hirsch ins Weßlarer Feld,¹³ sondern weil du diesen¹⁴ Hirsch in die Weßlarer Ratsküche¹⁵ jagtest! Ich beschwöre euch, werte Freunde, lehnet das Geschenk freundlich ab, fordert unser Recht und gebt dem Grafen das seine.¹⁶ Schidt den Hirsch zurück und behaltet den Jäger, bis der Graf des Dienstmannes Übermut nach¹⁷ der Ordnung fühnen will.

譯。『mißtrauet den süßen Worten des Grafen! 伯爵の甘言に乗つては不可ない!』[と] rief er 彼は言つた。『Hätte er uns seinen Born entboten 若しも彼が吾々に自分の怒りを傳へて寄越したのであるならば ich würde nicht erschroden sein 私は驚きはしないだらう。aber 然るに da er uns seine Huld entbietet 彼が吾々に好意を傳へて寄越したので erschrecke ich 私は驚くのである。der Graf schenkt uns seinen Hirsch nicht umsonst 伯爵が吾々に牡鹿を贈つて寄越したには譯がないではない。 wir bedürfen des Grafen nicht 吾々は伯爵を必要としない; sein Better, der Braunschweiger Otto und Landgraf Hermann von Hessen 彼の従兄弟たるブラウンフェルスのオットーと方伯ヘルマン・フォン・ヘッセンの方が uns 吾々にとつては sind.....bessere Bundesgenoffen よりよき盟友である。 aber 所が Graf Johann ヨーハン伯爵は bedarf unser 吾々を必要とする。 und それで hat er uns erst am kleinen Finger 彼が吾々の小指を摑んだが最後 so hat er uns auch ganz やがてそれは吾々の身體全體を摑んだことにもなるのだ。 Thasso, Thasso! タッソーよ! nicht weil du jenen solmsischen Hirsch ins Weßlarer Feld お前があのゾルムスの牡鹿をヴェツツラルの野原へ[追ひ込んだ]からではなくして sondern 寧ろ weil du diesen Hirsch in die Weßlarer Ratsküche jagtest お前が此の牡鹿をヴェツツラルの議事堂の料理場へ追ひ込んだが故に du schaffst uns großes Leid お前は吾々に大なる不幸をもたらしたのだ! ich beschwöre euch, werte Freunde 諸君、私は諸君にお願ひする、 lehnet das Geschenk freundlich ab この贈物を叮嚀に謝絶し給

へ、 fordert unser Recht 吾々の権利を要求し und そして gebt dem Grafen das seine 伯爵には伯爵の[権利]を與へ給へ。 schidt den Hirsch zurück 牡鹿を送り返し und そして bis der Graf des Dienstmannes Übermut nach der Ordnung fühnen will 伯爵が條理を立てて下僕の驕慢の償ひをする積りになるまで behaltet den Jäger 山番を捕へて置き給へ。』——

註。【1】 jemandem trauen (或人に信用する)の反対。——et の語尾は Ihr に対する命令法(第四卷 362)。——【2】 süß 甘き。日本語の「甘言」その儘である。——【3】 entbieten = mitteilen (傳へる)。——【4】 ich würde は變則的で、 würde ich が此の際正しい筈であるが、一たんに二つの文を強く對立せしめようとする際には、たゞ副文章の次に来る主文章でも倒置法(第二卷 132)を行はない事がある。つまり兩方とも主文章(第一卷 88)と見なすのである。此の場合も Hätte er uns seinen Born entboten? nun gut! ich würde nicht erschroden sein. (若し彼が憤怒の意を表して來たとすれば、よろしい、私は決して愕然とはしなかつたらう)と考へれば解る。——【5】 Huld = Wohl-wollen, n. 好意 Gunst 龍愛 Gnade 慈しみ、恵み。——da er uns huldigt と云つても好い。——【6】 umsonst (徒らに、ただで、無料で) = unentgeltlich, ohne Entgelt (無償で)——日本語でも「ただでは……せぬ」と云ふ。さればこそ此の伯爵の事を前に der schlaue Fuchs と呼んだのである。——【7】 des Grafen と二格になつてゐるのは bedürfen が二格支配であるため。——【8】 Braunschweig に er (第四卷 357) が附いたもの。——【9】 unser は wir の二格(第二卷 135)——bedürfen は二格支配(動詞の二格支配に關しては第二卷 137)。——【10】 wenn.....erst は「.....したが最後」といふ慣用形式。(wenn については第一卷 73)。——【11】有名な佛國の寓話作家ラフォンテヌ (La Fontaine) も其の「獵犬とその仲間」(La lice et sa compagnie) で同じ様な事を云つてゐる。

彼等にものの一步でも地歩を占めさせて見ろ。

その一步はやがて四歩となり五歩とならう。

[Laissez-leur prendre un pied chez vous,

Ils en auront bientôt pris quatre.]

der kleine Finger は小指で、一名 Ohrfinger とも云ふ。(拇指 Daumen, m. 人差指 Beigefinger 中指 Mittelfinger 薬指 Ringfinger)——haben = fassen, zu fassen kriegenつかまへる。

—【12】 schaffen = bringen (もたらす)——三要形は schaffen, schuf, geschaffen (創造する)と區別して schaffen, schaffte, geschafft である。——【13】 Feld の次に jagtest が省略されてゐる。——【14】 此の魔と云ふのは、即ち氣の許せない伯爵の贈物たる、現在眼の前にある魔を指す。羅馬の詩人 Vergilius が其の詩篇 Aeneas に於て Troja の祭司 Laokoon をして叫ばしめてゐる次の文句はよく斯う云ふ時に引用される名句である。(拉丁語)

Timeo Danaos, et dona ferentes.

我希臘人を怖る、況んや贈物を齎す希臘人に於てをや！

此の譯は少しわざと尖らせた譯であるが、要するに溫和な態度を取つて来る敵が一番油斷がならないといふ事を云ふのである。——【15】 これが第四卷 430 で説明した搬動語法で、jagen は搬動詞 (Latibum)

Lativa

搬動詞

と私が命名したものである。——Ratsküche は Rathaus (市會議事堂) の Küche (料理場) である。——【16】 sein (物主代名詞) が此處では形容詞的に用ひられてゐる。das seine は sein Recht の代り。——聖書の Gebt dem Kaiser, was des Kaisers ist, und Gott, was Gottes ist. (カイゼルの物はカイゼルに與へよ、神の物は神に與へよ。) になぞらへたもの。——【17】 nach は「……に従つて」と云ふ意の nach。——ordnungsgemäß (合法的に、踏む可き手順を踏んで、筋路を立てて) の意。つまり、来るなら堂々と玄関から來い、Nur keine Hintertreppenpolitik! (勝手口外交はお断り) といふ譯である。

49.

Hier unterbrachen die andern den Redner und hielten ihm vor,¹ er treibe² seinen Gross wegen³ des leichten Hiebes doch⁴ zu weit, daß⁵ er nicht einmal⁶ durch so viel Güte zufriedenzustellen⁷ sei.⁸

Weister Richwin⁹ aber erwiderte: „Spräche¹⁰ ich für¹¹ mich, ich wäre wohl¹² der Zufriedenste¹³ mit¹⁴ des Grafen Vorschlag, vorab¹⁵ wegen meines Hundes. Aber ich rede hier als Rats-herr der Reichsstadt und sage¹⁶: Fordert unser Recht und gebt dem Grafen das seine: dem Grafen ist der Hund ver-fallen, weil er seinen Wildbann durchbrochen,¹⁷ uns ist der

Forstwart verfallen, weil er unsern Burgfrieden¹⁸ verletzt hat. Aus Furcht vor dem Zorne des Grafen wollte ich diesen Hund, meinen treuesten Freund, nicht ausliefern, aber aus Furcht vor des Grafen Freundschaft liefere ich ihn aus.¹⁹ Vorhin, da ich als des Hundes Untwalt²⁰ sprach, hätte ich weinen mögen²¹ über das arme Tier; jetzt spreche ich als der Untwalt unserer Gemeine²² und da möchte ich noch viel bitterere Tränen²³ weinen, nicht über den Hund — was²⁴ kümmert mich der!²⁵ — sondern über das heranschleichende Verderben²⁶ meiner armen Vaterstadt!“

譯。 hier 此處で die andern 他人々は unterbrachen..... den Redner 紳士 [の演説] を中斷した und そして daß er nicht einmal durch so viel Güte zufriedenzustellen sei これ程の好意を示されてすらも得心が行かないとは er treibe seinen Gross wegen des leichten Hiebes doch zu weit 高が軽微な打撃の故の恨みを極端化し過ぎるものだ [と言つて] hielten ihm vor 彼を批難した。

aber 所が Meister Richwin リヒギン親方は erwiderte 答へた: „Spräche ich für mich 私が自分の爲めに辯じてゐるのであつたら ich 私は wohl 恐らく vorab wegen meines Hundes 特に私の犬の故に wäre..... der Zufriedenste mit des Grafen Vorschlag 伯爵の申出でを一番満足に思ふ筈だ。 aber 併し ich 私は hier 此の席上で als Rats-herr der Reichsstadt 自由市の議員として rede 演説してゐるのである und 故に sage 敢て言ふ: fordert unser Recht 吾々の権利を要求せよ und 而して gebt dem Grafen das seine 伯爵の権利は伯爵に與へよ: der Hund 犬は weil er seinen Wildbann durchbrochen 彼 [伯爵] の狩獵獨占権を侵害せるが故に ist dem Grafen..... verfallen 伯爵の所有に歸したのである、 der Forstwart 山番は weil er unsern Burgfrieden verletzt hat 吾々の転轡禁制に違反したが故に ist uns..... verfallen 吾々の手中に落ちたのである。 aus Furcht vor dem Zorne des Grafen 伯爵の怒りを怖れたるが故に diesen Hund, meinen treuesten Freund 私の最も忠實なる友たる此の犬を wollte ich..... nicht ausliefern 私は引き渡すこ

とを欲しなかつた、aber 併し aus Furcht vor des Grafen Freundschaft 伯爵の友誼を恐るるが故に ließere ich ihn aus 私は犬を引き渡す。vorhin, da ich als des Hundes Anwalt sprach 先刻私が犬の辯護人として話した時には hätte ich weinen mögen über das arme Tier 私は成程あの可哀さうな犬のために泣きたかつた、jetzt [然るに]今度は spreche ich als der Anwalt unserer Gemeine 私は吾々の共同體の辯護人として話してゐるのである und da であつて見れば nicht über den Hund この犬のためにではなく — was kümmert mich der! 犬などはどうでもよい! — sondern 寧ろ über das heranschleichende Verderben meiner armen Vaterstadt 忍び寄りつつあるわが父市の破滅を悼んで möchte ich noch viel bitterere Tränen weinen 私は尚遙かに痛切に泣きたいのであります!】

註。【1】 einem etwas vorhalten = vorwerfen 或人に或事を非難する。——【2】 zu weit treiben (やり過ぎる) といふ熟語。——【3】 wegen des leichten Siebes は、前の seinen Groß に掛かる附加語 (Attribut) であると云ふ。即ち「彼は彼の恨を軽い打撃のために極端化する」ではなくて、「彼は高が輕微な打撃の故の恨みを極端化し過ぎる」である。——【4】 doch は「どうも」である。これまで大抵「矢張り」と譯し慣らして來たが、此の際でもそれで意味が通じない事はない。「どう考へて見てもやはり」と云ふ「やはり」である。——故に此の doch はよく非難の意の文の中に用ひられる。Das ist doch zu stark! (それはどうもあんまり甚い) Das ist doch ein unerträglicher Mensch! (こいつはどうも我慢のならない野郎だ)。——【5】 daß は so daß の代りである。即ち so daß 以下の文が、以上の文から生ずる歸結、又は結果を指すのである。——それから此の際の so daß は、普通「……であるとは」と譯されるもので、斯う云ふ類型に屬する so daß は大抵の場合 daß と略されるのが例である。was hast du denn, daß du mich nicht einmal ansiehst? 僕の顔さへ見ないとは、君は一たいどうしたのだい。Wo warst du, daß du so spät nach Hause kommst? こんなに遅く歸つて來るなんて、君は一たい何處をうろついてゐたのだ。——【6】 nicht einmal は「……すらも……しない」といふ否定慣用句である。——【7】 zufriedenstellen (得心させる、満足させる)= versöhnen (和解する) befriedigen (鎮める) beruhigen (鎮撫する)。——【8】 zufrieden-zu-stellen sein なる形式については第四卷 291。——

daß [……するとは]

【9】 spräche と wäre とで所謂約束法的語法をなしてゐる。(第三卷 212) — wäre ich となる可きのが ich wäre となつてゐるのは、既に述べた通り、Spräche ich für mich: nun gut, ich wäre..... と nun gut (よし、然らば) が這入つたやうな關係になるのである。——【10】 für einen sprechen (或人の利益のために辯護の勞を執る) だから辯護者を Fürsprecher と云ふ。——【11】 wohl = vielleicht。——【12】 形容詞の最高級の用法に注意せよ。ich wäre wohl am zufriedensten はいけない、ich wäre wohl zufriedenst は更にいけない。(第三卷 226)。——【13】 mit dem Vorschlag des Grafen。——zufrieden は必ず mit を伴ふ。——【14】 vorw=besonders。——【15】 ich sage は時には此の場合の様に非常に念 (Nachdruck) が入つて「私は敢て云ふ」「私は明言する」の意になる。——【16】 次に lat を入れて考へよ。——【17】 中世紀の如き亂國時代にあつては、争ひ出せばきりがないから、あらゆる個々の問題を打ち切つて、とにかく何處何處の區域では理由の如何に係らず軋轢確執無用の事といふ條約を締結する事が稀ではなかつた。其處では、たとへ争ふ可き相當の理由ある者でも、争へば直ちに罰せられる、(大抵右手を斬られるのが例だつた) 喧嘩がしたければ餘所へ行つてするの外はない。此の制度の事を Burgfriede (軋轢禁制) といふ。或種の永久的停戦規定 (permanenter Waffenstillstand) である。——【18】 なかなか巧い事を云ふ。昔の人間は大抵かういふ風に對照論法 (Antithese) を用ひて複雑な事實を道破したものである。著者は蓋し彼のシーザーを殺した Brutus の演説の有名な對照論法を真似たのであらう。沙翁の Julius Caesar の獨譯を引用して見る。

Burgfriede.
軋轢禁制Antithese
對照論法

Weil Cäsar mich liebte, mein' ich um ihn; weil er glücklich war, freue ich mich; weil er tapfer war, ehr' ich ihn; aber weil er herrschüchtig war, erschlug ich ihn.

シーザーは私を愛した、かるが故に私は彼を悼む。彼は幸福であつた、かるが故に私は欣ぶ。彼は勇敢であつた、かるが故に私は彼を尊敬する。然るに彼は支配慾に驅られた、かるが故に私は彼を殺したのだ。

——【19】 Anwalt, m.=Fürsprecher, Abvolut. — 【20】 mögen は認容 (第四卷 299) の意である。「なるほど……ではあつたに違ひない」「泣いたには泣いた」「なるほど泣きたかつた」—— hätte mögen は約束法、(的語法の結論の部に相當する)。——【21】 Gemeine=Gemeinde. (町村、自治團體、即ち此處では Stadt 市と同じ事) — gemein は「公共」の意。英語佛語の commune,

municipal, municipality 等と關係してゐる。——【22】 所謂 inneres Objekt (第四卷 425)。——【23】 前に一度述べた in nichts (何事に於ても、如何なる點でも) の意の nichts を伴ひ得る動詞 (taugen, angehen, kümmern 等) は、疑問詞は worin の代りに單に was を用ひる。 Was taugt es? そんなものが何の足しになる。 Was geht mich das an? それが俺に何の係はりがある。 Was kümmert mich das? そんな事には痛痒を感じない。——kümmern だけの意味は「心配させる」とでも云へばよからう。——【24】 der は指示代名詞 (第二卷 178.) Verderben, n. 破滅=Unheil, n. 災 Katastrophe, f. 慘禍 Untergang, m. 浪落。

50.

Der Meister hatte in den Wind¹ gesprochen; er blieb allein mit seinem Argwohn.² Das Geschenk ward mit Dankesworten angenommen und passend³ erwidert, der Dienstmann freigegeben, und Graf Johann von Solms war bald, was⁴ er gewollt,⁵ der erklärte⁶ Freund und Beistand des Weißlauer Rates.

Als der Hirsch bei festlichem Mahle⁷ verzehrt und der Bacharacher getrunken wurde, blieb Meister Richwin schmollend⁸ zu Hause, und Thasso bekam nicht⁹ einen Knochen von dem Wild, welches er doch¹⁰ den Ratssherren in die Stüche gejagt.¹¹

譯。 der Meister hatte in den Wind gesprochen 親方の演説は馬の耳に念佛であつた; er blieb allein mit seinem Argwohn 彼の憂慮は一人として之を分つ者がなかつた。 das Geschenk その贈物は ward mit Dankesworten angenommen 感謝の辭を以て受領され und そして passend erwidert 然るべく返禮された。 der Dienstmann freigegeben [また]その下僕は釋放された。 und そして Graf Johann von Solms ヨーハン・フォン・ゾルムス伯爵は bald 間もなく was er gewollt 彼の當初の計畫通り war..... der erklärte Freund und Beistand des Weißlauer Rates ヴェツツラル議會の公然の味方公然の助力者になつた。

bei festlichem Mahle 宴會を開いて als der Hirsch.....verzehrt und der Bacharacher getrunken wurde 牡鹿が食ひ盡されバツハラツハ酒が飲まれた時 Meister Richwin リヒキン親方は blieb.....schmollend zu Hauseすねて家に止まつてゐた und Thasso タッソも welches er doch den Ratssherren in die Stüche gejagt [謂はば]自分が議事堂の料理場へ追ひ込んだ von dem Wild 牡鹿を bekam nicht einen Knochen 骨一つ貰はなかつた。

註。 【1】 in den Wind [hinein-] sprechen (風に向つて語る)=vergeblich sprechen (益なく語る、語つて益なし、滔々數萬言を費して遂に何の得る所もない)。——【2】 Argwohn, m. は普通は「邪推」であるが、此の場合は單に Verdacht, m. (疑心暗鬼) Furcht, f. (危懼の念) böse Ahnung, f. (好くない蟲の知らせ)——Er blieb allein mit seinem Argwohn 彼は彼の危懼と二人きりになつてしまつた=kein Mensch wollte mehr seinen Argwohn teilen もはや彼の怖れを分つ者が無くなつてしまつた。 Er wurde allein seinem Argwohn überlassen 彼はただ一人彼の怖れに引き渡されてしまつた。 即ち彼の杞憂を相手にしてくれる者は彼だけになつてしまつた——斯う云ふ考へ方は特に西洋的であつて、概念的に説明するのは困難であるが、ある種の具體的想像を前に置いて考へると譯もなくわかる。即ち、Richwin は、今まで Argwohn を人々に押し賣りにしてゐた。ところが誰もそれを相手にして呉れない、それどころか Argwohn を Richwin の方へ押し返して彼の許を去つてしまつた。可哀想な Argwohn は、Richwin と共に、あとにボカンと取り残されてしまつたわけである。——【3】 passend=schicklich, angemessen (適當に、然るべく)。——【4】 文意を受ける was. (第三卷 171.)——【5】 was er eigentlich gewollt hatte, 彼が元來欲したところの事柄であるが。——wollen=beabsichtigen (めがける、狙ふ)。——【6】 「宣言する」といふ erklären から來た過去分詞の形容詞。 erklärt=ausgesprochen (堂々と宣誓した。公然たる、堂々たる、露骨な)。——【7】 Mahl, n. (食事) と Mal, n. (何回といふ「回」)とを混同不可からず。——【8】 schmollen は口を尖らして「ふくれる」「不貞腐れる」「拗ねる」と。 schm- で始まる字には口に關係のあるものが多い。 schm- で始まる字が大抵鼻に關係してゐると好一對である。

schm- で始まる語

schmecken	味がある	schmarotzen	居候する
schmunzeln	微笑する[口元で]	Schmaß	接吻
Schmaus	宴會	schmähen	罵る
schmollen	すねる	schmälen	罵る

—【9】 keinen Knochen といはず nicht einen Knochen といふと、「一つも」と云ふ意味がはつきり出る。—【10】「云々して置きながら」「云々した辯に」「云々である筈の」等の意味の副文章には dochを入れる。これは註で一度詳しく述べた。關係代名詞の次に来る文中に挿入する doch とは必ず此の意味だと思つてよろしい。—【11】註 48 の 15 を見よ。

51.

Dies war geschehen im Jahre 1372.¹ Im folgenden Jahre schlug man vor² dem Obertor³ von Weßlar die heiße⁴ Schlacht, in welcher der Sternenbund⁵ besiegt ward und vernichtet.⁶ Die Bürger der Reichsstadt fochten unter der Führung des Grafen Johann von Solms, und ihre Weiber verteidigten die Tore, indem⁷ die Männer draußen⁸ im Felde⁹ kämpften. Der Landgraf¹⁰ von Hessen und Otto von Solms-Braunsfels teilten sich mit ihnen in¹¹ die Ehre des Tages.¹² Meister Richwin war auch mit¹³ dabei.¹⁴

Noch¹⁵ am Abend nach der Schlacht ließ Graf Otto die gefangenen Ritter der Sternen, welche in seine Hand gefallen,¹⁶ enthaupten¹⁷; Graf Johann dagegen begnadigte die übrigen ohne seiner Verbündeten¹⁸ Vorwissen.¹⁹

„Merket auf!“²⁰ sprach der Meister Richwin zu seinen Mitbürgern. „Ein neues Warnungszeichen!²¹ Graf Johann hat doppeltes Spiel²² im Sinn²³ und hält sich den Weg offen²⁴ nach rechts und links.“²⁵

註。 dies war geschehen im Jahre 1372 これは一三七二年の出来事であつた。 im folgenden Jahre その翌年 vor dem Obertor von Weßlar ヴェツツラルのオーベルトール郊外で in welcher der Sternenbund besiegt ward und vernichtet 星晨同盟が敗北し全滅せしめられたる schlug man……die heiße Schlacht 激戦が行はれた。 die Bürger der Reichsstadt 自由市の市民達は unter der Führung des Grafen Johann von

Solms ヨーハン・フォン・ゾルムス伯爵の指揮下に fochten 戰つた、 undそして ihre Weiber 彼等の妻は indes die Männer draußen im Felde kämpften 夫が市外の戦場で戰つてゐる間 verteidigten die Tore 市門を守護した。 der Landgraf von Hessen und Otto von Solms-Braunsfels 方伯フォン・ヘッセンとオットー・フォン・ゾルムスブラウンフェルスは teilten sich mit ihnen in die Ehre des Tages 此の一戦の名誉を彼等とわかつた。 Meister Richwin…… auch リヒギン親方も亦 war ……mit dabei 之に参加した。

noch am Abend nach der Schlacht 戰争の終つたその日の未だ終らぬうちに Graf Otto オットー伯爵は welche in seine Hand gefallen 自分の手中に歸した die gefangenen Ritter der Sternen 捕虜の星晨同盟の騎士を ließ……enthafteten 斬首せしめた； dagegen 之に反して Graf Johann ヨーハン伯爵は ohne seiner Verbündeten Vorwissen 自分の同盟者達に断りもなく begnadigte die übrigen 無縫の者を大赦した。

„merket auf! 用心し給へ!“²⁶ [と] sprach der Meister Richwin zu seinen Mitbürgern リヒギン親方は自分の市民仲間に言つた。 „ein neues Warnungszeichen! 新たな警告の徵(しるし)が現はれました! Graf Johann ヨーハン伯爵は hat doppeltes Spiel im Sinn 誤魔化し勝負をやらうとしてゐるのだ und だから hält sich den Weg offen nach rechts und links 二股をかけてゐるのだ。』

註。【1】 dreizehnhundert zweieundfiebig と讀む。(第四卷 337.)—【2】 一つの町を基準にして vor と云ふ字が用ひられると、それは町に著く手前、即ち市外を指すのである。 Vor der Stadt 町外れに Vorstadt 市外、場末 Vorort 隣接町村。—此の場合も、Obertor の手前、または外の意。—【3】 中世紀風の町はすべて一つの Burg 「城砦市」であるから、四方に Stadttor (市門) がある。 Obertor は Weßlar の一つの市門である。—【4】 heiß は戦に就て云ふ際には「惡戦」「苦戦」「激戦」の意をなす。(既述)—【5】 ずっと前に述べた Sternenbund と同じ。—【6】 besiegt und vernichtet ward の代り。 ward = wurde。—【7】 indes = während。—【8】 draußen im Felde といふ語順については第四卷 317。—【9】 im Felde (戦場で) と auf dem Felde (野良で)との差に留意せよ。同じ様な區別が im Land (國內に) と auf dem Lande (田舎で)との間にも存する。—【10】 sich mit jemandem in etwas teilen (或人と或物をわかつ) といふ熟語。—【11】 der Tag は「其

の日」の意であるが、主として戦に關して用ひる。der Tag といへばそれだけで既に die Schlacht (合戦) の意になる。——【12】此の mit は前置詞ではなく副詞である。「一緒に」即ち mit den andern (他の人達と共に) の意。——【13】 dabei sein=für sich daran beteiligen (参加する)。——【14】 noch は日本語の「も」に相當する。noch heute (今日にも) 等。gleich (すぐ) といふに同じ。また sogar と云つても好い。——【15】次に waren が省かれてゐる。——【16】 enthaupten=ḥöpfen 頸首する、斬首する。——【17】 第二卷 198。——【18】 ohne Vorwissen=誰その豫知なく、即ち誰それに断りもなく、誰それに無斷で。——【19】 aufmerken=aufpassen (注意する) —— merket auf!=passt auf! nehmst euch wohl in acht! Seid auf eurer Hut! Hüttet euch! (各々方油断を召さるな、心せよ。) ——【20】 Zeichen=徵(しるし)、兆候、きざし、お告げ。——【21】 doppeltes Spiel の Spiel は、賭博の事、従つて掛け引き、策略、手、手のうち。——doppeltes Spiel は、二重の手、二枚札、二道を掛けた態度、日和見、どつちへ轉んでも差支へない様に出来上つてゐるトリック、つまり向背兩様の構へと云つたやうな意を指す。——doppelt=gzweideutig 暖昧な、いづれとも決せざる、二様に取れる。——【22】 im Sinn haben=脳裡に秘めてゐる、心に藏してゐる、胸に抱いてゐる、胸底に潜めてゐる。(俗語では in petto haben といふ。) ——【23】 sich den Weg offen halten=自分の都合の好い様に道を開いて置く、即ち進退の自由を保留して置く。——【24】 左右は、別に現今の所謂左翼右翼のつもりではない。急進派を左と云ひ保守派を右といふやうになつたのは、十九世紀に於ける獨逸の議會の議員席の配分法から生じた偶然な結果であつて、此の物語の時代には何の關係もない。

52.

Die Bewohner aber achteten's nicht und meinten,¹ der Meister bilde² sich doch gar zu treu³ nach seinem Hunde. Weil Thasso nicht mehr spiele, sondern jetzt lieber⁴ knurre und beiße, so vermeine⁵ Richwin, er müsse nun⁶ auch knurrig⁷ und bissig⁸ werden. Ein launischer Mann sei er nach wie vor⁹ und hasse jetzt grundlos den Grafen Johann, welcher doch¹⁰ der Stadt solchen Ruhm¹¹ gebracht,¹² wie er auch¹³ vordem Liebe und Haß nach¹⁴ Grillen¹⁵ und Einfällen gewechselt habe. Die Volksgunst¹⁶ hatte sich gar¹⁷ rasch von dem Meister abgelehnt.¹⁸

譯。 aber 所が die Bewohner ヴェツツラル市民は achteten's nicht それを意に介しなかつた und そして meinten 言つた。 der Meister 親方は doch gar zu treu どうも餘り忠實に bilde sich.... nach seinem Hund 自分の犬を手本にしがる。 Thasso タッソが nicht mehr spiele 最早遊び戯れないで sondern 反つて jetzt lieber knurre und beiße 呟つたり噛んだりする weil ものだから so そこで Richwin リヒギンは er..... auch 自分も nun 今度は müsse.....knurrig und bissig werden ぶつぶつ言つたり毒舌を振り廻はしたりせねばならない [と] vermeine 思ひ違ひをしてゐる。 er 彼は nach wie vor 依然として ein launischer Mann sei 気分屋である、und そして jetzt 今は wie er auch vordem Liebe und Haß nach Grillen und Einfällen gewechselt 以前もその時々の氣持次第で愛憎定りなかつたが welcher doch der Stadt solchen Ruhm gebrachtともかく自由市にかかる名聲を齎して呉れた den Grafen Johann ヨーハン伯爵を grundlos 何の謂はれもなく hasse 増んでゐると。 die Volksgunst 人氣は gar rasch 見る見る hatte sich.....von dem Meister abgelehnt 親方を去つてしまつた。

註。【1】 meinen は、斯う云ふ場合には、「考へる」といふ意ではなく、むしろ「意志表示をする」。即ち meinten は「云つた」「評した」である。——【2】 sich nach etwas bilden (自分を或物に似せて造る) とは nach etwas arten (段々と或物に似て来る) と同意。——【3】 treu は、繪なぞが忠實な模寫だと云ふ意味に於ける「忠實」である。getreu ともいふ。(たとへば naturgetreue Darstellung 實物通りの模寫。)——【4】 gern (好んで) に對する變則的比較級が lieber (むしろ) 又は eher, vielmehr で、最高級は am liebsten (最も好んで、なるべく、出来るごとなら、慾を言へば) —— gerner, am gernsten は用ひられない。——【5】 vermeinen は「誤信する」—— ver- の前綴は往々にして悪化するために用ひられる。 wechseln (交換する) oderwechseln (混同する) führen (指導する) verführen (誘惑する) 等。——【6】 nun は「愈々」「さては」「すると」—— Nun kommt er! (愈々來たな) Da bin ich nun ein Soldat! (さては俺も兵隊になつたかな) Wohin soll ich nun gehen? (すると俺は何處へ往つたら好いのかしら。) ——【7】 犬の knurren (呻る) のは人間で云へば brummen (ぶつぶつ云ふ) murren (ぐづぐづ云ふ) に相當する。——【8】 beißen (噛む) に相當する名詞が Biss, m. (咬傷) で、それから來たのが

gern	好んで
lieber	むしろ
am liebsten	なるべく

bissig (咬み癖のある、歯癖の悪い、即ち毒舌的な)。——【9】 nach wie vor (依然として、従来の通り)は、熟語。——【10】 doch は、既に度々出て來た、「……である筈の」といふ文に這入る doch。——【11】 Stuhm, m. (名聲、聲價)と Ehre, f. (體面、面目、名譽)とは違ふ。——【12】 次に hatte を省く。——【13】 wie.....auch で「たとへ如何に.....であるにせよ」の意になる。第四卷 299。——【14】 nach=je nach. (.....次第で、.....に應じて、.....に任せて、.....の加減次第で、.....の如何に従つて)——nach meiner Ansicht (私見によれば) 等の nach ともまた一寸違ふことがわかるだらう。——【15】 Grille, f.=Laune, f. 機嫌、氣紛れ。——【16】 Volksgeist, f. 民衆の寵愛、即ち人氣、受け。現在のドイツ語では Popularität といふ。形容詞は populär. ——たとへば緊縮 (Einschränkung) や財界の建て直し (Sanierung) 等を目標とする内閣は動もすると unpopulär (人氣が悪く) なるとしたものである。——【17】 gar は、普通は否定詞の前に置かれるが、かういふ風に「とても」「ずゐぶん」の意の時には肯定にも使はれる。——【18】 sich von.....ablehnen =sich von.....abwenden. (.....から轉じ去る、即ち.....に背を向ける、去る)。

53.

Im Rate saß er nun meist fast ebenso stumm, wie der stumme Ratsherr unter seinem Stuhle. Sprach er ja¹ ein Wort, so war es eine Warnung vor der übermäßigen² Freundschaft des Grafen Johann; der lode³ so süß wie der Bogler, bevor er die Vögel fange.⁴ Häufig erschien Meister Richwin auch⁵ gar nicht⁶ im Rate, zumal⁷ wenn er wußte, daß Graf Johann auf⁸ den Saal komme, um den Bürgern irgendeinen neuen Dienst anzubieten. Denn fast schien es, als ob der Graf neben⁹ dem adoptierten¹⁰ stummen Ratsherrn unter dem Stuhle nun auch als Ratsherr adoptiert sei, aber nicht als ein stummer.¹¹ Das einzige Mal, wo Richwin zugleich mit¹² dem Grafen im Rate saß, hatte Thasso bei jedem Worte des Solmers dermaßen¹³ geknurrt,¹⁴ daß ihn sein Herr hinausführen mußte, damit der Hund nicht seines Privilegs verlustig¹⁵ gehe. Der Meister meinte, das Tier könne eben¹⁶ die

solmischen Forben¹⁷ nicht mehr sehen,¹⁸ seit es den Strauß mit dem Forstwart gehabt, und nahm dies als eine gute Ausrede, um jedesmal wegzubleiben, wenn der Solmer kam. Denn ohne den Hund gehe¹⁹ er nun durchaus nicht mehr aufs²⁰ Rathaus. Die Weißlarer aber sprachen: Richwin treibe denn²¹ doch den Spaß etwas zu weit²² und machen Spottverse auf²³ den unbeliebten²⁴ Mann. Es²⁵ lief ein gar lustig gezeichneter²⁶ Bilderbogen²⁷ mit vielen Reimen²⁸ um, worauf die gemeinsamen Erlebnisse des Meister Thasso²⁹ und des Meister Richwin naturgetreu³⁰ abkonterfeit³¹ waren mit der Überschrift:³²

„Auf diesen Bildern man ersieht,³³

Wie ein Hund einen Ratsherrn erzieht.“³⁴

譯。 nun 今や er 彼は im Rate 議會に於ては meist 大抵は fast 猶んど ebenso stumm, wie der stumme Ratsherr unter seinem Stuhle 彼の椅子の下の沈黙の議員同様に沈黙して saß 腰を掛けた。 ja それでも矢張り er 彼は sprach.....ein Wort 一言を發することがあつたが、 so さういふ場合には es それは vor der übermäßigen Freundschaft des Grafen Johann ヨーハン伯爵の過度の友誼に對する eine Warnung 一つの警告 war であつた； der あいつ [ヨーハン伯爵] は bevor er die Vögel fange 彼[鳥差し]が鳥を捕へる前の so süß wie der Bogler 鳥差し[がやる]と同じやうに快く [鳥を捕へようとする時の鳥差しのやうな甘言で] lode 誘き寄せてゐる[のだとリヒギンは言つた]。 auch また Meister Richwin リヒギン親方は im Rate 議場に erschien.....gar nicht 全然姿を現はさない [ことも] häufig 屢々 [あつた]。 zumal 特に er 彼が Graf Johann ヨーハン伯爵が den Bürgern irgendeinen neuen Dienst anzubieten 市民に何等かの新しい盡力を申し出るために [新たに何か御用がありましたら一臂の力を御貸し致しませうと市民に申し込むために] auf den Saal komme 議場へやつて來る daß といふことを wußte 知つた wenn 時には [特に]。 denn 何故かといふに fast どう見ても neben dem adoptierten stummen Ratsherrn unter dem Stuhle 嫁入り

した椅子の下の沈黙議員のほかに nun 今や der Graf..... auch 伯爵までが als Ratsherr 議員として als ob..... adoptiert sei 過へられたかの如き schien es 観があつた[からである]。 aber 併し[それも] nicht als ein stummer 沈黙議員としてではなく。 Richwin リヒギンが zugleich mit dem Grafen 伯爵と一緒に im Rate saß 議席に著いた das einzige Mal, wo ことが只一回あつたが[その時] Thasso タッソーが bei jedem Worte des Solmers そのゾルムス人の一言毎に [伯爵が一言發言する毎に] hatte.... dermaßen geknurrt, daß 物凄く唸つたので sein Herr 彼の主人は damit der Hund nicht seines Privilegs verlustig gehe 犬にその特權を失はせまいとして ihn 彼[犬]を hinausführen mußte 外へ連れ出さねばならなかつた。 eben つまり das Tier 犬は es それ[犬]が den Strauß mit dem Forstwart gehabt 山番と争闘して seit 以来 können..... die solmischen Farben nicht mehr sehen もはやゾルムス方を黙つて見てゐるわけには行かない[のだ]と der Meister 親方は meinte 言つた und そして dies この事實を jedesmal..... wenn der Solmer kam ゾルムス伯がやつて来る時には何時でも um..... wegzubleiben 出席せずにあるための nahm..... als eine gute Ausrede 都合の良い口實を利用した。 denn 何故かといふに er 彼は nun 今は ohne den Hund 犬を連れずには durchaus nicht mehr もはや全然 gehe..... aufs Rathaus 議場へ出席しない[のであると彼は言つた]。 aber ところが die Bewohner ヴェツツラルの市民達は、 Richwin リヒギンは denn doch どうも treibe.... den Spaß etwas zu weit 悪戯を少しやり過ぎる[やうだ] sprachen と嘆した und そして auf den unbeliebten Mann 此の評判の悪い男を當てこすつた Spottverse 讽刺詩を machten 物した。 mit vielen Reimen 澤山の詩句を書き添へた ein gar lustig gezeichneter Bilderbogen とても面白可笑しく描かれた小冊子が es lief..... um 流布した。 worauf その上には[その小冊子には] des Meister Thasso und des Meister Richwin タッソー親方とリヒギン親方との die gemeinsamen Erlebnisse 共同の奇談珍談が naturgetreu abkontext waren ありのままにくつきりと寫し出されてゐた mit der Überschrift その標題は次のやうであつた：

„Wie ein Hund einen Ratsherrn erzieht 犬が如何にして議員を教育するかは
auf diesen Bildern man ersieht.“ この本の繪を見ればよく分る。

註。【1】此の ja は doch と云つても好い。即ち、「大抵の際は黙つてゐる」と前に云つて、その次に、その例外として「それでもやはり (doch) 発言することがある」と云ふのだから、さう云ふ時には、日本語でも「さすがに」しやべるとか、「矢張り」喋舌るとか云ふ、それが普通には doch 時とすると此の場合の様に ja である。時には両方を同時に用ひて ja doch とも云ふ。——【2】 Maß 「度」の über 「過」ぎた事を云ふ。——【3】 定形が接續法第一式ゆゑ、これから後の文は、Meister Richwin の言を作者が引用するのである。——【4】 主文章が接續法だと、それに附屬する文章の定形も機械的に接續法にするのが正統文法である。近頃のドイツ人は必ずしも此の規則を墨守はしない。——【5】この auch は、第四卷で述べた前置的接續詞ではない、一字にかゝつて結びつくのではなく、並立的接續詞の auch である。即ち、議場に出て黙つてゐるかそれとも偶に一言發言することもあつたが、「また」全然出席しない事「も」あつたのである。——【6】 gar nicht (ちつとも)= überhaupt nicht (てんで) nicht einmal (出席「すら」しない) 近頃の俗語では gar nicht erst. Er kommt gar nicht erst zu mir! (あの野郎、第一てんで俺の所へ寄りつかねえんだ!)——【7】 zumal=besonders (殊に) vor allem (特に)——zumal wenn..... 云々の際には特に。——【8】 日本語の感じでは in でよからうと思はれる時に、よく auf が使はれるが、その auf は、何か「公開的な」場所の時に限られる。たとへば auf den Markt gehen (市場へ出掛ける) auf der Universität (大學で) 等。それに反して、auf der Schule (學校で) なぞと云ふと、一寸おかしい。同様に「住宅で」は im Wohnhaus だが、別荘となると auf dem Landhaus と云へる。即ち住宅の方は「私的」だが、別荘は、大學や劇場や博物館と同じやうに社會的、社交的、世間的な場所と見るのである。また Der Hausherr ist in seinem Zimmer と云ふと、その in は單に空間的に一つの場所を指したことになるが Er ist auf seinem Zimmer といふと、今にも新聞記者でも引見しさうな氣がする。だから學生諸君も、in die Schule gehen (學校へ通ふ) うちは少々我儘でもよろしいが、一たび auf die Universität ziehen (大學へ道入) つた上は、auf に對しても紳士的である義務がある。先生もさうで、in der Schule では單に unterrichten (授業) するだけによろしいが、auf der Universität では、vorlesen (講義) し vortragen (講演) する、理想を云へば學生といふ Publikum (公衆) と verkehren (交際) するのである。殊に學生をつかまへて、「おい君」なぞといふのは auf に抵觸すると思ふ。——【9】 Neben (.....の側に) といふ前置詞は、空間的な意味を離れると、「.....と並んで、.....と肩をならべて」即ち、はつきり云へば「.....以外に」

公開的な場所を指す
auf.

の意になる。議會には、これで餘計な議員が二名も出來たわけである。——

【10】 adaptieren (順應せしめる、翻案する、改修適合せしめる) と adoptieren (養子に取る) とは、よく取りちがへる。後者は、養子の場合のみならず、何でも外來のものを迎へて自分の所に置くことを云ふ。たとへば、哲學者なら、他人の意見を adoptieren (取り入れる) 時には、どうしても多少 adaptieren (修正を加へて適合させる) ことが必要である、等。

——【11】 sondern als ein gar zu lauter, (むしろあまり口數多き議員として) といふのを態と云はないで、餘韻にひびかせてある。——【12】 zugleich mit (……と同時に) zusammen mit (……と共に)。——【13】 dermaßen の代りに單に so と云つても好い。-maßenとか -gestalt とか -weise とか云ふのは、ほとんど「程度」または「方法」を指す語尾のやうになり切つてゐる。folgendermaßen (以下の如く、左の如く) vergestalt, folchergegestalt (左様に) seltsamerweise (奇妙にも)。——【14】 knurren は、犬が鼻を鳴らすのに云ふのみならず、人間が「ぐづぐづ」云ふのにも用ひる。murren (呟やく、不平を云ふ) といふ韻の合つた他の語に通するわけ。たとへば、批評家が人の創作の事をぐづぐづ云つて「難癖つける」のなぞは ein Werk befürren である。——【15】 verlustig gehen, verlustig werden (失ふ) といふ熟語は、その反対の意の habhaft werden (獲得する) と同様二格の名詞を要求する。——【16】 eben (つまり) は、何かの「わけ」を辯解する時に用ひる。——【17】 Farben (Farbe, f. 「色」の pl.) は、「旗幟」である。たとへばドイツの現今の Farben は「黒、赤、金」である。それから押し廣めて、ある國、貴族、主人等に屬するものが、「旗幟」を明かにするために身につけてゐる制服、制服の徽章等をも Farben といふ。普通は pl. に用ひるが、時には單數も用ひる。たとへば Lessing 作 Minna von Barnhelm の最後の幕にかういふ句がある。Sie bin sonst den Offizieren dieser Farbe (auf Tellheims Uniform weisend) eben nicht gut. Doch Sie sind ein ehrlicher Mann, Tellheim; und ein ehrlicher Mann mag stets in welchem Kleide er will, man muß ihn lieben. わしは元來此の旗印(とテルハイムの軍服を指す)の將校はあんまり好かん方でな。けれども君は堂々たる男ちやぞ、テルハイム。堂々たる男兒はたとへ如何なる服を身に纏うてゐようとも之れを愛せずにはゐられぬ。—— die sölmiſchen Farben は、文字通りならば「ゾルムスの旗幟、制服」、意譯すれば單に「ゾルムス方」である。——【18】 「もはや見ることが出來ない」といふ事は「憎む」といふ意に用ひられる。拉丁語では、in-visus (直譯すれば nicht gesehen) といへば、「憎まれてゐる」事である。ドイツ語でも、「貴様の様な奴は知らん」

adaptieren
と
adoptieren

-weise
-gestalt
-maßen

といふ時には Geh aus meinen Augen! (眼前を去れ) と云つてどなる。つまり ich kann dich nicht mehr sehen といふことである。Hole dich der Teufel! (悪魔が汝をさらつてしまへ) と云つても好い。—— das Tier は代名詞代りの名詞。(第四卷 427.) ——【19】 また Meister の言を引用した接續法。——【20】 此の auf については、少し前の註で説いた。(公開性を示す auf.) ——【21】 denn doch (どうも、實際どうも) といふ成句で、denn noch (しかしやつぱり、——それにも拘らず) の場合と同様の denn である。特に denn だけを取つて考へると、denn は dann (然る後に於て) で、或る事實をまづ一應は認めた上で、その上でもなほやはり、といふ、その「その上でも」「その後に於ても」「それからと雖も」が denn である。だから doch (矢張り) noch (なほ) 等と結び附きたがるわけである。denn noch は一字で denn noch とも書く。——

けれども、日本語の「實際ひどい」といふ「實際」だつて、文字としては如何にも表面上の事を一應みとめた上で、その「裏面は」といふ風に思はれるが、實際はやり單に「非常に」といふ意味になるやうに、denn doch の構造は上述の如くだけれども、用法は、「どうも實に」「甚だ」である。——【22】 zu weit treiben (あまりに遠くまで追ひやる) 即ち「やり過ぎる」「度をすこす」こと。「そりやあ君いくら何でもあんまりだらうよ! Das geht doch zu weit, mein Lieber! ——【23】 誰々を「狙つ」たり、「あてこすつ」たり「やつけ」たりする時には大抵 auf を用ひる。Das geht auf mich. (俺の事をねかしやがる) Die Kunst muß auf Eindruck berechnet sein (藝術は效果を目に割り出されてゐなければならぬ)。——【24】 近頃のドイツ語では unpopulär (不人氣な) といふ。政府なぞは此の Populärität (人氣) が肝心である。さりとてあまり Populäritätsbeschrei (人氣政策) になつても困るが。——單に geliebt は「愛された」だが、beliebt の方は「評判」や「人氣」や「輿論」の問題になつて来る。——【25】 事實を「現象化」して考へる際の非人稱 es. または文法上の es. (第三卷 273) 意味上の主語は次の Bilderbogen. ——【26】 malen (描く) といふ方は、油畫やベンキ畫のやうに、「塗る」時にしか使はない、所謂「描く」は zeichnen である。——【27】 Papier (紙) Blatt (紙葉) といふ代りに Bogen を用ひる。本當は、Bogen といふと、漉いて製造したままの大きな「全紙一枚」で、普通の書物はそれを八つに折つて綴ぢるから、ein Bogen といへば、普通の書物の八葉分、即ち十六頁である。それはまあ嚴密な意味であるが、とにかく何でも薄い一級の紙は、それが四枚だらうと八枚だらうと十六枚だらうと、ein Bogen と云つてかまはない。たとへばレターペーパーの際には、單に四頁にすぎないが、それでも ein Bogen Papier (全紙一枚) と云つて構はない。——茲で問題になつてゐるのは、全紙一枚分の一級 (ein Heft) をなした冊子のこと。Bogen といふ程でもないから。

—【28】 Reim は「韻」だが、茲では Vers 「詩の一行」の意。—【29】 Meister Thasso とは口が悪い。—【30】 wie sie sich wirklich zugetragen hatten それが事實起つた通りに。—【31】 abgebildet (寫し取られた) —此の ab- は、「寫す」といふ動詞から考へると、「取る」といふ ab- のやうに思はれるが、本當は「くつきりと」「輪廓をはつきりと」といふ ab- である。たとへば圓滿に完成することを abrunden と云ひ、くつきり浮び出ることを abstechen と云ふ等。Konterfeien (眞似る) は、prophezeien (豫言する) benebeien (祝福する) 等と同様、-ieren の語尾こそないが、やはり外來語だから、普通は ge- のない過去分詞を造る。—【32】 一段高く上の方に書くから Über-schrift。—【33】 ersieht といふ定形が主文章に於て文末に来るといふ事は、普通は許されない。詩か、俗謡に限られる。Wes Brot ich esse, des Lied ich sing'. (即ち Wessen Brot ich esse, dessen Lied singe ich パンを食はせてくれる人の歌を歌ふ。)—【34】 この詩は、第一行目は大變よろしいが、二行目は或種の滑稽な拙さをもつてゐる。こんなものを Knittelverse と云ふ。Knittelverse の特徴は、まづ四つのアクセントがあること(第一行 die-, Bild-, man, -sieht 第二行 Wie, Hund, Rats-, -zieht) それから、二行毎に脚音が合つて一對をなすこと。(ersieht, erzieht) それから、内容は、なるべく散文的で、滑稽で、概念的で、拙くて、氣分なんてものがちつとも無い事である。たとへば田舎の村長さんが「路を歩いて、田圃の稻を見るたびに思ふかな、今年もやはり豊年ならむと」といふ名句をひねくつたさうだが、これこそ正にドイツの Knittelverse である。その村長さんには Meistersänger (親方詩人——中世紀末の現象) の尊稱を奉るべきである。

54.

Meister Richwin ließ sich das wenig anfechten;¹ er waltete still seines² aufblühenden Hauses und ließ geschehen, was er nicht hindern konnte.³ War es doch⁴ nicht das kleinste⁵ Verdienst Thassos, daß er mit so vielen tausend Unarten seinen Herrn gelehrt hatte, geduldig zu sein und die überfeine Empfindlichkeit in die Tasche zu stecken.⁶

So vergingen wiederum zwei Jahre. Da ward eines Tages — es war um Sommer-Johanni⁷ — Meister Richwin auf das Rathaus entboten. Ungesäumt solle⁸ er sich einstellen, keine Ausrede gelte⁹ diesmal; Graf Johann von Solms sei er-

schienen mit einer Botschaft des Kaisers. Der Meister stützte.¹⁰ Eine Botschaft des Kaisers, das war¹¹ freilich eine gewichtige Sache! Und dennoch erklärte er, er könne nicht kommen: sein Hund werde knurren und bellen, wenn der Graf die kaiserliche Botschaft vortrage; denn Thasso, so gescheit er auch sei,¹² wisse doch nicht des Kaisers Wort von des Grafen Vortrag¹³ zu unterscheiden und könne also sozusagen die kaiserliche Majestät selber anknurren,¹⁴ und ohne den Hund gehe er nun einmal¹⁵ nicht aufs Rathaus. Selbst Frau Eva redete ihrem Manne zu;¹⁶ er aber blieb standhaft. Da kam ein zweiter Bote und mahnte, der Meister müsse kommen, mit oder ohne Hund, der Rat müsse diesmal vollzählig¹⁷ sein; es gelte¹⁸ die Ehre und Würde der Stadt.

譯。Meister Richwin リヒギン親方は ließ sich das wenig anfechten そんな事には殆んど頓着しなかつた; er 彼は still 静かに seines aufblühenden Hauses 自分の時めき行く一家を waltete 治め und て ließ geschehen, was er nicht hindern konnte 世間のことは起るに任せた [直譯: 彼が妨げ得ないことは起るに任せた]。er 彼[タッソ]が mit so vielen tausend Unarten 敷張りない悪戯によつて、geduldig zu sein 辛抱強くあること und 及び die überfeine Empfindlichkeit 過度の神經過敏を in die Tasche zu stecken 黙つてポケットに納めることを seinen Herrn gelehrt hatte 自分の主人に教へた daß といふ es ことは war.....doch nicht das kleinste Verdienst Thassos タッソの少からざる功績であつたのである。

so このやうにして wiederum またも zwei Jahre 二ヶ年が vergingen 経過した。da.....eines Tages すると或る日 — es war um Sommer-Johanni それは聖ヨハネ祭の頃であつた — Meister Richwin リヒギン親方は auf das Rathaus 議事堂へ ward.....entboten 召喚された [議場へ出席せよとの命令を受けた]。ungesäumt 即座に er 彼は solle sich einstellen 出頭すべきである、diesmal この度は keine Ausrede gelte 如何なる口實も許されない; Graf Johann von Solms ヨーハン・フォ

ン・ゾルムス伯が mit einer Botschaft des Kaisers 皇帝の教書[メツセージ]を携へて sei erschienen 登院した[といふのであつた]。 der Meister 親方は stützte ぎよつとした。 eine Botschaft des Kaisers 皇帝の教書、 das それは freilich 勿論 war……eine gewichtige Sache 忽せには出来ない事柄である! und dennoch それにも拘はらず erklärte er 彼は[かう]辯明した、 er könne nicht kommen 彼は出席することが出来ない: der Graf 伯爵が die Kaiserliche Botschaft 皇帝の教書を vortrage 朗讀され wennば sein Hund 彼の犬は werde knurren und bellen 呰り吠えるだらう; denn 何故かといふに Thasso タッソは so gescheit er auch sei 随分俐巧ではあるが doch それでも wisse……nicht des Kaisers Wort von des Grafen Vortrag zu unterscheiden 皇帝の言葉と伯爵の朗讀とを區別することが出来ない und……also それ故 sozusagen 言はば die Kaiserliche Majestät selber 皇帝の尊嚴そのものに anknurren 呰り掛る könne [ことに]なるかも知れない、 und ところが ohne den Hund 犬を連れずには er 彼は gehe……nun einmal nicht aufs Rathaus もう議場には出席しないことに定めてゐる、と。 selbst Frau Eva 奥さんのエヴァまでが redete ihrem Manne zu 自分の夫に説き勧めた; aber ところが er 彼は blieb standhaft 断乎として動かなかつた。 da すると ein zweiter Bote 第二の使者が kam やつて來 und て、 der Meister 親方は mit oder ohne Hund 犬を連れてなり、連れずになり müsse kommen [兎に角] 出席しなければならない、 diesmal この度は der Rat müsse……vollzählig sein 全議員が出席しなければならない; es gelte die Ehre und Würde der Stadt 町の聲價威信に關はる場合である、 mahnte [と言つて] 譴促した。

註。【1】「そんな事ぐらゐではちつとも憚かぬ(動せぬ)」を獨譯すると das sieht mich gar nichts an; das kann mir nichts anhaben; damit kommt man mir nicht bei; Dagegen bin ich gesetzet. (それに對しては私は不死身である)等といふ。 anfechten, anhaben の an- も、 beikommen の bei- も、自分の肩に近くせることを云ふのである。— ließ sich の sich は四格。直譯すれば Meister Richwin は das (その事をして) sich (自分を) ließ wenig anfechten (大して損ねしめなかつた)。—【2】walten は二格支配の動詞。—verwalten (管理する) Verwaltung (英 administration 行政) が近代語。—【3】換言すれば Er wurde gleichgültig gegen alles, was um ihn geschah. (自分の身邊に起る凡て

の事に對して無関心になつた。)—【4】war es といふ倒置法と dochとの意味については第二卷 131。—【5】nicht……leinst…… は所謂 Litotes (弱化語法) である。「最小の功績ではなかつた」即ちむしろ「最大の功績であつた」と云ふ事を云はうとするのである。 Er war nicht von den Dummsten 彼は最も馬鹿な人間の一人ではなかつた (相當づるい奴だつた) Wo es eine Wette galt, war er immer voran, nicht zuletzt [または nicht am wenigsten] im Trinken. (何でも競争となると彼は必ず總大將だつた、飲みつけは勿論のこと。)—【6】「黙つて引つこめる」事を「ポケットへおさめる」といふ。同様な場合に使ふ面白い Redensart (言ひ廻し) は、 zu Hause lassen (家に置いとく、人前へ出さない、振り廻さない、忘れる) である。たとへば、商人になつて大儲けをしようと思つたら、良心(Gewissen) なんてものはむしろ荷庖介で仕様がない、人道なんてものは、むしろ害あつて益なきセンチメンタリティにすぎないから、そんなものは zu Hause lassen する方が好い。(So etwas lässt man hübsch zu Hause.)—【7】Johanni は「ヨハネの祭」、 Johannes の二格(ラテン語)である。—ヨハネ祭は夏至(Sommersonnenwende)にあたるから、夏至そのものをも Johanni といふ。ところが一方冬至(Wintersonnenwende)といふものがあるから、その二つを區別するために Sommer-Johanni, Winter-Johanni といふ。—【8】間接話法の接續法で、これから後は、召集令狀の間接引用。—【9】gelten は Anerkennung finden (認められる、認容される) stich halten (通用する、通る、及第する) の意。—【10】stüßen 「支へる」と stützen 「ぎよつとする」とを混同不可からず。—【11】此の過去直接法が、第五卷の一番最初の註で述べた「扮役の過去」である。つまり作者が Meister Richwin の役に扮して云ふので、決して作者の意見ではない。—【12】so……auch…… の構文については第四卷 299。—本當ならば so gescheit er auch ist だが、主文章が接續法故、 ist が sei になる。—【13】vortragen とは、此の場合の如く、勅令そのものの「内容」と區別して云ふ時には、その「述べ方」である。もつと極端に云へば「辯舌」である。—【14】an- といふ前綴を用ひて他動詞を造ると、或人をどなり「つける」とか、微笑み「掛ける」とか、話し「掛ける」とかいふことになる。

fahren (突進する)	— einen anfahren 或人をどなりつける
Schnauze (動物の鼻)	— einen anschauenz (同上)
brüllen (咆哮する)	— einen anbrüllen (同上)
hunzen (叱る)	— einen anhunzen (同上)

anknurren は、つまりかうした例に基いて、類造をやつたのである。—もつ

とやさしい方の意味でも、色々と勝手に造ることができる。以下の *an-* はすべて「顔」に向つてなされる動作を指す。*(an-knurren 等の an-* もそれで、*—* たい西洋人といふ奴は、相手を叱つたり、どなりつけたりする時には、必ず自分の顔を相手の顔にくつと近づけるのが習慣だから、どなり「つける」等の「つける」に *an-* を用ひるのは極く自然である) たとへば、*sehen* は單に見るだが、*einen ansehen* と云へば、大抵その人の「顔」を見る事である。必ず四格を取る所に注目。*Alle lachten ihn hämisch an.* (みんなが彼の顔を見て憎々しく笑つた。) *Von dem Fenster lächelte uns eine idyllische Landschaft an.* (窓からは一つののどかな景色が我々に向つて微笑みかけてゐた。) *Er hat mich freundlich angeblinzelt* (彼は私の顔を見て親しげに眼をキュッと細くして目配せした。) *Die Bäume standen hell von den Morgenstrahlen angeglüht.* (樹々はばつと朝の日光に照らされて燃ゆるが如く見えた。) *Ein kühler Wind weht mich an.* (涼しい風が私の顔にそよぎかける。) *Man redet mich von allen Seiten an.* (あつちからもこつちからもみんなが私に話しかける。) — *anknurren* は、この、後に述べた方の *an-* ではなくて、どなり「つける」方の *an-* である。—【15】 *nun einmal* は、今まで度々出て來た「元つから……に決定してゐる」といふ熟語である。—【16】 *zu-* といふ前綴は「しきりに」「うるさく」「續けて」といふ意味になることがある。だから *zudringlich* (うるさく) といふ字がある。たとへば誰かが誰かをぶん殴つてゐる、草疲れてよし掛ける、すると側から第三者が應援する。*Schlag zu! schlag zu!* (もつと打て! つづけて打て!) — 同様に子守唄 (*Wiegenlied*) で *schlaſ zu!* といふのは、目をさまさないで、相變らず續けて眠れ、といふ事である。*immerzu!* (止まないで、としどし、ちやんちやん、ぐんぐん、しきりなしに。)—【17】 現今の所謂 *Plenarsitzung* 全員列席の總會。—【18】 *es gilt etwas* は *es geht um etwas* でもよろしい。「云々に關する場合である」「云々にかゝはる場合である」——たとへば「君が事方に急なり」*es geht um dein Wohl.* 「いざ鎌倉といふ場合」*wenn es das Äußerste gilt.* 「皇國の興廢此の一舉にあり」。*Es gilt das Fallen und Steigen unseres Kaiserreiches.* 「事一身の存亡に關するに於てをや」*zumal wenn es um das Wohl und Wehe seiner eigenen Person geht.* — シーザーは *area jacta est* (骰子は投げられた) と云つた。

es gilt etwas
es geht um etwas } 事……に關す。

「事一身の存亡に關するに於てをや」*zumal wenn es um das Wohl und Wehe seiner eigenen Person geht.* — シーザーは *area jacta est* (骰子は投げられた) と云つた。

55.

Der Meister saßt Argwohn über dieses Drängen.¹ Aber es galt die Ehre und Würde der Stadt. Also rief er dem Lehrjungen, daß er den Hund an die Kette lege und rüstete sich zum Fortgehen. Es grauste² ihm fast, zum erstenmale allein, ohne den Hund, den Ratsaal zu betreten.

Da kam der Lehrjunge von der Straße herein, um Thasso anzutreten. „Meister!“ flüsterte er, „es gehen seltsame Dinge vor. Ein Glück³ für Euch, daß Ihr so lange gezögert habt! Hinter dem Rathause stehen Bewaffnete,⁴ wohl über hundert, und hinter⁵ den Bewaffneten schauen altbekannte Gesichter her vor, patrizische Gesichter, und man meint, sie sähen⁶ etlichen⁷ Herren vom alten Rate, den man vor sieben Jahren vertrieben hat, aufs Haar⁸ ähnlich. Auch drängen sich solmsische Knechte nach den Stadttoren, als wollten sie den Ausgang wehren.“⁹

譯。der Meister 親方は über dieses Drängen この督促に對して saßt Argwohn 疑惑を抱いた[變だと思つた]。 aber 併し es galt die Ehre und Würde der Stadt 町の威儀に係はる場合である。 als そこで彼は dem Lehrjungen 徒弟に daß er den Hund an die Kette lege 犬を鎖に繋いで置けと rief 叫ん und で rüstete sich zum Fortgehen 出掛けの用意をした。 zum erstenmal 初めて allein 只一人、 ohne den Hund 犬を連れずに den Ratsaal zu betreten 議場に入ることとは es grauste ihm fast 彼には怖しい位に感ぜられた。

da その時、 der Lehrjunge 徒弟が um Thasso anzutreten タッソを鎖に繋ぐために kam……von der Straße herein 街上から[家へ]入つて來た。 „Meister 親方!“ flüsterte er と彼は耳語いた。 „es gehen seltsame Dinge vor 何だか様子が變ですよ [直譯： 奇妙な事柄が起きてゐる]。 ein Glück für Euch, daß Ihr so lange gezögert habt 貴方が今まで出しうつてゐたのはいい幸ですよ! hinter dem Rathause 議事堂の

後ろには Bewaffnete, wohl über hundert 武装をした連中が凡そ百人以上も stehen おます、 und それから hinter den Bewaffneten 武装をした者の背後からは altbekannte Gesichter……, patrizische Gesichter 古馴染の顔、貴族たちの顔が [いくつも] schauen……hervor 観いておます、 und そして sie 彼等は den man vor sieben Jahren vertrieben hat 七年前に追ひ拂はれた vom alten Rate 古い議會の etlichen Herren 敷人の貴族達に fähren……aufs Haar ähnlich 瓜二つだ man meint といふ話です。 auch……holmische Knechte ゾルムス家の家来達も als wollten sie den Ausgang wehren 脱出を阻止する積りなのか drängen sich……nach den Stadttoren どんどん市門の方へ押しかけて來ます。”

註。【1】 drängen (督促する、火急に催促する、しきりにせき立てる) といふ動詞から來た名詞。——【2】 es graust einem. (おそろしい) と云ふ非人稱動詞。grauen の代りに grauen を使つて es graut einem と云つても宜しい。es gruselt einem とも云ふ。一たい gr- で始まつてゐる字には、「物凄い」、「陰氣な」「忌な」「おそろしい」意味のものが多い。grausam 残酷な gräßlich おそろしい grob 駄棒な Gross 恨み grinzen 齒をむき出して笑ふ、等々々々。——【3】 Es ist ein Glück für Euch と云ふ代りに es ist を省いたもの。文全體が間投詞的になる時には es ist を省く事が多い。殊に形容詞、副詞を建築した省略文が多い。Sein, daß du kommst! よく來たね！Unmöglich, daß er mich nicht kennt! あいつが俺を知らないなんて事があるものか！Vielleicht, daß er so von mir denkt. 或ひはあいつは俺をそんな人間だと思ってゐるのかも知れぬ。Wohl wahr, daß er älter ist! そりやあなるほど彼奴の方が年上でもあらう。——【4】 武器は Waffe, f. 「武装する」が bewaffnen. —— Bewaffnete=Leute, die Waffen tragen. ——【5】 hervor の前綴のつく動詞と共に用ひられる hinter の意味については第三卷 239 の (6) ——【6】 此の sehen は英語の see でなくて seem. —— ähnlich sehen (似てゐる) といふ熟語と思へば宜しい。——【7】 etliche (若干の) は einige と同意。——【8】 Haar, n. は髪の毛であるが、aufs Haar または auf ein Haar は bis auf ein Haar (髪の毛の最後の一本に至るまで) の意で、aufs Haar ähnlich sein (細かい所まで似てゐる、ぴつたりと符合する、酷似する) は熟語。wie ein Ei dem andern (卵同志のやうに) とも云ふ。これは日本語の「瓜二つ」に近い。——【9】 wehren = verbieten (禁ずる、とめる、差止める) —— Ausgang は「出口」の意もあるが、茲では、前に Tore (門) が複數になつてゐて、Ausgang が單數になつてゐるのでわかる通り、むしろ「脱出」「逃亡」「遁走」の意である。

56.

Der Meister erbleichte;¹ doch war er rasch wieder gefaßt.² Er sprach zu seiner Frau: „Nimm die Kinder, den Lehrjungen und die zwei Kästchen mit dem Geld und den Kleinoden. Schleicht euch zur Mühle an der Lahn,³ dort ist das Pförtchen,⁴ das wird noch offen stehen; vor dem Pförtchen liegt ein Kahn; den löset⁵ und fahret zum andern Ufer. Meidet nur um Gottes willen⁶ die Brücke und die großen Tore. Seid ihr glücklich hinüber,⁷ so gehet eilends⁸ den jenseitigen Fußpfad⁹ nach Gießen. In Gießen treffe ich euch, so¹⁰ Gott will, wieder.“

Er drängte die fragende Frau vorwärts, bis¹¹ sie zitternd vollführte,¹² was er befahl. Dann fasste er Thasso an¹³ seiner Kette mit der linken Hand, mit der rechten aber nicht, wie sonst¹⁴ die Peitsche, sondern das Schwert, und eilte auch nicht aufs Rathaus, sondern auf den Markt.

譯。der Meister 親方は erbleichte さつと蒼くなつた; doch併し er 彼は rasch 直ぐに war……wieder gefaßt 落ち着きを取り返した。er 彼は zu seiner Frau 自分の妻に向つて sprach 言つた: „die Kinder 子供等、den Lehrjungen 徒弟、und それから die zwei Kästchen mit dem Geld und den Kleinoden お金と寶石の入つてゐる二つの小箱を nimm 携へて、zur Mühle an der Lahn ラーン河畔の水車小舎まで schleicht euch 忍んで行け、dort ist das Pförtchen そこには小さな門がある。das wird noch offen stehen あれは未だ開いてゐるだらう； vor dem Pförtchen その小門の前に liegt ein Kahn 一艘の河船が繋いである； den löset その船の綱を解い und 而 fahret zum andern Ufer 向上岸に渡るので。um Gottes willen 後生だから meidet nur……die Brücke und die großen Tore 橋と大きな市門は避けてくれ。seid ihr glücklich hinüber 無事に向ふ岸に渡つたら so さうしたら eilends 大急ぎで den jenseitigen Fußpfad 向ふ岸の小道を [通つて] gehet……nach Gießen キ

ーセンへ行くのだ。 so Gott will 運が良ければ 云ふ私は in Gießen や
ーセンで treffe……euch……wieder またお前達にお目にかかる。"

er 彼は die fragende Frau 問ひ訊ねる妻を drängte……vorwärts 行
けと急き立て、bis 遂に sie 彼女は zitternd 身慄ひしながら was er
befahl 彼が命令した事を vollführte 實行した。 dann それから er 彼
は mit der linken Hand 左手で fasste……faßte an seiner Kette タン
ーの鎖を掴んだ aber が mit der rechten 右手では wie sonst 何時もの様
に nicht……die Peitsche, sondern das Schwert 鞭はとらずに剣を [掴んで]
und……auch それも亦 nicht aufs Rathaus 議事堂へではなく
sondern して auf den Markt 市場へと eilte 急いだ。

註。【1】 Bleich は「蒼白い」——たい er. と云ふ前綴は、人間が「心の底
から」「全身に亘つて」反應を呈する事を意味する事がある。たとへば gittern
は單に「顫える」だが、erzittern と云ふと、

er- の前綴の一機能

「顫え上る」「身の毛がよだつ」「總身がぞつ
とする」「歯の根が合はぬ」といふ時に使
ふ。 erbeben, erschauern, 等も同意である。元來 er. は、古代ドイツ語では
ar ur 等と謂つて、現今の aus と同じ意だつたので、erbleichen (蒼ざめる)
erröten (赤面する) と云へば、蒼ざめること、赤面等の勃發する瞬間を指した
のであるが、その意味が忘れられて、今ではむしろ前に述べたやうな、「漫
潤」「徹底」「總感」を意味するやうになつてしまつた。字によると er. の代
りに zusammen. を用ひる。 zusammensfahren (はつと愕く), zusammenbrechen
(がくりと立ち崩れる、腰をぬかす。) zusammenfallen (土崩瓦壊する) zu-
sammenkratzen (倒壊する) — er. を用ひた一例を示すと、Sobald sie seiner
ansichtig wurde, erzitterte sie, ersetzte sie, errötete sie. (その男の姿が見える
毎に、彼女は總身をおののかせ、全身で溜息をつき、頭の天邊から足の爪先
まで真赤になるのであつた。) または、「彼女はハツと顫え上り、ホツと溜息
をつき、サツと顔を赤らめるのであつた」。——er. はつまり、その動詞の作
用が「突如」であることを意味すると同時に、それが全人格を以て行はれる
ことを示す前綴である。——【2】 gefaßt は fassen といふ動詞とは直接の關係
はなく、「覺悟せる」と云ふ形容詞だと考へた方がよろしい。(第四卷 375)
覺悟、沈着、冷靜は Gaffung, f. —【3】 河の名は大抵女性か男性で、中性
のことではない。どちらかと云ふと女性の方が多い。 die Mosel, die Isar, die
Ilm, die Weser, die Spree 等。男性では der Rhein, der Main, der Po, der
Nil [ナイル河] —【4】 Beforte, f. (小門) の縮小形。 —【5】 löset と fahret

とは、fahrt に対する古形である。——【6】 um……willen に就ては第三
卷 257 ペーチの上から五行目を見よ。 um Gottes willen は、文字通りには
「神に免じて」「神のために」で、丁度日本人の「後生だから」と云ふのにあ
たる。「後生」だから、を直譯して um des späteren Lebens willen; um des
anderen Welt willen; um des Jenseits willen; um des Himmelreichs willen
(天國のために、天國へ行つてからの功德になるから、功德を積むと思つて)。
と云つてもドイツ人には結構通する。

副詞、前綴の客語的用法

—【7】 hinübergelangt と云つても好
い。前綴、副詞等と sein とを共に用ひ
る簡潔な語法は、普通には非常によく使はれるから、主なものには慣れてお
く事が必要である。sie 等の次に来るからと云つて、形容詞だと思つてはいけ
ない。副詞、前綴の客語(述語)「的」用法である。

Das Licht ist aus.	光は消えた
Die Zeit ist um.	年期があけた
Das Stud ist los.	曲が始まつた
Sein Herz ist zu.	彼は胸襟を開かぬ
Er ist hinter mir her.	彼奴がうるさく附いて来る
Ihre Haare sind durcheinander.	彼女の頭髪は亂麻の如し
Die Musik ist voran.	樂隊が先頭に立つてゐる
Reiner war zugegen.	誰も臨席しなかつた
Tonfilm ist oben auf.	トーキー全盛
Er ist mir zuwider	俺は彼奴が厭だ
Die Hoffnung ist dahin.	希望は去りぬ、已ぬる哉
Der Dieb war fort.	泥坊はもはや居なかつた
Der Ring ist entzwey.	指環は真二つに毀れた
Die Krise ist vorüber.	危機は去つた
Die Freude war schnell vorbei.	欣んだのも束の間
Die Bar ist noch auf.	バーはまだ起きてる
Er ist hin.	彼今は亡し

【8】 二格形の副詞(第四卷 329) —【9】 Befort, m. は英語の path で、Straße
(街道) のやうに廣くない「小徑」を云ふ。 —【10】 昔は wenn の代りに so
を使つた。今はかうした成句として残つてゐる。 —【11】 「後續的」な bis

(第四卷 300)——【12】 voll- の前綴を持つて、非分離で、「完成する」といふ意の語が五個あることは文法で述べた通り。(vollführen, vollenden, vollstrecken, vollziehen, vollbringen.)——

ある「物體」を其のある「個所」で
bei, an, auf.....etc.

【13】「或物の或る個所を」 握むとか握るとか云ふ時には、「或物を、或個所に於て」と云ふ。前置詞は主として an または bei. (勿論その他の前置詞もある)。

- Ich ergriß ihn bei der Hand. 私は彼の手をつかんだ
- Ich hielt ihn am Arm zurück. 私は彼の腕を取つて引きとめた
- Ich faßte sie unter dem Arm. 私は彼女と腕を組んだ
- Ich traf ihn ins Herz. 私は彼の圖星をさした
- Ich packte ihn am Genick. 私は彼の襟首をつかんだ
- Ich küßte sie auf den Mund. 私は彼女の唇に接吻した

これらはみんな人間の身體の一部分をさす名詞の時に限られるが、時には、此の場合のやうに、さうでない事もある。人間でも ich faßte ihn beim Kragen 私は彼の「襟元」をつかんだ、と云へる。——【14】 wie sonst = wie gewöhnlich, wie er sonst zu tun pflegte.

57.

Dort sah er die Bürger bereits gewaffnet,¹ zu² Hunderten eng geschart.³ Aber auch das Rathaus war schon dicht umzingelt von fremden Rittern und Reisigen.⁴ Vorsichtig schlich sich Meister Richwin in die hinteren Reihen der Bürger, die gleichfalls Gefahr geahnt hatten und herbeigeeilt waren, um ihren Ratsherren beizustehen. Vor den Bürgern aber⁵ stand Graf Johann von Solms in glänzendem Harnisch, umgeben⁶ von zwanzig Rittern, das Reichspanier⁷ in der Hand und verkündete, er sei gekommen in des Kaisers Namen, um Frieden zu stiften zwischen den weilands⁸ verjagten Geschlechtern und dem neuen zünftlerischen Rate. Keinem werde ein Leid⁹ geschehen, am wenigsten seinen guten Freunden, den Ratsherren

drinnen¹⁰ im Rathause. Friedliche Sühne¹¹ sei alles, was er fordere im Namen des Kaisers. Ein neues, reicheres Gedeihen der Stadt, eine Mehrung ihrer Vorrechte werde die Frucht dieses schönen Tages sein.¹² Als treuer Freund und Nachbar ersuche¹³ er darum¹⁴ die Bürger, die Waffen abzulegen, welche sie voreilig für¹⁵ ihre Obrigkeit¹⁶ ergriffen hätten; denn dieser¹⁷ drohe¹⁸ zur Stunde¹⁹ nicht die mindeste²⁰ Gefahr.

譯。 dort そこ[市場]で er 彼は die Bürger 市民達が bereits gewaffnet 早くも武装して zu Hunderten eng geschart 幾百となく密集して[ゐるのを] sah 見た。 aber 併し auch das Rathaus 議事堂も亦 schon 既に von fremden Rittern und Reisigen 他所の騎士及び騎馬武者等によつて war.....dicht umzingelt 隠なく包囲されてゐた。 Meister Richwin リヒギン親方は、 gleichfalls 同様に Gefahr geahnt hatten 危険を豫感し und τ um ihren Ratsherren beizustehen 自分等の議員を助けるために herbeigeeilt waren 駆け附けてゐた die (ところの) in die hinteren Reihen der Bürger 市民達の後列の中へ vorsichtig 人目に立たぬやうに schlich sich まぎれ込んだ。 aber 一方 vor den Bürgern 市民達の前には Graf Johann von Solms ヨーハン・フォン・ゾルムス伯が in glänzendem Harnisch 肇然たる甲冑を着け、 umgeben von zwanzig Rittern 廿人の騎士に取り巻かれ、 das Reichspanier in der Hand 皇帝旗を手に持つて stand 立つてゐた und そして、 er 彼は zwischen den weiland verjagten Geschlechtern und dem neuen zünftlerischen Rate 往日追放された人々と新しい組合議員との間を um Frieden zu stiften 調停するために in des Kaisers Namen 皇帝の代理として sei gekommen やつて來たのである verkündete と告げた。 keinem werde ein Leids geschehen 何人にも危害は加へられない、 am wenigsten seinen guten Freunden, den Ratsherren drinnen im Rathause ましてあの議事堂の中に居る彼の良き味方、 議員諸氏には尙更のことである。 friedliche Sühne 和平裡の賠償が er 彼が im Namen des Kaisers 皇帝の御名に於て sei alles, was.....fordere 要求する凡てである。 ein neues, reicheres Gedeihen der Stadt 市の新たなる、一層の繁榮、 eine Mehrung ihrer Vorrechte 市の特權の増加が werde die Frucht dieses schönen Tages sein この佳日の収穫であるだら

う。 darum それ故 er 彼は als treuer Freund und Nachbar 忠實なる友且つ隣人として die Bürger 市民に sie 彼等[市民]が voreilig 早まつて für ihre Obrigkeit ergriffen hätten 彼等の上司のために手に取つた welche (ところの) die Waffen abzulegen 武器を手離すことを ersuche 頼る; denn 如何となれば zur Stunde 只今のところは dieser drohe nicht die mindeste Gefahr 上司に些かの危険も迫つてはゐないからである。と。

註。【1】 *Dort sah er, daß die Bürger bereits gewaffnet standen.* これを省略して一つの文章とする (文法第三卷 255 で述べた例によつて) *Dort sah er die Bürger bereits gewaffnet stehen* となる。この省略文では Bürger は四格で、それを形容する *gewaffnet* も、意味の上では四格と云へる (文法第四卷 313)。ところが、それをもう一度省略して、*stehen* といふ不定法を取つてしまつても好い。さうすると原文通りの文ができる。——【2】 数詞を、「何人」といふ「人數」の意に用ひるときには、*zu* を附ける。*zu zweien reisen* (二人で旅行する) 等。*Hundert* の複数が *Hunderte* ゆゑ、*zu Hunderten* が「數百名」である。——【3】 *die Schar* (隊、群) といふ名詞から來た動詞。——【4】 *der Reisige* の方は、現在馬に乗つてゐる騎馬武者で、*Ritter* の方は、現在は歩いてゐても好いが、身分が「武士」の者、即ち「騎士」(英語の knight) である。——【5】 此の aber は「然しながら」といふ「反対」の意ではない。「一方」といふ、對照を表現するための aber である。——【6】 *umgeben* は *umgeben* (取りまく) の過去分詞、非不離動詞ゆゑ同形になる。——配語順は *von zwanzig Rittern umgeben* するのが本當は正しいのである。——【7】 *Banier, n.* (旗印) は *Banner, n.* と同意の外來語。*Reich* (帝國) といふのは、諸侯、諸都市に對して云ふのであつて、現今の *Reichsbanner* (國旗) と區別して *Reichspanier* (皇帝旗) と云つたのである。當時の勅使は、差遣の印に皇帝の旗旄を下附されるのが常であつた。

——【8】 *weiland* は古い言葉で、「その昔」「往日」の意。こゝでは擬古的 (archaisch) にわざとこんな古語を使って、時代の氣分を出さうとしたのである。日本の講談師なんぞと同じ手。——【9】 *Leids* は *leib* (痛き、苦しき) といふ古い形容詞から衍へられた名詞 [*Leides, etwas Leides*] で、*einem Leids tun* (苛める、危害を加へる) *Leids geschieht einem.* (危害が加へられる) といふ熟語だけに用ひられる。——【10】 *drinnen = dar-innen.* (文法第四卷 310) — *drinnen* と其の前の *Ratscherren* との結合に關しては第四卷 316。——*drinnen im Rathause* といふ配語法については第四卷 317。——【11】 *Friedliche Sühne*

Archaismus
擬古體

が客語 [述語] で、alles が主語である。——主語も客語も、ドイツ語では同じ「一格」の表現を取るが、日本語の方では、區別を設けて、主語の際は「が」又は「は」と云ひ、客語の際は「で」といふ。たとへば「私は金持である」等。——客語が現在の場合のやうに一番まつ先に來た際には、日本語の表現としては、「……が……である」と、客語の方にむしろ「が」をつけ、主語の方に「で」をつける。ちよつと、前に述べたのと反対の表現になるやうだが、主語と客語との關係は依然として變らない。それが證據に、「和平裡の賠償 (即ち、追はれた貴族に對する示談的な權利恢復の交渉) が彼が皇帝の御名に於て要求する所の凡てである」と云へばよろしいが、その「が」を「は」に變へたら、一向意味が通じなくなつてしまふ。「が」でも「は」でも略同意になるのが本當の主語であつて、さうでないのは客語である。日本語の「は」「が」等の微妙な機能は、助詞の細かさを誇りとしてゐるギリシャ語にも例のないほど稀有なもので、我々日本人は實に何と云ふ玄妙不可思議なる言語を談しつつあることよ! ——【12】 この文も同様で、客語が前に來て、*die Frucht* (成果、收穫) といふ主語の方が後に來てゐる。——*schöner Tag* (佳日) は、換言すれば *segensreicher Tag* (祝福多き日、めでたき日、恵まれたる日、佳日、吉日、瑞兆あらたかなる日)。——【13】 *ersucht* でなく *erfuhr* (接續法第一式) ゆゑ、なほこの文章も伯爵の言 (*Wortlaut*) であることがわかる。——【14】 *darum* の位置に關しては第四卷 306。——*ersuchen* は *bitten* (ねがふ) と同意。——【15】 *für.....* といふと、ある人に「味方して」の意になる。gegen の反対。詳細は文法第三卷 239 の (8)。——【16】 *Obrigkeit* [おーブリヒカイト] は、いはゆる「官憲」で、國 (Staat) ならば政府 (Regierung)、町 (Stadt) ならば *Ratscherren* (町の有司、要路の人々)、普通の現代人なら、まあ大抵は *Polizei* (警察、その筋) である。「おかみ」と謂へばどれにもあてはまる。(女將 *Wirtin* ではなくて、「上司」「お上」です)。——【17】 *Obrigkeit* を受ける、女性三格。——【18】 *die Gefahr droht* は、「危険がせまる」——*drohen* だけの意味は、「脅かす」——*drohte* と接續法になつてゐるから、まだ此處まで伯爵の言が讀いてゐる。一つ一つ「伯爵の曰く」といふのは煩雑に堪へないから、かう云ふ時に接續法の有がたさがわかるわけ。——【19】 *zur Stunde* (刻下) は、*augenblicklich*, (只今のところは) と同意。——伯爵の言を考へると、この *zur Stunde* が甚だ意味深長である。それは次の Meister Richwin の皮肉 (ironisch) な言葉でわかる。——【20】 形容詞の最高級が、「.....も」「.....すらも」「.....さへも」「.....と雖も」の意になり勝ちなことは既にずつと前の註で述べた。——*mindest* (最少の) は、*wenig* と同意で、*wenig* (僅かの) の最高級である。

日本語の「が」と「は」

原級	比較級	最高級
wenig 僅かの	weniger より僅かの	wenigst 最も僅かの
[又は: minder より僅かの]	mindest 最も僅かの]	

最高級、比較級に於て、原級とは全然別個の字を用ひることは稀ではない。
(第三卷 221) 副詞の *gern* (好んで) は、*gerner, gernsten* といふ代りに、*lieber* (むしろ) *am liebsten* (できる限り、なるべく) を用ひる。

58.

„Zur Stunde? Ja!“¹ sprach Richtwin zu den Nächststehenden. „Aber ob nicht in der folgenden Stunde?² Behaltet die Waffen, bis die Ratsleute wieder frei unter uns stehen!³“

Doch schon sah er, daß die Vorderen, gewonnen⁴ durch des Grafen süßes Wort, die Schwerter einstechten und die Spieße nach Hause trugen.⁵ Die Männer aber, zu welchen Richtwin geredet,⁶ schalten⁷ ihn, meinten, sein Platz sei doch auch⁸ vielmehr auf dem Rathause als hier auf dem Markte,⁹ und ob er denn immer der gleiche bissige Hund¹⁰ bleiben wolle, der die besten Freunde der Stadt anbelle¹¹ und die Bürger untereinander heße?¹²

譯。 „zur Stunde 只今のところは? ja さうとも!“ Richtwin リヒギンは zu den Nächststehenden すぐ傍に立つてゐる連中に向つて sprach 言つた。“ aber 併し ob nicht in der folgenden Stunde 次の瞬間に於ても果して [危険が迫つてゐ] ないか? bis die Ratsleute wieder frei unter uns stehen 議員達が助かつて歸つて来るまでは behaltet die Waffen 武器を手放すな!“

doch 併し乍ら er 彼は schon 既に die Vorderen 前列の方の者達が gewonnen durch des Grafen süßes Wort 伯爵の甘言に釣られて die Schwerter einstechten 剣を鞘に收め und 又 die Spieße nach Hause trugen 槍を家へ運ぶ daß のを sah 見た。 aber 一方 zu welchen Richtwin geredet リヒギンが話しかけた die Männer 人々は schalten ihn 彼を罵り, als hier auf dem Markte この廣場にあるよりは vielmehr auf dem

Rathause 市の議場へ行つた方が sein Platz sei doch auch 彼としても本當ではないか、 und そして、 er 彼が denn 一體 immer 何時も die besten Freunde der Stadt anbelle 市の最良の味方に吠えかかり und 又 die Bürger untereinander heße 市民を使嗾して仲間争ひをさせる der (ところの) der gleiche bissige Hund 同じ咬み癖のある犬 ob.....bleiben wolle であるつもりか meinten と言つた。

註。【1】此の ja が皮肉である。つまり、伯爵の言は、聞き様によつては二つの全然違つた意味にとれる。 zur Stunde (目下のところは) といふ句を特に強調した意味でならば ja だと Meister Richtwin は云ふのである。——【2】

Reservatio mentalis
胸中の留保

「すぐ次の瞬間にも果して何等の脅威も待ち構へてゐないか」 こいつが疑問である。 Zur Stunde といふ皮肉な句は、いはゆる reservatio mentalis (自分一人で心得て置く保留條件) といふ奴で、後になつてから、「貴様はあの時斯う云つたではないか!」と詰られた時に、「さうだ、さう云つた、その通りで間違ひない筈だ」と反駁し得るやうな遁路を作つておく事は、辯護士や坊主の定跡だつたので、その遁路のことを拉丁語で reservatio mentalis と云ふのである。(佛語では restriction mentale といふのが普通だから、restrictio mentalis と云つてもよろしい)。かういふ風に、嘘を吐かないで、しかも相手をだまして、しかもその欺された事が相手の手落になつてしまふと云ふ事は、主として Jesuiten (イエズイスト派) の僧侶が實地に應用した便法で、これが神の眼から見て果して許される可き事かどうかと云ふ事が僧侶間の問題になつたといふのだから、實におどろき入つた次第である。——【3】日本語でなら、「議員たちが助かつて歸つて來るまで」といふ所を「議員たちが自由に我々の間に立つまで」といふ。

Stativa [静止形] の
活人畫的效果

茲にドイツ語の一つの癖が現はれてゐる。即ち、一つの叙述をするのに、それが一完結して歸着するところに歸着してしまふと、stehen, liegen, sitzen, sein, bleiben 等の Stativa (静止せる状態を意味する動詞) を好んで用ひるのである。それはあたかも、活動寫眞で、一つのエピソードが終ることに、その最後は、何等かの形を取つて、動きが止まつて静止、平靜な状態になつたことを見せなければならない。或種の意味に於て、あらゆるエピソードの終は「活人畫」でなければならない。文章にもそれがある。ドイツ語で、一つの叙述の最後をしめくくる sein, (及び完了形の諸式) stehen, liegen, sitzen 等は、さうした活人畫的締切りである。少し困難かも知れないが多少の例を引いて見る。

1. Schon diesen Sommer hat die Arbeit angefangen, wird noch lange herumziehen, aber endlich wird ein prachtvolles Werk dastehen. (既に此の夏仕事が始まつて、まだしばらくはつづくだらうが、しかしそのうちには遂に立派な建築が「出来上る」だらう。)

2. und die Feuersbrunst war wegen eines scharf wehenden Nordwindes so verderblich und um sich fressend, daß in weniger als drei Stunden zweihundvierzig Häuser, zwei Kirchen und eine Schule in Schutt und Asche lagen. (北風がはげしく吹いたために火災は猛威を逞うしてあたり一面にひろがり、三時間とたたぬうちに、四十二棟の民家と、二個の教会と一棟の學校が灰燼に「歸してしまつた。」)

3. „Das Fräulein ist nur selten zu Hause,“ sagte Donati; „wenn es Euch gefällig wäre, so könnten wir sie noch heute besuchen.“ Florio fuhr bei diesen Worten freudig aus dem träumerischen Schauen, in das er versunken stand; er hätte dem Ritter um den Hals fallen mögen.—Und bald saßen beide draußen zu Pferde. (Eichendorff: Das Marmorbild.) (「姫君の御在宅は極く稀でござるが」とドナーチは云つた、「御よろしければ、今日にも、共々出掛けて御機嫌を伺はうではござらぬか」此の時まで沈思默考してゐたフロリオは、この言葉を聞いて急に元氣づいた。彼はほとんど相手の武士の首つ玉にふるひつきたい氣がした。——やがて二人は表へ出て馬上の人となつた。)

記憶の好い人は、第四巻の讀本の部に、次のやうな話があつた事を思ひ出されるであらう。

„Wasser!“ war das einzige Wort, das er sprechen konnte; an einem Tropfen Wasser hing sein Leben. Der Kamerad hatte Wasser gebracht; er badete ihm das Gesicht, gab ihm zu trinken und

Doktor Barth war gerettet. (『水を!』これが彼が語り得た只一つの言葉であつた。彼の命は一滴の水に懸かつてゐたのだ。友人の方では水を持って來てゐた。彼は彼の顔に水をぶつけ、水をのませた、斯くしてドクトル・バルトは救はれたのである。)

此の war gerettet は、過去完了の war gerettet worden とは少し違ふ。後者は、問題の瞬間よりしばらく前に起つた救助の「動作」そのものを指し、前者は、その救助が行はれた後の、もはや大丈夫になつてしまつた状態をさすのである。つまり statisch 静的なわけである。

かうした典型的な書きぶりは、殆んど一つの文法と云つても好いほど廣く用ひられるので、これを知つてゐないと、stehen, sein, liegen 等の意味がぴつたりとわからない。

【4】 gewinnen [得る、獲得する] を、 daß Herz gewinnen (歓心を得る、取り入る) の意味に用ひる。werben (英語の woo) (口説く) を使つてもよろしい。(geworben durch.....)——ここは多少佛文等の影響で gewonnen が前に行つてゐるが、本當は durch des Grafen fühes Wort gewonnen である。しかし時代の推移と共に、過去分詞を前に立てる方がスマートな感じを與へるやうになつたのは、Sandys その他の文法大家の意見にも拘らず、やはり争はれぬ事實である。——【5】 槍を持つて家へ歸る、といふよりは、槍を家へ搬ぶと云つた方が、大きな槍が間がぬけて見えるから面白い。——【6】 geredet [hatte]——【7】 schelten (罵る) の過去は schalt.——【8】 此の auch は、負け惜しみから出た言葉で、おれたちも思ひ詮めてすこすこと家へ歸るのだが、「おまへだつて」やはり.....の意。——【9】 「手前の出しやばる暮ちやねえ、ひとつこめ! Hier ist nicht dein Platz! Bad dich! なぞと云ふ。Platz といふは、つまり wo man hingehört (自分として當然わなければならぬ場所、または自分として出しやばる権利のある場所) をいふのである。お三どんは臺所、巡査は交番、泥坊は留置場、悪人は地獄、と云つたやうに。だから、「不適當」「不安當」または「穩當を缺く」ことを nicht am Platz sein, nicht recht am Platz sein といふ。時には Stelle (位置) を使って、daß zu erörtern, ist hier nicht die Stelle (その點に関する論議は此の際機宜に適しない、即ち、割愛する、省略する) なぞといふ。(佛語の、place から來た déplacé 不穩當な、参照。)——【10】 Hund には、日本語の「畜生」「野郎」の意もあるから、語勢によつてはすゐぶん失敬な言である。——bissig といふのも、「噛み癖のある」が轉じて「毒舌を弄する」の意になる。——【11】 この an については前に詳しく述べた。(anfnurren 等。)——【12】 現今でも、たとへば Hitlerianer

(ヒットル派) や Kommunisten (共産黨) が Hegerei (使嗾、鬭争激成) をやるので度々社會の問題になる。

59.

Da Richwin solchergestalt¹ sah, daß alles verloren sei, machte er sich eiligst davon,² gewann³ noch⁴ zur rechten Frist⁵ das Hinterpförtchen an der Lahn und schwamm mit dem Hunde durch den Fluß, weil der Nachen, welcher seine Frau gerettet,⁶ nun am andern Ufer stand.⁷

Nach wenigen Stunden erreichte er die Seinigen⁸ und fand in Hessen eine sichere Zuflucht⁹; denn Landgraf Hermann war dem Grafen Johann feind¹⁰ geworden nach der Schlacht bei Wetzlar wegen der eigenmächtig¹¹ begnadigten Gefangenen.

譯。Richwin リヒギンは solchergestalt かういふ風にして daß alles verloren 凡てが御仕舞だといふことが sah 分つた da ので、er 彼は eiligst 大急ぎで machte…… sich…… davon その場を逃げ出し、noch zur rechten Frist 際どいところで時間に後れずに gewann…… das Hinterpförtchen an der Lahn ラーン河畔の裏門に辿り着い und mit dem Hunde 犬と共に schwamm…… durch den Fluß 河を泳ぎ渡つた、weil 何故かといふに der Nachen, welcher seine Frau gerettet 彼の妻を救つた渡舟は nun 今や am andern Ufer stand 向ふ岸に繋がれてゐたから。

nach wenigen Stunden 敷時間の後に er 彼は erreichte…… die Seinigen 自分の家族の者達の許に辿り着いた und そして in Hessen ヘッセンに eine sichere Zuflucht 安全な隠れ場を fand 見出した; denn 何故かといふに Landgraf Hermann ヘッセン伯爵ヘルマンは nach der Schlacht bei Wetzlar エツツラルの戦の後 wegen der eigenmächtig begnadigten Gefangenen 捕虜を専斷的に赦免したといふかどで [直譯：擅に赦免された捕虜の故に] war dem Graf Johann feind geworden ヨーハン伯に敵意を抱くやうになつてゐた[からである]。

註。【1】 solchergestalt は auf diese Weise (斯ういふ風にして、斯くのごとくにして) と同意。Gestalt (姿、形) といふ女性の名詞に solch- (左様な) が附

いて二格になつたもの。文法第四卷 329, Genetivus absolutus の項を見よ。

—【2】 sich davon machen または sich auf und davon machen (其の場を逃げ出す、風をくらつて逃げ出す、長居は無用と逃げ出す、どろんをきめ込む、出奔する、うせる、撤退する、退却に及ぶ) — それからその次に das Weite suchen (いづこへとなく姿をかき消す、行衛定めぬ旅に出る) をやるのが普通である。—【3】此の gewinnen は、erreichen (到達する、辿りつく)。—【4】此の noch [あぶなく、やつと間に合つて、きはどいところで] は、微妙

noch の研究

な機能を持つた助詞である。其處には必ず es war die höchste Zeit (危ないところだつた、もう少し遅れても駄目だつた) といふ觀念が遺入る。まづ、普通の noch (まだ、なほ) がどうしてこんな意味になるかと云ふ、その移りかはりから説明しよう。如何となれば、一つの文字が、基礎的な一つの用法に端を發して、派生的な第二の用法を生む所には、必ずその二つを überbrücken (橋渡し) する過渡的な現象があるものである。

動詞の effektiver Sinn [結果を指す意] と、結果を度外視する意味との區別

順序として先づ動詞の effektiver Sinn (結果を指す意味) と、結果を度外視する意味とを區別し置きたい。それはかう云ふ事です。

Als sein Einfluß sich bemerkbar machte, erregte er den Haß der Konservativen.

erregen の使ひ方をよく知らない人が、(そして少し常識の足りない人が) この文を次のやうに誤譯したと考へよう。

「かれの勢力が多少露骨になつて來ると、かれはなるべく保守的な人々の憎しみを煽るやうに心掛けた。」

譯者は、これでもなかなか親切にくだいて譯したつもりである。ところが、erregen (刺戟する) といふ字の意味を一寸誤解してゐるから、くだいて譯すれば譯するほど其の誤がはつきりとしてくる。一たい翻譯といふものはさう云ふもので、直譯をしておけば、正譯だか誤譯だかわけがわからないでしまふが、これを親切にくだけばくだくほど、譯者の誤解がはつきりするものである。もし、erregen を單に「刺戟する」と譯してゐたら、「彼は保守黨の憎しみを刺戟した」と書いたにちがひないから、たとへ譯者が「刺戟した」を間違へて考へてあようとも、讀む方の人間は、譯者の誤解を貰いて、

直ちに原文の意味を看取したにちがひない。ところが、「なるべく煽るやうに心掛けた」とくだいてしまつたら、もう助からない。

「刺戟する」は、決して「煽るやうに心掛けた」とか、「怒らせようと努める」といふ意味ではなくて、實際刺戟を「なし遂げてしまつた」意味である。これを effektiver Sinn (結果を指す意味) といふ。

もう一つ例を引くと、(話法の助動詞は殊にかう云ふ問題が多いから)

Als unser geheimes Verhältnis ihrem Vater bekannt wurde, da mußte ich sie heiraten.

「我々の秘密な關係が彼女の父に知れた時、わたしは彼女を嫁に貰はなければならなかつた。」

けれども遂に口實をつけて嫁に貰はなかつた、といふのなら konnte は結果を指す意味ではないが、「遂に結婚させられてしまつた」といふ意味なら、結果を指す意味である。そして後者の方が正しい。近頃の翻譯口調に慣れない人は、「……なければならなかつた」と聞くと、その結果を指す意味に気がつかないで、文字通り、單にさういふ事情が迫つてきただけかと思ふのである。

これで effektiv (結果を指す) と云ふ意味はわかつたらうと思ふから、これを念頭に置きながら次の文を讀んで貰ひたい。(konnte といふ助動詞に注意しながら——結果を指すかどうかはまだわからないものとして……)

Ich hatte einen Vogel, und diesen hatte die Stärke erwischt. Ich konnte sie noch im letzten Augenblick verjagen.....

noch といふのが一寸はつきりしないが、まあそれは別問題として譯して見ると、

「私は一羽の小鳥を持つてゐた。そいつを猫がつかまへてしまつた。私は最後の[きはどい]瞬間にその猫を追拂ふことができたのであつた……。」

これだけではどうしても「出来たのであつた」がわからない。ほんとうに助けたのか? それとも單に助けることが「出来た」といふ事實だけしかなかつたのか? 前述の術語を用ひて云ふと、konnte は effektiv か ineffektiv か? わからない。これだけでは絶対にわからない。

さうすると、今まで一寸別問題にして考へてゐた noch といふ一寸した字が問題になつて来る。noch の意味によつて、そのどちらかに決まるだらうか?

noch は「まだ」「なほ」といふ意味である。さうすると、「まだ最後の際どい瞬間に於て追拂ふ事が出來た」——わかつた! 「もはや追拂ふことができなかつた」の反対で、「その時にはまだ救ふ可能性があつた」のに相違ない。すると konnte は結果を指す意味ではなくて、單にさう云ふ可能性があつたといふだけの話なんだ。つまり、文章のつづきを想像して見ると、

ich könnte sie noch im letzten Augenblick verjagen; aber es war schon zu spät, als ich mich dazu entschloß. (私はその猫をまだ最後の瀬戸際で追拂ふことは出來たのだつたが、さうしようと思ひ立つた時にはもう晚かつた。)

こんな事になるのではあるまいか?

獨斷と想像とはまづ此の邊で打ち切つて、さて原文のつづきを讀んで見る。

ich könnte sie noch im letzten Augenblick verjagen.....es war die höchste Zeit.

さあ大變! 想像がちがつてゐた! noch の意味がまた改めてわからなくなつて來たが、又候それを度外視して譯をつけて見ると、

「私はその猫を.....最後の瞬間に追拂ふことが出來た.....あぶないところだつた。」

豈圖らんや、小鳥のやつこさん、助かつてしまつた! konnte は effektiv であつても好いのだつた。

しかし noch はどうなる? 「まだ助かつた」といへば、「まだ助かる可能性があつた」といふ風にきこえて、結果を指す konnte にはならない筈ではあるまいか? 可哀さうだが、この noch の解決がつかないうちは、小鳥の運命は保證できないのではあるまいか。結果が「まだ」わからなければこそ「まだ」といふ助動詞を入れるのではあるまいか? 「もう」追拂つてしまつておきながら「まだ」とは何事だ! ドイツ語はわからない。

それはわからない方がまちがつてゐる。noch にはかう云ふ使ひ方があるのである。そして、今まで述べて來た経過が、とりもなほさず其の新たな意味の生ずる過程なのである。凡そ社會現象のすべてにはその「歴史」があり「過程」がある。言葉の用ひかたの心理にすら「歴史」があり「過程」がある。突然新たな意味に接すれば單に「へーえ!」と思ふきりだが、既知の意味から轉じて來た筋路を辿つて見れば「ははア!」と思ふ。「へーえ!」は困る。

「ははア！」でなければ。——認識とは何ぞや？といふ問題が出たらそれは「ははア！」である、と答へたら満點である。

脱線を止して本問題にかへると、nochには、「からくも」「からうじて」「危なく」「際どい時に」「もう殆んど絶望なくらゐおそかつた時に」「危機一髪の瞬間に」(これは少し誇張だが) 等の意味が生じて来る。

即ち *ich konnte sie noch im letzten Augenblick verjagen* には、全體として二つの意味がある。第一の意味は、*könnte* を *ineffektiv* (結果の觀念を度外視した考へ方) の意にとつた時に生じ、その際の *noch* は「まだ」とか「なほ」とかいふ、つまり普通の意味である。

第一の意味

私はその猫をなほ最後の間際に追ひ拂ふことができたのであつた……

第二の意味は *könnte* を「首尾よく追ひ拂ひ得た」の意、即ち *effektiv* な意味にとつた際に生ずる。すると、相變らず *noch* を存置してかまはない。そのかはりに、*noch* を「なほ」と譯すると、日本語ではたしかな心象が得られない。その時には「丁度」とか、時には「際どいところで」「やつと」「やうやつと」「からくも」などと譯すると、ほぼ *noch* の考へ方がわかる。

第二の意味

私はその猫を丁度最後の瀬戸際に追拂ふことができたのであつた。

第一の「なほ」と、第二の「丁度」「やつと」とが、ドイツ語の考へかたでは一致するので、同じ意味でありながら、動詞が「結果的」だと「丁度」「からくも」と云ひ、「非結果的」だと「まだ」と云ふのである。——動詞がもし結果的でも非結果的でもない際には、その兩者は完全に一致して、どちらで譯しても構はない。

Nach einem stürmischen Laufen und Drängen und Stoßen stehe ich endlich auf dem Bahnsteig: es war noch Zeit!

大變な權幕で、駆けつけ、押し分け、突きのけた揚句、やつとプラットホームへ來て見ると、——「まだ」間に合つた！[または、「やつと」間に合つた！「丁度」間に合つた！]

此の *noch* は、なかなか呑み込めない *noch* であるから、特に詳しく述べたわけである。

【5】 *Schift, f.* は、こゝでは *Zeit, f.* (時) と同じ事。——【6】 *gerettet [hatte.]*

單に「在る」を意味する諸種の動詞

まり *sich befinden* (自己を見出す) の意にである。

Die Sonne steht am Himmel.

日輪は天にかゝる。

Die Gefahr liegt in der Luft

空中に危険の徵あり。

Wo bleibt Karl?

カルルは何處にゐる？

Wo steht Marie?

マリイは何處にゐる？

Dort saß ein König.

其處に一人の王が居た。

立つてゐる、坐つてゐる、横たはつてゐる、等の區別はほとんどないので、單に「ゐる」「在る」の意味だと思へばよろしい。小舟が「立つて」ゐるなんて話はない。「横たはつてゐる」ならまだしもわかるが。——それに、「立つ」といふ意味の字は、ラテン系の諸語、即ち、佛、西、伊、では、堂々と「居る」「ある」「である」の意に用ひられてゐる。*ich bin gewesen* に對する佛、伊、西、の動詞は、

佛 j'ai été

伊 [io] sono stato

西 [yo] he estado (他に he sido もあり)

ドイツ語の *gewesen* に相當する *été, stato, estado* は、すべてラテン語の *stare (stehen)* から來た形である。——【8】「私のもの」「汝のもの」「彼のもの」等を意味する *der meinige, der deinige, der seinige*, 等を、大文字にして複數にすると (*die Meinigen, die Deinigen* 等々) それは「私の一族」等の意になる。——【9】 *Zuflucht, f.* (避難) とは、つまり *Zufluchtsort, m.* (避難所、隠れ家) の意である。——【10】 名詞の *feind, m.* から來た形容詞 *feindlich* (英語の *hostile*) と同じ。——【11】 *willkürlich* (氣隨氣儘に、勝手に、專斷的に、擅に。)

60.

Ins Hessenland aber drang bald eine neue Mär¹ aus der Reichsstadt. Der Graf von Solms hatte, nachdem er den Bürgern die Waffen aus der Hand geschmeichelt,² den zünftlerischen Rat in den Turm³ geworfen, die Güter der Rats-

herren eingezogen⁴ und drei derselben, Rödinger, Dufel und Vollbrecht enthaupten⁵ lassen, zwei andere Ratsherren, Beyer und Hederstumpf, warfen die Solmischen⁶ von der Brücke in die Lahn und ersäufsten sie kurzer Hand,⁷ um dem Scharfrichter⁸ die Umstände⁹ zu ersparen.¹⁰ Den sechsten Mann zu¹¹ diesen fünf¹² hätte man gar gerne dann zur Abwechslung¹³ aufgehängt¹⁴: es¹⁵ war dies Meister Gerhard Richwin, den der Graf am bittersten hafte. Allein in Weßlar wie in Nürnberg hängt man keinen, bevor man ihn hat.¹⁶ Die alten Geschlechter aber, mit welchen der Graf längst unter Einer¹⁷ Decke gesteckt, gewannen wieder die volle Herrschaft wie vordem.

譯。 aber ところが bald 間もなく aus der Reichsstadt 自由市から eine neue Mär 一つの新しいよりが ins Hessenland.....drang ヘッセンの國へ到來した。 der Graf von Solms フォン・ゾルムス伯は nachdem er den Bürgern die Waffen aus der Hand geschmeichelt まんまと市民の手から武器を欺し取つた後 hatte.....den zünftlerischen Rat in den Turm geworfen 組合の議員を塔の中へ投げ込み、 hatte.....die Güter der Ratsherren eingezogen 議員の財産を押收し und 且つ hatte.....drei derselben, Rödinger, Dufel und Vollbrecht enthaupten lassen これら[議員]〇三人即ちコーディングル、ドゥーフェル及びフォルブルヒトを斬首せしめた。 die Solmischen ゾルムス方の連中は zwei andere Ratsherren, Beyer und Hederstumpf 他の二人の議員、バイエルとヘツケルシュトウムプを von der Brücke 橋上から warfen.....in die Lahn ラーン河へ投げ込ん und um dem Scharfrichter die Umstände zu ersparen 首斬り役人の手數を省いてやるために kurzer Hand 無難作に sie 彼等を ersäufsten 濡れさせてしまつた[あつさり溺死させて斬首役人の手数を省いてやつた]。 dann 次に zur Abwechslung 目先を變へるために den sechsten Mann zu diesen fünf¹² hätte man gar gerne.....aufgehängt これらの五人のお次の番に當る六人目は、何とかして絞首臺にかけたかつた: es.....dies それはつまり den der Graf am bittersten hafte 伯爵が最も激しく憎んでゐたMeister Gerhard Richwin ゲールハルト・リヒ

ポン親方 war であつた。 allein併し in Weßlar wie in Nürnberg ツツラルでもニュルンベルクでも hängt man keinen, bevor man ihn hat 居ない者は首を絞めようにも絞めようがない譯である。 aber一方 mit welchen der Graf längst unter einer Decke gesteckt 伯爵が疾くから結託してゐた die alten Geschlechter 古い貴族達は wieder 再び wie vordem 以前同様 die volle Herrschaft 完全な支配權を gewannen 獲得した。

註。【1】Märe(略して Mär) f. は、たとへば Märchen, n. (お伽噺、童話)等に現れてゐる古めかしい言葉で、今の言葉で云へば Neuigkeit(音信、たより、噂、消息)または、もつと現代的な言葉では Meldung(報告、情報)である。基督教の新約聖書のことを Evangelium(福音書)といふが、(ギリシャ語の eu-「善き」angelion「しらせ」)それを die gute Mär(吉報)と譯して、爺さん婆さんにわからせてゐた時代がある。——【2】die Waffen aus der Hand schmeicheln は、私が Lativum [擬動語法]と名づけたもののが個の例である。(第四卷 430)忘れた方は、是非もう一度読み直して貰ひたい。——【3】Turm, m. (塔)といふのは、つまり Gefängniß, n. 牢屋のことである。昔は、

der Turm; die Festung.
監 獄

城砦の隅々に大きな塔があつて、塔の下部には、深いところに、獄屋があつた。それを Verließ といふが、これは verlieren(失ふ)と関係のある字で、そこへ

迷ひ込んだ(sich hineinversieren)が最後、もはや二度とは目の眼が見めないからである。佛語では les oubliettes といふが、これも世間から忘れ(oublier)られてしまふといふ意味の字である。——一たいて城砦と監獄とは聯想上の関係が深くて、獄屋のことを Festung(要塞)とすら云ふことがある。つまり監獄に使用するのは昔の城が都合がよかつたからでもあらう。けれども、現今でも、別に城のやうな形はしてゐなくても、刑務所のことを Festung, Turm 等と云ふことがある。——Strindberg 作の有名な戯曲 der Totentanz [死の舞踏] の第一部は、昔監獄だつた要塞の塔内に要塞砲兵大尉の夫妻が住んでゐて、お互ひにお互ひの看守をつとめてゐる有様を書いたものであるが、これも、城と獄との密接な関係を基礎とした場面の選びかたである。夫婦生活を牢獄と見てて、それを皮肉に要塞の塔の中へ移したのが面白いのである。——【4】einziehen(差し押さへる)といふのは、つまり gerichtlich einziehen(司直の手によつて没収する)することで、konfiszierenともいふ。 konfiszierenされた財産家財は、國庫(又は市庫)に收められる(dem öffentlichen Schatz einverlebt werden)——【5】köpfen(斬首する)ともいふ。——ent-の前綴は、「なくする」「取り去る」の意に用ひられる。つまり Haupt(首)を取り去る、

といふ構造。——【6】 *lied* または *lied* の語尾の形容詞形を名詞化して、「…方」「……軍」の意に用ひることがある。die Kaiserlichen (皇軍、勤王軍) die Österreichischen (奥國方)。——【7】 *fürzerhand* (無難作に)とも書く。いはゆる Genetivus absolutus (第四卷 329) の副詞である。——同様に、手つ取りばやく或人を片づけることを、mit jemandem kurzen Prozeß machen といふ。つまり、罪の訊問すらしないで判決を下したり、刑の執行をすることである。——「無難作に」は、次に出て来る *Umstände* を用ひて ohne Umstände または ohne weiteres とも云ふ。——【8】 *Henker, m.* (絞首刑執行人) に對して、首斬りの役人を *Scharfrichter* といふ。——【9】 要するに、「ご念の入つたこと」「御苦勞さまなこと」「邪魔くさいこと」「まどろこしいこと」「繁文褥禮」を *Umstände* といふ。複數のみを用ひるから、この字は所謂 Pluralia tantum (第一卷 85) の一種である。(Plurale tantum と云つてもよろしい、plurale は、拉丁語の「複數」と云ふ字の單數で、pluralia は「複數」の複數である) —— Machen Sie keine Umstände! どうかお構ひなく! ——【10】 *ersparen* は英語の spare で、「省く」「節約する」——たとへば Ich will Ihnen die Mühe ersparen, im Wörterbuche nachzuschlagen. 僕があなたに、辭書を引く勞を省いてあげませう。——【11】 或物に或物が「附け加はる」(etwas gesellt sich zu etwas) といふ時、即ち、「附屬」を意味する zu の用ひかたがある。たとへば der Text zu dieser Melodie (此のメロディーについて歌ふ歌詞) 等。——【12】 「人數」を意味する數詞は、zu と共に用ひると、よく語尾を探る。zu dreien (三人で) zu Hunderten (數百人) 等。此處は別にその zu ではないが、fünfen は fünf Personen の意である。——【13】 zur Abwechslung (交替に、交代に、目先をかへるために), abwechseln (替へる) ——此の zu は、「……のために」の zu. たとへば zum Scherz (冗談に) zum Trost (氣やすめに) zur Erinnerung (念のために) zum Versuch (試みに) zum Dank (お禮に) zum Beispiel (一例に) zur Antwort (返事に)。——【14】 zur Abwechslung (變化をつくるために、單調を破るために、たまには一寸手をかへて) がすこぶる皮肉である。こゝの約法的語法に注意してもらひたい。即ち wenn es ginge (もしさういふ譯に行くものなら) といふ假定部が省かれて、それから出立した結論だけが云はれてゐるを見てよろしい。——【15】 かういふ時には、簡単に dies war..... (それは) といふよりも、妙に念を入れて、仰々しく es war dies..... (と申すのは外でもない) と、非人稱化した文章 (第三卷 273) を用ひた方が面白い。その次に、今まで單に Meister Richwin と呼んでゐた本篇の主人公を、急にお客様扱ひにして Meister Gerhard Richwin と公式に呼んだところなども、文の非人稱と相待つて、軽いユーモア (Humor) を漂はせてゐる。——【16】 既に Nürnberg といふ、一見何の關係もない町の名が飛

び出しただけでも、鋭い頭は其處に何かの異状を看取しなければならない。これは、ドイツ人の誰もが知つてゐる Schiller の處女作 *Räuber* (群盜) の中の名高い歌句に暗喩 (anspielen) したのである。盜賊達が、官憲の手から、今や死刑に處せられんとしてゐた Roller といふ仲間を奪ひかへして來て、Nürnberg の官憲を嘲笑しながら歌ふ Spottlied (嘲の歌) に

Anspielung
暗 喻

Die Nürnberger henten keinen,
Sie hätten ihn denn vor.

= ニュルンベルクのお上とて
居なきや釣ろにも釣られまい。

といふのがある。hätten.....denn は「……持つならば格別だが」の意で、vorhaben は、「眼前に持つ」即ち、引つ捕へて來て現在眼の前に据ゑる事である。此の小説では sie hätten ihn denn vor を bevor man ihn hat と變へて用ひてゐる。——【17】 第四卷 338. ——【18】 mit jemandem unter einer Decke stecken (或人と一つ掩ひの裡にかくれる) は、共謀する意。Decke は Deckmantel (假面) の意。Einer の大文字は不定冠詞と區別する爲め。

61.

Obgleich Meister Richwin den besten Teil seines Besitztums in Feindeshand hatte¹ lassen müssen, konnte er doch mit dem Geretteten² später in Frankfurt als Bürger sich einlaufen³ und ein neues Geschäft beginnen. Wenn er nun dort in wieder gefügtem Behagen bei seiner Hausfrau saß, den treuen, bereits ergrauenden⁴ Thasso zu Füßen, dann sprach er wohl manchmal, mit einem wehmütigen Blick auf den „stummen Ratherrn“: „Gott verzeih' mir's,⁵ daß ich Kinderzucht und Hundezucht vergleiche! Die Zucht⁶ der Kinder lohnt uns Gott⁷ und wir erwarten nicht, daß ein Kind den Gold all⁸ unserer Mühen uns gleich bar⁹ bei Heller und Pfennig¹⁰ heimzahle.¹¹ Aber dieser Hund hat zum Dank für meine Zucht mich selber erzogen und zum Entgelt für tausend richtig empfangene gesalzene¹² Brügel mir endlich

Anno 1375 gar¹² das Leben gerettet! Niemals ward ein Schulmeister so rasch und vollgültig gelohnt, wie ich durch meinen und der Reichsstadt Weßlar stummen Ratsherrn.¹⁴

譯。Meister Richwin リヒ温親方は den besten Teil seines Besitztums 彼の財産の大部分を in Feindeshand hatte lassen müssen 敵の手に任せねばならなかつた obgleich けれども doch それでも er 彼は später 後に mit dem Geretteten 助かつた部分で in Frankfurt als Bürger sich einkaufen フランクフルトの市民権を買つ und t konnte.....ein neues Geschäft beginnen 新しく商賣を始めることが出来た。 nun さて er 彼が dort 其處で den treuen, bereits ergrauenden Thasso zu Füßen 既に老境に入りかけてゐる忠實なタッソを膝下にして in wieder gesichertem Behagen 安寧を恢復して bei seiner Frau saß 自分の妻の傍にゐる wenn と dann さうすると er 彼は mit einem wehmütigen Blick auf den „stummen Ratsherrn“ 哀愁を湛へた目を『沈黙の議員』に向けて sprach.....wohl manchmal よく言ふのであつた: „dass ich Kinderzucht und Hundezucht vergleiche 子供の教育と犬の教育を比較するなんてことは、Gott verzeih' mir's 罰當りなことかも知れないが die Zucht der Kinder lohnt uns Gott 子供の教育はこの世では酬いられない undだから wir 吾々は ein Kind 子供が den Gold all unserer Mühen 吾々の凡ゆる骨折に對する報酬を gleich 直ぐに bar bei Heller und Pfennig 現金で一文も残さず uns.....heimzahle 返済する daß といふことは erwarten nicht 當にはしてゐない。aber ところが dieser Hund この犬は zum Dank für meine Zucht 私の教育に對する御禮として mich selber erzogen 私自身を教育し und そして zum Entgelt für tausend richtig empfangene gesalzene Prügel 幾百とないこつびとい鞭打ちを頂戴した報酬として endlich Anno 1375 遂に一千三百七十五年には hat.....mir.....gar das Leben gerettet 私の命まで救つて呉れた! wie ich durch meinen und der Reichsstadt Weßlar stummen Ratsherrn 私が私並びに自由市ヴュッツラルの沈黙の議員によつて [得た] 程 so rasch und vollgültig それ程速かに且つ充分に niemals ward ein Schulmeister.....gelohnt 先生が報酬を受けたことは未だ曾つてからう。

注。【1】此の hatte の位置については第三卷 259.—【2】一格は das

Gerettete (救はれたもの) 即ち、換言すれば was dabei an Gütern gerettet worden ist 凡そ財産と稱するもので其の際に助かつた限りのもの。—【3】この sich einkaufen も例の搬動語法の一種で、分解して考へるとすれば、kaufen することに依つて自分 (sich) を何かの中 (ein) へ入れることである。sich als Bürger einkaufen といへば、「自分を市民として買收し込む」即ち、金を出して或る町の市民権を獲得することである。同様に、sich ankaufen (地所を買つてある村の村民になる) といふ語がある。an- は、sich aniedeln (移住する、植民する) 等の an- で、或地にピッタリと附着することを意味する。直譯すると、自分を (sich) 買收によつて或る土地の土にへばりつける (an-) ことである。持地所、住地のことを Untwesen といふのも、同じ an- である。移住して土着することを sich anbauteu といふのも、同じ構造で、要するに an- は百姓に非常に關係があつて、土くさい臭ひのする前綴である。—【4】ergrauen=graue Haare bekommen (白髪頭になる) 即ち altern おいぼれる。—【5】Gott verzeih' mir's (神がそれを私に恕し給はむことを) といふのは、「こんな事を云つては甚だ不禮當かも知れないが」といふ時の常套文句である。—【6】Zucht f. (仕込み、教育、訓育) は ziehen (育てる) と關係のある字。erziehen (教育する) から來てゐる名詞は Erziehung, f. (教育) である。—Zucht は四格で、Gott が一格なのに注意。—【7】「神が酬いる」といふのは、つまり現世に於ては酬いられないと云ふ事を穩便に云つたのである。たとへば、貧乏人が、お金持に慈善を施してもらつた時などには、お禮をしようにもしやうがないから、Gott lohn' es Euch! (神があなたにお酬い下さる事を) と云つて感謝する。但し、たとへば我々が一生懸命に原稿を書いて、Gott lohn' es Euch! と云つて本屋さんに逃げられた日にはたまらない。「どうかそんな事のないやうに!」は Das verhüte Gott! —【8】度々云つた通り、物主代名詞その他の「冠詞屬」(第一巻 98 ページの真中所に此の語の説明あり) の前では、all- は全然語尾を附けない際が多い。—【9】bar は「現金の、現金で」といふ形容詞。—其の他に、二格支配の bar といふのがあるが、これは「.....の無き」の意。それからもう一つ、形容詞の語尾に ·bar といふのがある。それを應用した語呂洒落にこんなのがある。

Der Fortschritt der Technik ist wunderbar; aber er führt in eine Welt, die.....der Wunder bar ist.

技術の進歩は驚異的である。しかしそれは吾人を神祕皆無の世界に導く。

【10】 Heller も Pfennig も、極く僅かな價値の貨幣の名で、bei Heller und Pfennig は、一厘一毛の末に到るまでも、一文も残さず、といふ熟語。——【11】 heim= zurück。——【12】 richtig empfangen, richtig erhalten は、丁度日本語の「正に領收仕り候」にあたる。「正に頂戴つかまつた」「頂戴仕り候こと實證なる」「確かに頂戴致した」——【13】 gefalzen (鹽漬けにした、鹽つからい) は falzen の不規則な過去分詞。—— Salz, n. (鹽) といふ言葉は、他の Würze, f. Gewürz, n. (薬味) 等と同じく、何でも「ビリッ」と効くもの、即ち日本語でなら胡椒とでも云ふ可きところに用ひる。たとへば洒落 (Wiß) や皮肉 (Sironie) などに、よく gefalzene Sironie (辛辣な皮肉) とか Kürze ist des Wißes Würze (簡潔が洒落の薬味なり) などと云ふ。此處では Brügel (笞) 即ち Lehre (教訓) を、一つの皮肉か冗談のやうに見立てて、「含蓄のある教訓」「辛辣な教訓」と云つたやうな意味で gefalzene Brügel と云つたのである。故に gefalzen といふ形容詞には、「味はふべき」とか「頂き甲斐のある」とか云つたやうな意味もあると同時に、「ビリッとした」「こつびどい」「手書きらしい」といふ一面もあつて、其處が用語の面白さである。殊に für tausend richtig empfangene gefalzene Brügel と、長い形容句があるので益々面白くなつてゐる。——【14】 gar は、今までに度々出て來た、sogar, vollends (……すら、……までも) といふ意の前置的接続詞。——【15】 voll 完全に gültig 効力ある、價値ある。「申し分なく」「點の打ち所がないまでに」——【16】 この最後が全篇の fabula docet (落ち、ところ、眞意、教訓) で、同時に標題の der stumme Ratscherr といふのが、この最後では meinen und der Reichsstadt Weßlar stummen Ratscherrn となつてゐて、Ratscherr といふ概念そのものが意味を持つて來てゐる。即ち Ratscherr Ratgeber とは (智恵を貸す者、教へる者) の意でなくてはならぬ。Thalfo は、黙つてゐながら、Weßlar の市にも Richwin にも多くの智恵を貸したといふわけである。

Fabula docet
「その心は」

といふ概念そのものが意味を持つて來てゐる。即ち Ratscherr Ratgeber とは (智恵を貸す者、教へる者) の意でなくてはならぬ。Thalfo は、黙つてゐながら、Weßlar の市にも Richwin にも多くの智恵を貸したといふわけである。

関口存男生誕 100 周年記念著作集

ドイツ語学篇 7

独逸語大講座 第5巻

独逸語大講座 第6巻

1994年2月10日 第1版発行

著 者 関口存男 (せきぐち つぎお)

発行者 前田完治

発行所 株式会社 三修社

〒110 東京都台東区下谷1-5-34

電話 03-3842-1711 (代表) 03-3842-1631 (編集)

編集担当 柴田明子

印刷所 株式会社 平文社

製本所 永井紙器印刷株式会社

製 函 横口 新

原本：独逸語大講座 第5巻 / 1931.6.18. 初版 外国語研究社

独逸語大講座 第6巻 / 1931.8.18. 初版 外国語研究社

©1994 Printed in Japan ISBN4-384-00060-X C1384

本著作集の中には、人権の侵害となる差別的な表現が見られます。しかし、著者自身による訂正が不可能なことと、著作や翻訳作品の時代背景を考慮いたしまして、そのままの形で掲載することにいたしました。読者の皆様にはこの点をご理解いただき、良識をもってこの著作集をご愛読くださいますようお願い申し上げます。

株式会社 三修社

④ <日本複写権センター委託出版物>

本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3269-5784)にご連絡ください。